

(2) 第2遺構面（鎌倉時代）

第2遺構面（鎌倉時代前半：13世紀前半頃）

第2遺構面は、主に調査区西半でその拡がりが確認された。特に調査区西側に所在する寺山周辺において遺構密度が高くなる傾向がみられた。遺構としては、掘立柱建物跡と思われる多数の柱穴群や何らかの構築物の基礎と考えられる石敷遺構・石組遺構の他、大溝（区画溝）が確認された。また墓と思われる土坑が密集してみられた。

遺物では圧倒的に土師質土器壺・皿の出土が多い。特に第2遺構面の調査区中央部で、暗褐色砂質土約400m³、層厚40cmにわたり、廃棄されたと思われる土師質土器杯・皿が大量に出土した。この地点だけでコンテナ200箱、点数は300,000点を超える。小片も多く統計的に正確な出土比率を算出することは困難であるが、土師質土器の杯と小皿を含めた皿との器種比率は約1：3となっている。客観的に一部、搬入品とみられる白色系（吉備系）のものや焼成の堅緻なものがあるが、胎土には結晶片岩を含んでおり、概ね在地産であると考えられる。

土師質土器を中心とする杯・皿類の底部切り離し技法は、ほとんどが回転糸切り技法を用いる。体部外面および内底面にはナデによる凹凸が顕著にみられるものもある。色調は赤褐色を呈し、焼成はやや軟質であるものが主体を占める。土師質土器単独では年代を与えることは困難であるが、共伴して出土している瓦器椀は、尾上分類の和泉型瓦器椀Ⅲ・2期に相当するものであり、土師質土器も概ね13世紀後半頃の年代が与えられよう。

瓦器椀はそのほとんどが和泉型の搬入品である。椀形の中には柿葉型や西村系の須恵器椀の他、在地型と思われる腰の張った体部をもつものもみられるが、極めて少数である。時期的には尾上分類の和泉型瓦器椀Ⅱ・3～Ⅳ・1期までみられるが、体部外面のヘラミガキの省略や内面ヘラミガキの簡略化、また器高の低下などの法量小型化および高台退化の傾向がみられるため、主体となるのはⅢ・2・3期である。

その他、東播系須恵器（亀山・魚住）・備前焼・常滑焼・瀬戸焼などの中世陶器も出土しているが、小片が多く、完形のものはない。輸入磁器では白磁碗・水注や龍泉窯・同安窯の碗・皿などが出土している。石製品では滑石製石鍋・温石などがみられる。

またスラグ等を含む廃棄土坑と思われるSK・SX・SDを検出した。遺構に限らず周辺からも多く出土している。明瞭な平面プランを示すものは少なく、深度も多少掘り込んだ程度の浅いものが多い。床面に焼土の拡がりはみられず、スラグは一次的な堆積を示す。調査範囲において鍛冶を示す遺構は見つかっていないが、スラグ等、鍛冶に関連する遺物が出土していることから、周辺に鍛冶関連遺構が存在しているものと思われる。

出土遺構（第12～14図）

SR（自然流路）

調査区北部において確認された。第2遺構面において検出された大溝 SD2001は、この旧河道（流路）を踏襲したかたちで構築される。出土遺物は時期的に多岐にわたっており、層位的には安定して出土していない。

SR2001

調査区西側、寺山に近接して検出された流路である。大部分は調査区外に延びており、全体は不明である。出土遺物等から時期的には13世紀前半頃と思われる。

出土遺物（第80図）

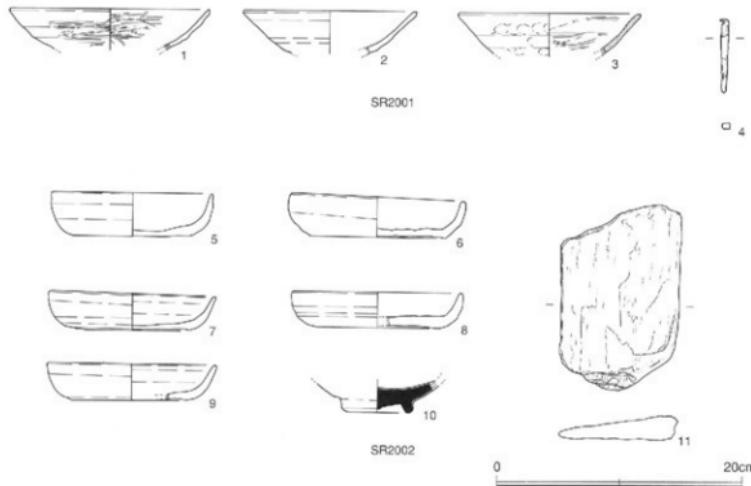
土師質土器の杯・皿や瓦器、土師質の土錘などが出土している。出土遺物はいずれも小片であり、完形のものはない。瓦器は和泉系で、時期的には概ね尾上分類のII-3～III-2期に収まる。出土遺物には時期的な幅があるものの、概ね13世紀前半頃と考えられる。

SR2002

調査区西側、寺山に近接して検出された流路である。大部分は調査区外に延びており、全体は不明である。出土遺物等から時期的には13世紀前半頃と思われる。

出土遺物（第80図）

土師質土器の杯・皿や瓦器、土師質の土錘などが出土している。出土遺物はいずれも小片である。完形のものはない。瓦器は和泉系で、時期的には概ね尾上分類のII-3～III-2期に収まる。出土遺物は概ね13世紀前半頃のものと考えられる。



第80図 SR 出土遺物（2001・2002）

SD（溝・溝状遺構）

第2遺構面においてSDとしたものは28条ある。区画あるいは利水目的のための構築と思われるが、これらの溝の多くは、不明瞭な平面プランであり、全容の把握できるものは少ない。

SD2001（第81・82図）

SD2001は調査区西側（5区）の第2遺構面において検出された大溝である。古墳時代の遺構面（第4遺構面）で確認された旧河道SR4001の河道（流路）を踏襲したかたちで構築される。SR4001は、寺山遺跡で検出された河道のうちでもっとも古いもので、「寺山」に近接した流路である。南北方向の流路で、幅は6区の南端部分で14mである。

第1遺構面検出段階から不明瞭ながらプランは確認されていた。5区の西・北・東を取り囲むようなかたちで検出された。北側は現・南瀬川に向かって拡がる。

堆積のうち下位の砂礫層からは、粒子サイズの混在が著しく淘汰性の低い様子が観察された。この状況からは、砂礫は南瀬川に由来するものではなく、遺跡の北側（下長谷）からの洪水性の堆積と見なすことができる。ただし、堆積層のうちには粘性の高いシルトや砂質の強いものなど各種がみられ、一概に北側から南側へのものと断定することも難しい。

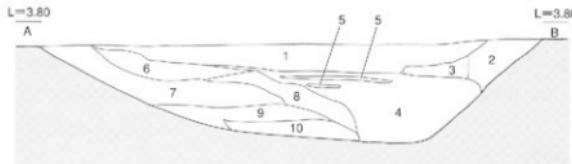
堆積については細かく観察によって数十もの分層が可能である。先にも見たように各層位ごとに明瞭な特徴を有しており、掘削時には土器を多く含む下位の層をいくつかの層位を特徴によって大きく4つにまとめた。第1層は青灰色の粘土を含む層、第2層は自然木・枝材・種子などの有機物の集中的な堆積がみられる……、といった状況である。

出土遺物には弥生土器・土師器・須恵器・木製品がある。上記のような分層に従い、年代ごとの分離を目指したが、ごく少量の弥生時代後期の土器、古墳時代前期の土師器、古墳時代後期後半の土師器・須恵器は、年代と層序との相関関係にない出土状況であった。出土遺物の多くは西肩付近に集中しており、東寄りでは少ない。第2層では若干の木製品が出土したが、量的には少なく、位置にも規則性は認められない。全般的に廃棄された状況であるが、遺物の多い層位は堆積土の砂礫ではなく、シルトあるいは砂質土であり、廃棄位置からの二次的な移動はほとんどなかったと推定される。

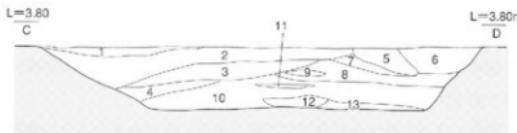
出土遺物（第83～96図）

土師質土器が主体として出土している。杯・皿類の底部切り離し技法は、ほとんどが回転糸切り技法を用いる。体部外面および内底面にはナデによる凹凸が顕著にみられるものもある。色調は赤褐色を呈し、焼成はやや軟質であるものが主体を占める。土師器の杯・皿類もみられ、底部切り離し技法は回転ヘラ切りである。内外面に赤色顔料が塗装されるものや線刻のヘラ記号がみられるものもある。土師質土器単独では年代を与えることは困難であるが、共伴して出土している瓦器碗は、尾上分類の和泉型瓦器碗III・2期に相当するものであり、土師質土器も概ね13世紀後半頃の年代が与えられよう。

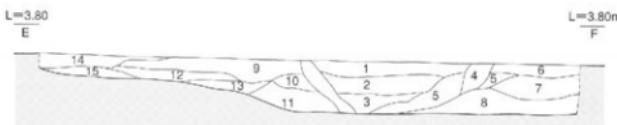
瓦器碗はそのほとんどが和泉型の搬入品であるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。楕形の中には楠葉型や西村系の須恵器碗の他、在地型と思われる腰の張った体部をもつものもみられるが、極めて少数である。時期的には尾上分類の和泉型瓦器碗II・3～IV・1期までみられるが、体部外面のヘラミガキの省略や内面ヘラミガキの簡略化、また器高の低下などの法量小型化および高台退化的傾向がみられるため、主体となるのはIII・2期である。



- 1 暗オーリーブ色5Y4/3砂質土
(砂：礫=3:1砂は中～粗粒)
(礫はφ2~5mmの円錐。粘性：しまりほとんどない。)
- 2 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
(砂：礫=4:1粘性あまりあり。)
- 3 灰オーリーブ色5Y4/2砂質土
(砂は粗粒。礫はφ2~5mmの円錐。粘性しまりなし。)
- 4 オリーブ褐色5Y3/2砂質土
(酸化鉄が付着φ2~4mm。)
- 5 明赤褐色10YR6/8疊
(礫をわずかに含む。)
- 6 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
(φ5mm程度の礫をわずかに含む。)
- 7 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
(φ2mm炭化物と土器片をわずかに含む。)
- 8 暗灰褐色2.5Y4/2砂質土
(砂：礫=2:1砂は粗粒。礫はφ2~4mmの円錐。)
- 9 オリーブ黒色2.5Y3/2砂質土
(砂：礫=1:1砂は粗粒。礫はφ2~10mmの円錐。地下水で汚染。)
- 10 暗赤褐色2.5YR3/2砂質土



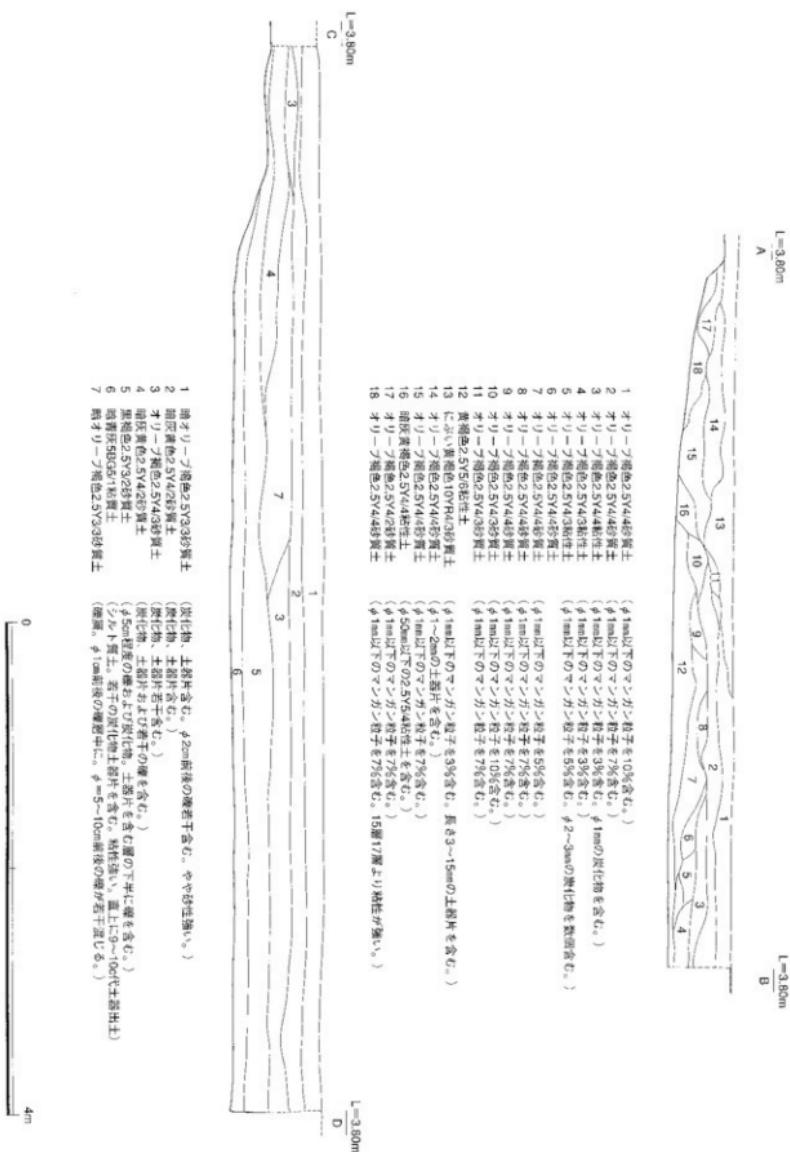
- 1 にじい黄褐色10YR4/3砂質土
(土器片を少し含む。)
- 2 オリーブ黒色7.5Y3/2砂質土
(砂は中粒から粗粒。礫はφ2~4mm。)
- 3 晴オーリーブ色5Y4/4砂質土
(砂は中粒から粗粒。しまり：粘性なし。)
- 4 オリーブ黒色7.5Y3/2砂質土
(砂：礫=1:2砂は粗粒。礫はφ2~4mmの円錐。)
- 5 オリーブ褐色2.5Y4/3礫まじり砂質土
(φ2~4mm円錐を20%含む。しまり粘性あり。)
- 6 暗オーリーブ色5Y4/3砂質土
(φ2~4mm円錐をわずかに含む。しまり粘性あり。)
- 7 暗オーリーブ褐色2.5Y3/1砂質土
(砂：礫=1:1砂は中粒。礫はφ2~4mmの円錐。)
- 8 オリーブ黒色10Y3/2砂質土
(砂は粗粒。φ2~4mm円錐をわずかに含む。)
- 9 オリーブ黒色10Y3/2砂質土
(礫はφ2~5mmの円錐。)
- 10 オリーブ黒色10Y3/2砂質土
(砂：礫=3:1砂は中～粗粒。礫はφ2~4mm円錐。)
- 11 明褐色7.5YR6/8疊
(φ5~10mmの円錐。地下水により鉄分付着。)
- 12 明赤褐色5YR5/8疊
(φ5~10mmの円錐。地下水により鉄分付着。)
- 13 オリーブ黒色10Y3/2砂質土
(φ2~5mm円錐。)



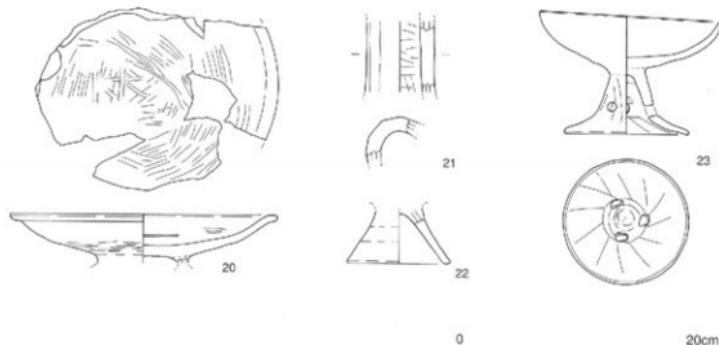
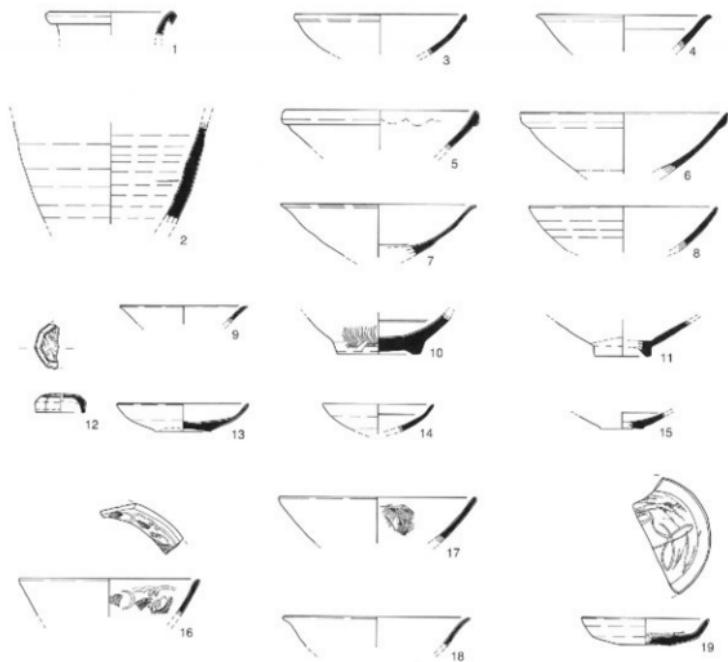
- 1 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
(φ1mmのマンガン粒子を2%含む。)
- 2 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
(1層より)しまりがない。土器片を少し含む。)
- 3 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
(2層より)少ししまりがある。)
- 4 にじい黄褐色10YR4/3砂質土
(しまり弱い。粘性ほとんどない。)
- 5 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土
(しまり弱い。粘性あり。)
- 6 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土
(粘性わざかにあり。しまりあります。)
- 7 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
(しまりあります。粘性あります。)
- 8 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土
(しまり7層より弱い。粘性ほとんどない。)
- 9 暗オーリーブ褐色2.5Y3/3砂質土
(φ1mm以下のマンガン粒子を15%含む。)
- 10 暗オーリーブ褐色2.5Y3/3砂質土
(φ3~5mmの円錐を少し含む。)
- 11 暗オーリーブ褐色2.5Y3/3砂質土
(しまりあります。粘性あります。)
- 12 暗オーリーブ褐色2.5Y3/3砂質土
(土器片を含む。)
- 13 暗オーリーブ褐色2.5Y4/3砂質土
(土器片を含む。)
- 14 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土
- 15 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土



第81図 SD2001断面図 1

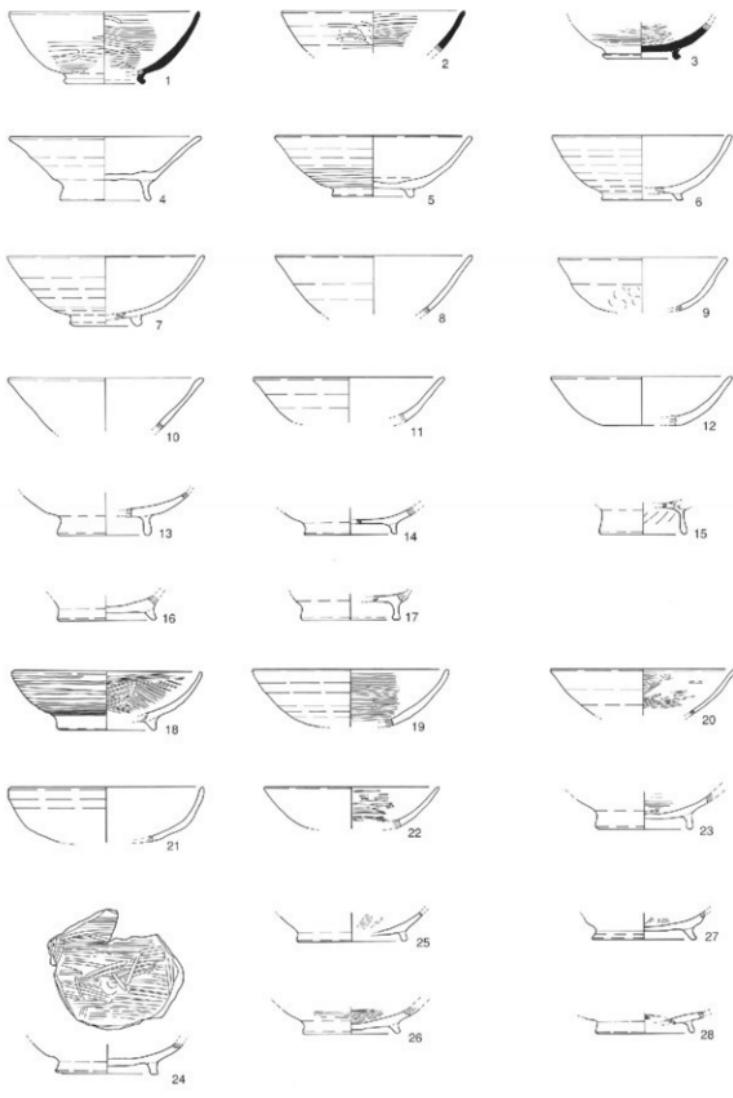


第92図 SD2001断面図2

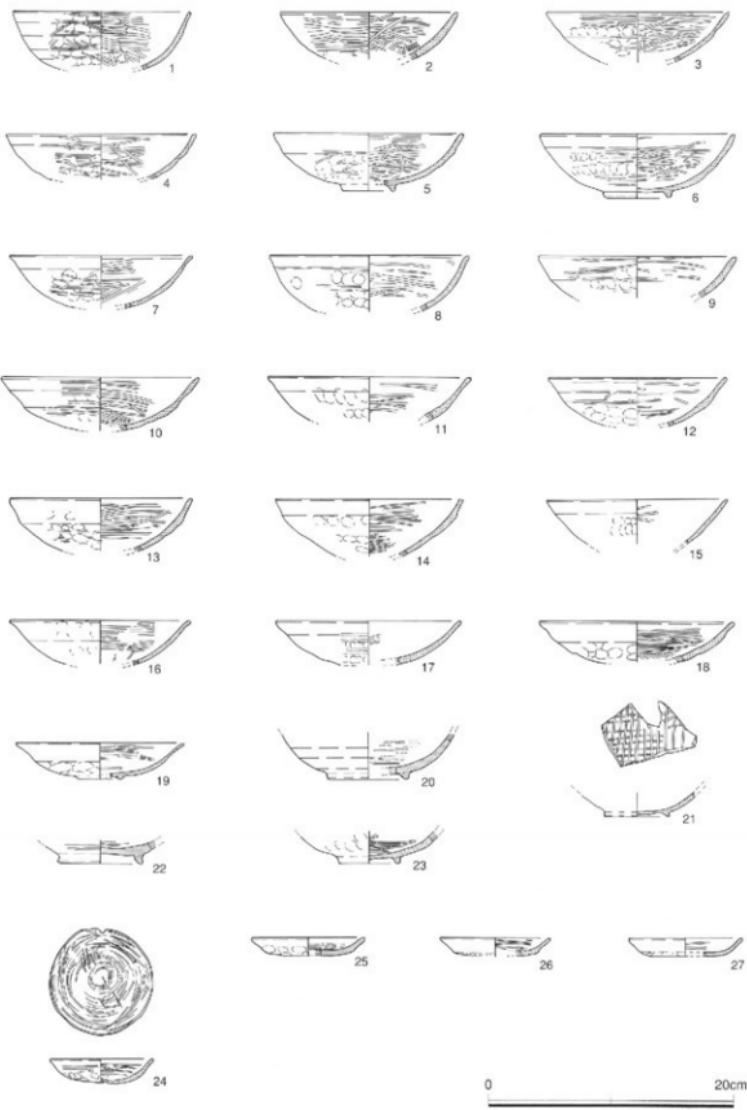


0 20cm

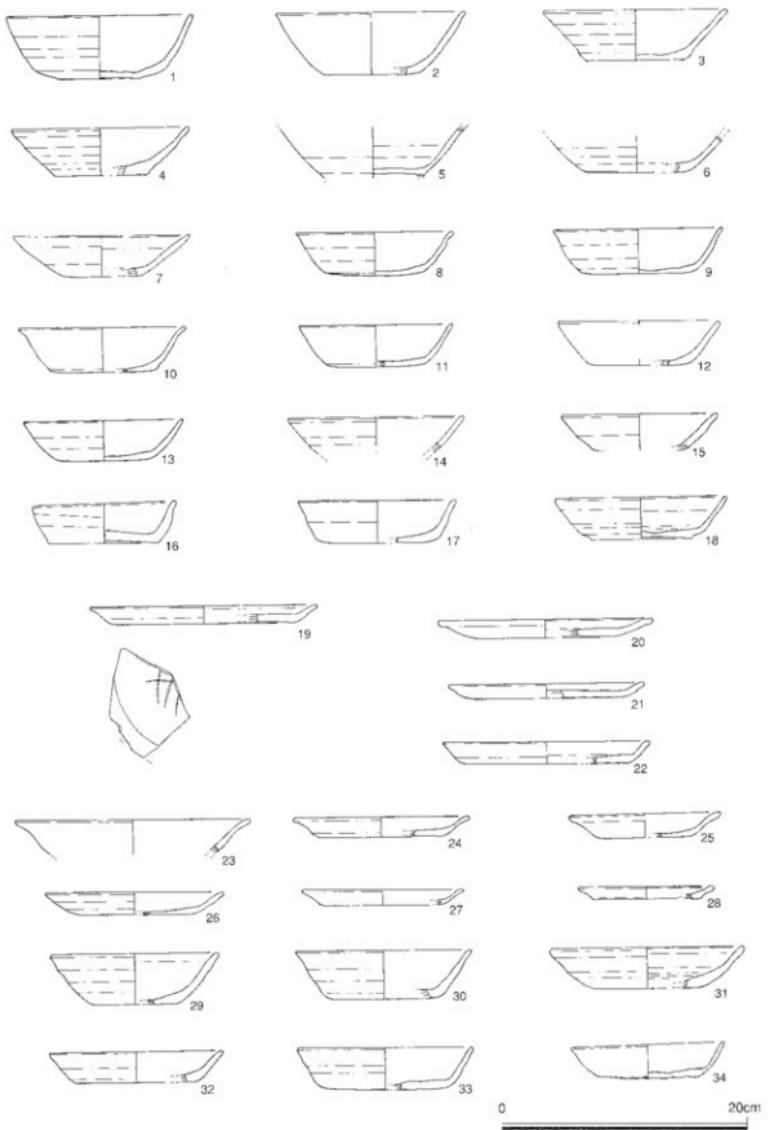
第83図 SD2001出土遺物 1



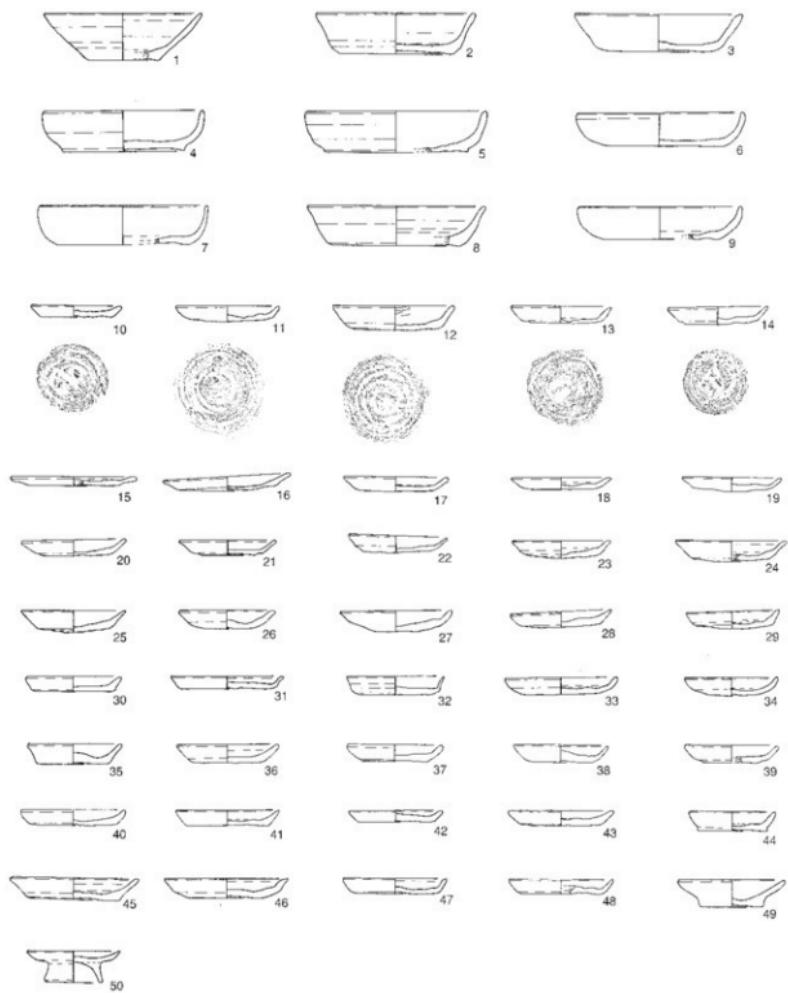
第84図 SD2001出土遺物 2



第85図 SD2001出土遺物 3

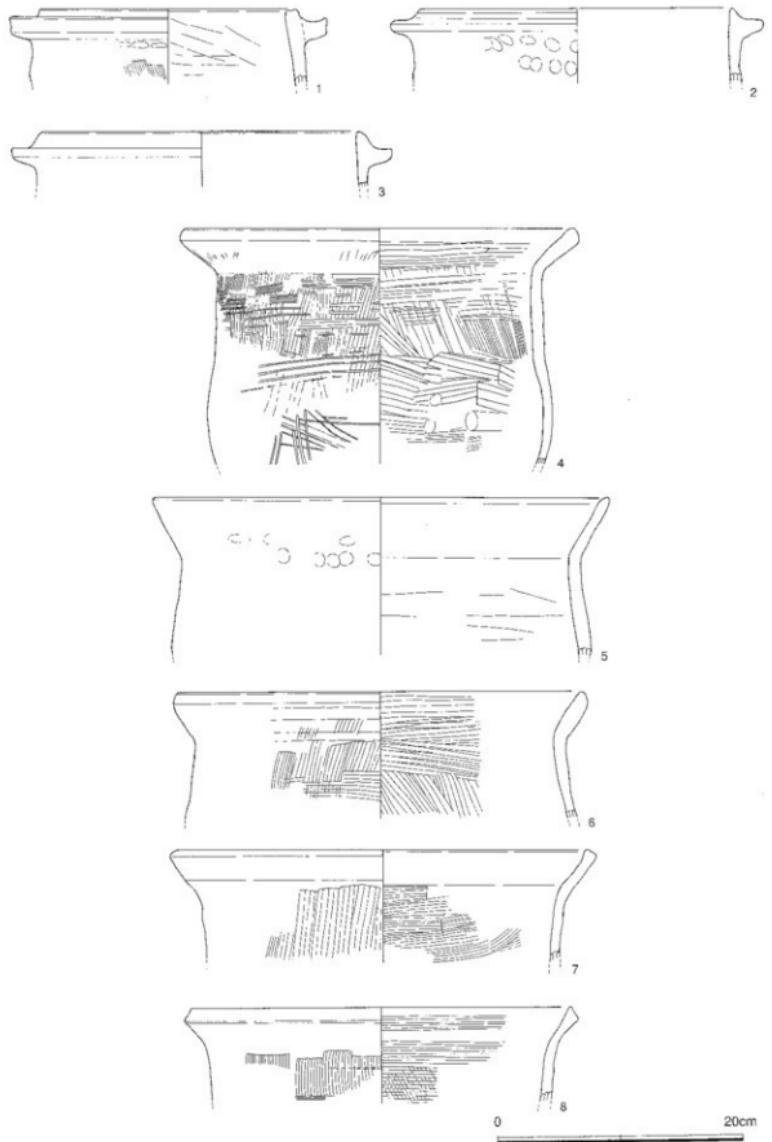


第86図 SD2001出土遺物 4

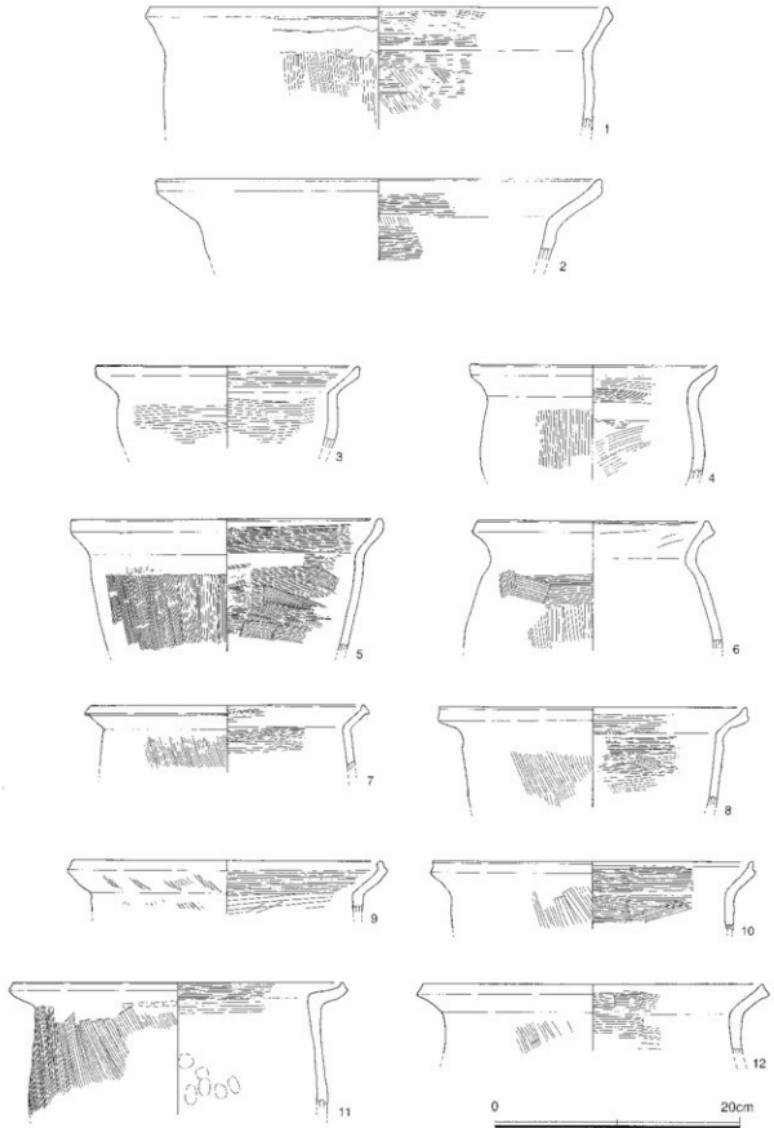


0 20cm

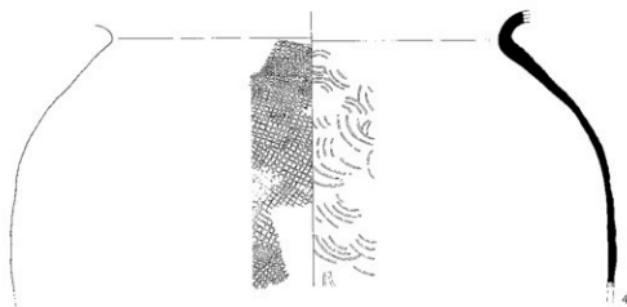
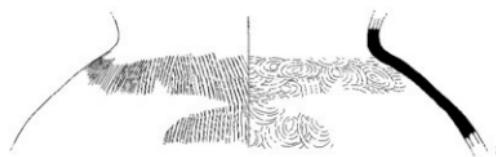
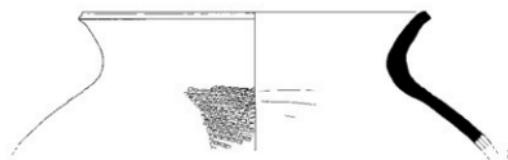
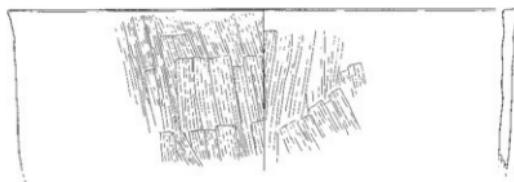
第87図 SD2001出土遺物5



第88図 SD2001出土遺物6

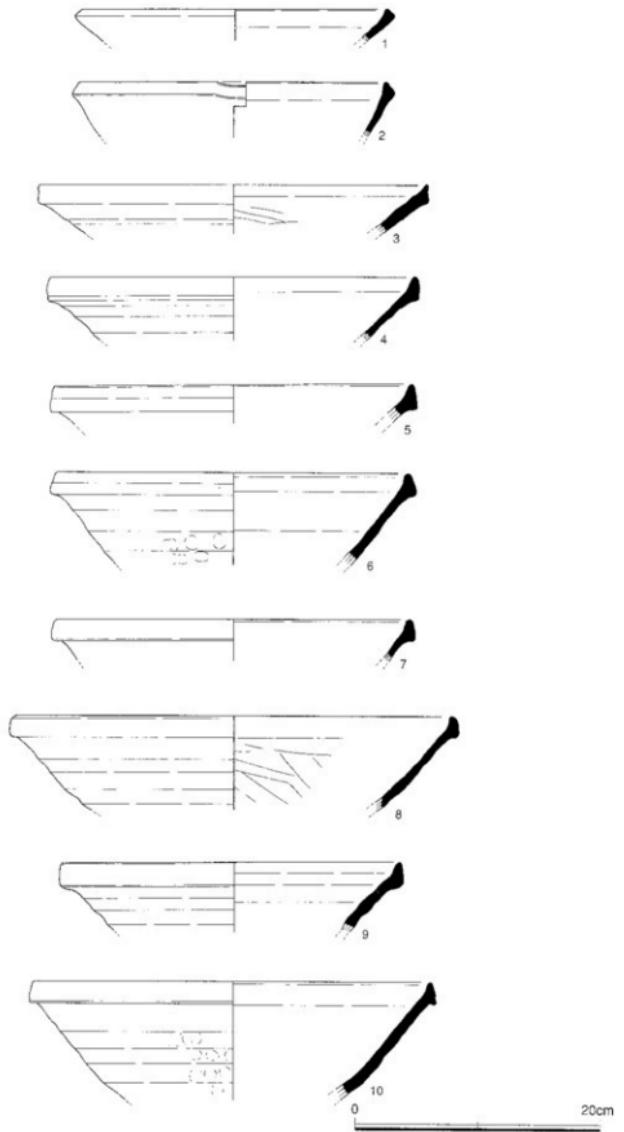


第89図 SD2001出土遺物 7

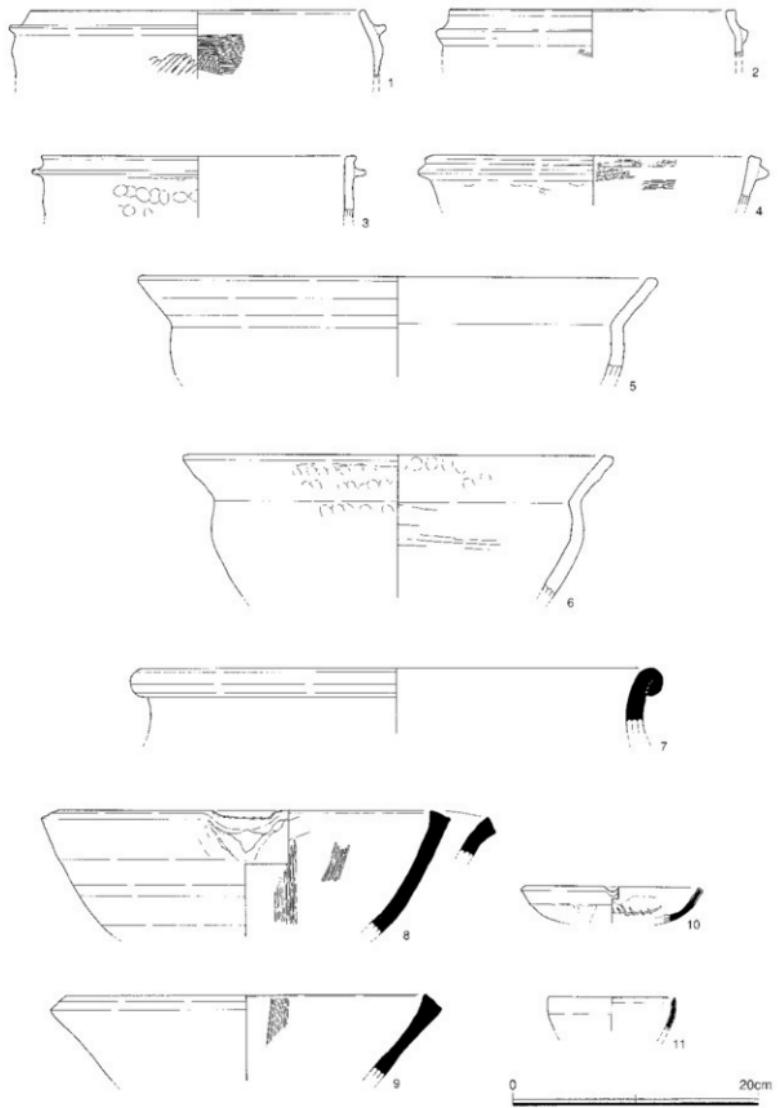


0 20cm

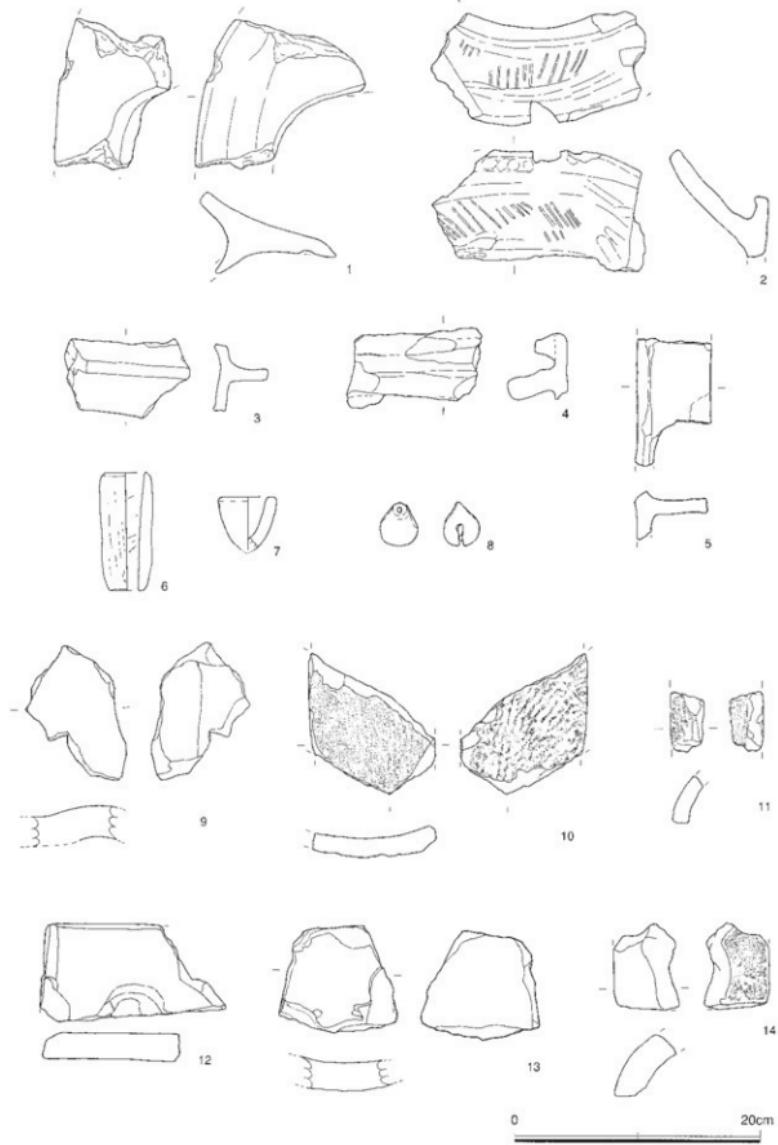
第90図 SD2001出土遺物 8



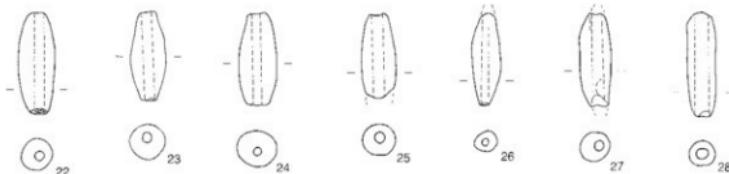
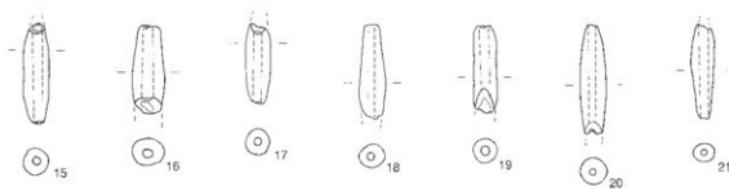
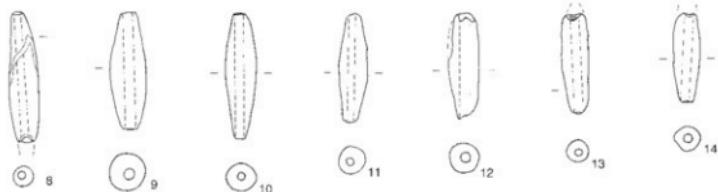
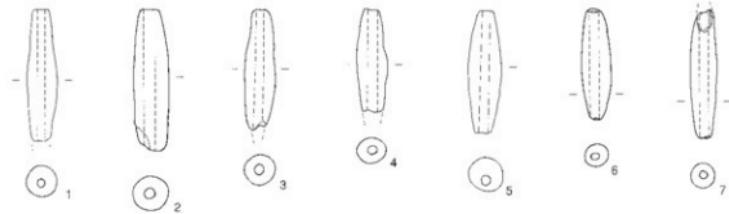
第91図 SD2001出土遺物 9



第92図 SD2001出土遺物10



第93図 SD2001出土遺物11



0 5cm

第94図 SD2001出土遺物12



第95図 SD2001出土遺物13

その他、東播系須恵質土器（亀山・魚住）などの中世陶器も出土しているが、小片が多く、完形のものはない。輸入磁器では白磁碗や龍泉窯・同安窯の碗・皿などが出土している。

96-1は白磁の水注である。注口が欠損する以外は完形をとどめる。意図的に注口を欠いているものとみられ、何らかの祭祀に用いられた後、流路に廃棄されたものと考えられる。時期的には11世紀後半頃のものと思われる。

SD2002

調査区西側（5区）の第2遺構面において検出された南北に延びる溝である。平面プランは不明瞭である。古墳時代の遺構面（第4遺構面）で確認された旧河道を踏襲したかたちで構築される。

出土遺物には土師質土器・瓦器・弥生土器・土師器・須恵器等があるが、年代ごとの分離は困難な出土状況であった。

出土遺物（第97図）

土師質土器が主体として出土している。杯・皿類の底部切り離し技法は、ほとんどが回転糸切り技法を用いる。体部外面および内底面にはナデによる凹凸が顕著にみられるものもある。色調は赤褐色を呈し、焼成はやや軟質であるものが主体を占める。土師質土器単独では年代を与えることは困難であるが、共伴して出土している瓦器椀は、尾上分類の和泉型瓦器椀III-2期に相当するものであり、土師質土器も概ね13世紀後半頃の年代が与えられよう。

SD2004

調査区西側（5区）の第2遺構面において検出された南北に延びる溝である。平面プランは不明瞭である。古墳時代の遺構面（第4遺構面）で確認された旧河道を踏襲したかたちで構築される。

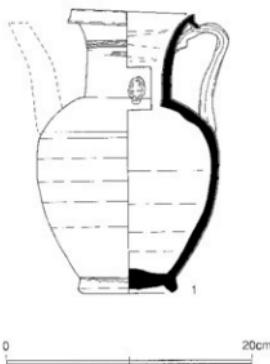
出土遺物はいずれも小片であり、全体の判明するものは少ない。

出土遺物（第97図）

土師質土器・瓦器等が出土している。土師質土器単独では年代を与えることは困難であるが、共伴して出土している瓦器椀は、尾上分類の和泉型瓦器椀III-2期に相当するものであり、土師質土器も概ね13世紀後半頃の年代が与えられよう。

SD2005

調査区西側（5区）の第2遺構面において検出された南北に延びる溝である。平面プランは不明瞭で



第96図 SD2001出土遺物14

ある。古墳時代の造構面（第4造構面）で確認された旧河道を踏襲したかたちで構築される。

出土遺物には土師質土器・瓦器・土師器・須恵器等があるが、いずれも小片である。

出土遺物（第97図）

土師質土器・瓦器等が出土している。土師質土器単独では年代を与えることは困難であるが、共伴して出土している瓦器碗は、尾上分類の和泉型瓦器碗Ⅲ・2期に相当するものであり、土師質土器も概ね13世紀後半頃の年代が与えられよう。

SD2007

D~F-16・17、南北に延びる溝状造構である。平面プランは明瞭ではない。造構内からは、土師質土器が出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第98図）

土師質土器が主体として出土している。杯・皿類の底部切り離し技法は、ほとんどが回転糸切り技法を用いる。体部外側および内底面にはナデによる凹凸が顕著にみられるものもある。色調は赤褐色を呈し、焼成はやや軟質であるものが主体を占める。土師器の杯・皿類もみられ、底部切り離し技法は回転ヘラ切りである。土師質土器単独では年代を与えることは困難であるが、共伴して出土している瓦器碗は、尾上分類の和泉型瓦器碗Ⅲ・2期に相当するものであり、土師質土器も概ね13世紀後半頃の年代が与えられよう。

瓦器碗はそのほとんどが和泉型の搬入品であるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。椀形の中には楠葉型や西村系の須恵器碗の他、在地型と思われる腰の張った体部をもつものもみられるが、極めて少數である。時期的には尾上分類の和泉型瓦器碗Ⅱ・3~IV・1期までみられるが、体部外側のヘラミガキの省略や内面ヘラミガキの簡略化、また器高の低下などの法量小型化および高台退化の傾向がみられるため、主体となるのはⅢ・2期である。

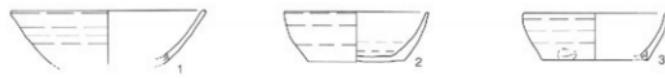
その他、東播系須恵質土器（亀山・魚住）などの中世陶器も出土しているが、小片が多く、完形のものはない。輸入器では白磁碗や龍泉窯・同安窯の碗・皿などが出土している。

SD2010

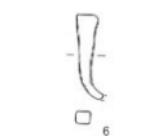
E・F-18・19、南北に延びる溝状造構である。平面プランは明瞭ではない。造構内からは、土師質土器が出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第98図）

土師器が主体として出土している。杯・皿類の底部切り離し技法は、回転ヘラ切りである。その他、土師質土器・瓦器・東播系須恵質土器（亀山・魚住）なども出土しているが、小片が多く、実測可能なものは少ない。



SD2002



SD2004



17

18

19

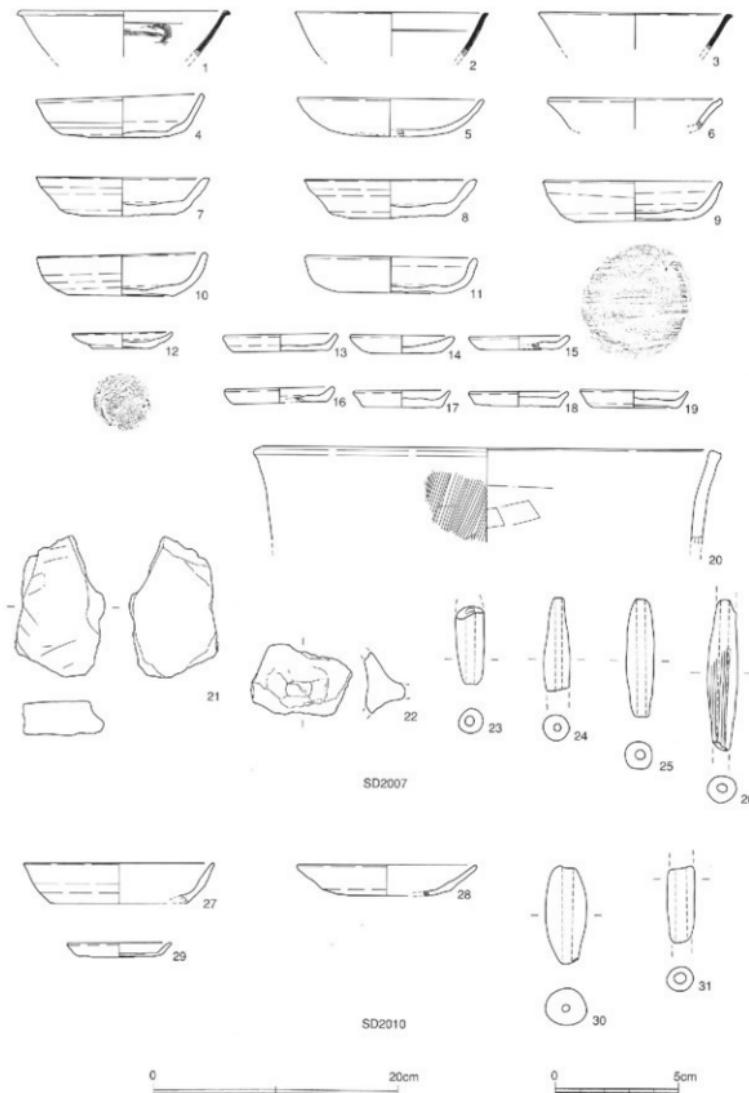


20

SD2005



第97図 SD 出土遺物 (2002・2004・2005)



第98図 SD 出土遺物 (2007・2010)

SD2012

SD2012は調査区西側（4区）の第2遺構面において検出された溝である。南北方向に延び、調査区の西・北・東を取り囲むようなかたちで検出された。北側は現・園瀬川に向かって掘がる。

堆積のうち下位の砂疊層からは、粒子サイズの混在が著しく淘汰性の低い様子が観察された。この状況からは、砂疊は園瀬川に由来するものではなく、遺跡の北側（下長谷）からの洪水性の堆積と見なすことができる。ただし、堆積層のうちには粘性の高いシルトや砂質の強いものなど各種がみられ、一概に北側から南側へのものと断定することも難しい。

出土遺物には土師器・須恵器・土師質土器・瓦器・輸入陶磁器等がある。層位による年代ごとの分離を目指したが、年代と層序との相関関係がない出土状況であった。出土遺物の多くは北東肩付近に集中しており、廃棄位置からの二次的な移動はほとんどなかったと推定される。

出土遺物（第99～105図）

上師質土器が主体として出土している。杯・皿類の底部切り離し技法は、ほとんどが回転糸切り技法を用いる。体部外面および内底面にはナデによる凹凸が顕著にみられるものもある。色調は赤褐色を呈し、焼成はやや軟質であるものが主体を占める。土師器の杯・皿類も混在しており、底部切り離し技法は回転ヘラ切りである。土師質土器単独では年代を与えることは困難であるが、共伴して出土している瓦器碗は、尾上分類の和泉型瓦器碗Ⅲ・2期に相当するものであり、土師質土器も概ね13世紀後半頃の年代が考えられよう。

瓦器碗はそのほとんどが和泉型の搬入品であるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。碗形の中には植葉型や西村系の須恵器碗の他、在地型と思われる腰の張った体部をもつものもみられるが、極めて少數である。時期的には尾上分類の和泉型瓦器碗II・3～IV・1期までみられるが、体部外面のヘラミガキの省略や内面ヘラミガキの簡略化、また器高の低下などの法量小型化および高台退化の傾向がみられるため、主体となるのはⅢ・2期である。

その他、東播系須恵質土器（亀山・魚住）・備前・常滑などの中世陶器も出土しているが、小片が多く、完形のものはない。輸入磁器では白磁碗や龍泉窯・同安窯の碗・皿などが出土している。

SD2014

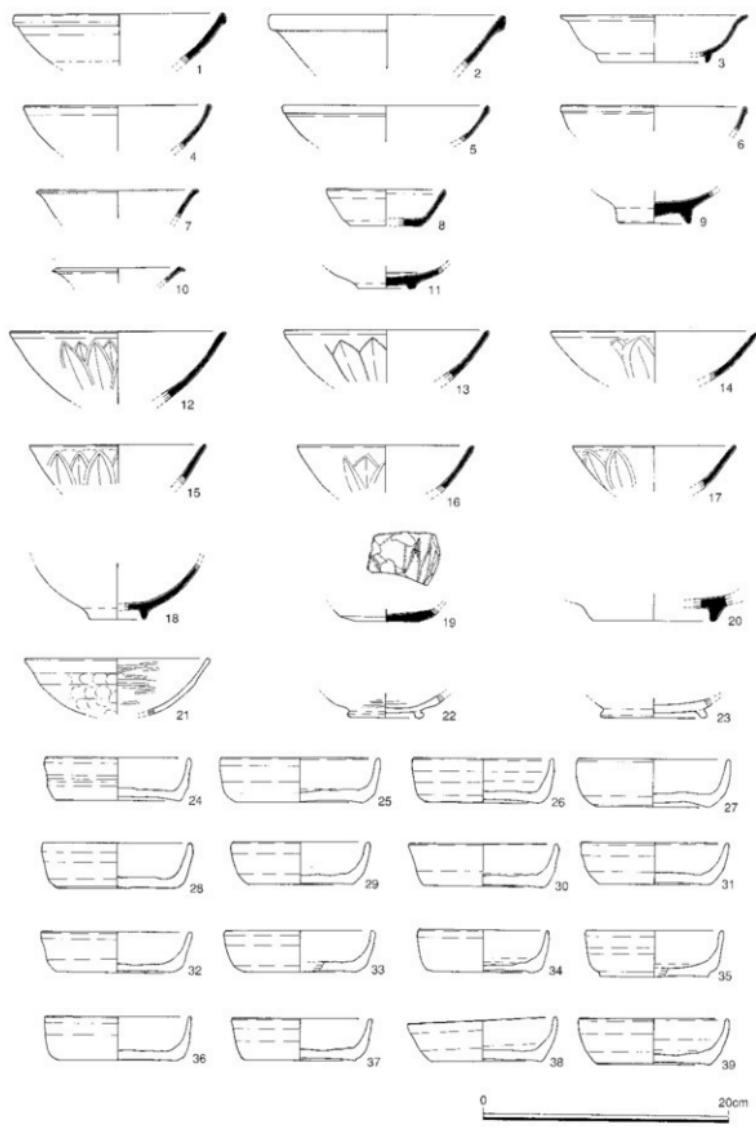
O～Q-31～35、東西に延びる溝状遺構である。西側は北へ直角に曲がる。埋土は礫が多く混じり、平面プランは明瞭ではない。遺構内からは土師質土器等が出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第106・107図）

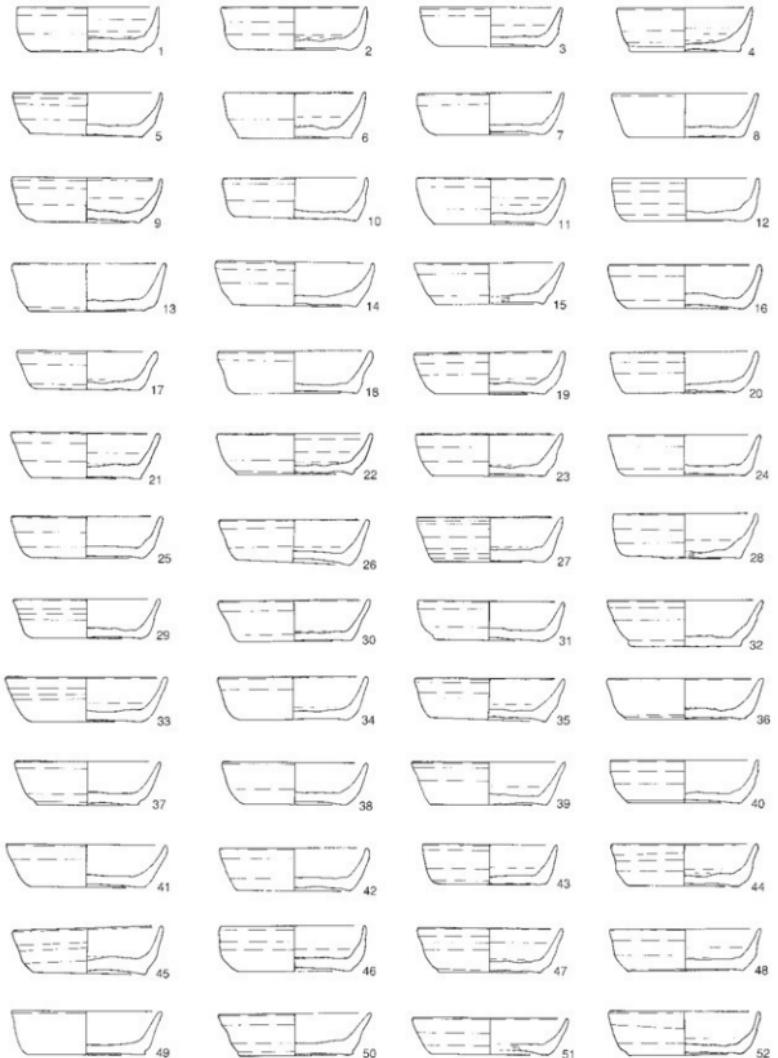
土師質土器が主体として出土している。杯・皿類の底部切り離し技法は、回転糸切りである。その他、瓦器・東播系須恵質土器（亀山・魚住）なども出土しているが、小片が多く、実測可能なものは少ない。

SD2015

溝状遺構である。西側は北へ直角に曲がる。埋土は礫が多く混じり、平面プランは明瞭ではない。遺構内からは土師質土器等が出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

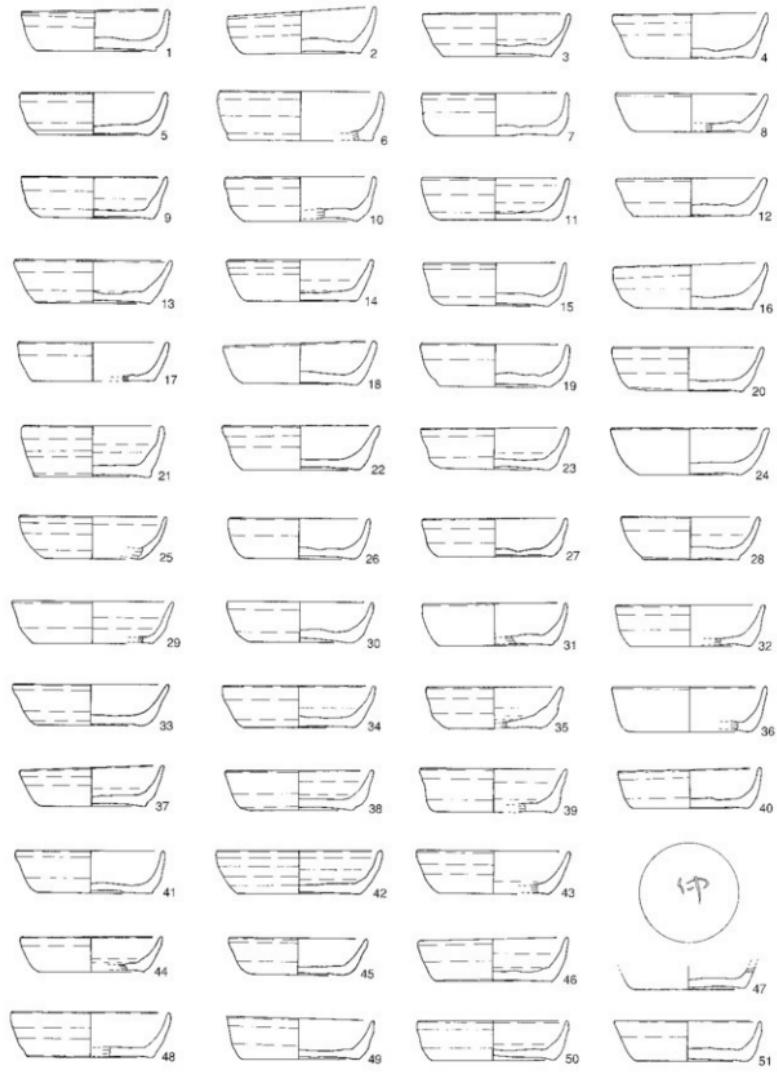


第99図 SD2012出土遺物1

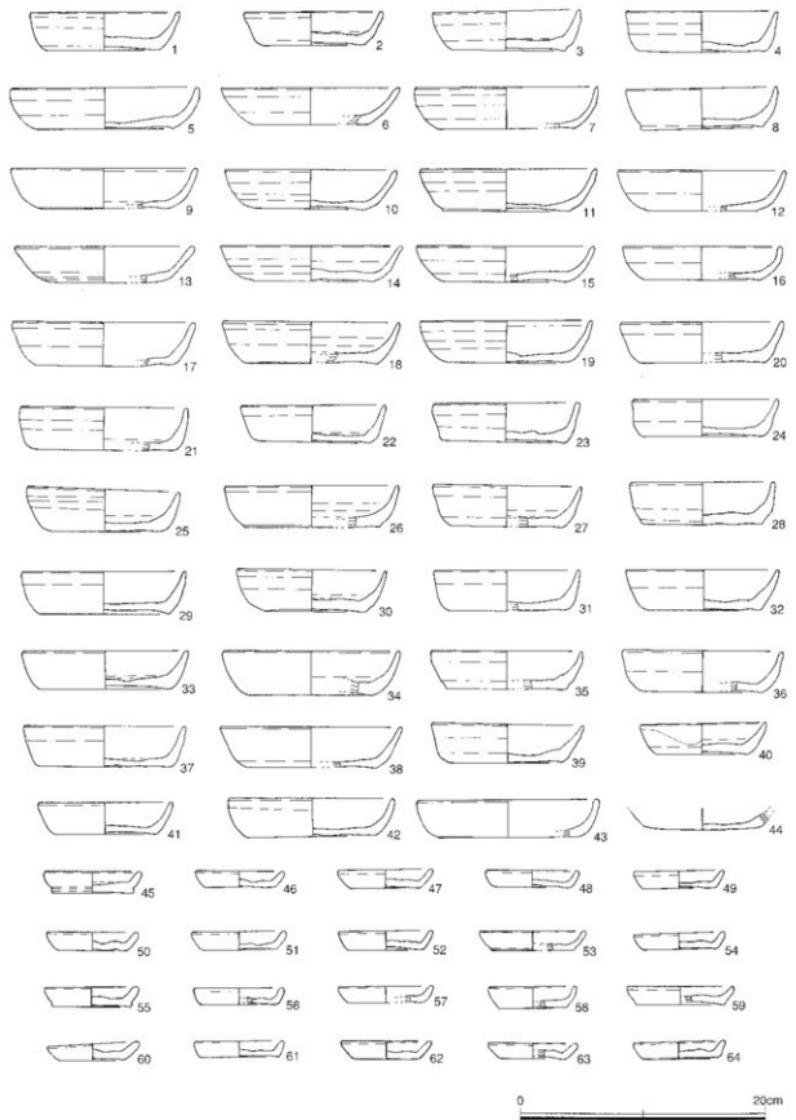


0 20cm

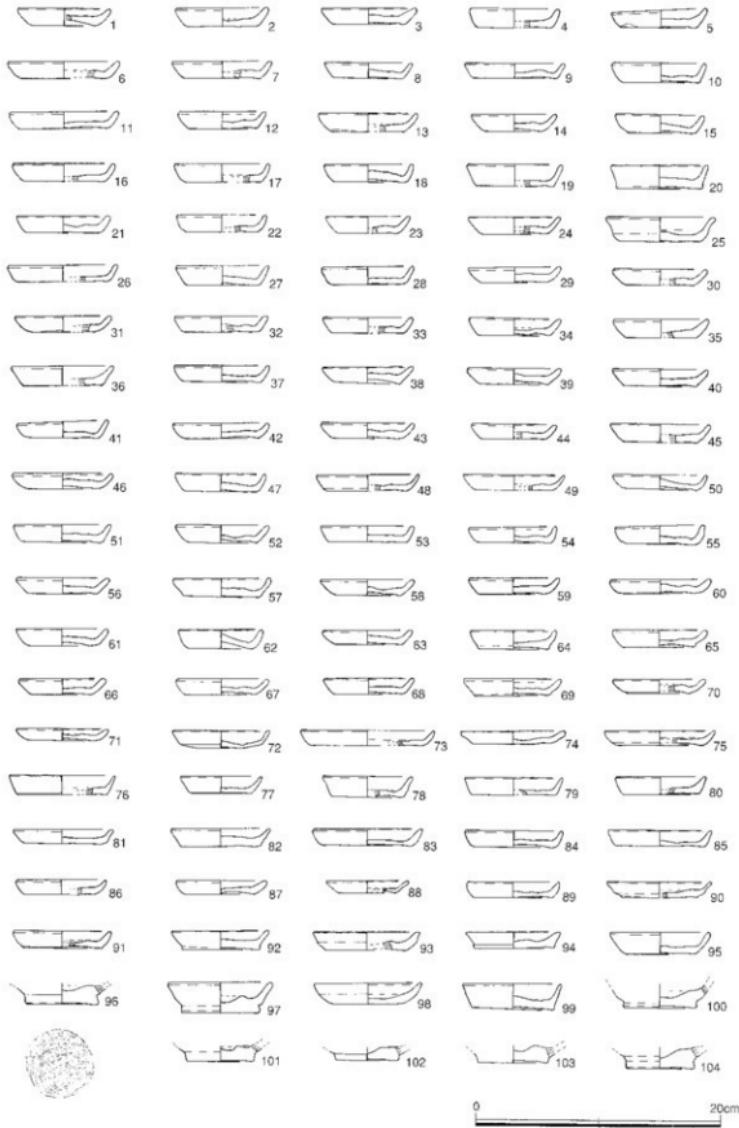
第100図 SD2012出土遺物2



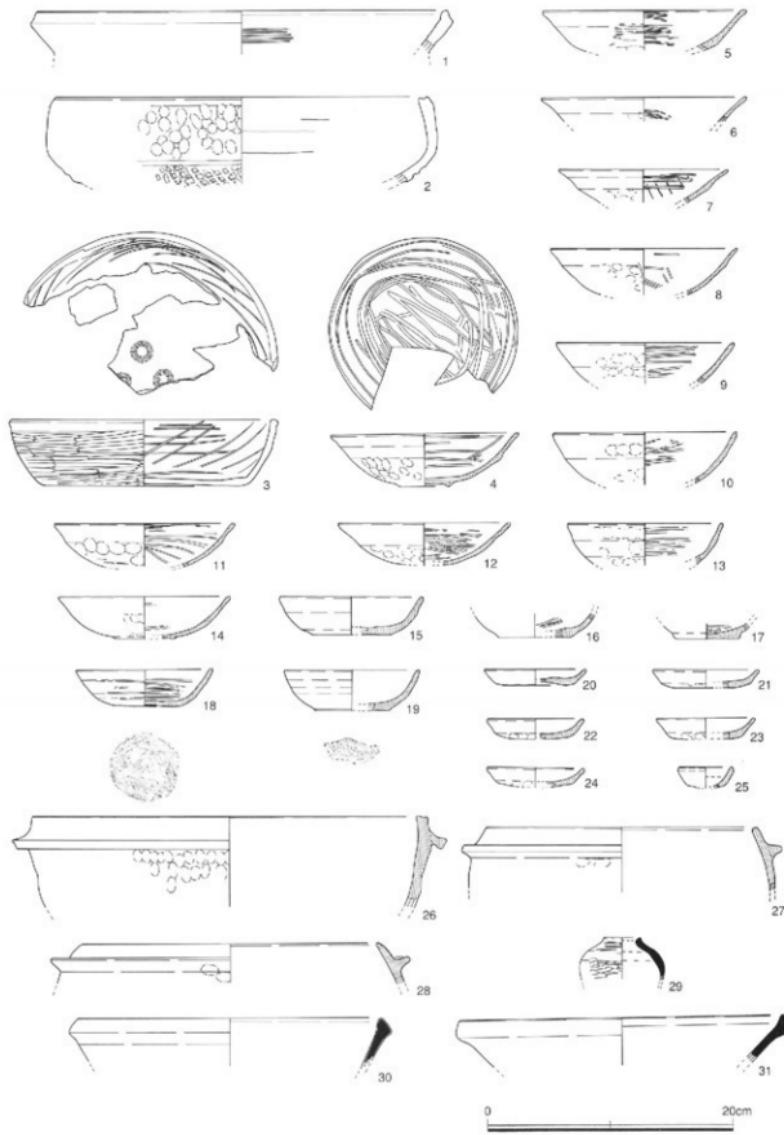
第101図 SD2012出土遺物3



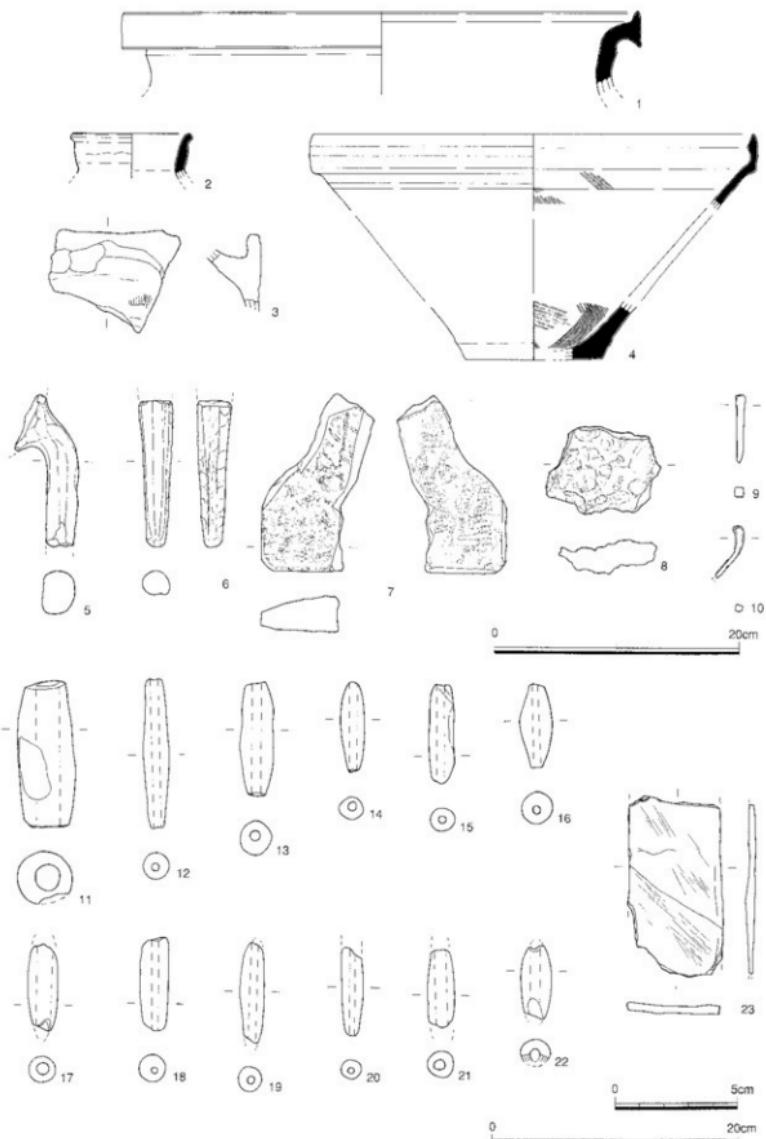
第102図 SD2012出土遺物 4



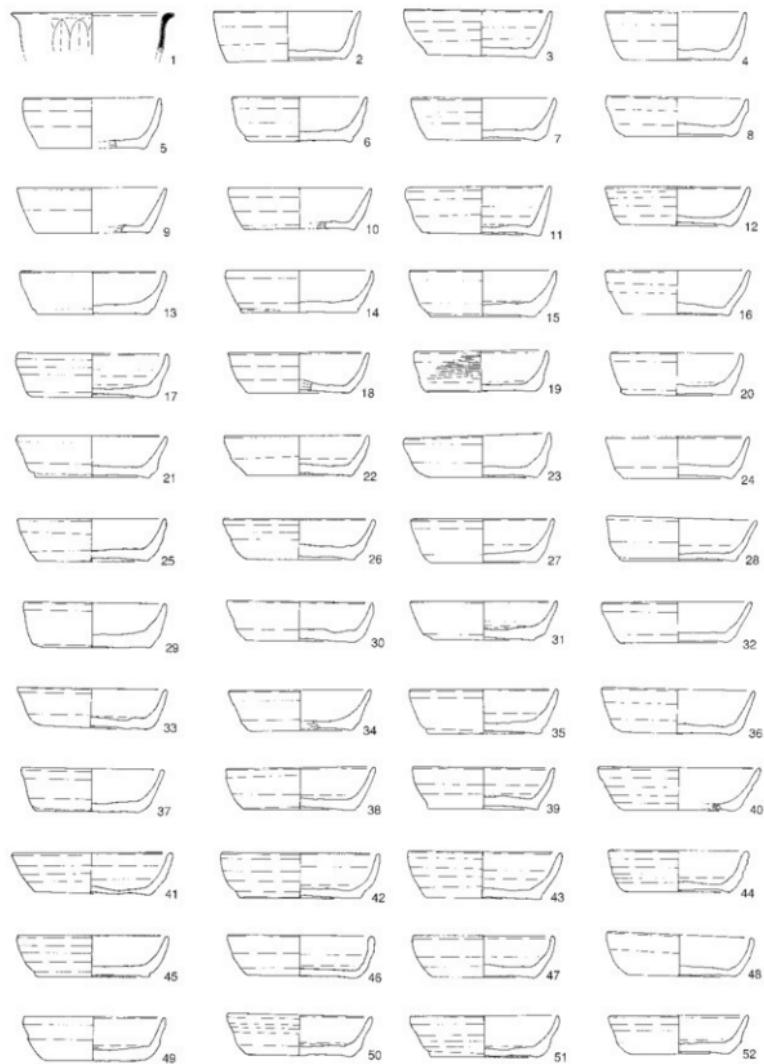
第103図 SD2012出土遺物 5



第104図 SD2012出土遺物 6

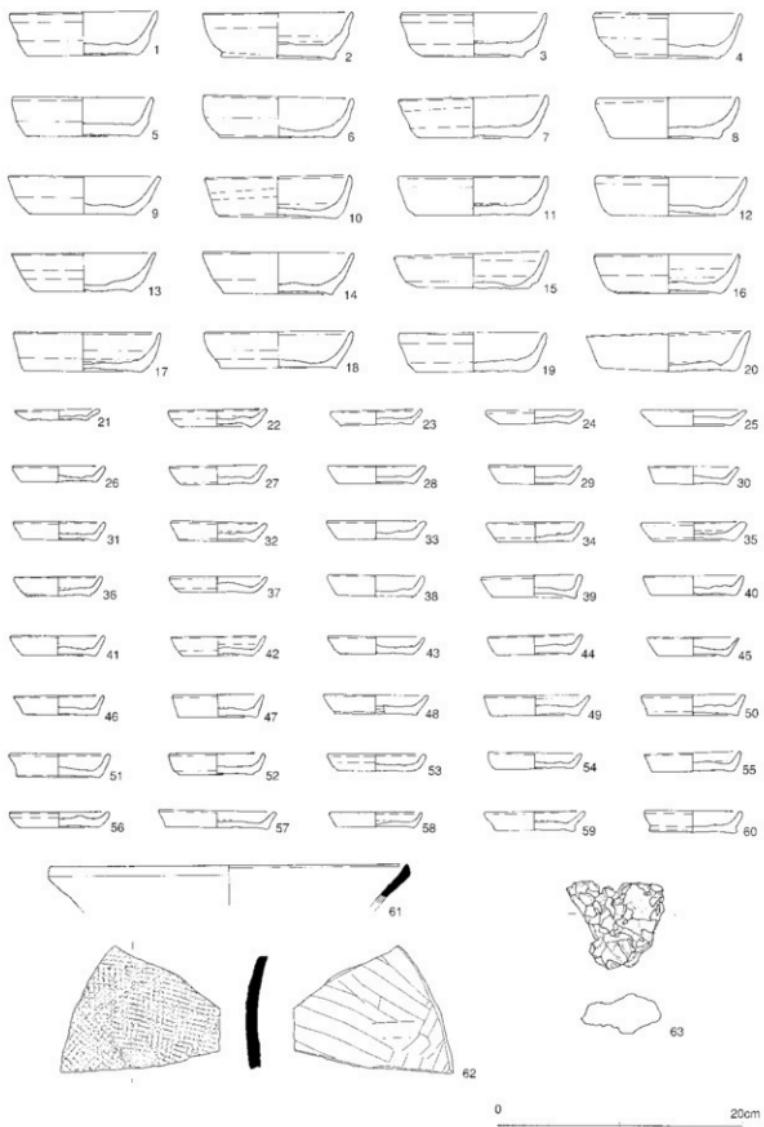


第105図 SD2012出土遺物7



0 20cm

第106図 SD2014出土遺物 1



第107図 SD2014出土遺物 2

出土遺物（第108図）

土師質土器が主体として出土しているが、小片が多く、実測可能なものは少ない。杯・皿類の底部切り離し技法は、回転糸切りである。

SD2017

M・N-29~32、東西に延びる溝状遺構である。埋土は礫が多く混じり、平面プランは明瞭ではない。遺構内からは近世肥前系磁器が出上しており、近世の水田に伴う水利溝と思われる。

出土遺物（第108図）

土師質土器等が出土しているが、小片が多く、実測可能なものは少ない。杯・皿類の底部切り離し技法は、回転糸切りである。3は肥前系磁器の小碗である。

SD2018

N・O-27・28、東西に延びる溝状遺構である。平面プランは明瞭ではない。遺構内からは近世肥前系磁器片が出土しており、近世の水田に伴う水利溝と思われる。

出土遺物（第108図）

土師質土器等が出土しているが、小片が多く、実測可能なものは少ない。杯・皿類の底部切り離し技法は、回転糸切りである。

SD2021

N・O-30・31、東西に延びる溝状遺構である。平面プランは明瞭ではない。遺構内からは土師質土器・瓦器等が出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第108図）

土師質土器等が出土しているが、小片が多く、実測可能なものは少ない。杯・皿類の底部切り離し技法は、回転糸切りである。瓦器は和泉型である。

SD2024

N・O-32・33、東西に延びる溝状遺構である。平面プランは明瞭ではない。遺構内からは土師質土器・瓦器等が出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第108図）

土師質土器等が出土しているが、小片が多く、実測可能なものは少ない。杯・皿類の底部切り離し技法は、回転糸切りである。

SD2025

O-31・32、東西に延びる浅い溝状遺構である。平面プランは明瞭ではない。遺構内からは土師質土

器・瓦器等が出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第108図）

土師質土器等が出土しているが、小片が多く、実測可能なものは少ない。杯・皿類の底部切り離し技法は、回転糸切りである。19は須恵器盤の口縁部である。

SD2026

L・K-31・32、東西に延びる浅い溝状造構である。平面プランは明瞭ではない。造構内からは土師質土器・瓦器等が出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第108図）

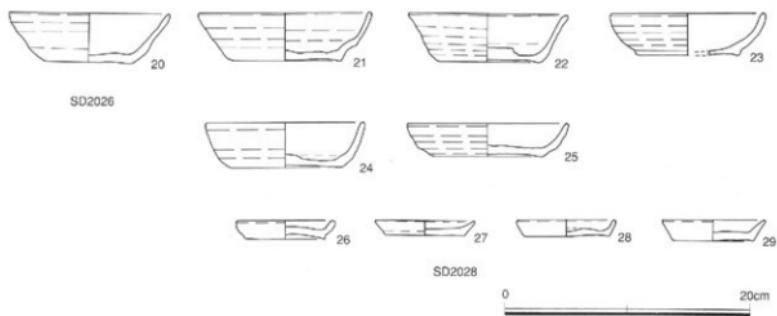
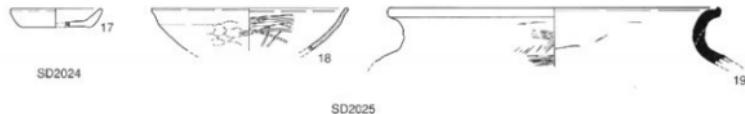
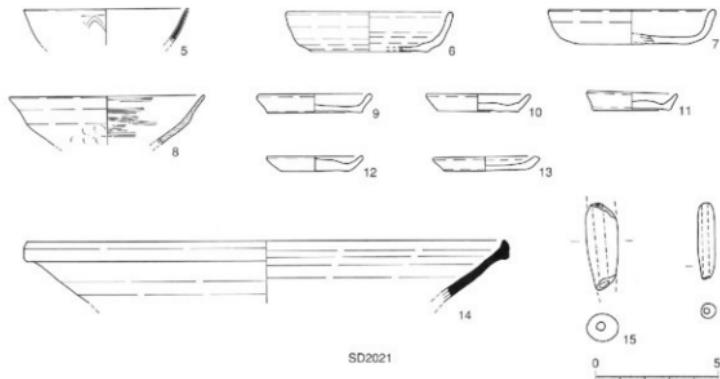
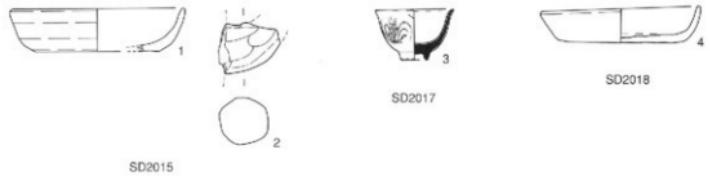
土師質土器等が出土しているが、小片が多く、実測可能なものは少ない。杯・皿類の底部切り離し技法は、回転糸切りである。20は土師器杯である。底部切り離し技法は、回転ヘラ切りである。

SD2028

溝状造構である。平面プランは明瞭ではない。造構内からは土師質土器・瓦器等が出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第108図）

土師質土器等が出土しているが、小片が多く、実測可能なものは少ない。杯・皿類の底部切り離し技法は、回転糸切りである。



第108図 SD 出土遺物 (2015・2017・2018・2021・2024・2025・2026・2028)

SK（土坑）

平面形は円形状または四角形状を呈するが、不定形なものも多くみられる。特にSDに開まれた調査区西側、寺山の麓付近では十坑が密集してみられた。墓とは断定できないが、諸状況から墓の可能性がある。板小片のため詳細は不明であるが、人骨と思われる骨片が出土しているものもあり、土壙墓であると考えられる。

SK2002

D-13、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器が出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第109図）

土師質土器の皿が多く出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。Iは土師質土器の小皿である。底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SK2006

C-14、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土地でいる。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第109図）

土師質土器の皿が多く出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。底部の切り離し技法は回転糸切りである。瓦器柄はそのほとんどが和泉型の搬入品である。時期的には体部外面のヘラミガキの省略や内面ヘラミガキの簡略化、また器高の低下などの法量小型化および高台退化の傾向がみられるため、III-2期頃であると思われる。

SK2008

C-14、不定形な土坑である。平面プランは明瞭ではない。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土地でいる。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第109図）

土師質土器の杯・皿類が多く出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。底部の切り離し技法は回転ヘラ切りが多くみられる。

SK2009

D-14、不定形な土坑である。平面プランは明瞭ではない。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土地でいる。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第109図）

土師質土器の杯・皿類が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土

器の杯・皿類の底部の切り離し技法は回転ヘラ切りである。

SK2025

C-15、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第109図）

上師質土器の杯・皿類が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離し技法は回転ヘラ切りである。

SK2028

D-15、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第109図）

土師質土器の杯・皿類が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。18は土師質の管状土錘である。

SK2029

E-14・15、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第109図）

土師質土器の杯・皿類が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SK2031

F-14~16、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第109図）

土師質土器の杯・皿類が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。20は土師質の管状土錘である。

SK2032

E-14・15、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。



SK2002



SK2006



4



SK2008



SK2012



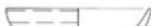
SK2024



SK2025



SK2027



SK2029



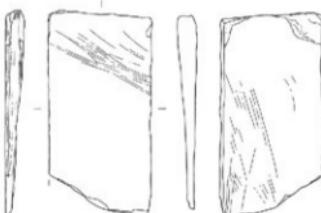
SK2028



SK2031



SK2032



23



第109図 SK 出土遺物 (2002・2006・2008・2012・2024・2025・2027・2028・2029・2031・2032)

出土遺物（第109図）

土師質土器の杯・皿類が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯類の体部は直立気味に外方に延びる。底部の切り離し技法は回転糸切りである。23は泥岩の砥石である。

SK2033

F-14・15、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第110図）

土師質土器の杯・皿類が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。1は土師質土器の小皿である。底部の切り離し技法は回転ヘラ切りである。

SK2037

C・D-16、長方形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第110図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。2は和泉型の瓦器小皿である。みこみに格子状のヘラミガキが施される。

SK2038

D・E-16、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第110図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2039

D・E-16、長方形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第110図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2042

G-16・17、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第110図）

土師質土器・須恵質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。7は須恵質土器の壺である。体部に平行のタタキがみられる。

SK2043

C-16・17、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第110図）

土師質土器・須恵質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。実測し得たものは、土師質の管状土錘2点である。

SK2056

G-1-16、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師器・須恵器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第110図）

土師器・須恵器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。9は土師器の皿で内外面に赤色顔料が塗彩される。

SK2058

E-17・18、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・須恵器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第110図）

土師器・須恵器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SK2065

E・F-17・18、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師器・須恵器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第110図）

土師質土器・須恵質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SK2072

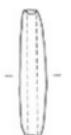
F・G-17・18、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺



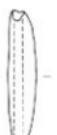
SK2034



SK2037



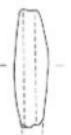
SK2038



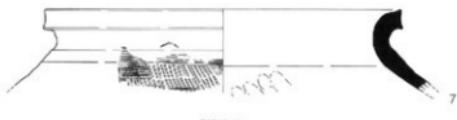
SK2039



SK2043



0 5cm



SK2042



SK2053



SK2056



SK2056



SK2058

0 5cm



SK2065



SK2072



SK2080



SK2081

0 5cm



SK2081

0 20cm

第110図 SK 出土遺物 (2034・2037・2038・2039・2042・2043・2053・
2056・2058・2065・2072・2080・2081)

物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第110図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。13は和泉型の瓦器小皿である。

SK2080

H-14、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第110図）

土師質土器・須恵質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離し技法は回転糸切りである。

SK2081

H-14・15、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第110図）

土師質土器・須恵質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離し技法は回転糸切りである。16は吉備系の土師質土器椀と思われる。口縁部がやや屈曲する。

SK2084

H-1-14、長方形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器などが出土している。出土遺物等から、時期的には10世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第111図）

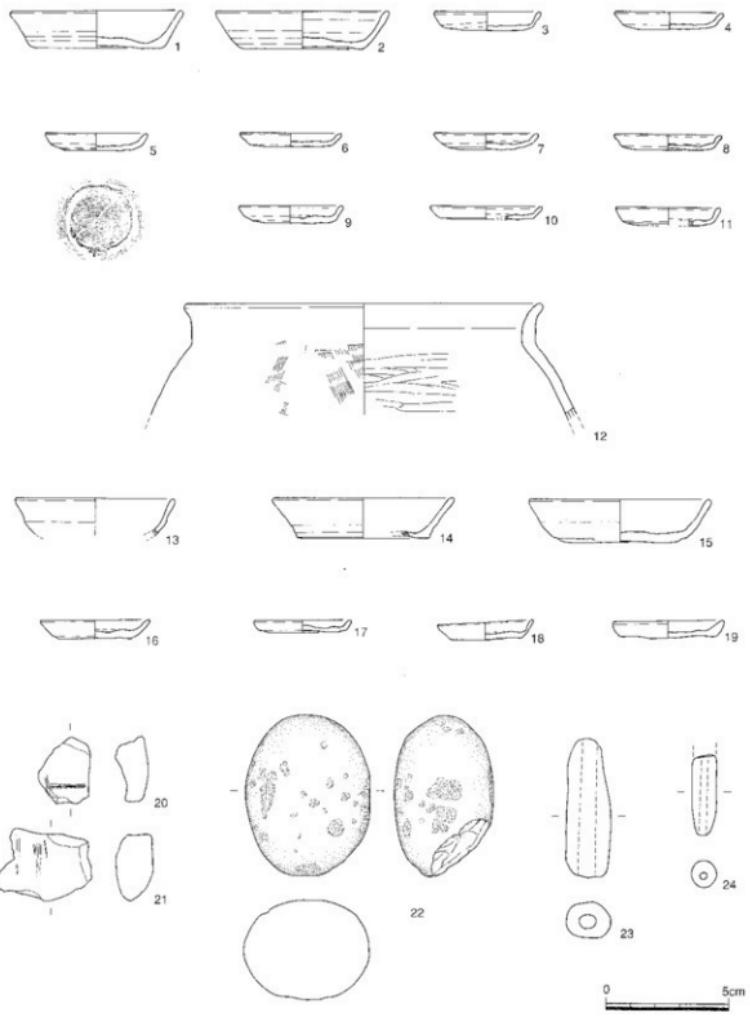
土師質土器・須恵質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。主体的に出土しているのは土師器である。土師器の杯・皿類の底部切り離し技法は回転ヘラ切りである。

SK2090

E・F-18・19、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第112図）

土師質土器・須恵質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。主体的に出土しているのは土師器である。土師器の杯・皿類の底部切り離し技法は回転ヘラ切りである。瓦



第111図 SK2084出土遺物

器椀はそのほとんどが和泉型の搬入品である。時期的には体部外面のヘラミガキの省略や内面ヘラミガキの簡略化、また器高の低下などの法量小型化および高台退化の傾向がみられるため、Ⅲ-2期頃であると思われる。

SK2091

E・F-18・19、楕円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第112図）

土師質土器・須恵質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離し技法は回転糸切りである。3土師質土器のミニチュアの羽釜である。

SK2092

E・F-18・19、楕円形状の土坑である。遺構内からは、土師器の杯類が出土している。出土遺物等から、時期的には10世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第112図）

土師器等が出土している。土師器の杯は直線的に外上方に延びる体部を持つ。底部切り離し技法は回転ヘラ切りである。

SK2093

E・F-18・19、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第112図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2096

E・F-18・19、楕円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第112図）

土師器・瓦器等が出上しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の底部切り離し技法は回転ヘラ切りである。

SK2097

E・G-18・19、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第112図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。15は瓦器小皿である。

SK2100

G-18・19、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第112図）

土師器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の底部切り離し技法は回転ヘラ切りである。

SK2103

H-18、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第112図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2107

H-18、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第112図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2108

H-18、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第112図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2110

I-18、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第112図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。20は土師器の皿で、底部は丸味をもつ。

SK2116

I-18、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第112図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2117

E・F-18~20、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第112図）

土師器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の底部切り離し技法は回転ヘラ切りである。

SK2120

F・G-19・20、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第112図）

土師器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の底部切り離し技法は回転ヘラ切りである。

SK2122

F・G-19・20、楕円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第113図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2123

F・G-19・20、楕円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第113図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2125

G・H-19・20、長方形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第113図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質の管状土錐がまとめて出土している。

SK2129

G・H-19・20、長方形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第113図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2130

G-I-19・20、不定形な土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器などが出土している。出土遺物等から、時期的には10世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第113図）

上師器・上師質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。18は土師器の壺である。土師器の杯・皿類の底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SK2131

G-I-19・20、不定形な土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第114図）

土師器・土師質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。1は土師器の壺である。土師器の杯・皿類の底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SK2145

H・I-24・25、長方形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第114図）

土師器・土師質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2146

H・I-24・25、長方形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第114図）

土師器・土師質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2149

H・I-25・26、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器などが出土している。出土遺物等から、時期的には10世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第114図）

土師器・土師質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器杯・皿類の底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SK2158

I・J-26、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器などが出土している。出土遺物等から、時期的には10世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第114図）

土師器・土師質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SK2165

K・L-23・24、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第114図）

土師器・土師質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2180

K・L-28・29、楕円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第114図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。11は和泉型の瓦器椀でⅢ-1期に属するものと思われる。

SK2187

L～N-29・30、楕円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第114図）

土師器・土師質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。12は土師質土器の釜脚部である。

SK2199

N-31・32、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第114図）

土師器・土師質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SK2211

M・N-33、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第114図）

土師器・土師質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SK2217

O-36、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第114図）

土師器・土師質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SK2220

P-34・35、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺

物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第114図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器椀は和泉型でⅢ-2期に属するものと思われる。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SK2225

O・P-37、楕円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第114図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SK2229

O~Q-36・37、楕円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第114図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。21は龍泉窯の青磁碗である。

SK2230

P~Q-34~36、楕円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第114図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2236

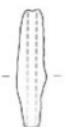
Q・R-36・37、楕円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第115図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。



SK2090



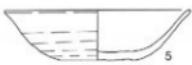
2



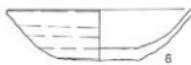
SK2091



4



5



6



7

SK2092



0 SK2093 5cm



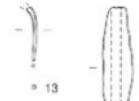
9



10



11



13



SK2096



12



0

5cm



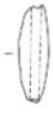
SK2097



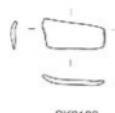
SK2100



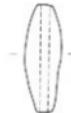
0 SK2103 5cm



0 SK2107 5cm



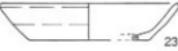
SK2108



0 SK2116 5cm



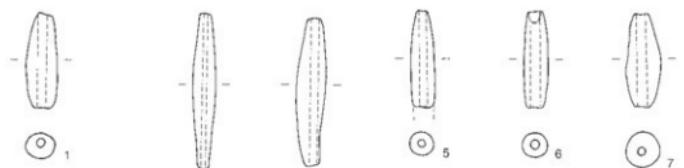
SK2117



SK2120

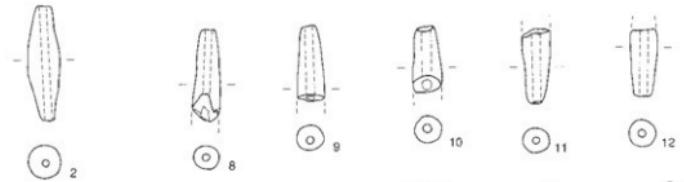
0 20cm

第112図 SK 出土遺物 (2090・2091・2092・2093・2096・2097・2100・
2103・2107・2108・2110・2116・2117・2120)



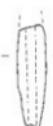
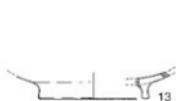
SK2122

○ 3 ○ 4



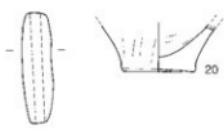
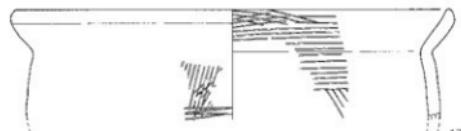
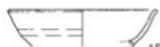
SK2123

SK2125 0 5cm

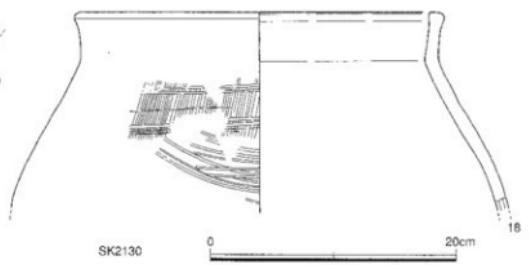


SK2129

0 5cm



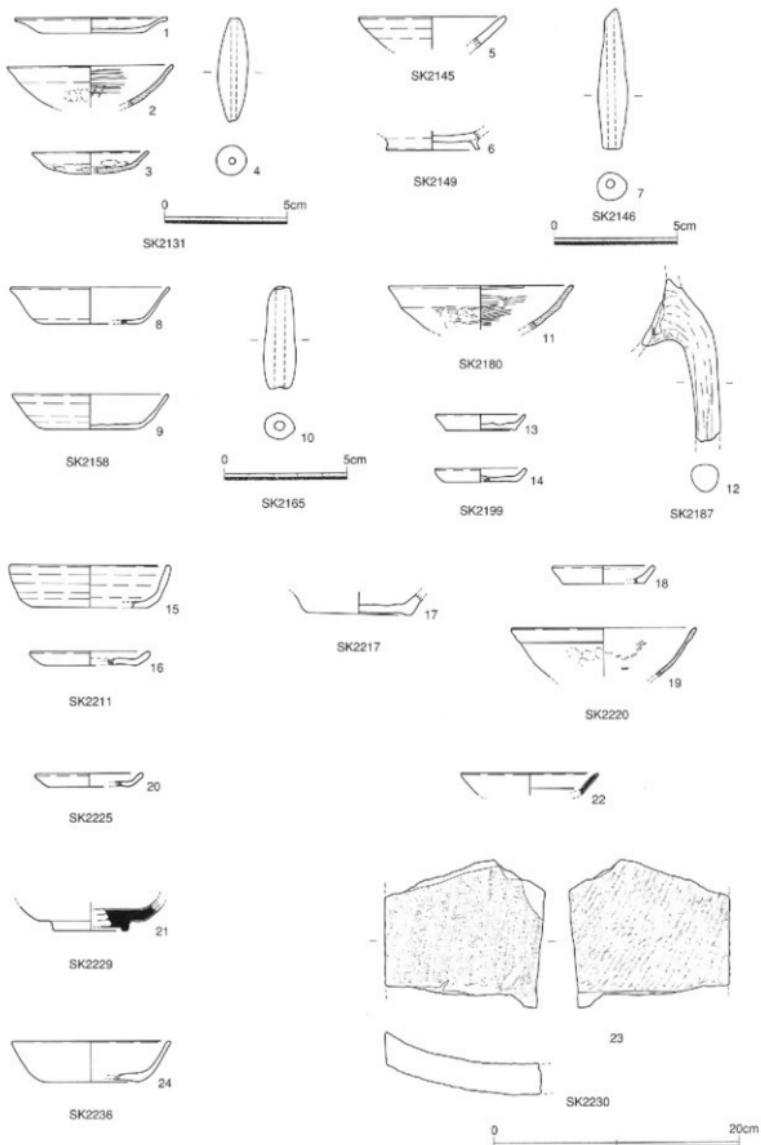
0 5cm



SK2130

0 20cm

第113図 SK出土遺物 (2122・2123・2125・2129・2130)



第114図 SK 出土遺物 (2131・2145・2146・2149・2158・2165・2180・2187・
2199・2211・2217・2220・2225・2229・2230・2236)

SK2245

P・Q-37・38、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第115図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SK2246

P-R-37・38、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第115図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SK2257

P-39・40、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第115図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SK2267

P-R-43・44、楕円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第115図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものはなかった。

SK2283

R-S-46・47、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第115図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。13は土師器の壺である。

SK2286

Q・R-47・48、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第115図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SK2290

R・S-47・48、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第115図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。18は偏前焼の壺底部である。

SK2293

N-36、不定形な土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第115図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SK2295

P-34・35、不定形な土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第115図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SK2307

G・H-12、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第115図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器

の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SK2309

O-35、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第116図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類は直線的またはやや屈曲して延びる体部をもつ。底部切り離しは回転糸切りである。

SK2310

P-34・35、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第116図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SK2322

J・K-28、不定形な土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第116図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。29は椀形溝である。

SK2327

L-22・23、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第116図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器枕は和泉型でIII-3期に属するものと思われる。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SK2337

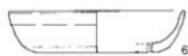
不定形な土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。



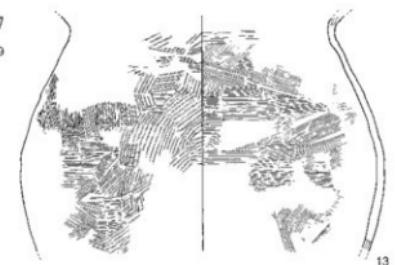
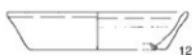
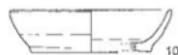
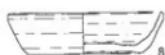
SK2245



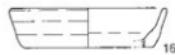
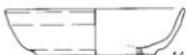
SK2246



SK2257



SK2283



SK2286



SK2290



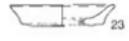
SK2293



SK2295



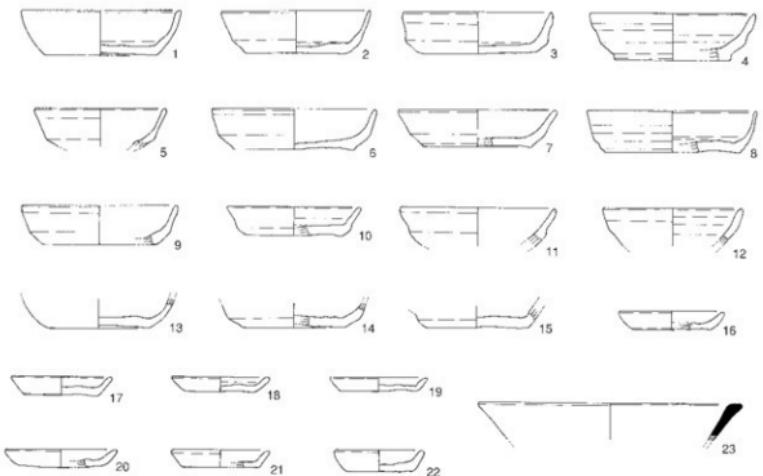
SK2307



SK2307



第115図 SK 出土遺物 (2245・2246・2257・2283・2286・2290・2293・2295・2307)

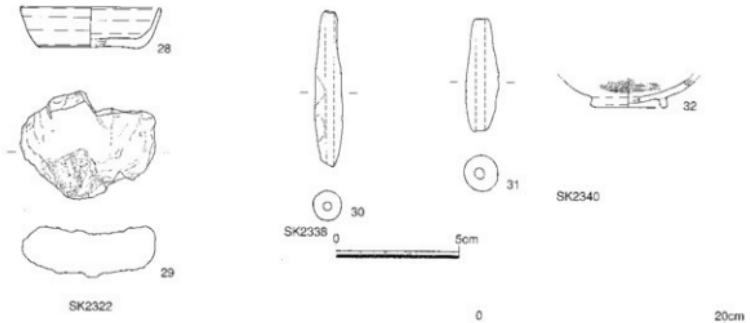


SK2309



□ 25

SK2325



第116図 SK出土遺物 (2309・2310・2322・2325・2327・2337・2338・2340)

出土遺物（第116図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。27は土師器の皿で底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SK2338

G・H-21・22、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第116図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2340

H・I-21、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第116図）

土師器・黒色土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2341

H・I-20、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第117図）

土師器・黒色土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。1は弥生土器後期の甕の口縁部である。

SK2343

N・O-28、楕円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第117図）

土師器・黒色土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2344

不定形な土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第117図）

土師器・黒色土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。3は弥生土器後期の壺の口縁部である。

SK2348

M-30、不定形な土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第117図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿がまとまって出土している。底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SK2352

M・N-29、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第117図）

上師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類が出土している。底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SK2360

M・N-31・32、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第118図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。1は窯あるいは窯の壁体の一部と思われる土製品である。

SK2366

M・N-31・32、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第118図）

土師質土器・瓦器・窯あるいは窯の壁体の一部と思われる土製品等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2369

M・N-31・32、円形状の土坑である。遺構内からは、上師質土器・瓦器などが出土している。出土

遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第118図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。7は土師質土器の小皿である。体～底部外面にカキ目調整が施されている。

SK2370

N-32、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第118図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類が出土している。底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SK2371

M・N-32、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第118図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類が出土している。底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SK2373

N・O-33、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第118図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類が出土している。底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SK2374

N・O-33、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第119図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類が出土している。底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SK2380

O・P-33、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第119図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類が出土している。底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SK2382

P-33、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第119図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2384

O・P-33～35、楕円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第119図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類が出土している。底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SK2388

N-32、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第119図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SK2389

O-31、半円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第119図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。18は龍泉窯の青磁碗の破片である。



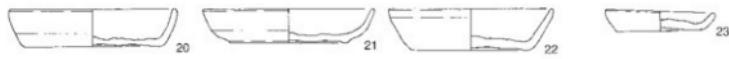
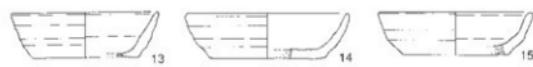
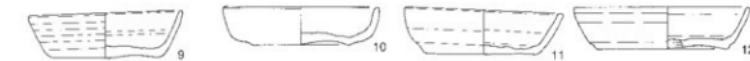
SK2341



SK2343



SK2344



SK2348



SK2352



第117図 SK 出土遺物 (2341・2343・2344・2348・2352)



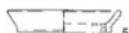
SK2360



SK2366



SK2366



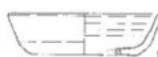
SK2368



SK2369



11



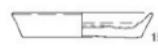
12



13



14



15



16



17



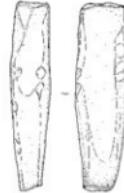
18



21



22



24



25

SK2370



26

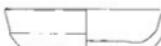


SK2371

27



28



29



30



31



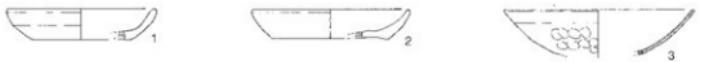
32

SK2373

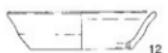
33



第118図 SK出土遺物 (2360・2366・2368・2369・2370・2371・2373)



SK2374



SK2380



SK2382



SK2384



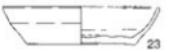
SK2388



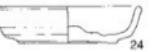
18



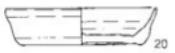
19



23



24



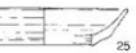
20



21



22



SK2392

SK2389



26



27



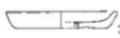
28



SK2401



29



30



31



32



D 37



33



34



35

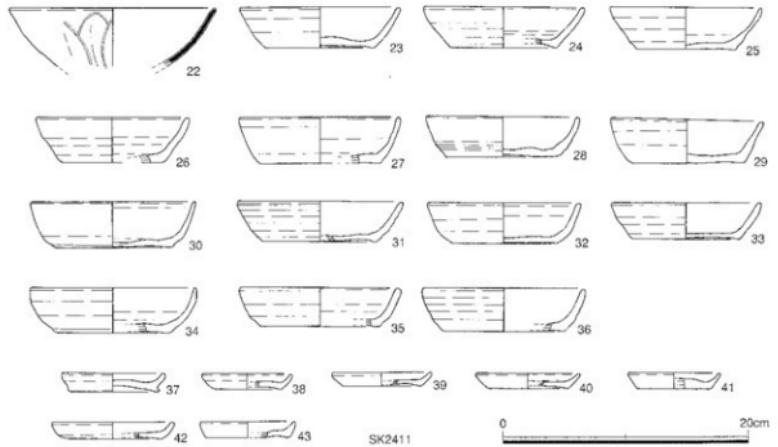
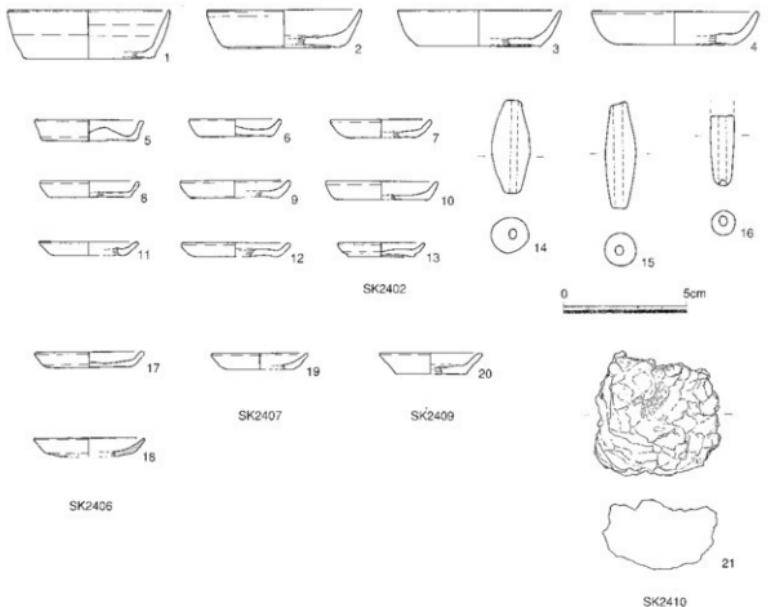


36

SK2398



第119図 SK 出土遺物 (2374・2380・2382・2384・2388・2389・2392・2398・2401)



第120図 SK 出土遺物 (2402・2406・2407・2409・2410・2411)

SK2392

Q-30・31、不定型な土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第119図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SK2398

N・O-28、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器・須恵器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第119図）

土師質土器・瓦器・須恵器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の中には直線的な体部で器壁の厚いものがみられる。底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SK2401

N・O-28・29、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第119図）

土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離し技法は回転糸切りである。38は龍泉窯の青磁碗の破片である。口縁部は輪花になっている。

SK2402

O・P-28・29、円形状の土坑である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第120図）

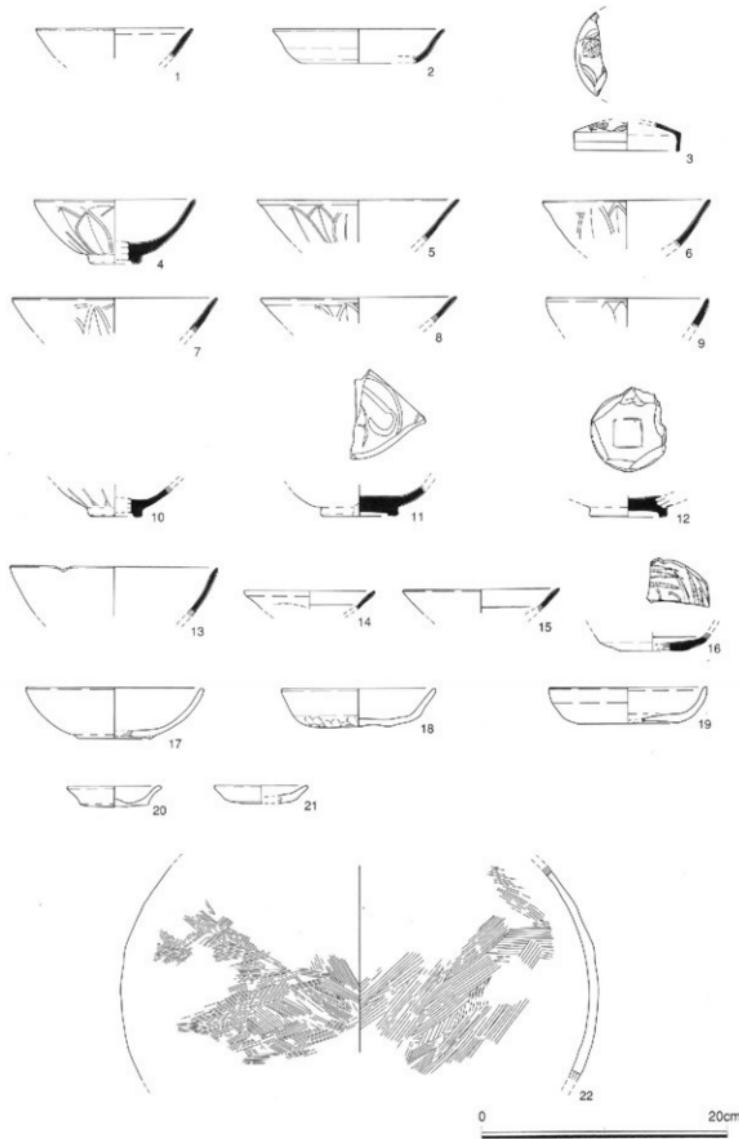
土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SK2403（第121図）

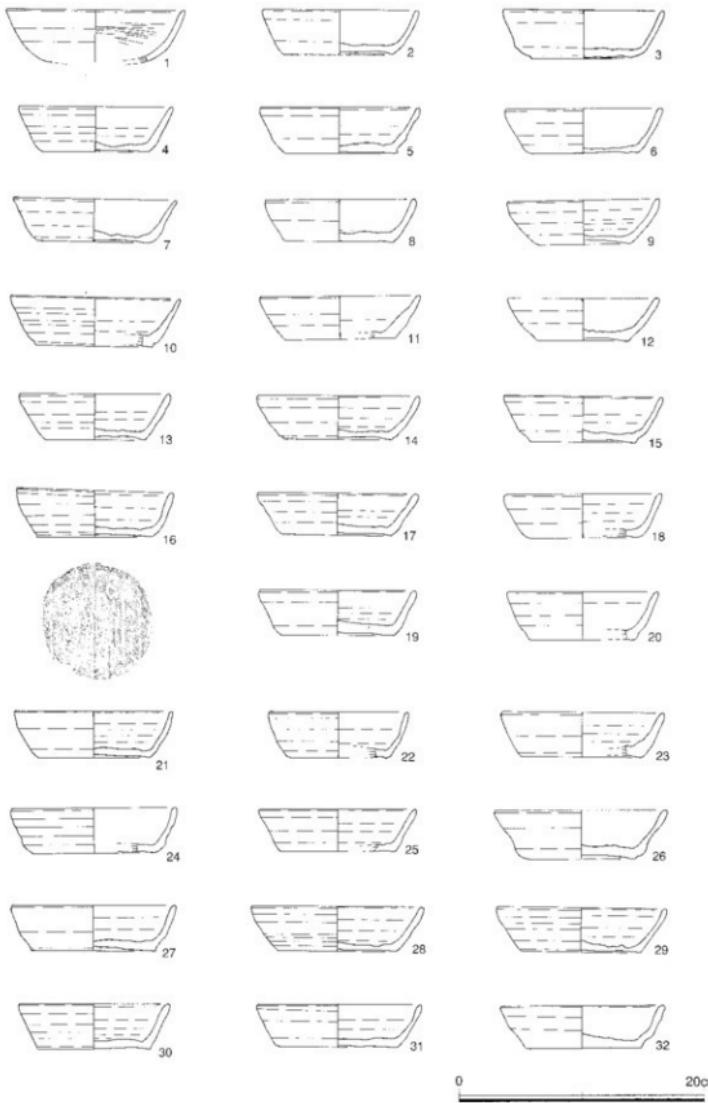
N-32グリッド、上器溜まり遺構である。楕円形状の土坑である。井戸と考えられるが、井筒などの構造物は確認できなかった。遺構内からは、完形の土師質土器の杯・皿が多量に出土している。概して杯の出土が多い。井戸の底盤に伴う祭祀行為があったと考えられる。出土遺物等から、時期的には13世



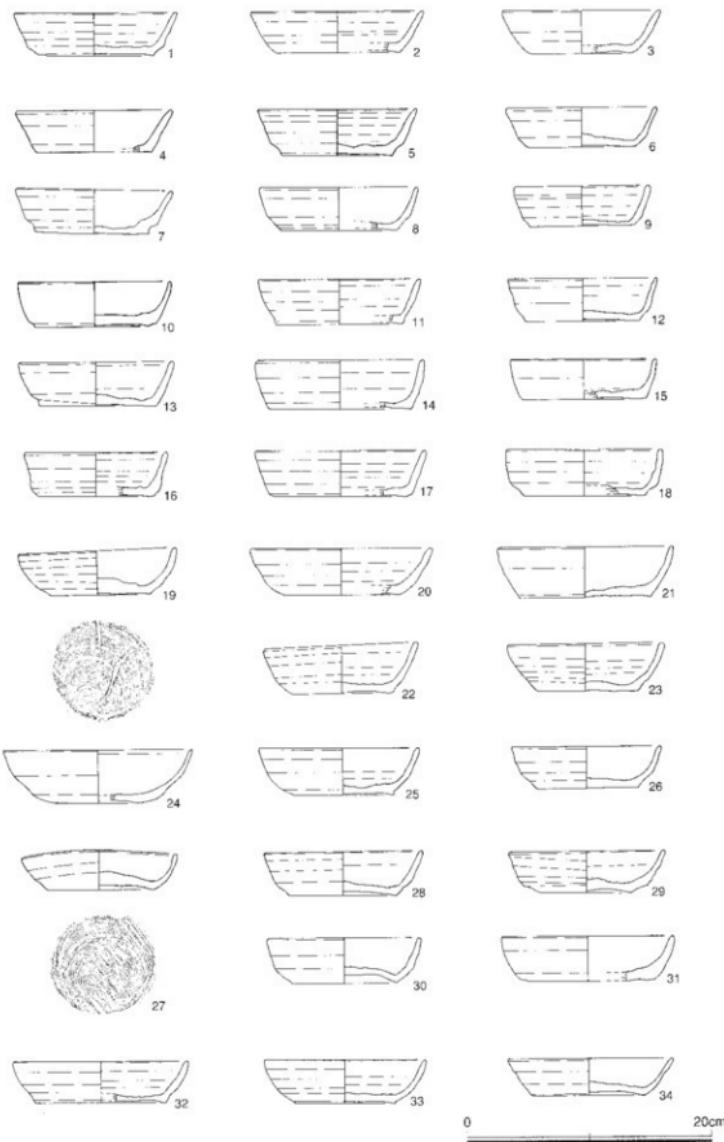
第121図 SK2403平・断面図



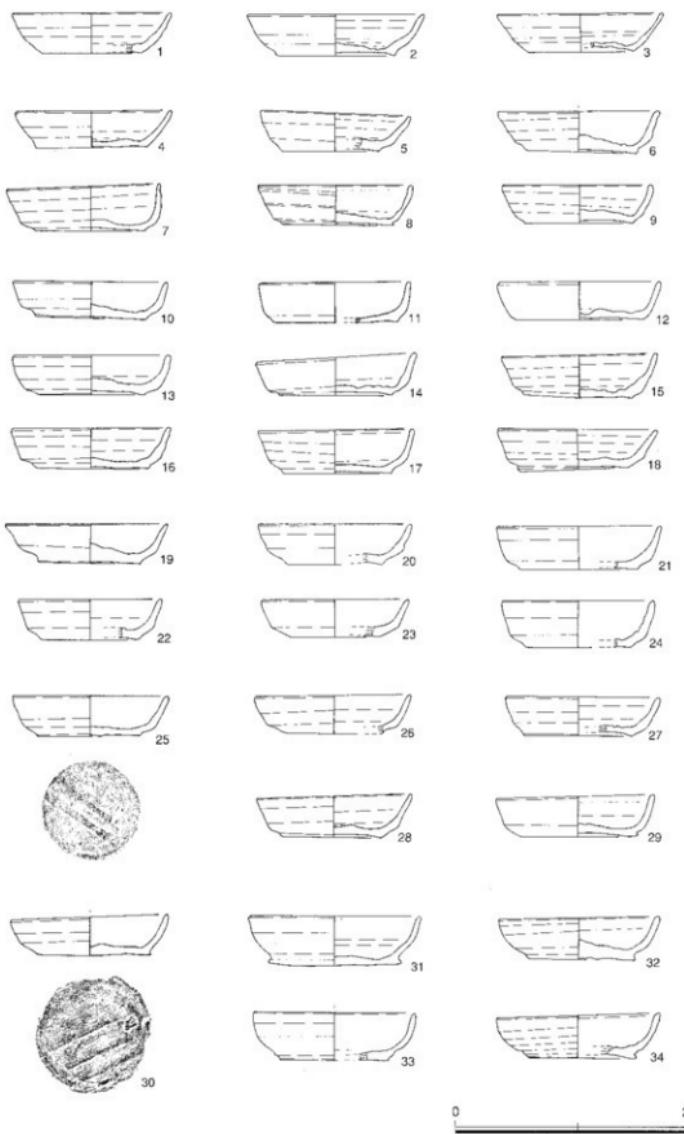
第122図 SK2403出土遺物 1



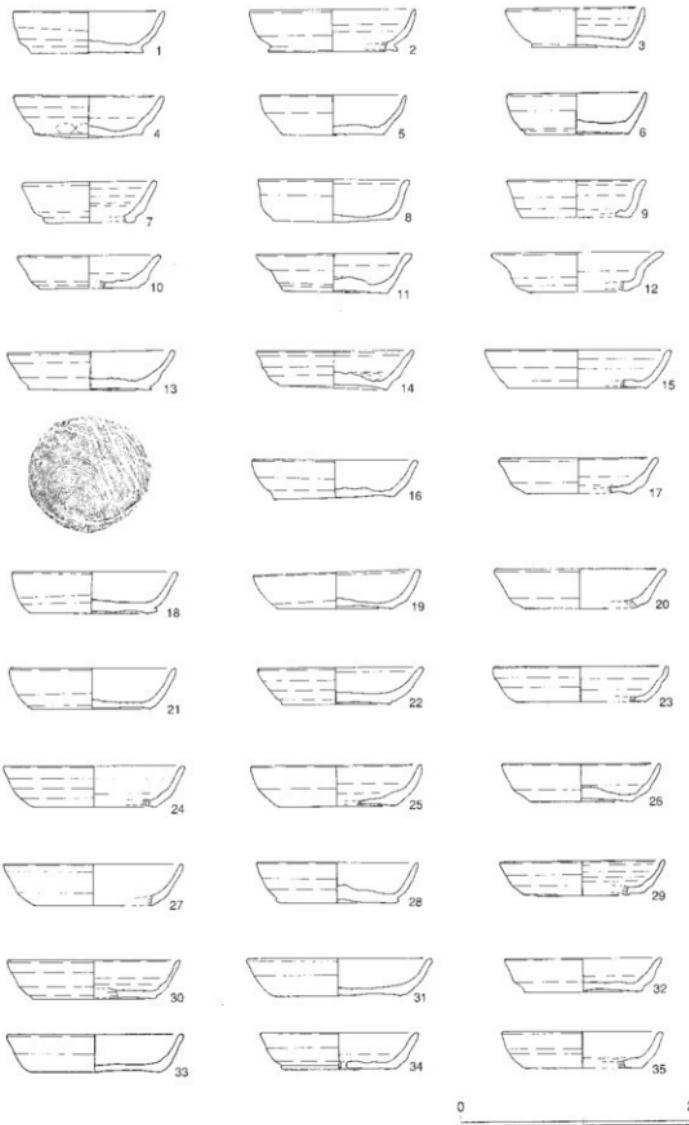
第123図 SK2403出土遺物2



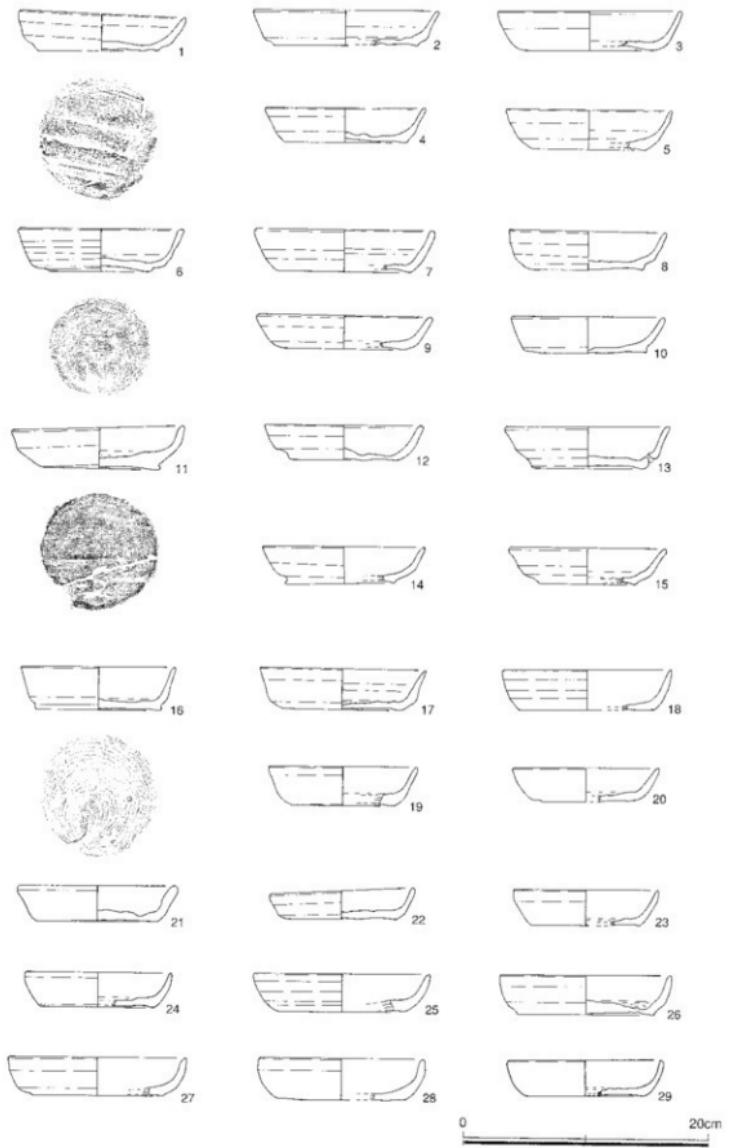
第124図 SK2403出土遺物 3



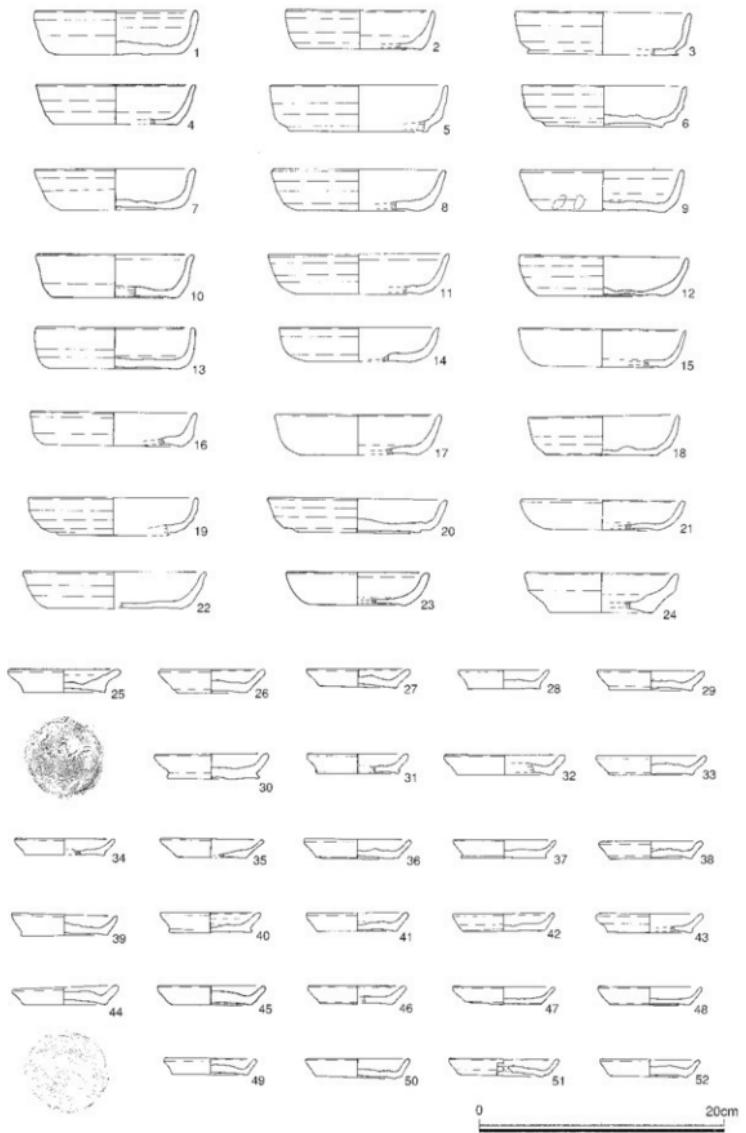
第125図 SK2403出土遺物 4



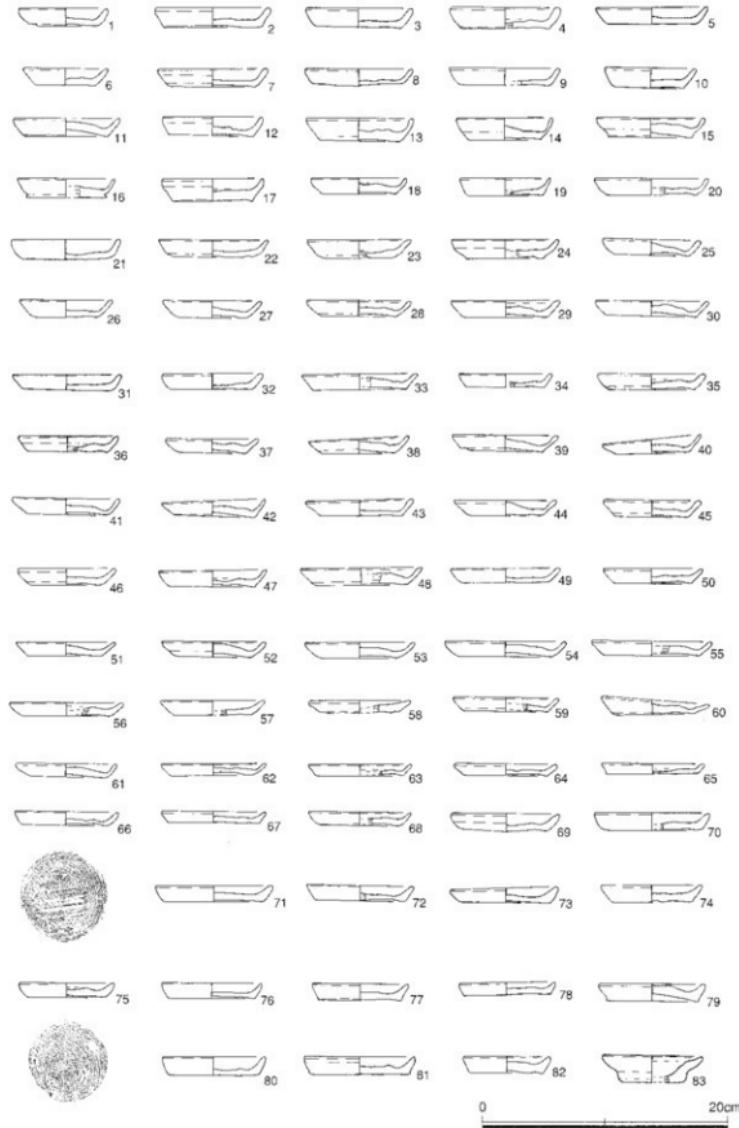
第126図 SK2403出土遺物 5



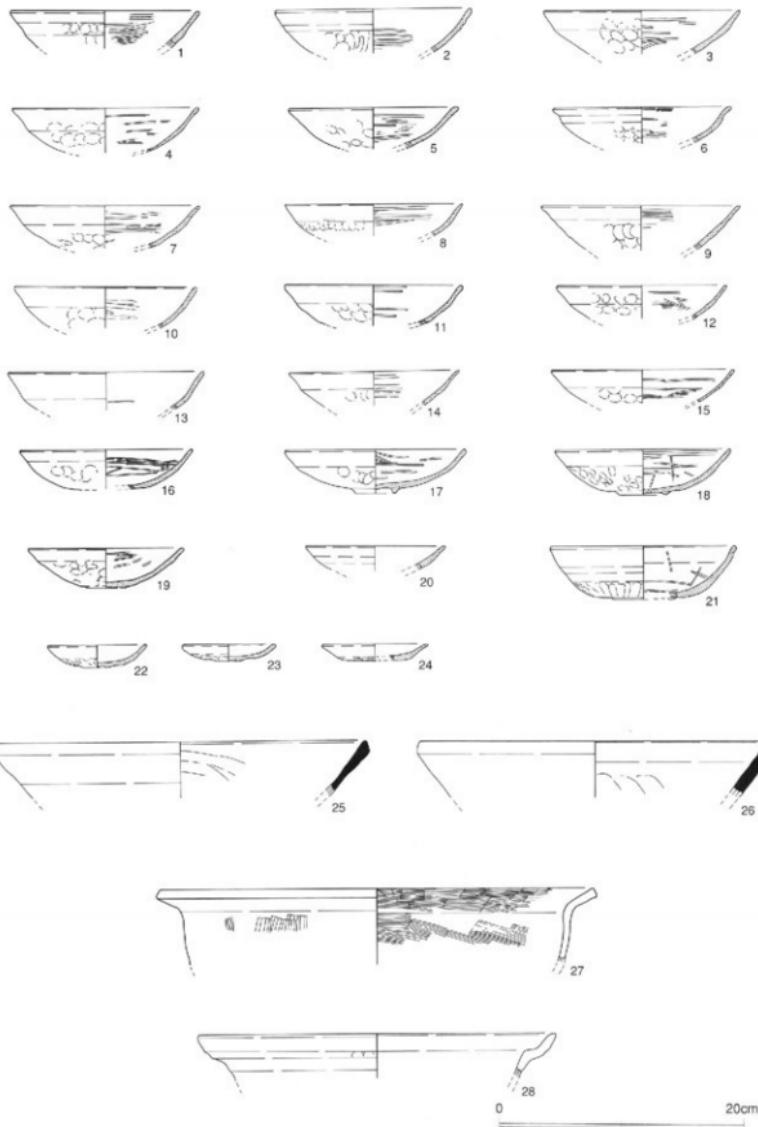
第127図 SK2403出土遺物 6



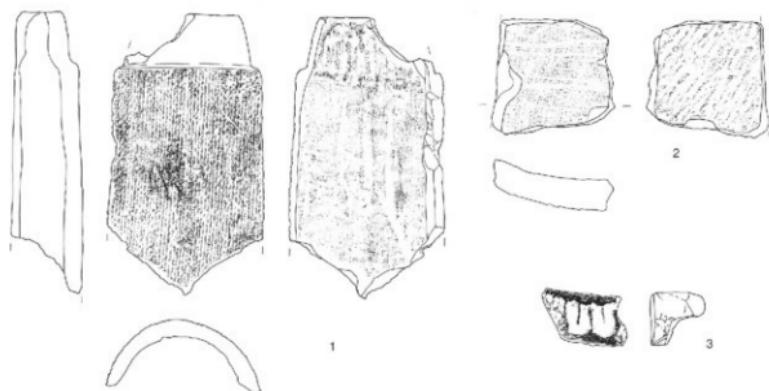
第128図 SK2403出土遺物 7



第129図 SK2403出土遺物 8



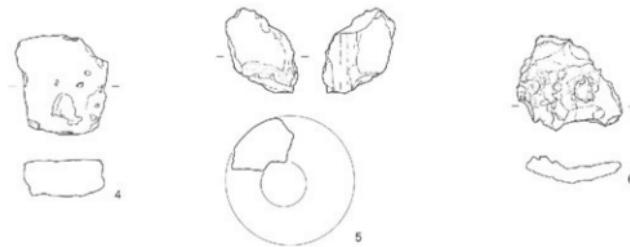
第130図 SK2403出土遺物 9



1

2

3



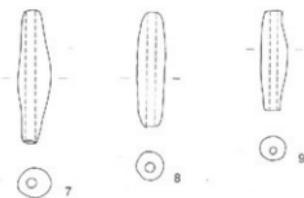
3

4

5

6

20cm



7

8

9

0 5cm

第131図 SK2403出土遺物10

紀後半頃と思われる。

出土遺物（第122～131図）

出土遺物は、主に土師質土器の杯・皿・小皿がまとまって出土している。中でも杯の出土が多い。完形品が多く、ほぼ法量が揃う。杯は直線的にやや外方に延びる体部をもつ。皿はやや内彎する体部をもち、杯に比して器高が若干低い。杯・皿の底部の切り離し技法は回転糸切りである。瓦器椀は和泉型のⅢ-2～3がみられる。

SK2404（第132図）

O・P-26・27、SD2001の肩部に位置する上器溜まり遺構である。不整形な楕円形状の土坑である。一部北側が調査区外に拡がる。完形の土師質土器杯・皿が多量に出土しており、特に皿の出土が多い。何らかの祭祀行為による廃棄があったと考えられる。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第133～147図）

土師質土器の皿がまとまって出土している。完形品が多く、ほぼ法量が揃う。やや内彎する体部をもち、底部の切り離し技法は回転糸切りと同軸ヘラ切りがみられる。瓦器椀（須恵器椀）等も散見する。瓦器椀は和泉型で尾上分類のⅢ-2～3期に属する。須恵器椀は片口状に成形されるものも出土している。

SK2406

J・K-28、楕円形状の土坑である。土師質土器が出土しているが、いずれも小片のため実測可能なものは少ない。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第120図）

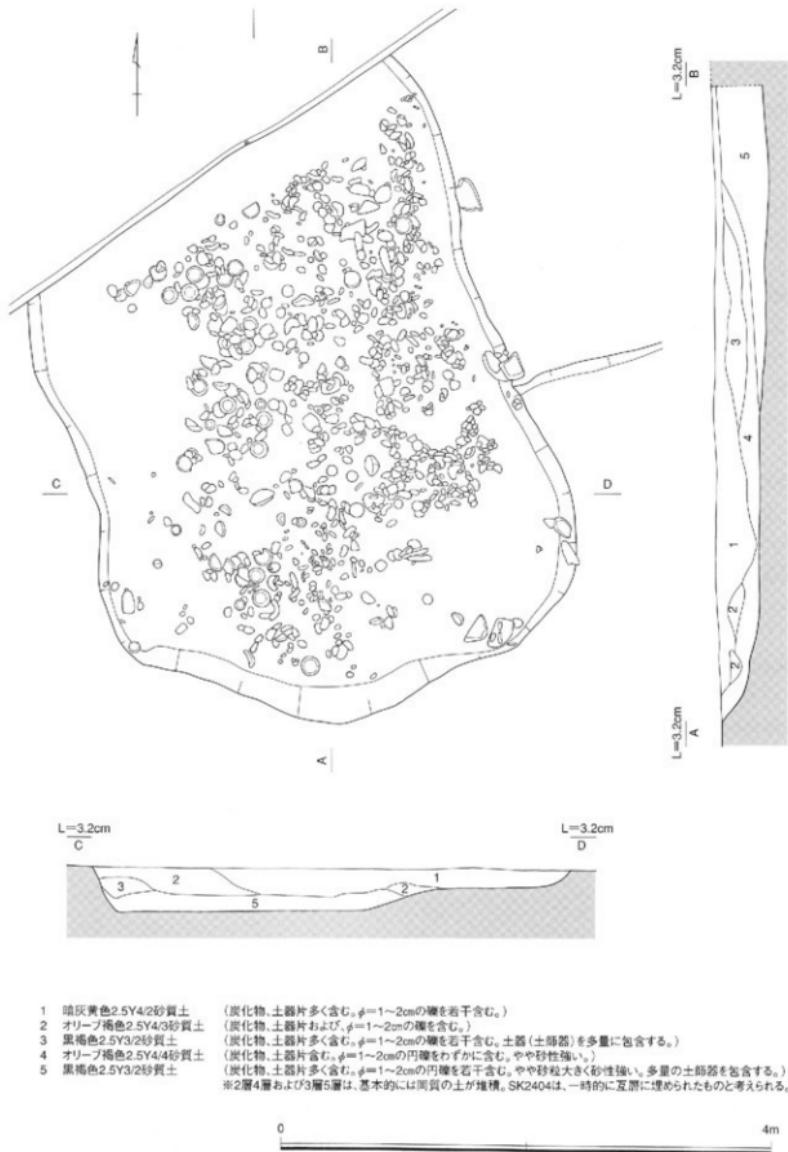
土師質土器・瓦器等が出土している。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離し技法は回転糸切りである。瓦器椀（須恵器椀）等も散見する。瓦器椀は和泉型で概ね尾上分類のⅢ-2～3期に属する。

SK2407

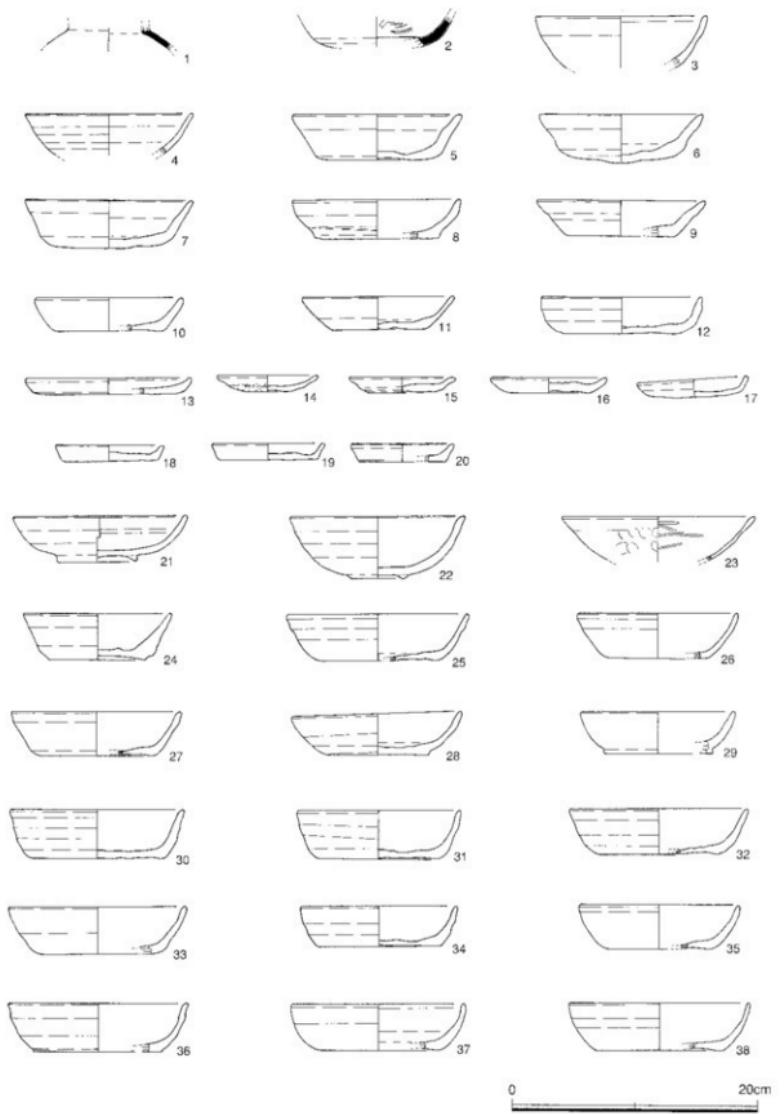
J・K-29、半円形状の不整形な土坑である。土師質土器が出土しているが、いずれも小片のため実測可能なものは少ない。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第120図）

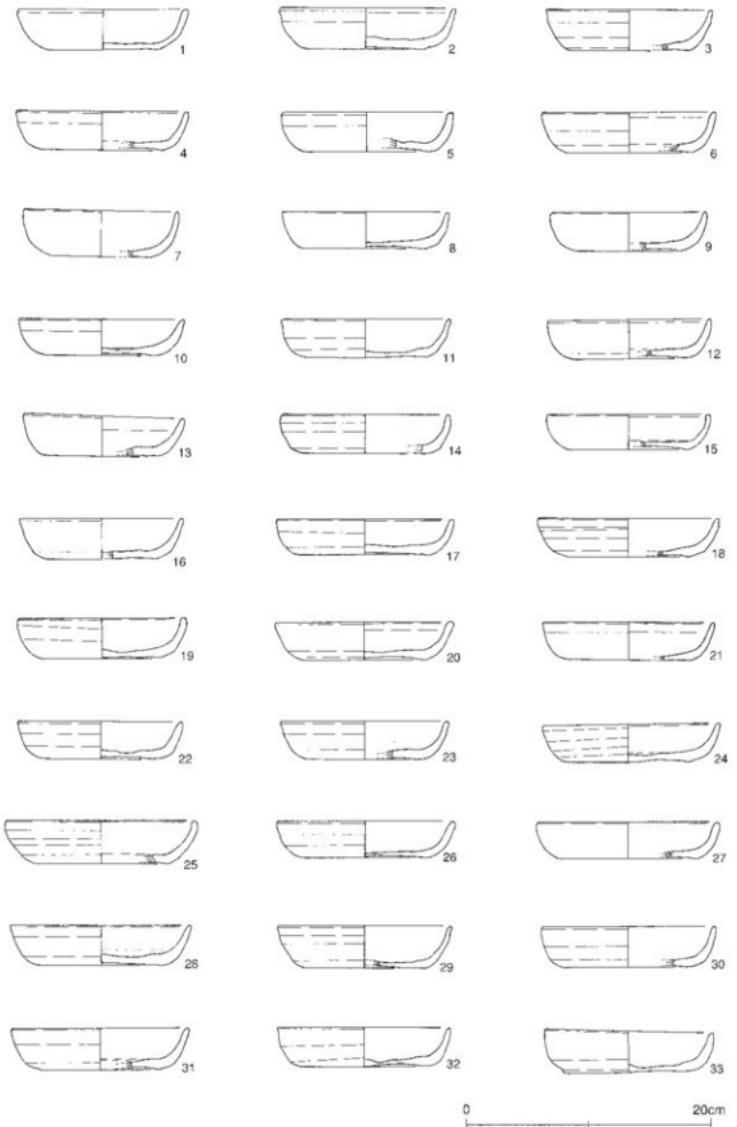
土師質土器・瓦器等が出土している。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離し技法は回転糸切りである。瓦器椀（須恵器椀）等も散見する。瓦器椀は和泉型で概ね尾上分類のⅢ-2～3期に属する。



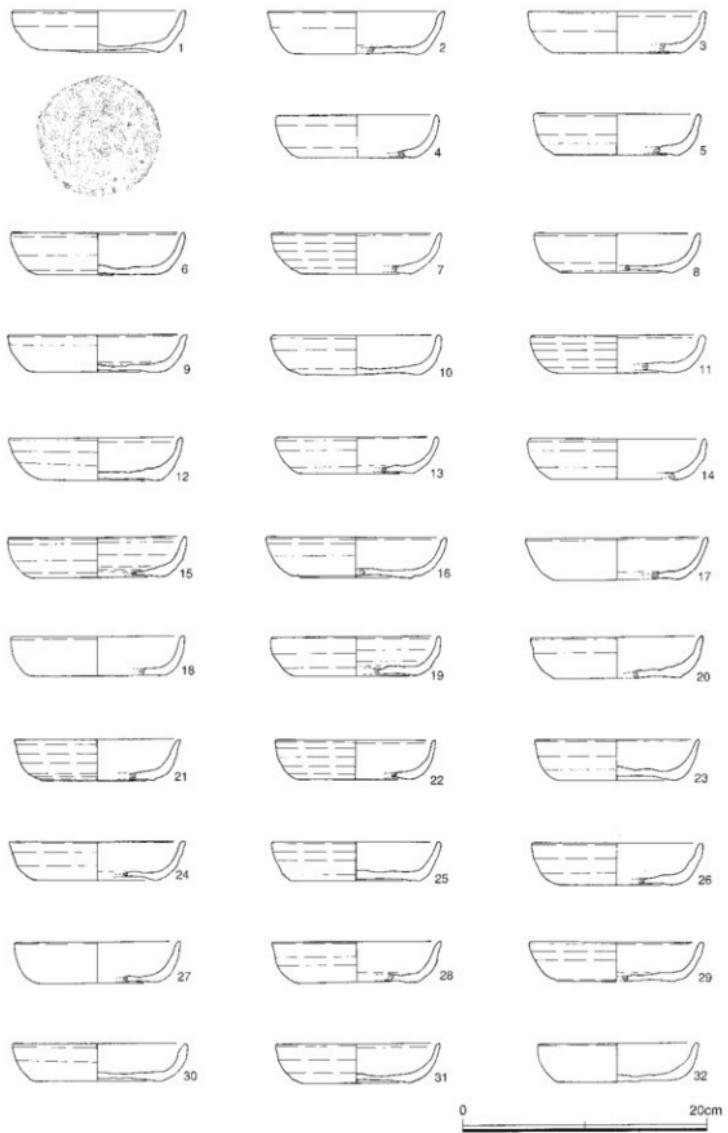
第132図 SK2404平・断面図



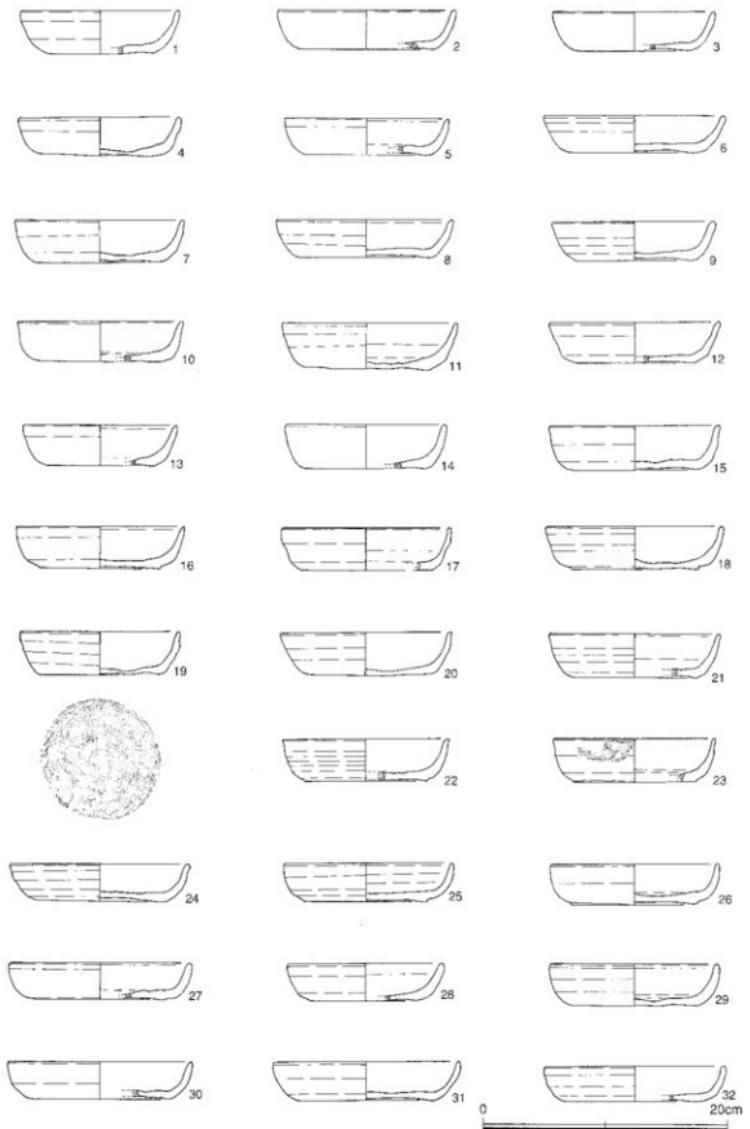
第133図 SK2404出土遺物1



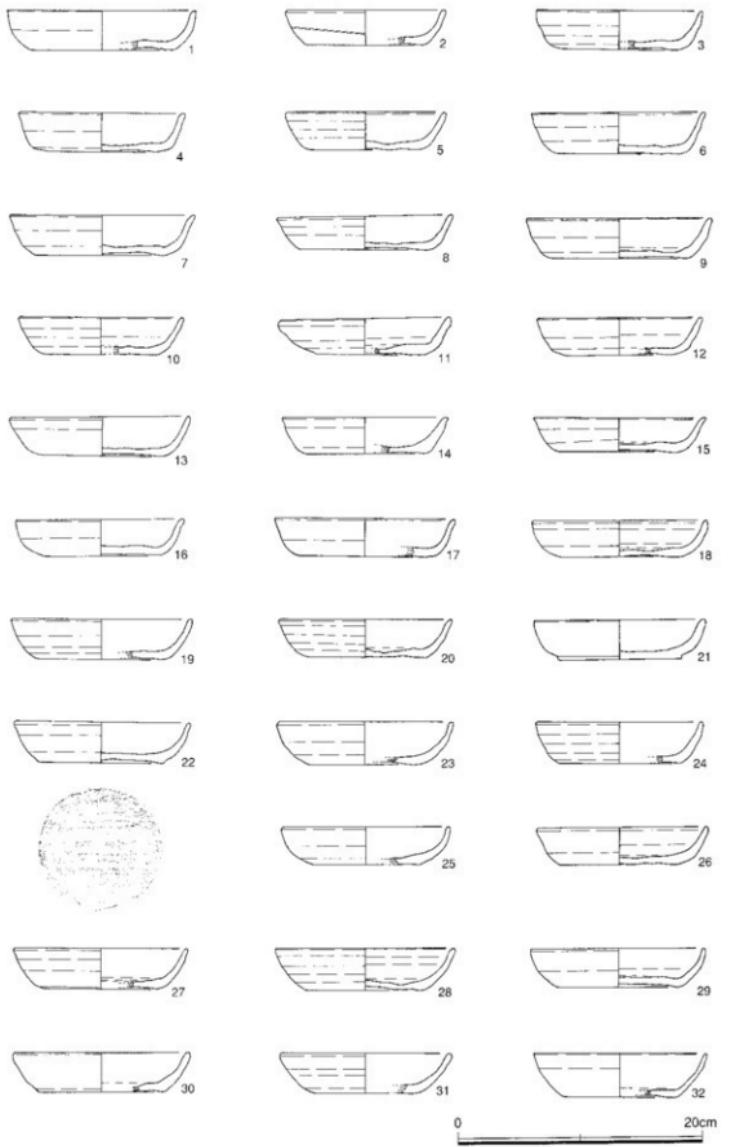
第134図 SK2404出土遺物 2



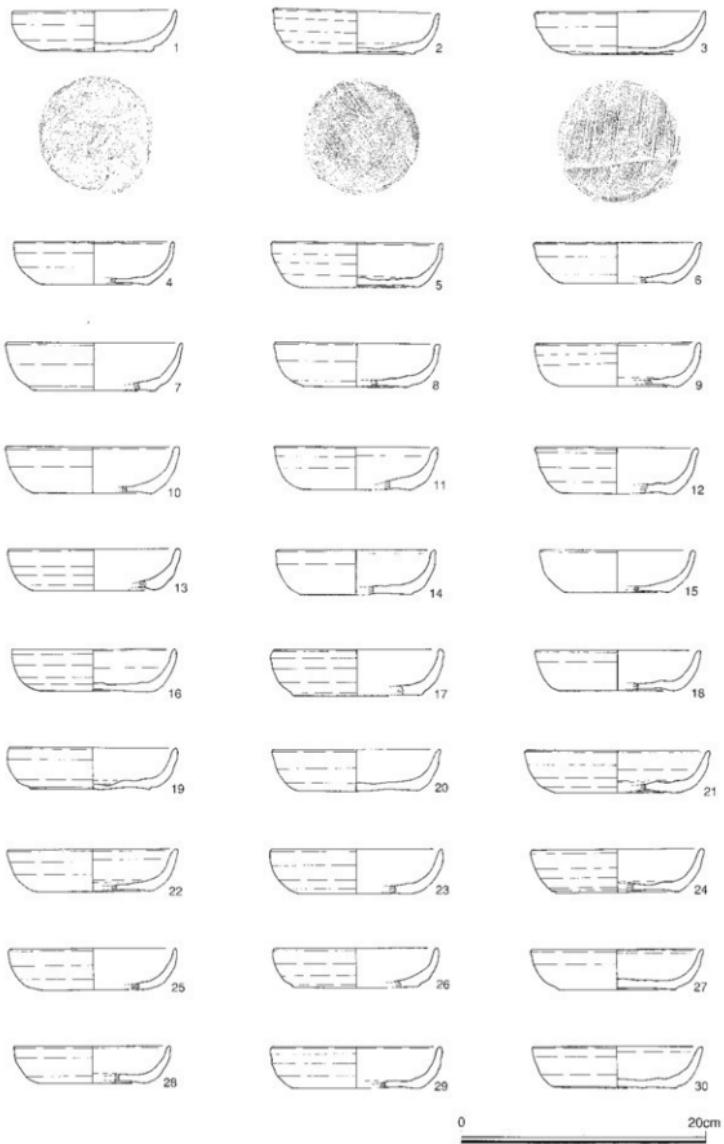
第135図 SK2404出土遺物 3



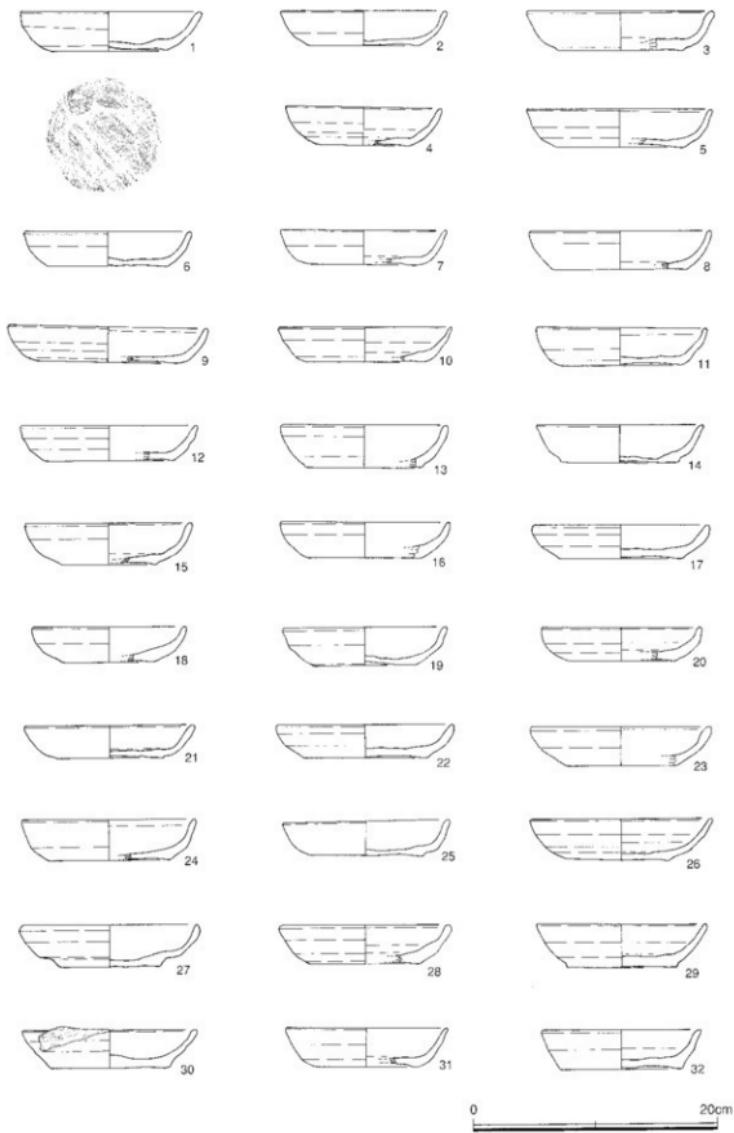
第136図 SK2404出土遺物 4



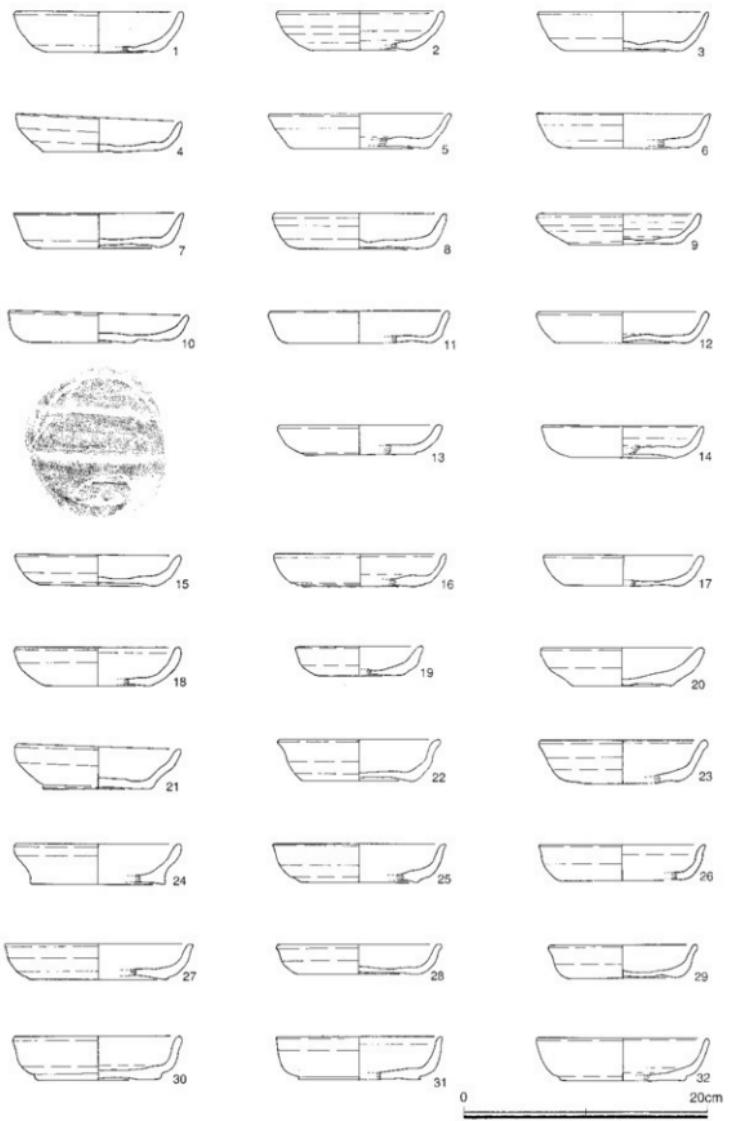
第137図 SK2404出土遺物 5



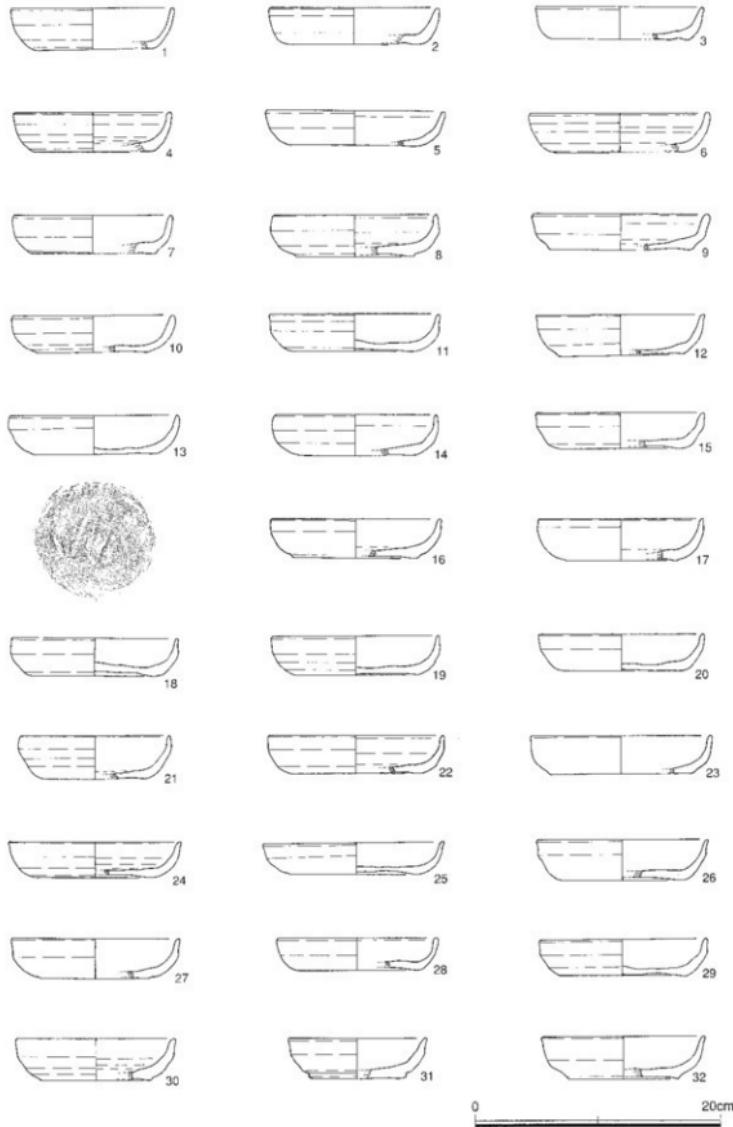
第138図 SK2404出土遺物 6



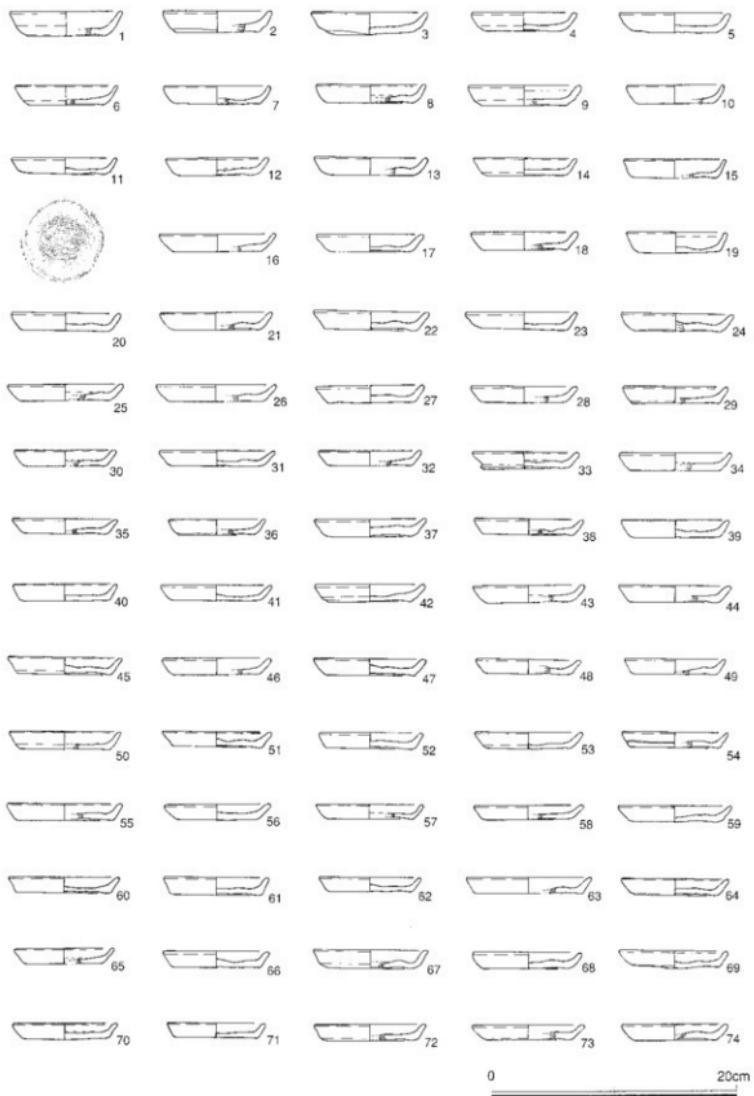
第139図 SK2404出土遺物 7



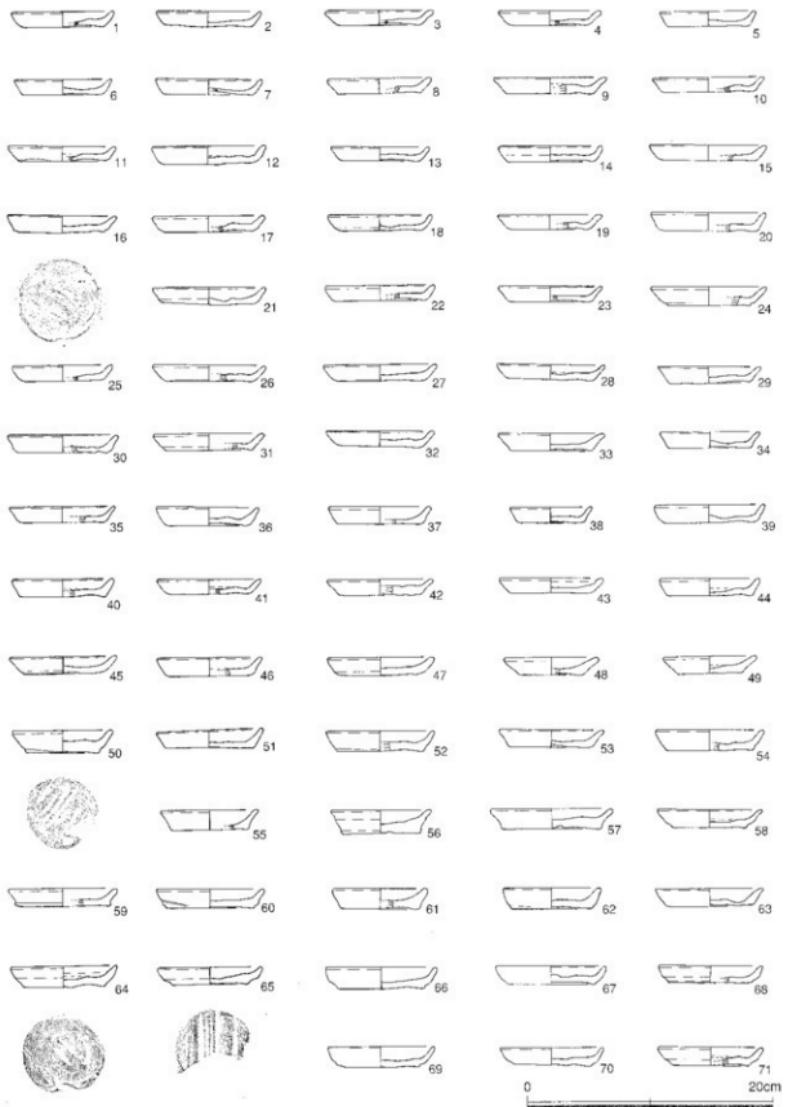
第140図 SK2404出土遺物 8



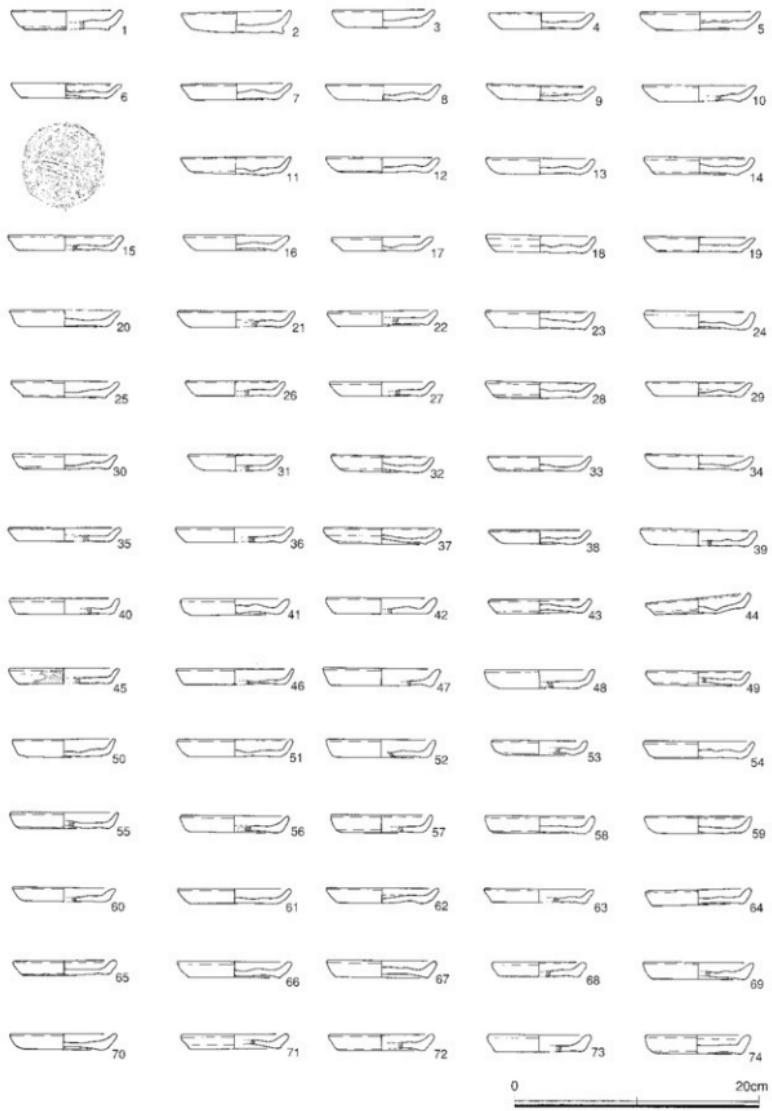
第141図 SK2404出土遺物 9



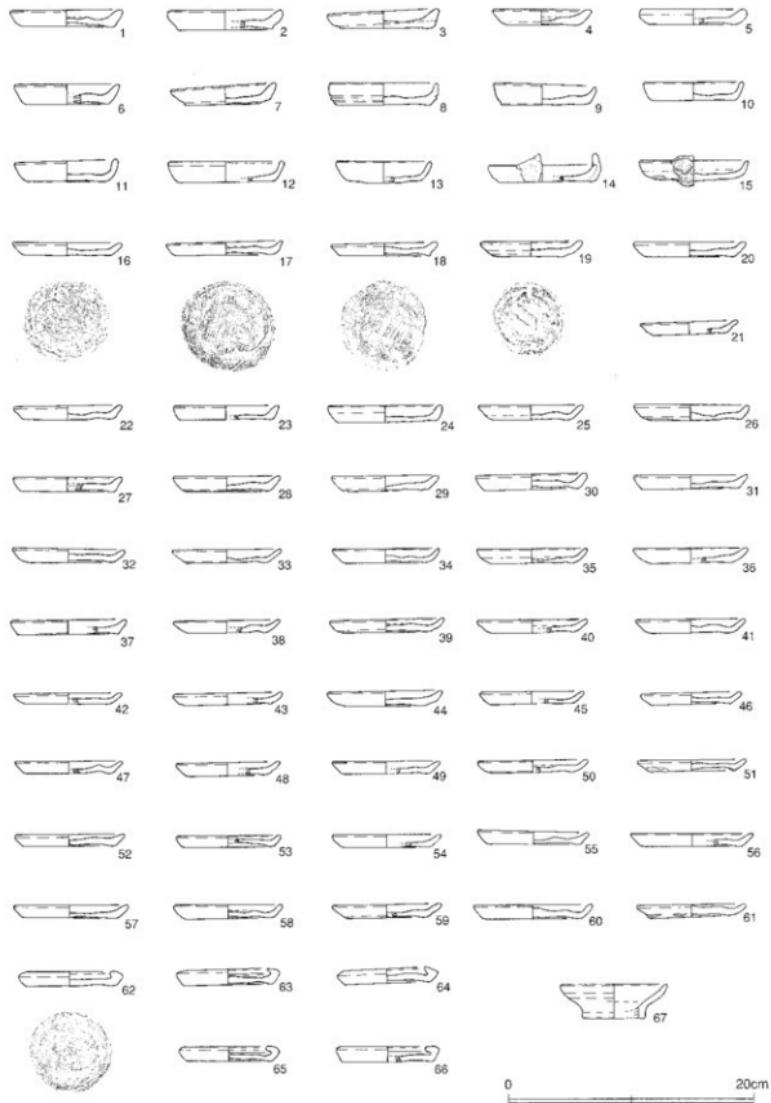
第142図 SK2404出土遺物10



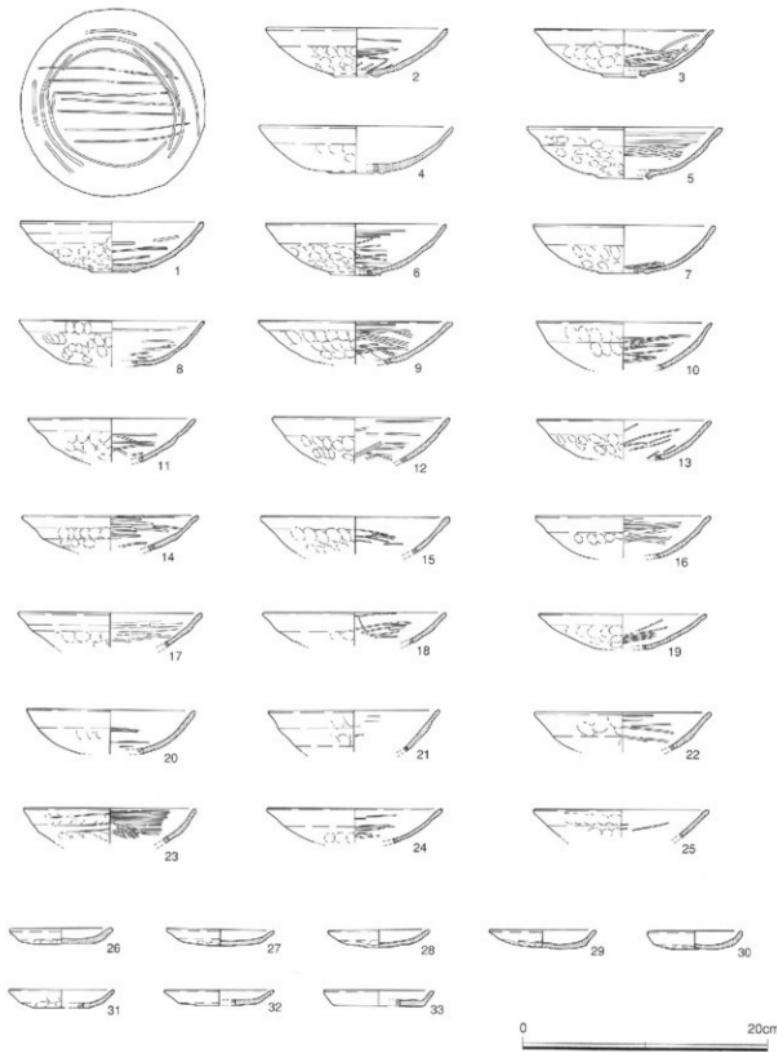
第143図 SK2404出土遺物11



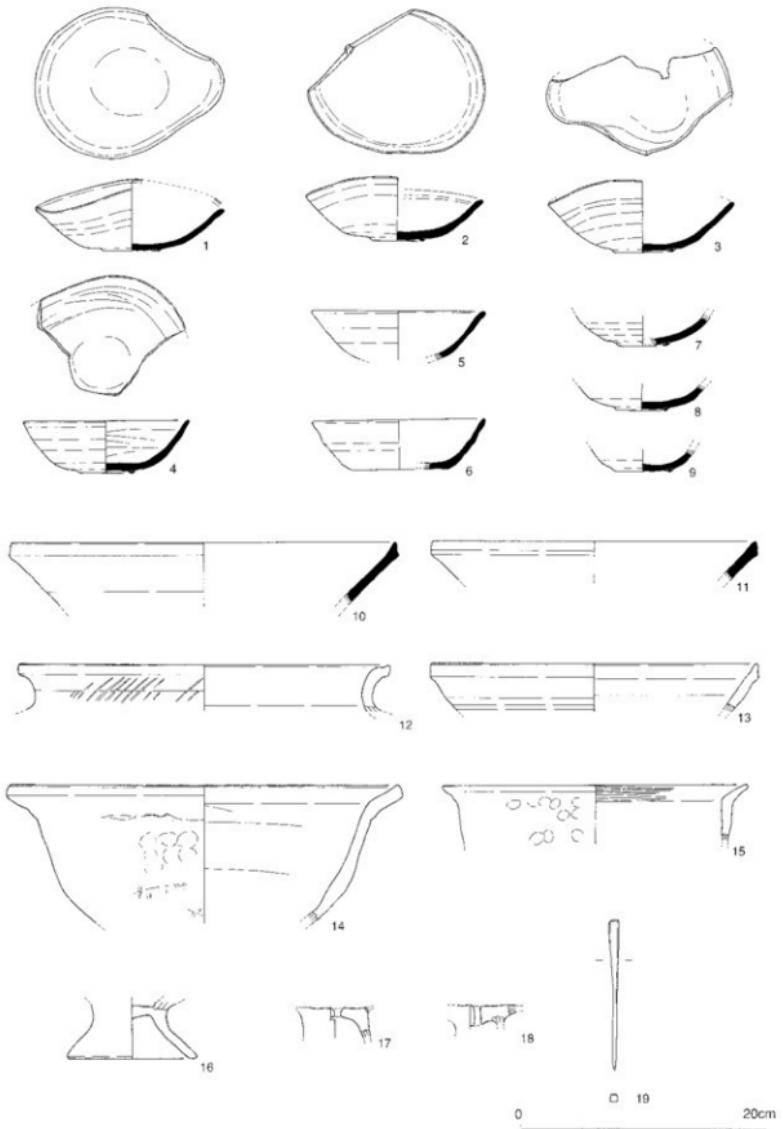
第144図 SK2404出土遺物12



第145図 SK2404出土遺物13



第146図 SK2404出土遺物14



第147図 SK2404出土遺物15

SK2409

N-32、円形の土坑である。平面プランは不明瞭である。輸入磁器・土師質土器等が出土しているが、いずれも小片である。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第120図）

土師質土器などが出土しているが、いずれも小片であり実測可能なものは少ない。

SK2410

N-32、円形の土坑である。平面プランは不明瞭である。輸入磁器・土師質土器等が出土しているが、いずれも小片である。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第120図）

土師質土器などが出土しているが、いずれも小片であり実測可能なものは少ない。21は楕円形の鉄滓である。

SK2411

P・Q-37・38、不整形な土坑である。平面プランは不明瞭である。輸入磁器・土師質土器等が出土しているが、いずれも小片である。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第120・148図）

輸入磁器・土師質土器などが出土している。土師質土器の杯・皿類の底部切り離し技法は回転糸切りである。出土遺物の中には、鋳造関係のものも散見する。148-1は坩堝の破片である。148-2・3は輪の羽口の破片である。

SK2412

M・N-29、円形の土坑である。土師質土器等が出土しているが、いずれも小片である。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第148図）

土師質土器などが出土している。土師質土器の杯・皿類の底部切り離し技法は回転糸切り・回転ヘラ切りがみられる。

SK2419

C-15、円形の土坑である。土師器等が出土しているが、いずれも小片である。出土遺物等から、時期的には9世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第148図）

土師器・土師質土器などが混在して出土している。土師質土器の杯・皿類の底部切り離し技法は回転

糸切り・回転ヘラ切りがみられる。10は土師器の甕である。

SK2421

D～F-16・17、四角形状の土坑である。土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片である。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第148図）

土師質土器・瓦器などが出土しているが、いずれも小片のため、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離し技法は回転糸切りである。瓦器椀は和泉型で概ね尾上分類のⅢ-2期に属する。

SK2422

D～F-16・17、不整形な土坑である。平面プランは不明瞭である。土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片である。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第148図）

土師質土器・瓦器などが出土しているが、いずれも小片のため、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯類は体部が直立気味に外方に延びる。底部切り離し技法は回転糸切りである。

SK2423

E-16、円形状の土坑である。土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片である。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第149図）

土師質土器・瓦器などが出土しているが、いずれも小片のため、実測可能なものは少ない。出土遺物の中には、鋳造関係のものも散見する。1は斧状の不明鉄製品である。2は鉄滓である。

SK2433

E・F-16・17、不整形な三角形状の土坑である。土師質土器・瓦器等が出土しているが、いずれも小片である。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第149図）

土師質土器・瓦器などが出土しているが、いずれも小片のため、実測可能なものは少ない。瓦器椀は和泉型で概ね尾上分類のⅢ-2期に属する。土師質土器の杯・皿類の底部切り離し技法は回転糸切りである。

SK2449

H～J-21、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等

から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第149図）

土師質土器・須恵質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。6は土師器の羽釜である。口縁部直下に平行に延びる鶴が付く。

SK2455

N-32、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第149図）

土師質土器・須恵質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK2461

Q・R-32・33、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第149図）

土師質土器・須恵質土器等が多く出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類は体部が直立気味に外上方に延びる。底部切り離し技法は回転糸切りである。

SK2467

Q・R-34～36、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第150図）

土師質土器・須恵質土器等が多く出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類は体部が直立気味に外上方に延びる。底部切り離し技法は回転糸切りである。

SK2471

R-34、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第150図）

土師質土器・須恵質土器等が多く出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類は体部が直立気味に外上方に延びる。底部切り離し技法は回転糸切りである。

SK2471

S-34、不整形な土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第150図）

土師質土器・須恵質土器等が多く出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類は体部が直立気味に外上方に延びる。底部切り離し技法は回転糸切りである。

SK2474

T・U-35・36、不定形な土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第150図）

土師質土器・須恵質土器等が多く出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類は体部が直立気味に外上方に延びる。底部切り離し技法は回転糸切りである。

SK2475

S-U-35・36、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第150図）

土師質土器・須恵質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類は体部が直立気味に外上方に延びる。底部切り離し技法は回転糸切りである。

SK2476

S-U-35・36、四角形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第150図）

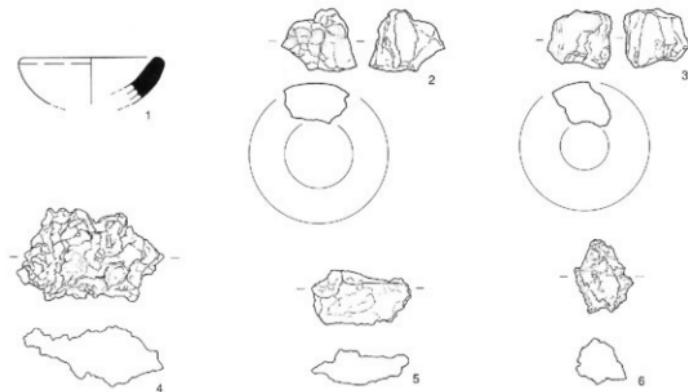
土師質土器・須恵質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。23は東播系須恵質土器の鉢である。

SK2477

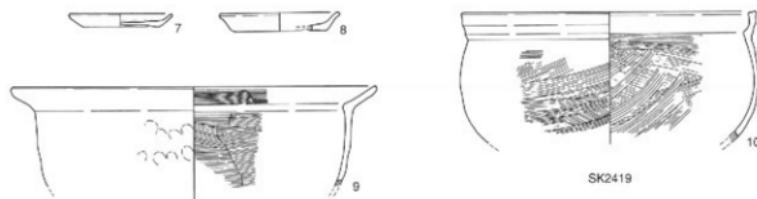
S-T-36、円形状の土坑である。遺構内からは、土師器・土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第150図）

土師質土器・須恵質土器等が出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離し技法は回転糸切りである。

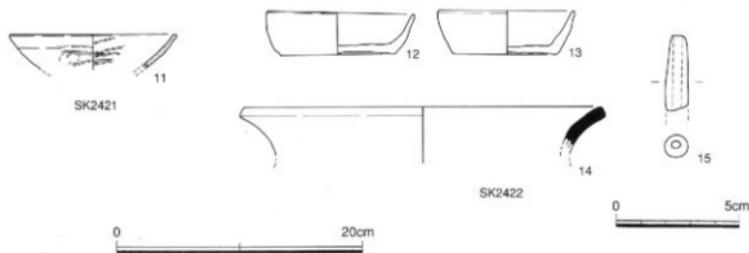


SK2411

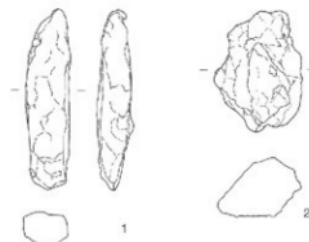


SK2412

SK2419



第148図 SK出土遺物 (2411・2412・2419・2421・2422)



SK2423



SK2433

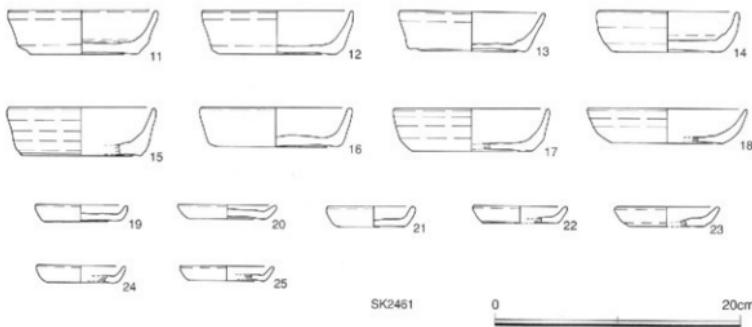
SK2449

0 5cm



SK2455

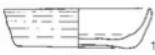
SK2460



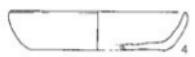
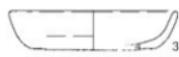
SK2461

0 20cm

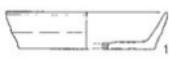
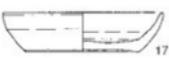
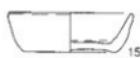
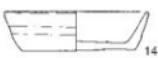
第149図 SK 出土遺物 (2423・2433・2449・2455・2460・2461)



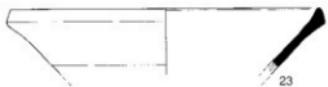
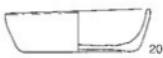
SK2467



SK2471



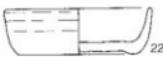
SK2473



SK2476



SK2474



SK2477



第150図 SK 出土遺物 (2467・2471・2473・2474・2475・2476・2477)

SP（小穴・柱穴）

1800基を超えるSPが出土しているが、平面プランは不明瞭であり、平面配置も雑然とした様相をみせる。明確に構築物としての並びとして捉えることは困難である。また遺物も土師質土器・瓦器等は混じるが、完形のものではなく、器形・時期の判別するものも少ない。

SP2002

C・D-12、不整形な小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第151図）

出土遺物は上師質土器・瓦器などがみられる。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部切り離しは回転糸切りである。瓦器椀は和泉型でII-3～III-1期頃と思われる。

SP2006

C-13、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第151図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部切り離しは回転糸切りである。瓦器椀は和泉型でII-3期頃と思われる。

SP2013

D-13、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第151図）

出土遺物は上師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。6は和泉型の瓦器小皿である。

SP2015

D-13、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第151図）

出土遺物は上師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部切り離しは回転糸切りである。

SP2016

D-13、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器楕等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第151図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。8は土師器の小皿である。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP2017

D-13、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。

出土遺物（第151図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。9は唐津焼の皿である。室町時代以降のものと思われる。

SP2018

D-13、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第151図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。10は瓦質土器の釜である。肩部に把手と鋤が付く。

SP2049

C-14、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から時期的には鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第151図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。11は土師質の楕である。

SP2062

D-15、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器楕等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第151図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土

師質土器の杯・皿の底部切り離しは回転糸切りである。瓦器椀は和泉型でⅡ-3期頃と思われる。

SP2072

D-14、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第151図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。14は不明鉄製品である。短円状を呈する。

SP2077

D・E-11・12、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第151図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。15はやや腰の張った深い椀形を呈する。和泉型瓦器椀でⅢ-1期頃と思われる。

SP2083

D・E-12・13、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第151図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。16は和泉型の瓦器小皿である。

SP2086

D・E-12・13、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第151図）

出土遺物は土師質土器・瓦器・土錘などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。20は土師器の小皿である。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP2087

D・E-12・13、四角形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土

師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から時期的には鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第151図）

出土遺物は土師質土器・瓦器・土錘などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。20は土師器の小皿、21は黒色土器B類の小皿である。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP2088

D・E-12・13、四角形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から時期的には鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第152図）

出土遺物は土師質土器・瓦器・土錘などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SP2093

D・E-12・13、四角形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から時期的には鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第152図）

出土遺物は土師質土器・瓦器・土錘などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。2は須恵質の平瓦である。

SP2099

E-13・14、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から時期的には鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第152図）

出土遺物は土師質土器・瓦器・土錘などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。3は土師器の杯である。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP2109

D・E-13・14、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から時期的には鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第152図）

出土遺物は土師器椀・小皿や瓦などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP2124

E・F-11・12、不整形な小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から時期的には鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第152図）

出土遺物は土師質土器・瓦器・土錐などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SP2130

G-16・17、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から時期的には鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第152図）

出土遺物は土師質土器・瓦器・土錐などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。10は黒色土器B類の碗である。

SP2133

E・F-12・13、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器碗等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第152図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。11は土師質土器の小皿である。底部切り離しは回転糸切りである。

SP2151

F・G-11、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第152図）

出土遺物は土師器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP2157

F・G-12、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から時期的には鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第152図）

出土遺物は土師質土器・瓦器・土錘などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。15は土師質土器の椀である。

SP2170

F・G-11、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第152図）

出土遺物は土師器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP2171

C-15、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第152図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。17は和泉型瓦器椀でII-3期頃と思われる。

SP2181

D-15、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。1は土師質土器の杯である。体部はやや内弯する。底部切り離しは回転糸切りである。

SP2190

D-15、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP2191

E-14・15、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質

土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SP2193

E-14・15、長方形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。4は土師器の杯である。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP2196

E-14・15、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。5は和泉型の瓦器小皿である。

SP2196

F-14・15、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。6は不明鉄製品である。範状を呈する。

SP2236

C・D-16、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。7は土師質土器の杯である。底部切り離しは回転糸切りである。

SP2239

D・E-16、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小蝶や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。8は土師質の管状土錐である。

SP2252

E-16、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小蝶や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。9は土師質土器の杯である。底部切り離しは回転糸切りである。

SP2268

F-16、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小蝶や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。10は白磁の碗である。小片のため詳細は不明であるが、端反の口縁を呈する。

SP2236

F・G-16・17、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小蝶や土師器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。11は土師質の管状土錐である。

SP2280

F・G-16・17、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小蝶や土師器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。12は土

師質土器の釜脚部である。

SP2291

C・D-17、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質上器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。13は土師質の管状土鉢である。

SP2299

D・E-16・17、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。14は土師器の鉢である。

SP2306

D-17、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。15は土師質土器の杯である。底部切り離しは回転糸切りである。

SP2320

E-17、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。16は土師質土器の皿である。底部切り離しは回転糸切りである。

SP2323

E・F-16・17、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第153図）

出土遺物は土師器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。17は土師器の小皿である。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP2334

E-17、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第154図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。1は土師質の管状土錐である。

SP2336

E-17、不整形な小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第154図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。2は土師質土器の小皿である。底部切り離しは回転糸切りである。3は鉄釘である。

SP2338

E-17、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第154図）

出土遺物は土師器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。4は土師器の鍋である。体部内外面ハケ調整が施される。

SP2348

E・F-16・17、不整形な小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第154図）

出土遺物は土師器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP2371

E-17、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器

等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器碗等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第154図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。9は土師質土器の小皿である。底部切り離しは回転糸切りである。

SP2376

E-17、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器碗等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第154図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。10は土師質土器の小皿である。底部切り離しは回転糸切りである。

SP2384

E-17・18、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第154図）

出土遺物は土師器・土師質土器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。杯・皿類の底部切り離しは、土師器は回転ヘラ切り、土師質土器は回転糸切りである。

SP2386

E-17、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器碗等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第154図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部切り離しは回転糸切りである。16は和泉型の瓦器碗でⅢ-1期頃と思われる。

SP2394

E・F-17・18、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第154図）

出土遺物は土師質土器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。杯・皿類の底部切り離しは回転糸切りである。

SP2442

H・I-16、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第154図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部切り離しは回転糸切りである。19は搬入品と考えられる土師質土器の皿である。底部に切り離し痕をもたず、丸みをもつ底部を呈する。底部はナデで仕上げるが、ユビオサエが残るものもみられる。これらは畿内およびその周辺で生産されたものと思われる。

SP2445

H・I-16、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第154図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。21は土師質の管状土錘である。

SP2447

H・I-16、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第154図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部切り離しは回転糸切りである。

SP2466

E-18・19、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第154図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。22は和泉型の瓦器小皿である。

SP2467

E-18・19、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。1は和泉型の瓦器椀でⅢ-1期頃と思われる。

SP2477

F-18・19、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。4は土師器の杯である。

SP2488

G-18・19、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。5は不明鉄製品で範状を呈し、端部はやや彎曲する。

SP2508

G-19、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。6は和泉型の瓦器椀でⅢ-1期頃と思われる。

SP2517

H-22・23、不整形な小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。7は瓦質土器の釜脚部である。

SP2519

H-22・23、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器椀等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器楕等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。8は土師質の管状土錘である。

SP2526

K-21、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には瓦器楕等がみられ、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。9は土師質の管状土錘である。

SP2528

K・L-21・22、梢円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。10は土師器の小皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP2533

G-23・24、梢円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。11は土師器の杯である。

SP2536

H-23・24、梢円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。12は土師器の皿、13は和泉型の瓦器小皿である。

SP2568

G・H-24・25、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。14は黒色土器A類の碗である。

SP2571

G・H-24・25、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。15は和泉系の瓦器碗でII・3期頃と思われる。

SP2577

H・I-24・25、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP2579

H・I-24・25、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。17は土師器の小皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP2581

H・I-24・25、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少

ない。19は土師器の杯である。

SP2584

H・I-24・25、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第155図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。20は土師器の杯である。

SP2589

H・I-24・25、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。1は上下端部を欠損し詳細は不明であるが、鉄製刀子と思われる。

SP2600

H・I-25・26、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。2は黒色土器A類の椀である。

SP2622

J・K-23・24、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。3は黒色土器A類の椀である。

SP2677

J・K-25・26、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。4は土師質土器の小皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SP2684

J・K-25・26、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。5は瀬戸の碗底部である。

SP2730

J・K-28、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。6は和泉系の瓦器碗でⅢ-1期頃と思われる。

SP2742

K-27・28、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。7は和泉系の瓦器小皿である。

SP2750

K・L-28・29、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。8は和泉系の瓦器碗でⅢ-1期頃と思われる。

SP2760

K-27・28、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質

土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。9は白磁の碗である。口縁部の玉縁の肥厚は小さい。

SP2821

M-31・32、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。10は土師質土器の小皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SP2836

N-31・32、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。11は土師質土器の小皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SP2858

O-36、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。12は同安窯の皿である。内底面に楕状工具による施文がみられる。

SP2893

T-39、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・小皿が出土している。杯体部は直立気味に外上方に延びる。底部の切り離しは、杯・小皿いずれも回転糸切りである。

SP2990

R-46、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。29は宋錢で元豈通寶である。

SP2992

S・T-46・47、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。30は土師質土器の鍋である。

SP2994

T-39、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第156図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。31は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21021

R・S-47・48、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第157図）

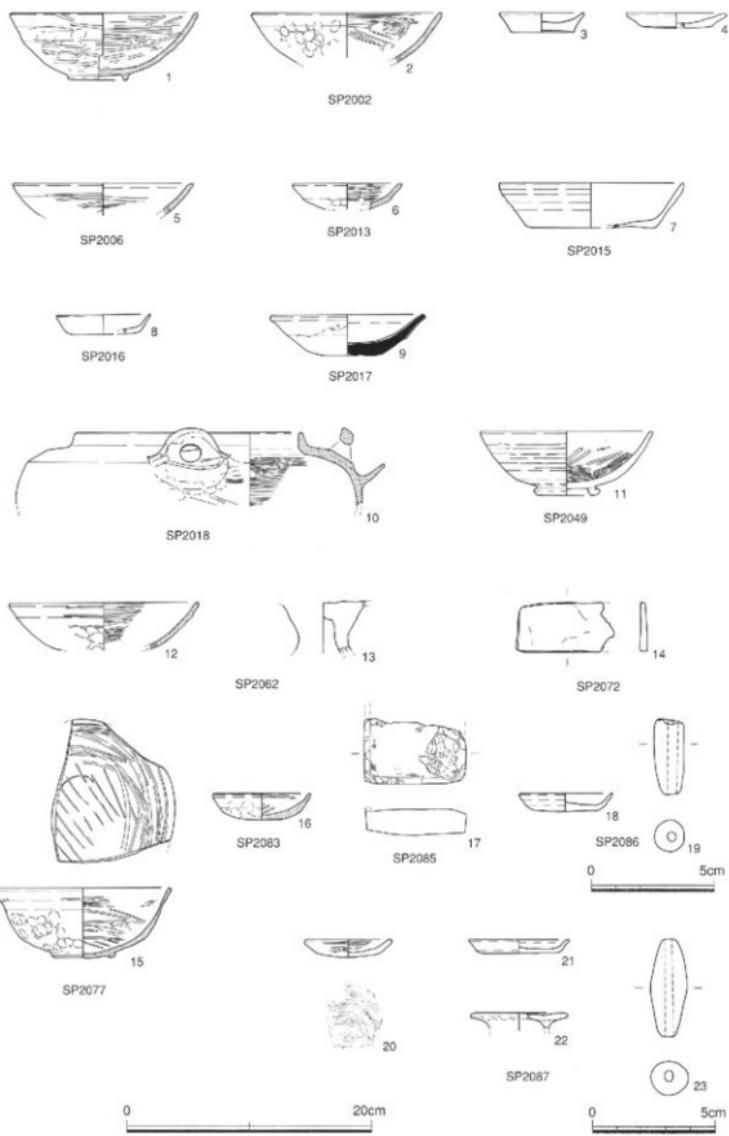
出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。1は楕形の鉄滓である。

SP21028

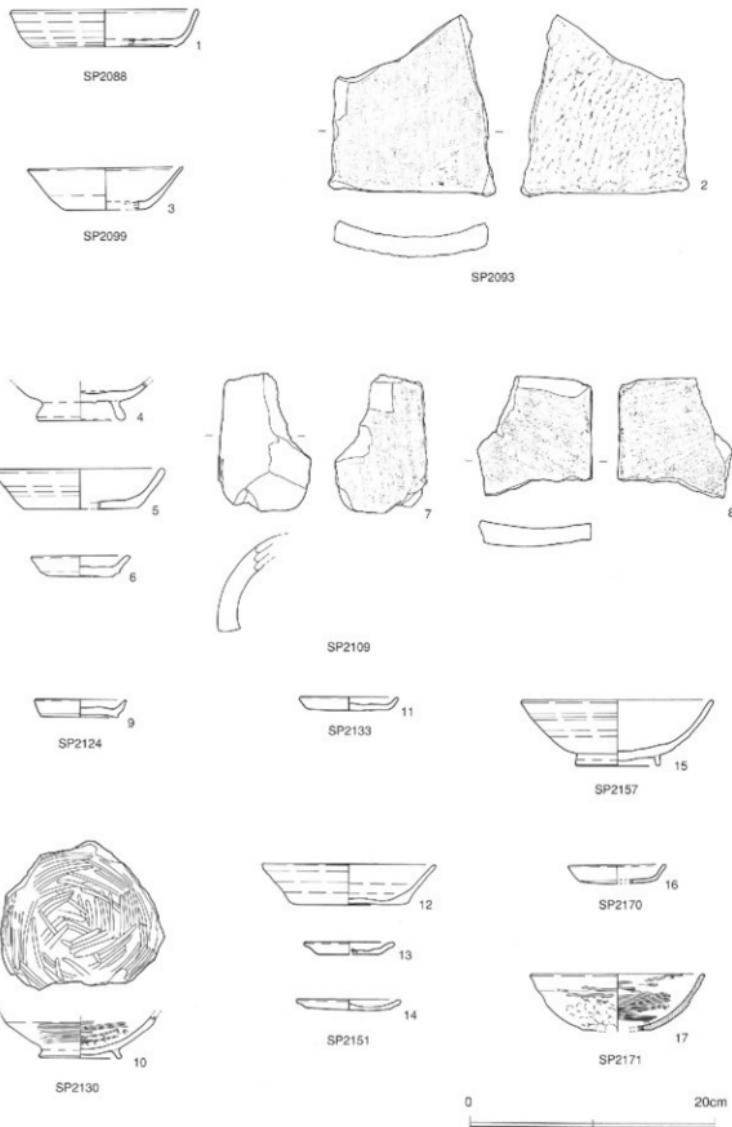
S・T-47・48、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第157図）

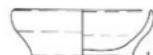
出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。2



第151図 SP 出土遺物 (2002・2006・2013・2015・2016・2017・2018・2049・
2062・2072・2077・2083・2085・2086・2087)



第152図 SP 出土遺物 (2088・2093・2099・2109・2124・2130・2133・2151・2157・2170・2171)



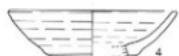
SP2181



SP2190



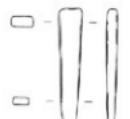
SP2191



SP2193



SP2196



SP2210



SP2236



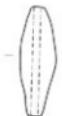
0 SP2239 5cm



SP2252



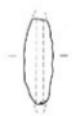
SP2268



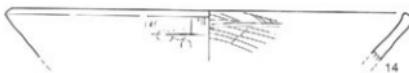
0 SP2272 5cm



SP2280



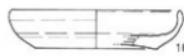
0 SP2291 5cm



SP2299



SP2306



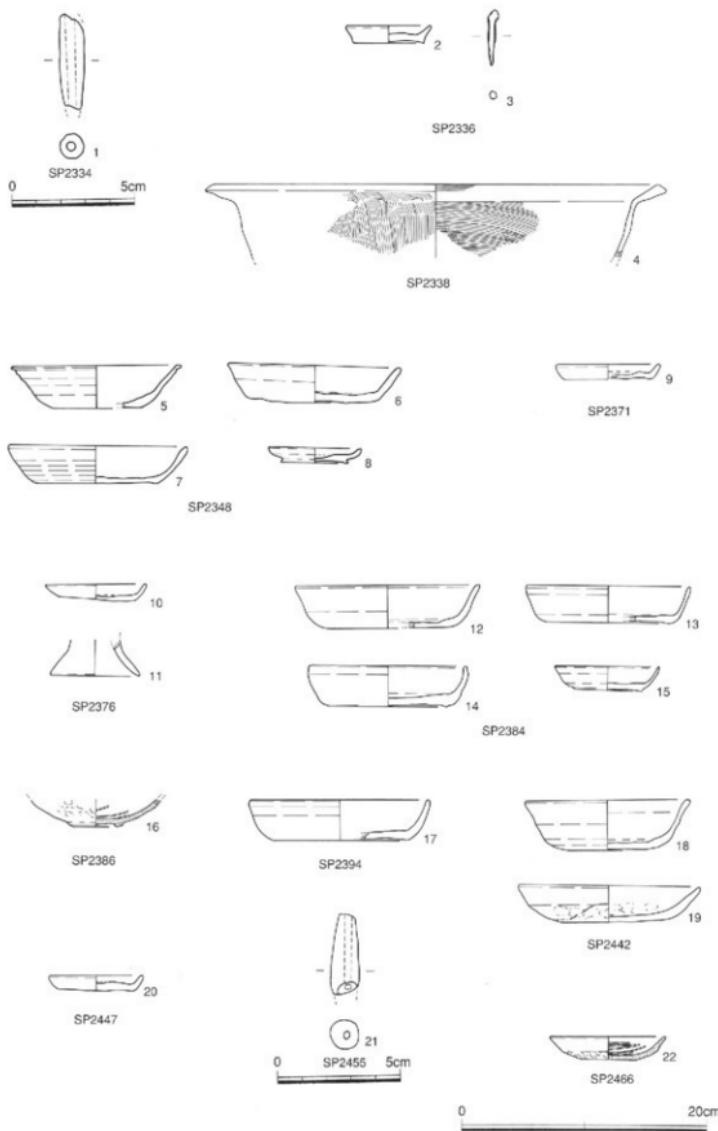
SP2320



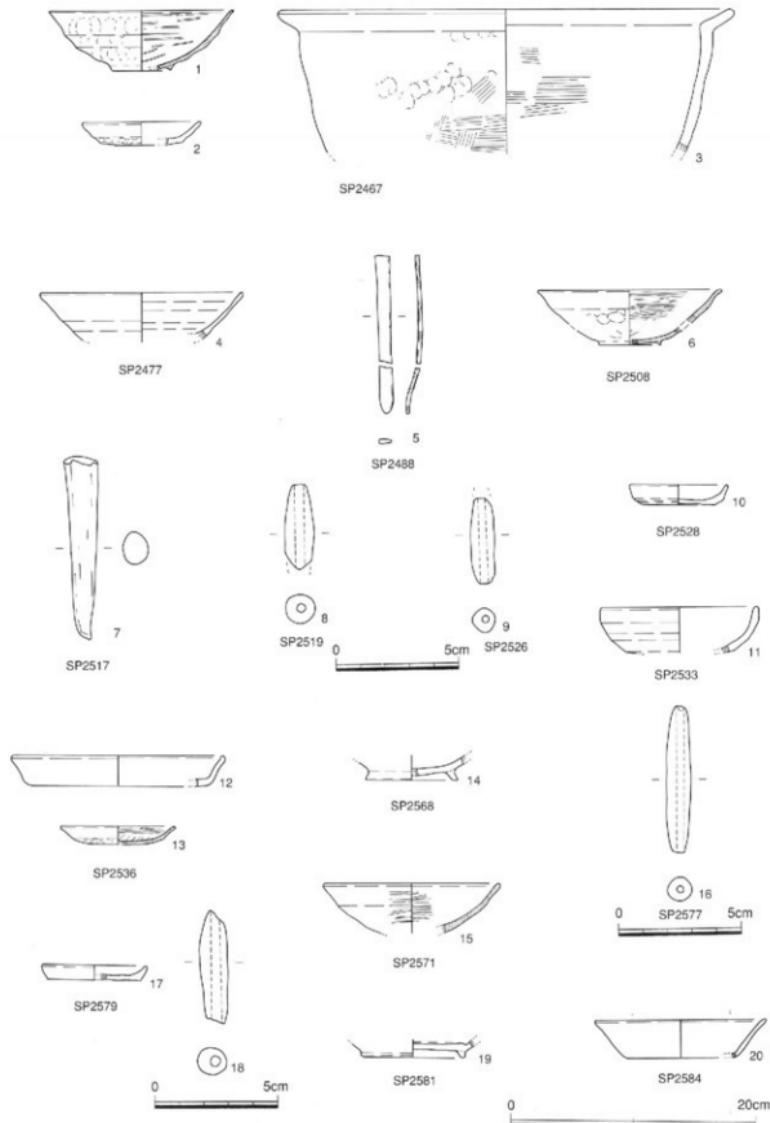
SP2323

0 20cm

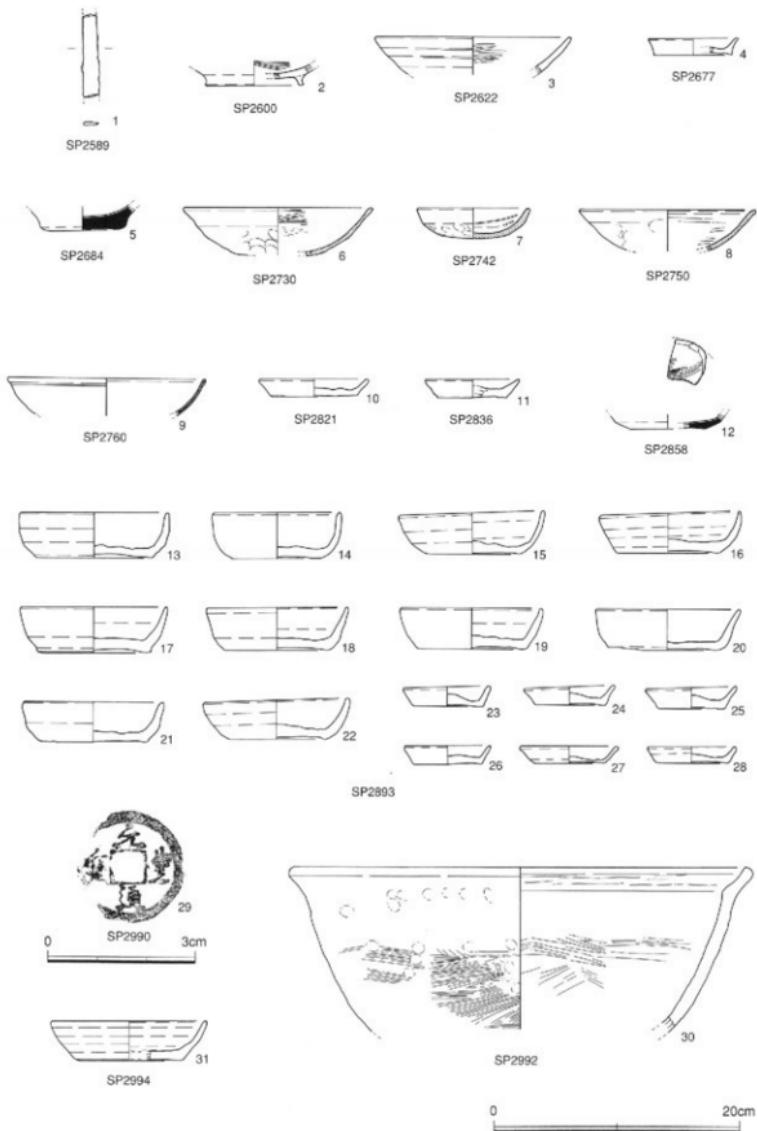
第153図 SP 出土遺物 (2181・2190・2191・2193・2196・2210・2236・2239・2252・
2268・2272・2280・2280・2291・2299・2306・2320・2323)



第154図 SP 出土遺物 (2334・2336・2338・2348・2371・2376・2384・
2386・2394・2442・2447・2455・2466)



第155図 SP 出土遺物 (2467・2477・2488・2508・2517・2519・2526・2533・
SP2536・2568・2571・2577・2579・2581・2584)



第156図 SP 出土遺物 (2589・2600・2622・2677・2684・2730・2742・2750・
2760・2821・2836・2858・2893・2990・2992・2994)

は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21071

E・F-11・12、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第157図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。3は土師器の碗である。

SP21072

E・F-11・12、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第157図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。4は土師器の皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21084

E・F-11・12、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第157図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。6は灰釉陶器の皿である。

SP21112

K・L-21・22、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第157図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。8は鉄製刀子であると思われる。

SP21142

K・L-21・22、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第157図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。9は鉄滓である。

SP21183

G-22・23、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第157図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。10は土師器の釜である。口縁部は短く直立し、直下に鋤が付く。

SP21194

I・J-21、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第157図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。11は土師器の小皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21195

I・J-21、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第157図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。12は土師器の小皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21199

E-14・15、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第157図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。14は瓦器碗で和泉型III-2期頃と思われる。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21205

E・F-16・17、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第157図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。15は土師器の小皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21210

L-27・28、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第157図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。16は瓦器碗で和泉型Ⅱ-3期頃と思われる。17は東播系の須恵質土器の鉢である。口縁部の肥厚は小さく四角く收める。

SP21215

L・M-28・29、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21216

K・L-29・30、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。4は土師器の甕である。成形は粗雑で器壁は厚い。

SP21230

L-30・31、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。5は備前焼の擂鉢である。

SP21250

L-32・33、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21263

L-32・33、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21271

M-31・32、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。11は須恵器の壺体部と思われる。外面に平行のタタキ目がみられる。

SP21288

N-32、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21296

M・N-33、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質

土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21297

N・O-33、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21300

N・O-33、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。16は同安窯青磁の皿である。内面の体部と底部の境に沈線が巡る。

SP21312

N・O-34、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。17は龍泉窯青磁の碗底部である。

SP21319

P・Q-32・33、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21324

P-31・32、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。19は鉄滓である。

SP21327

P-31・32、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21330

P-30・31、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21331

P-30・31、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第158図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21332

P-30・31、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第159図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土

土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21335

K・L-28・29、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第159図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。2は白磁碗である。口縁の玉縁の肥厚は小さい。

SP21339

K・L-28・29、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第159図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。瓦器椀は和泉型でⅢ-1期頃のものと思われる。

SP21365

L-32・33、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第159図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少なく、管状土錐1点のみである。

SP21375

N-32、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第159図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21380

N・O-34、長方形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質

土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第159図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21411

E・F-12・13、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第159図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。10は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21418

D・E-11・12、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第159図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。11は土師器の小皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21421

D・E-12・13、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第159図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21433

D-14、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第159図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。上師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。瓦器碗は深い椀形を呈し、外面は底部までヘラミガキがみられる。和泉型瓦器碗のII-2期頃と思われる。

SP21443

C-14、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第159図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。21は楕形の鉄滓である。

SP21445

C-14、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第159図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。22は鉄釘である。

SP21449

C-14、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第159図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21451

C・D-14、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第159図）

出土遺物は土師器・須恵器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21452

D-14、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第159図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少

ない。26は円錐状の不明鉄製品である。

SP21455

C・D-14、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第160図）

出土遺物は土師器・須恵器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21462

C-15、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第160図）

出土遺物は土師器・須恵器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21465

D-15、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第160図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21467

D-14、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第160図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21483

E-13・14、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第160図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。5は泥岩の砥石である。

SP21487

E-12・13、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第160図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。6は白磁の碗である。

SP21492

E-14・15、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第160図）

出土遺物は土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。8は鉄釘である。

SP21496

E-14・15、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第160図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切り、土師器は回転ヘラ切りである。

SP21502

C-15、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第160図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21508

E-14・15、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土

器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第160図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。17は和泉型の瓦器輪でII-3期頃と思われる。

SP21509

E-14・15、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第160図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21520

F-14・15、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第160図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。19は不明土製品である。窯あるいは鋳型の壁体であると思われる。

SP21531

E-14・15、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第160図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。20は和泉型の瓦器輪でII-3期頃と思われる。

SP21551

D・E-16、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第161図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21562

D・E-16、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第161図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。2は龍泉窯の青磁の碗である。

SP21563

D・E-16、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第161図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。3は土師器の皿である。口縁端部はつまみ上げる。

SP21578

L・M-28・29、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第161図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21581

L・M-28・29、梢円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第161図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP21582

L・M-29・30、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第161図）

出土遺物は上師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21606

L-31・32、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や上師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第161図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21633

N・O-34・35、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や上師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第161図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21634

N・O-34・35、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第161図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21640

F・G-16・17、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第161図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21640

E・F-16・17、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師

質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第161図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21648

E・F-16・17、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第161図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21649

E・F-16・17、梢円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第161図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。管状土錐が多く出土している。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21651

E・F-16・17、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21653

F・G-16・17、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21664

F・G-16・17、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。17は土師質の管状土錐である。

SP21666

F・G-16・17、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。管状土錐が出土している。

SP21688

E・F-18・19、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21717

F・G-19・20、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。管状土錐が出土している。

SP21736

E・F-16・17、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少

ない。管状土錐が出土している。

SP21737

E・F-16・17、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や上師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は上師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21741

F-14・15、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や上師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21755

H・I-16、橢円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21762

H・I-21、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や上師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。IIは縁ぬき陶器皿の底部である。

SP21764

H・I-22、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小礫や上師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21769

I・J-21・22、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は土師器・黒色土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21776

J-22・23、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21782

I・J-24、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。17は土師器の壳である。球胴状の体部をもち、体部外面はハケ調整を施す。

SP21786

I・J-21、長方形形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小碟や土師器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第162図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP21787

H・I-20、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第163図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。1は砂岩の砥石である。

SP21788

P-30・31、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第163図）

出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP21822

T・U-36、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第163図）

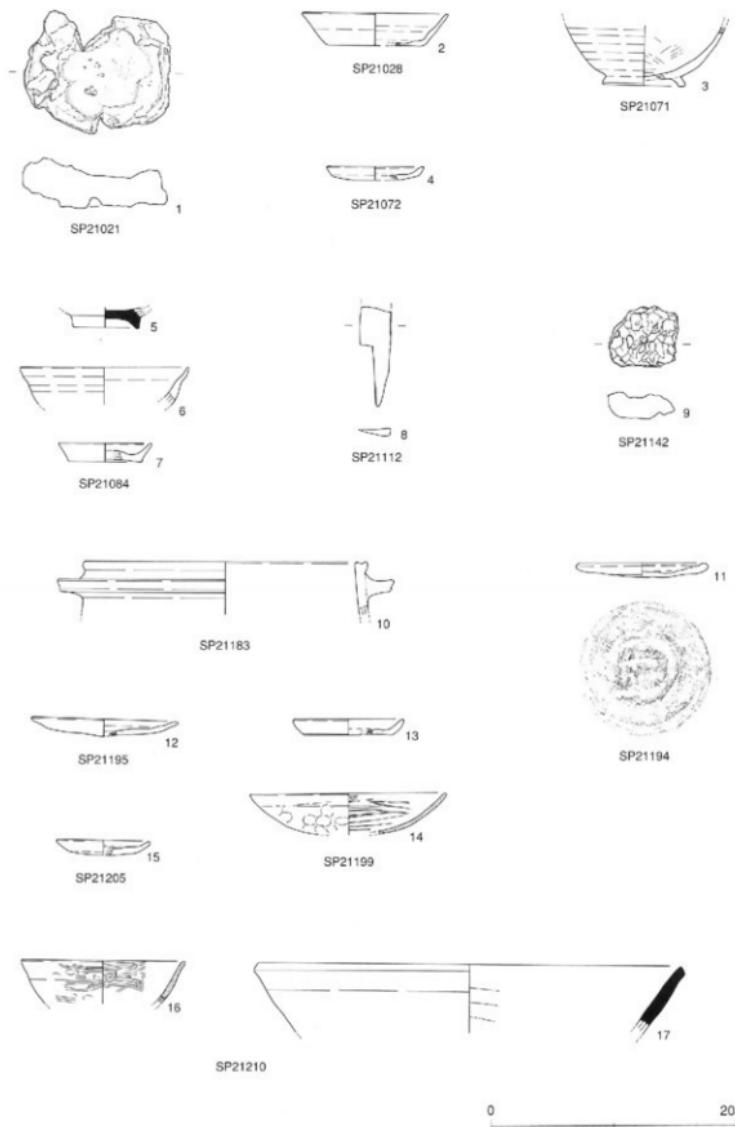
出土遺物は土師器・土師質土器・瓦器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿類の底部の切り離しは回転糸切りである。杯の体部直立気味に上方に延びる。

SP21861

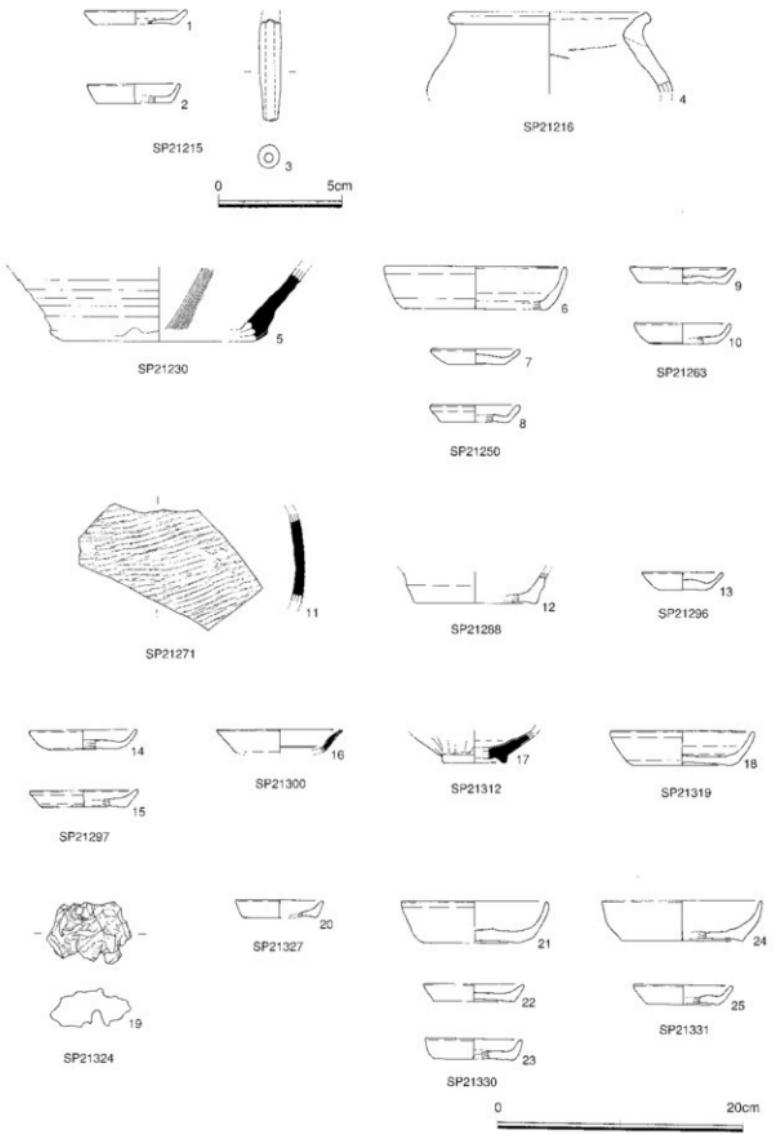
O・P-29・30、楕円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第163図）

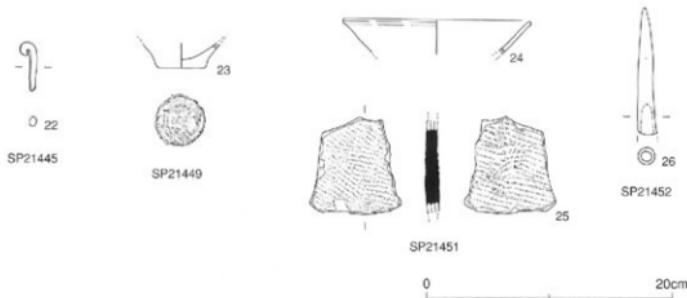
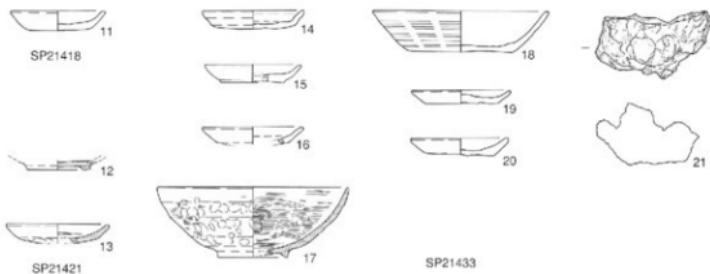
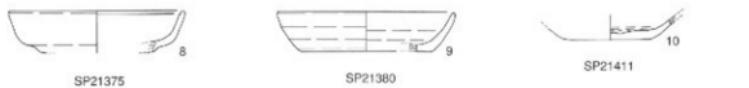
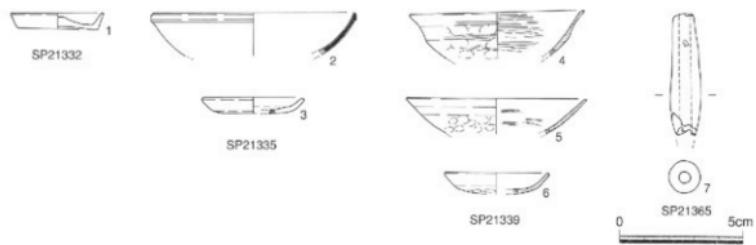
出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿類の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。



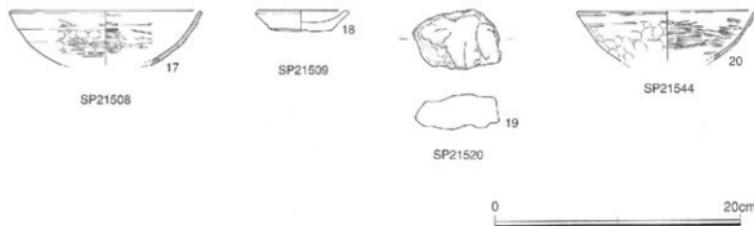
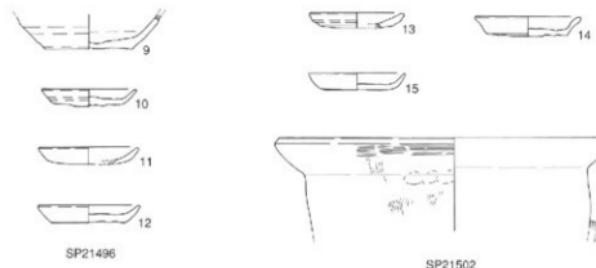
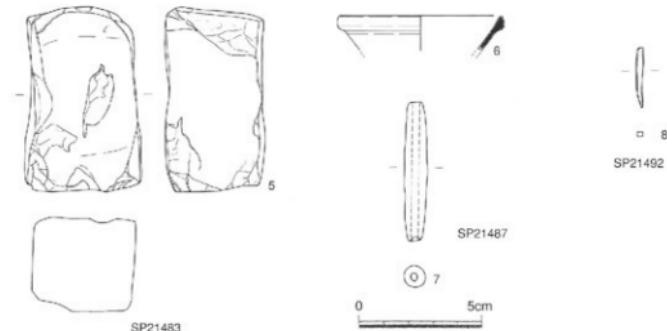
第157図 SP 出土遺物 (21021・21028・21071・21072・21084・21112・21142・
21183・21194・21195・21199・21205・21210)



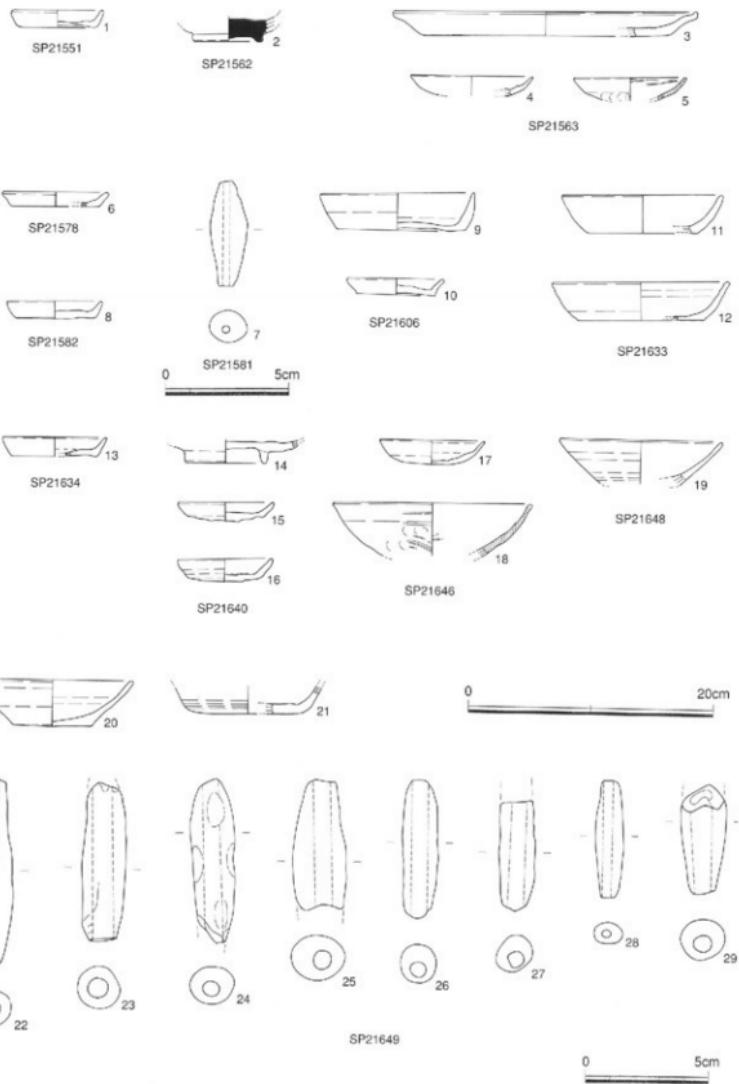
第158図 SP 出土遺物 (21215・21216・21230・21250・21263・21271・21288・21296・
21297・21300・21312・21319・21324・21327・21330・21331)



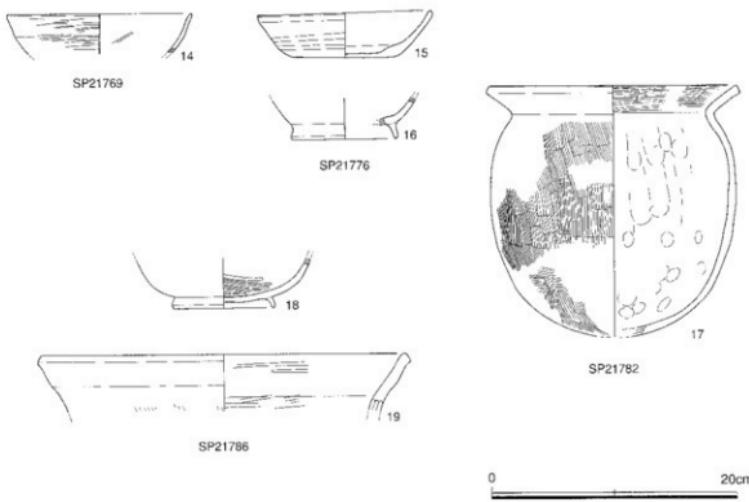
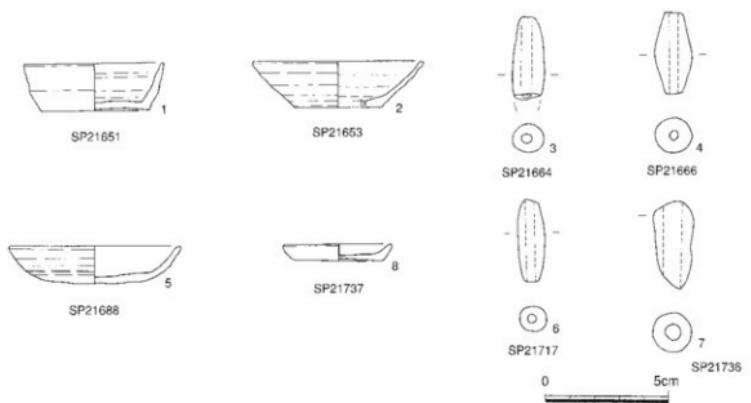
第159図 SP 出土遺物 (21332・21335・21339・21365・21375・21380・21411・
21418・21421・21433・21445・21449・21451・21452)



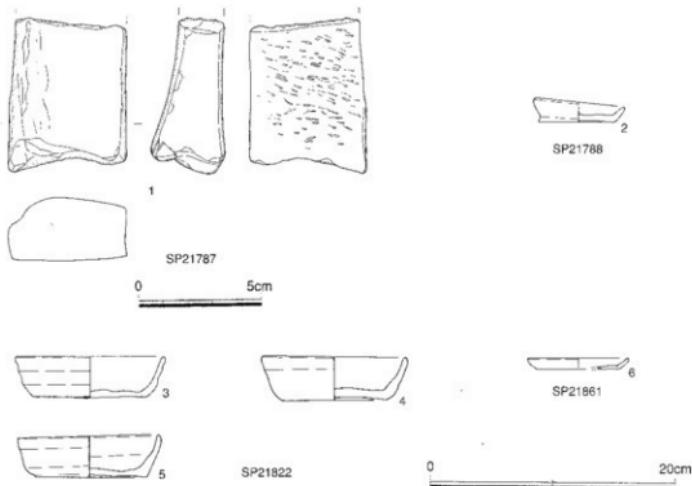
第160図 SP 出土遺物 (21455・21462・21465・21467・21483・21487・21492・
21496・21502・21508・21509・21520・21544)



第161図 SP 出土遺物 (21551・21562・21563・21578・21581・21582・21606・
21633・21634・21640・21646・21648・21649)



第162図 SP 出土遺物 (21651・21653・21664・21666・21688・21736・21737・
21741・21755・21762・21764・21769・21776・21782・21786)



第163図 SP 出土遺物 (21787・21788・21822・21861)

SX (性格不明遺構: 石組 (石敷) 遺構およびスラグ廃棄遺構・土坑)

性格不明および用途不明遺構について SX として呼称した。SX の中には石組 (石敷) した遺構やスラグ等の散見するものがみられるが、平面プラン等はいずれも不明瞭で定型をなさないものが多い。

SX とした中には、盛土整地した後に片岩の板石を組み、上面に円礎を敷き詰めて構築されたものもあり、何らかの祭祀のための遺構と考えられる。また円礎 (玉砂利) の直下、盛土整地層上面からは、土師質土器の小皿類が並べたように出土しているが、その性格は不明である。同様にして構築されている何らかの建築物に関連すると思われる石敷 (石組) 遺構が数ヶ所で確認されている。

L～P-27～31グリッド付近を中心として、スラグ等を含む廃棄土坑と思われる SK・SX を検出した。明瞭な平面プランを呈するものは少なく、深度も多少掘り廻んだ程度の浅いものが多い。床面に焼土の括がりはみられず、スラグは二次的な堆積を示す。調査範囲において鍛冶を示す遺構は見つかっていないが、スラグ等、鍛冶に関連する遺物が出土していることから、周辺に鍛冶関連遺構が存在しているものと思われる。

出土遺物は、礫混じり層に混入するような状態で出土している。スラグの他、土師質土器の杯・皿類が出土している。多くは破損しており、二次的に廃棄されたものと思われる。土器表面にスラグの付着しているものもみられる。

SX2001

D-14、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廐棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第164図）

土師器・黒色土器・土師質土器・瓦器などが混在して出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器碗はそのほとんどが和泉型の搬入品である。時期的には概ね尾上分類の和泉型瓦器碗Ⅲ・Ⅱ期に収まる。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切り、土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SX2002

D・E-14・15、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廐棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第164図）

土師器・黒色土器・土師質土器・瓦器などが混在して出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切り、土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SX2005

D・E-16、細長い溝状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廐棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第164図）

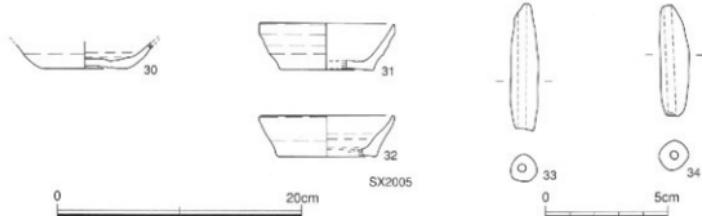
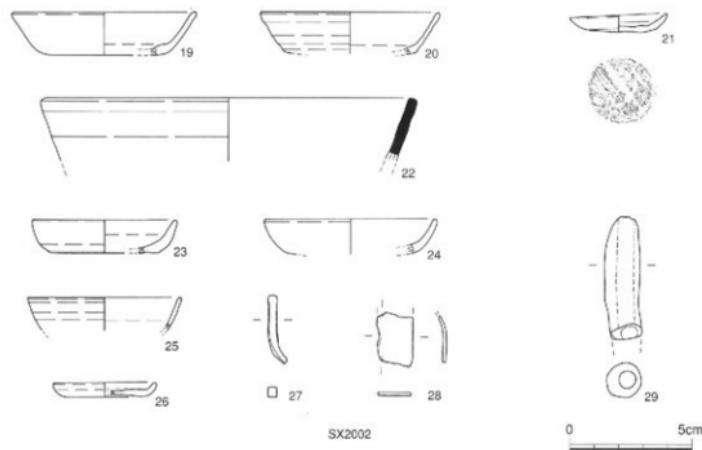
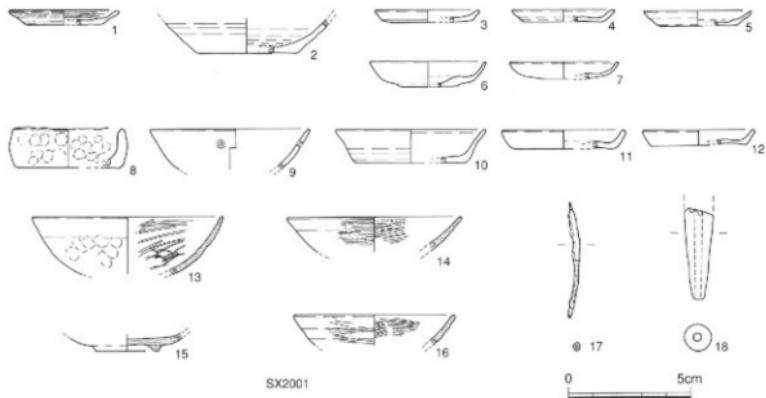
土師器・黒色土器・土師質土器・瓦器などが混在して出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切り、土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SX2006

D・F-14~17、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廐棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第165図）

土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器などが混在して出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切り、土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。2は須恵質土器の蓋で、体部外面に格子目タタキがみられる。



第164図 SX 出土遺物 (2001・2002・2005)

SX2007

E～G-14～17、楕円形状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第165図）

土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器などが混在して出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器椀はそのほとんどが和泉型の搬入品である。時期的には概ね尾上分類の和泉型瓦器椀Ⅲ・2期に収まる。

SX2008

E・F-17・18、楕円形状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第165図）

土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器などが混在して出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。瓦器椀はそのほとんどが和泉型の搬入品である。時期的には概ね尾上分類の和泉型瓦器椀Ⅲ・2期に収まる。

SX2009

C～E-16・17、長方形状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第165図）

土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器などが混在して出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切り、土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SX2012

H-18、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第165図）

土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器などが混在して出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切り、土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。瓦器椀はそのほとんどが和泉型の搬入品である。時期的には概ね尾上分類の和泉型瓦器椀Ⅲ・2期に収まるものと思われる。

SX2014

I・J-16・17、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第165図）

土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器などが混在して出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。17は白磁の碗である。玉縁がやや大きく、IV-1類にあたるものと思われる。

SX2015

E・F-20、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第166図）

土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器・輸入磁器などが混在して出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切り、土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。瓦器碗はそのほとんどが和泉型の搬入品である。時期的には概ね尾上分類の和泉型瓦器碗III-2期に収まるものと思われる。

SX2016

E・F-20、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第166図）

土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器などが混在して出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切り、土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。瓦器碗はそのほとんどが和泉型の搬入品である。

SX2017

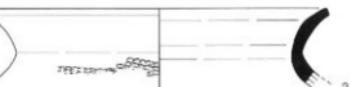
G・H-19・20、梢円形状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第167図）

土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器などが混在して出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切り、土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。瓦器碗はそのほとんどが和泉型の搬入品である。



SX2006



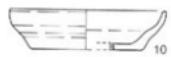
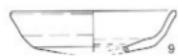
2



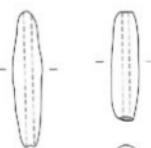
SX2008



SX2007



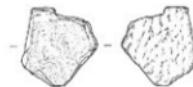
SX2012



SX2009



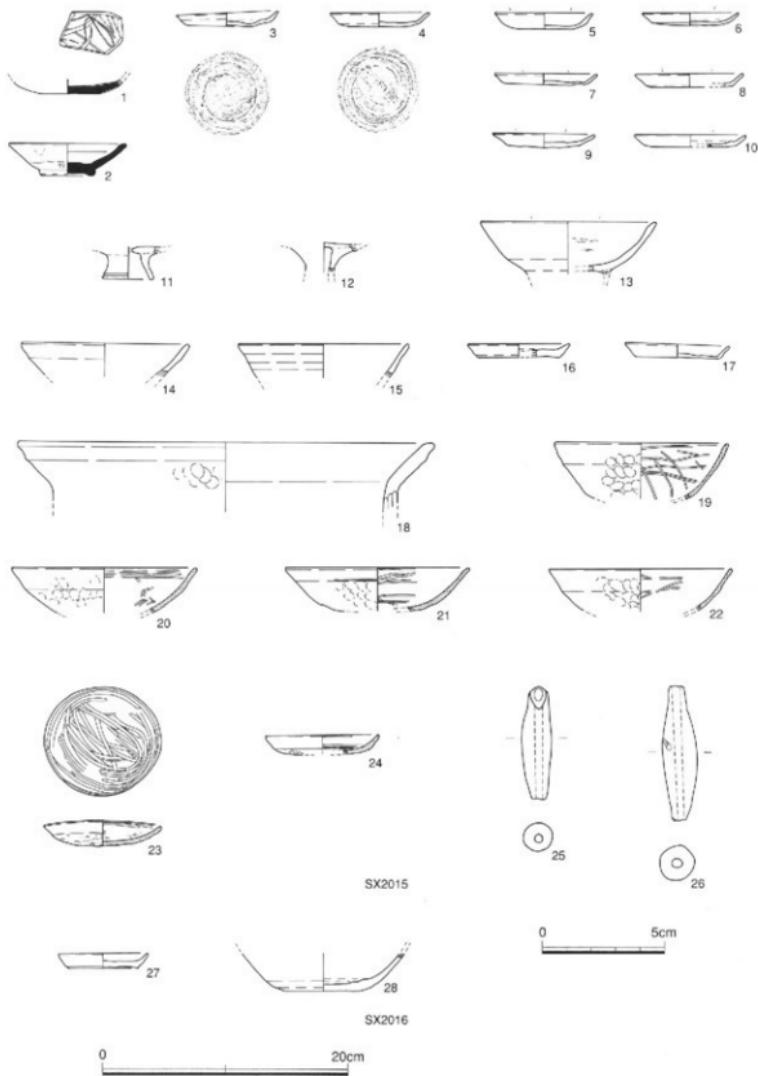
SX2014



19



第165図 SX 出土遺物 (2006・2007・2008・2009・2012・2014)



第166図 SX出土遺物（2015・2016）

SX2018

K・L-22~24、椭円形状の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第167図）

土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器などが混在して出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切り、土師器の杯・皿の底部の切り離しは同軸ヘラ切りである。瓦器碗はそのほとんどが和泉型の搬入品である。

SX2021

O-35、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第167図）

土師質土器・須恵質土器・瓦器などが混在して出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切りである。

SX2025

O・P-38、長方形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第167図）

土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器・輸入磁器などが混在して出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の中にはスラグの熔着しているものもみられた。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切りである。

SX2026

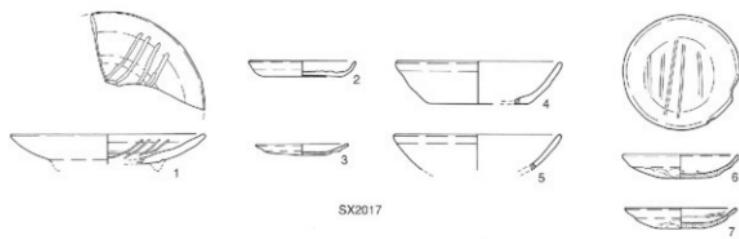
P・Q-34・35、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第168図）

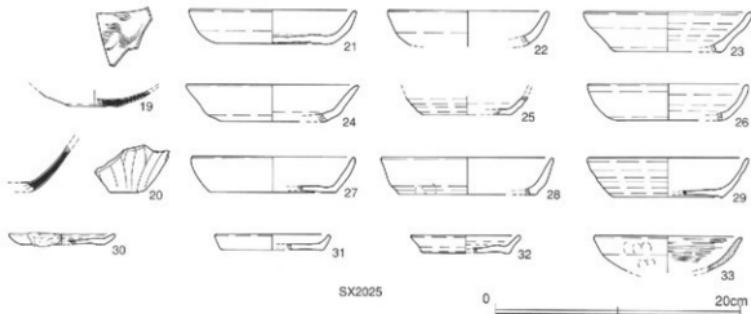
土師質土器・須恵質土器・瓦器などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿は、形態的には体部が直立気味に上方に延びるもののが主体となっている。底部の切り離しは回転糸切りである。瓦器碗はそのほとんどが和泉型の搬入品である。

SX2027

G-I-22~25、不定形の土坑。平面プランは不明瞭である。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物は古代～中世のものが入り混じってみられる。時期的には



0 5cm



0 20cm

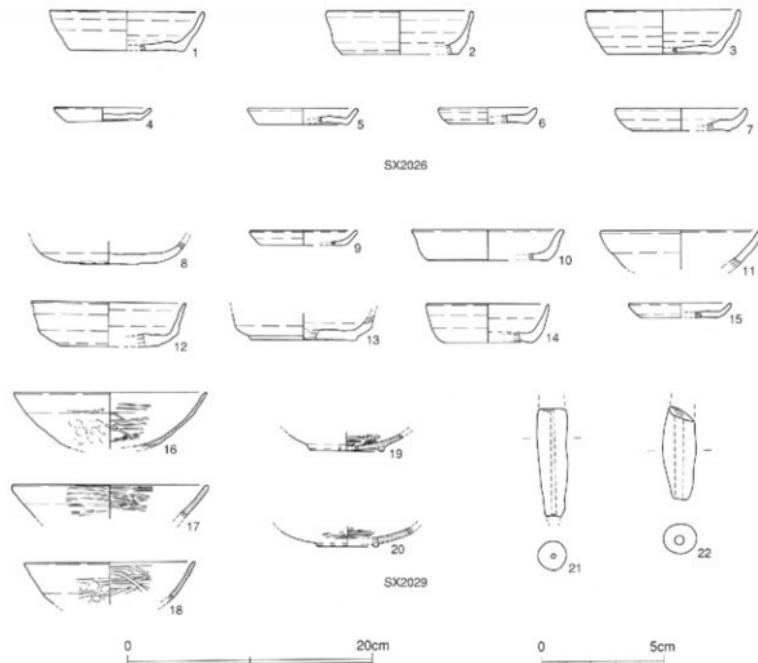
第167図 SX出土遺物（2017・2018・2021・2025）

概ね鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

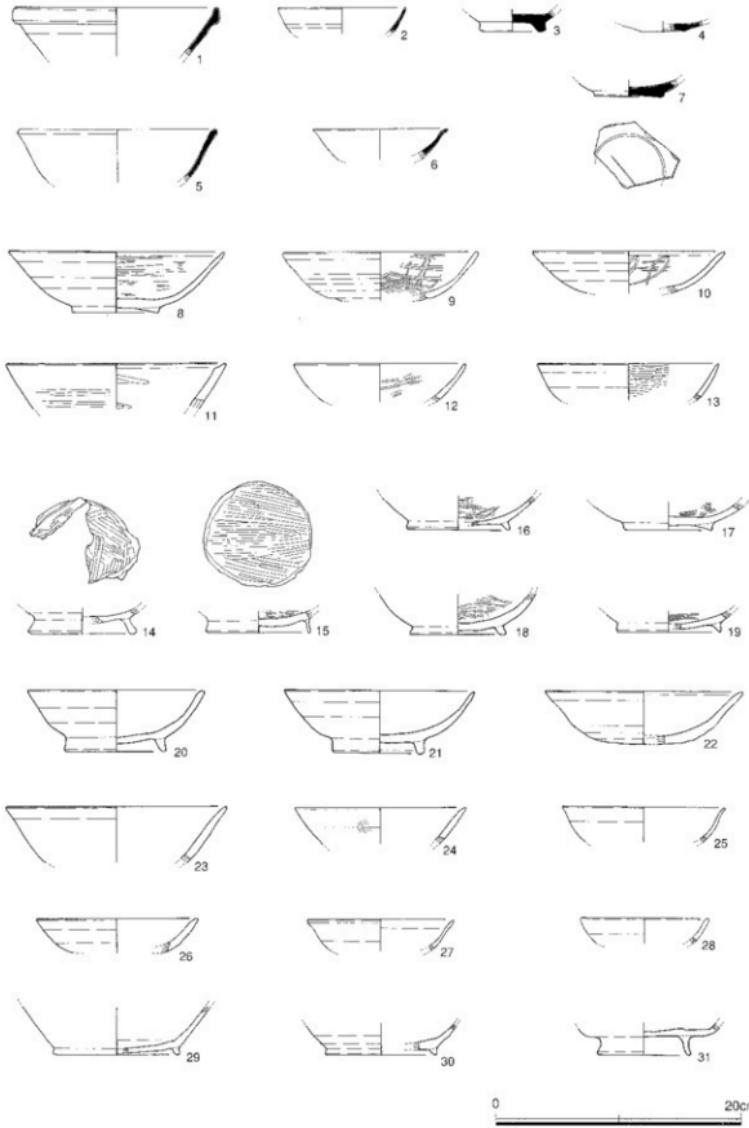
出土遺物（第169～178図）

土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器・輸入磁器などが混在して出土している。出土量は多いが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切りである。土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。瓦器碗はそのほとんどが和泉型の搬入品である。時期的には概ね尾上分類の和泉型瓦器碗II-3～III-2期に収まるものと思われる。

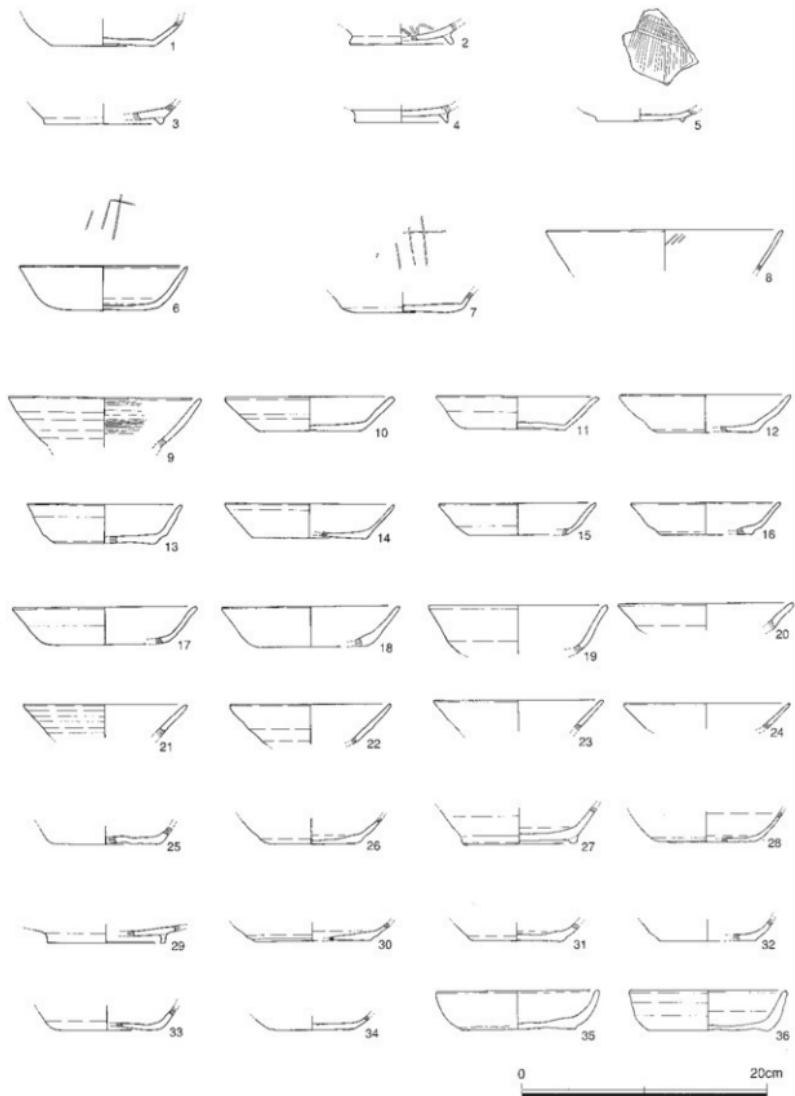
169-7は縁付陶器の皿である。外底面にヘラ記号が線刻される。171-31・171-32は土師器の皿である。みごとにヘラ記号が線刻される。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。



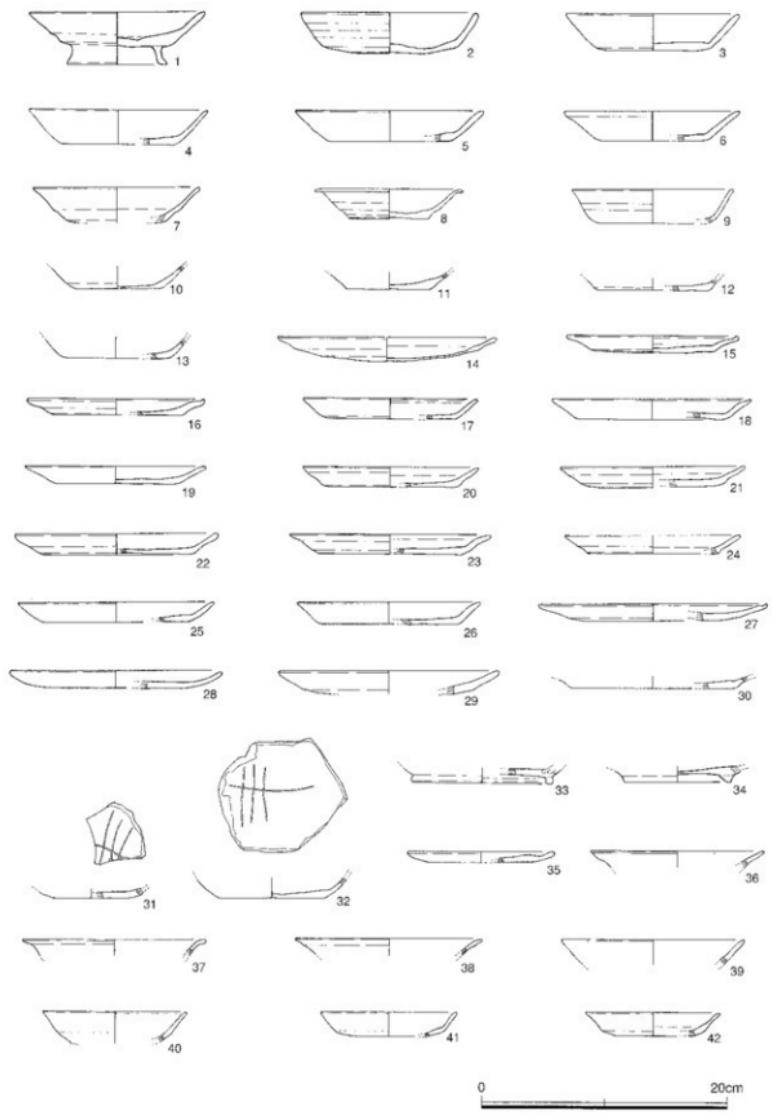
第168図 SX 出土遺物（2026・2029）



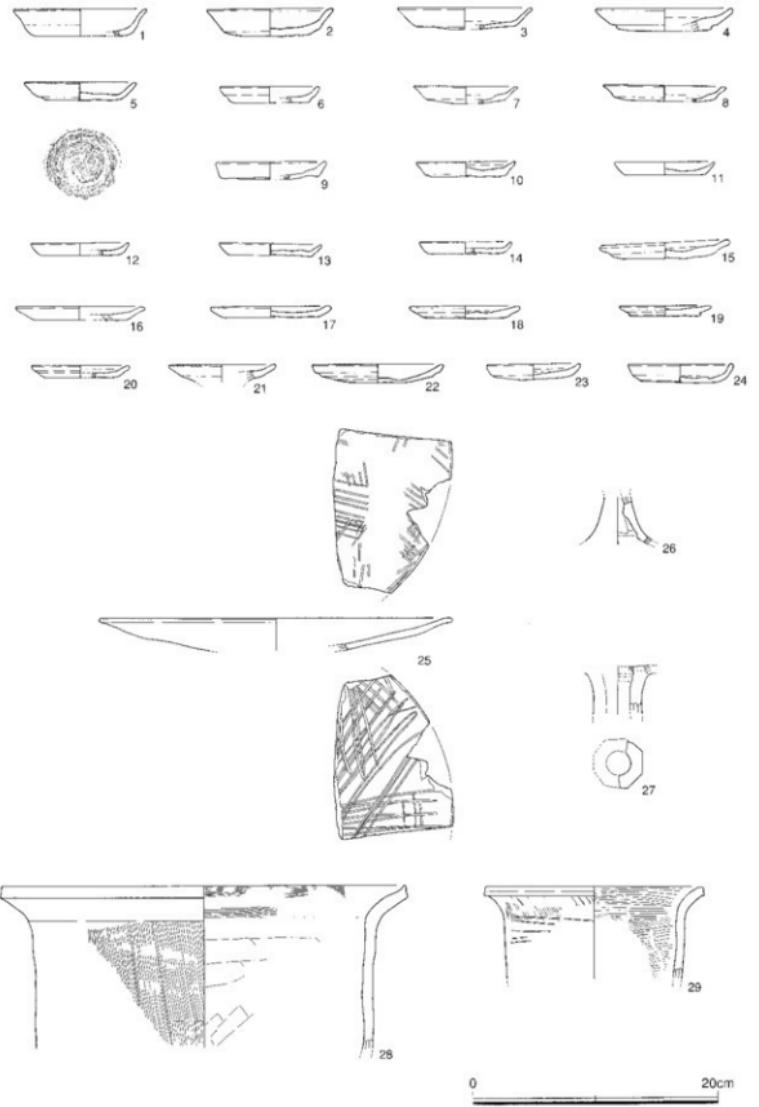
第169図 SX2027出土遺物1



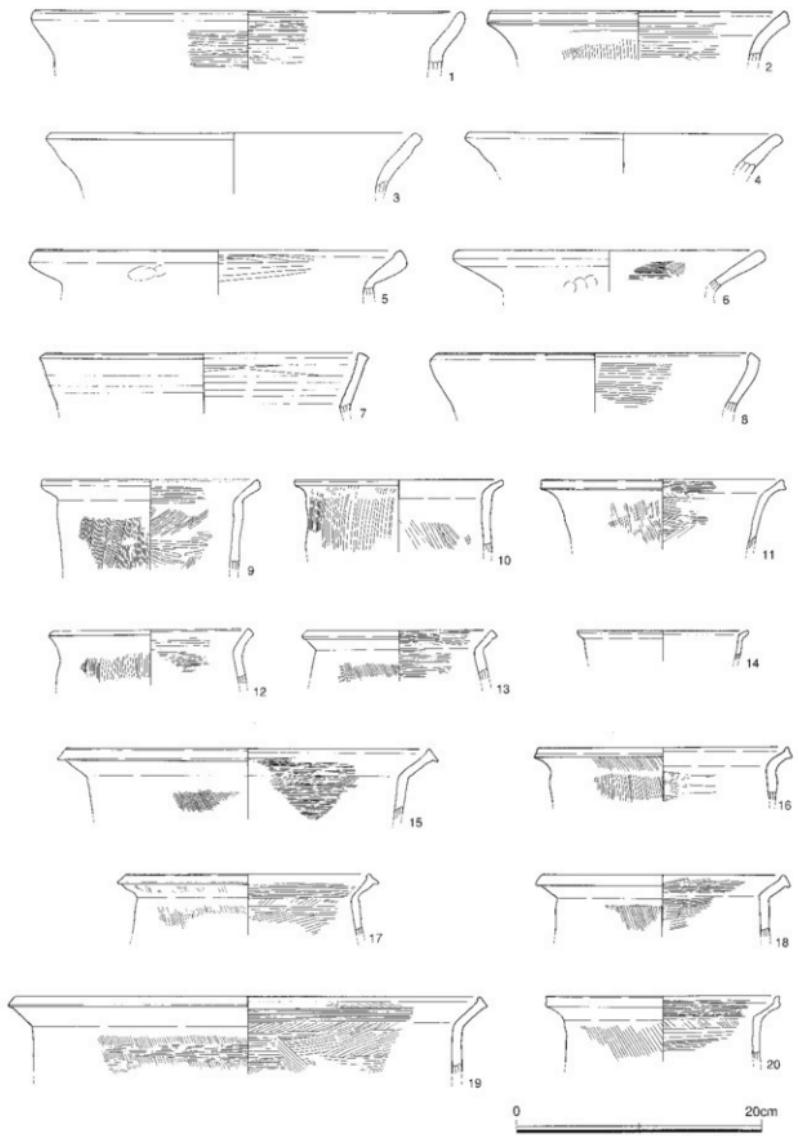
第170図 SX2027出土遺物 2



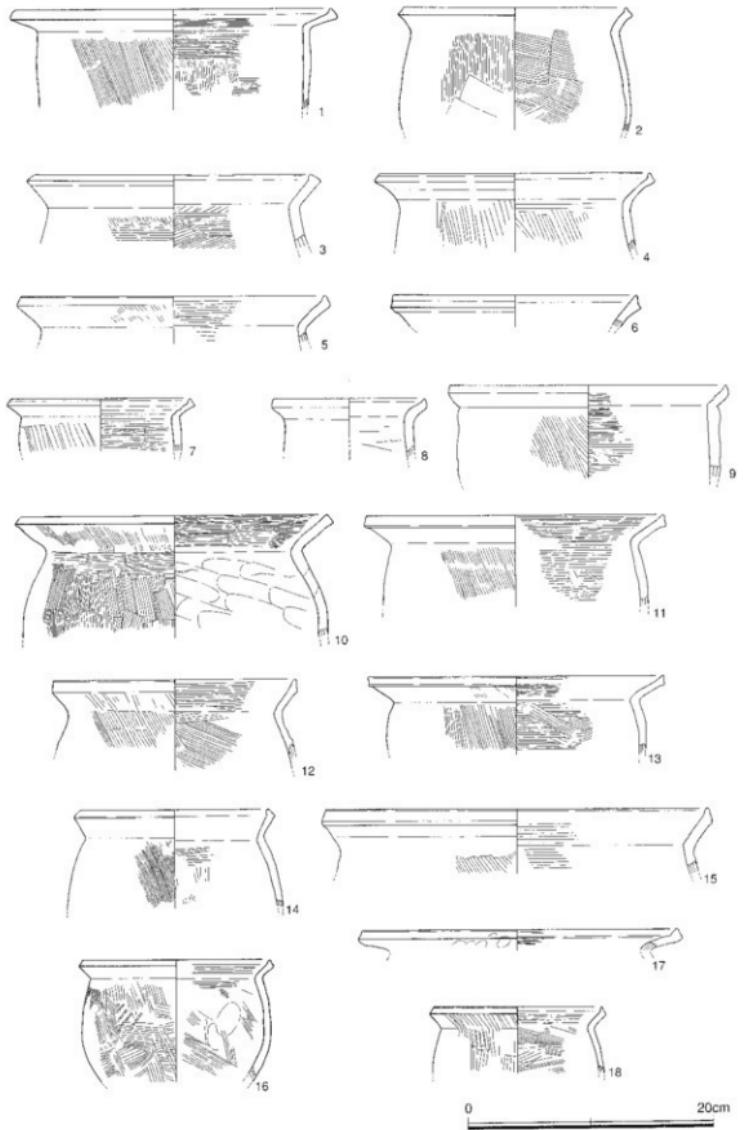
第171図 SX2027出土遺物 3



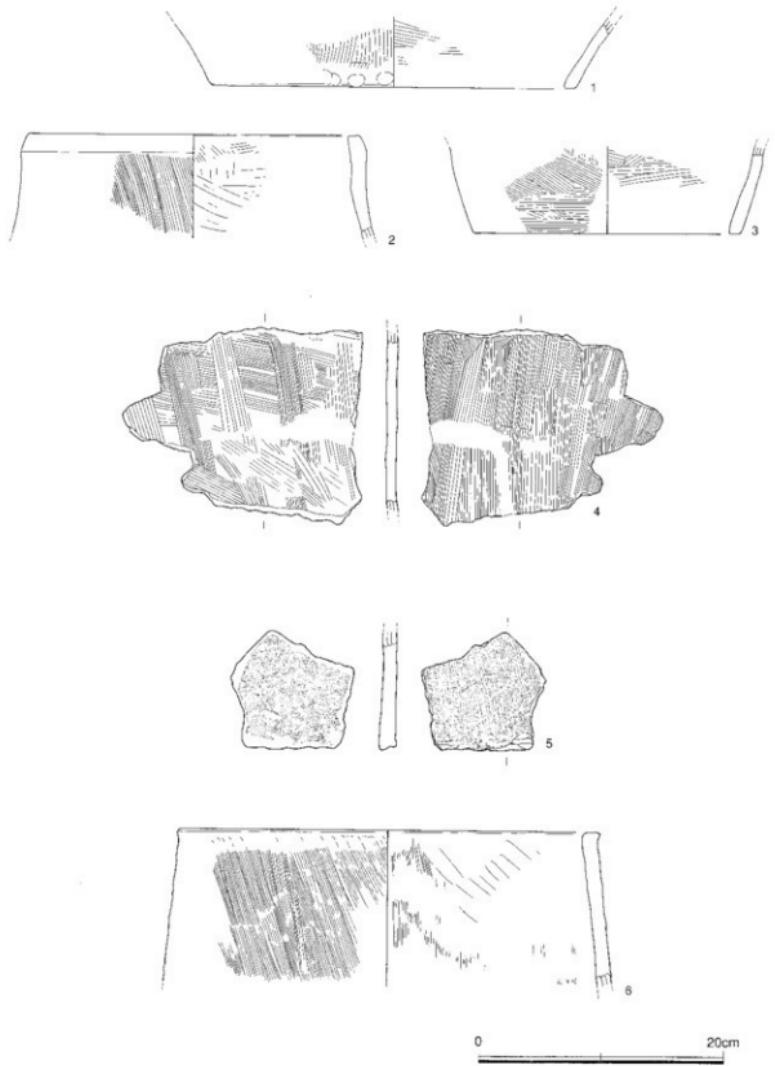
第172図 SX2027出土遺物4



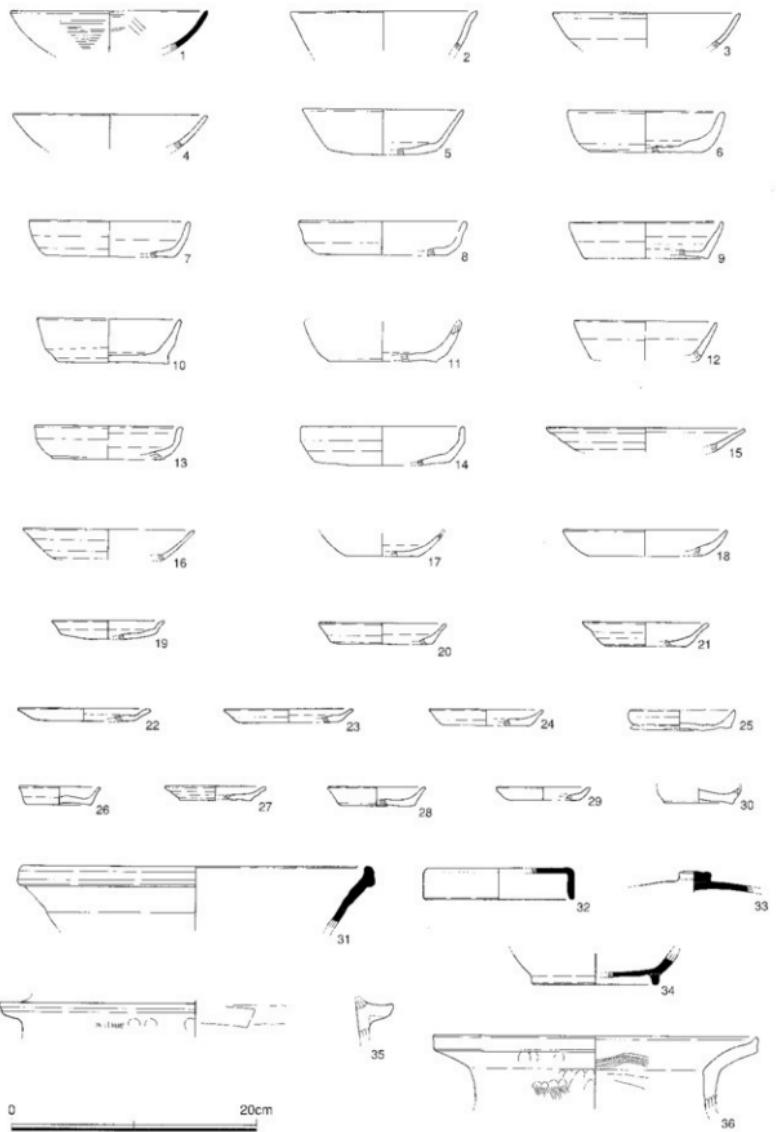
第173図 SX2027出土遺物5



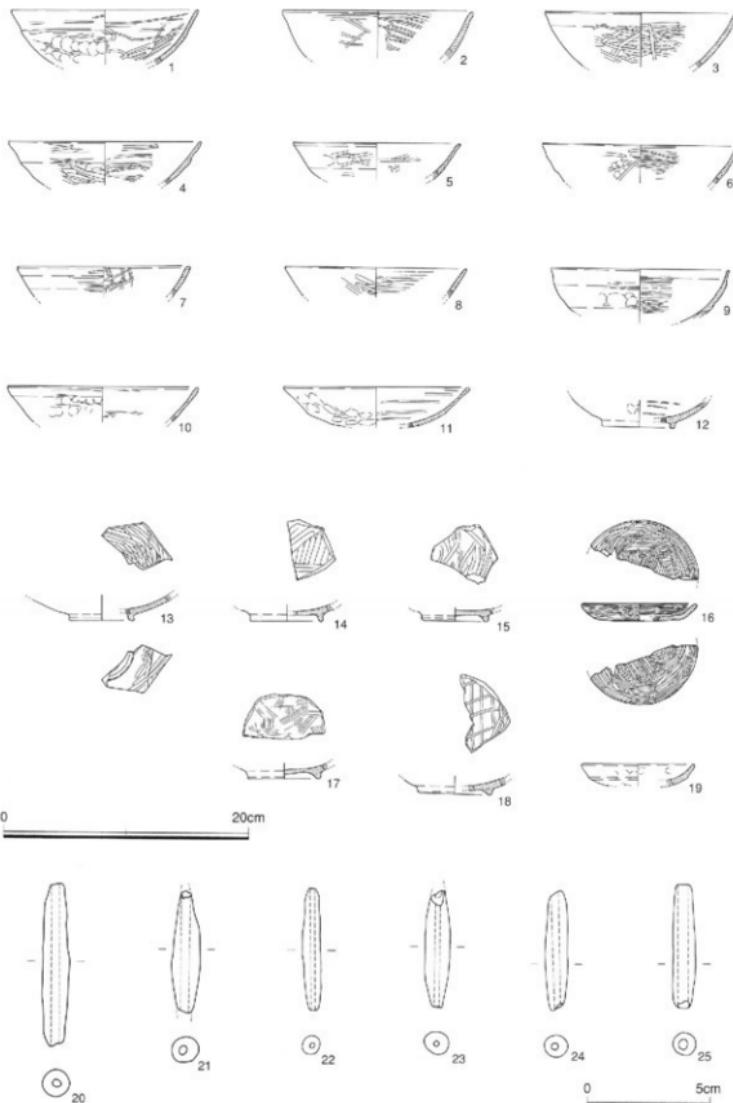
第174図 SX2027出土遺物 6



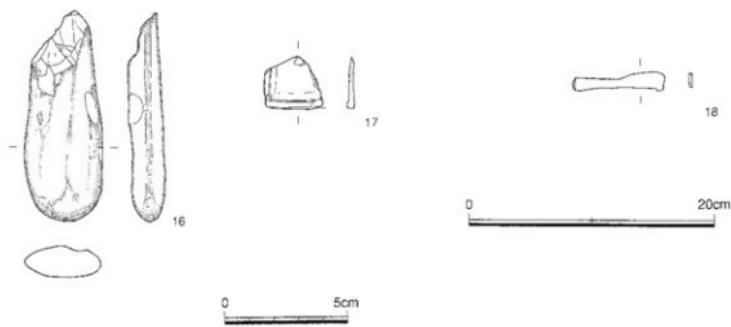
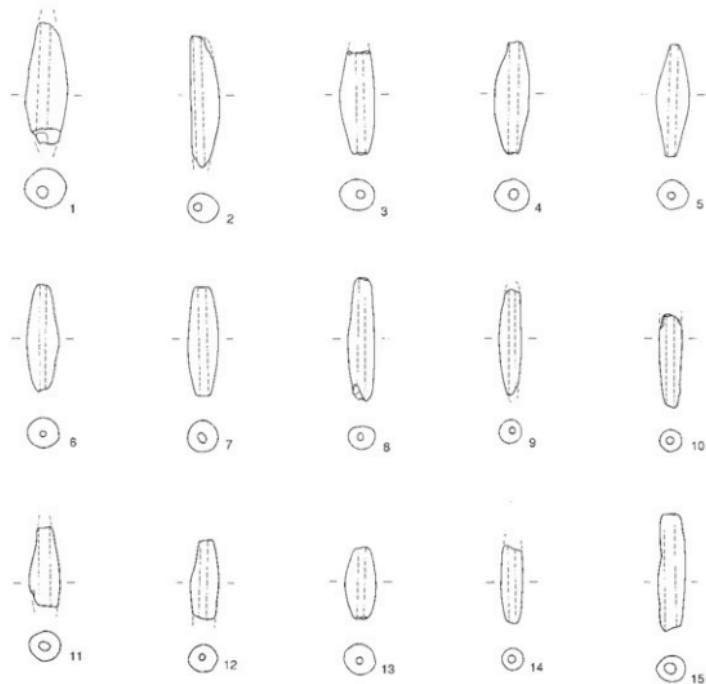
第175図 SX2027出土遺物 7



第176図 SX2027出土遺物 8



第177図 SX2027出土遺物 9



第178図 SX2027出土遺物10

SX2028

G～I-12～14、梢円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第179～192図）

土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器・輸入磁器などが混在して出土している。出土量は多いが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。白磁の碗は森田分類のIV-1類に属するものと思われる。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切りである。土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。土師質土器杯・皿の中には、187-7・187-13のように底部に切り離し痕をもたず、丸みをもつ底部を呈するものもみられる。底部はナデで仕上げるが、ユビオサエが残る。これらは畿内およびその周辺で生産されたものと思われる。すべての土器の生産地の確定は困難であるが、これらは畿内系の搬入品と考えられる。瓦器碗はそのほとんどが和泉型の搬入品である。時期的には概ね尾上分類の和泉型瓦器碗II-3～III-2期に収まるものと思われる。

SX2029

E・F-14～16、半円形状の土坑。埋土は礫・土器片が多く混じる。廃棄土坑（整地層）であると思われる。出土遺物から鎌倉町時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第168図）

土師器・黒色土器・土師質土器・須恵質土器・瓦器・輸入磁器などが混在して出土している。出土量は多いが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯・皿の底部の切り離しは回転糸切りである。土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

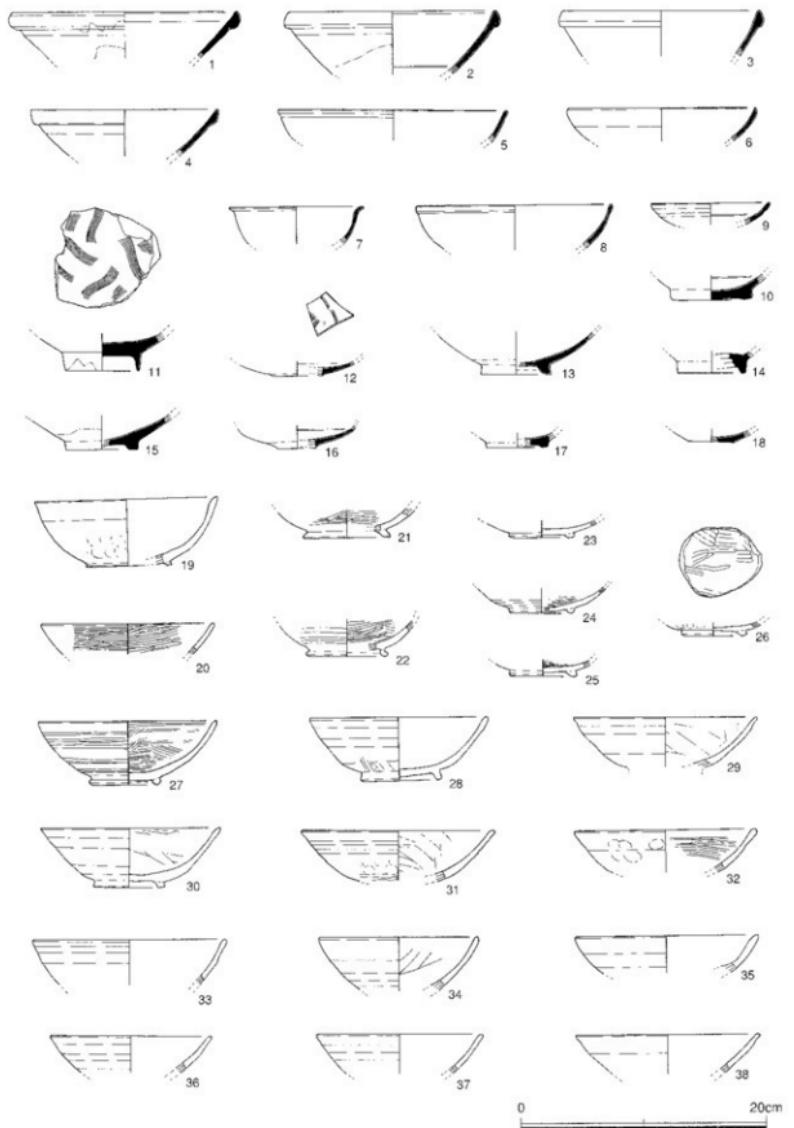
SX2030（石組遺構）（第193図）

P・Q-28・29、調査区中央北側で検出された遺構である。SX2030は盛土整地した後に片岩の板石を組み、上面に円礫が敷き詰めて構築された何らかの祭祀のための遺構と考えられる。また円礫（玉砂利）の直下、盛土整地層上面からは、土師質土器の小皿類が並べたように出土しているが、その性格は不明である。

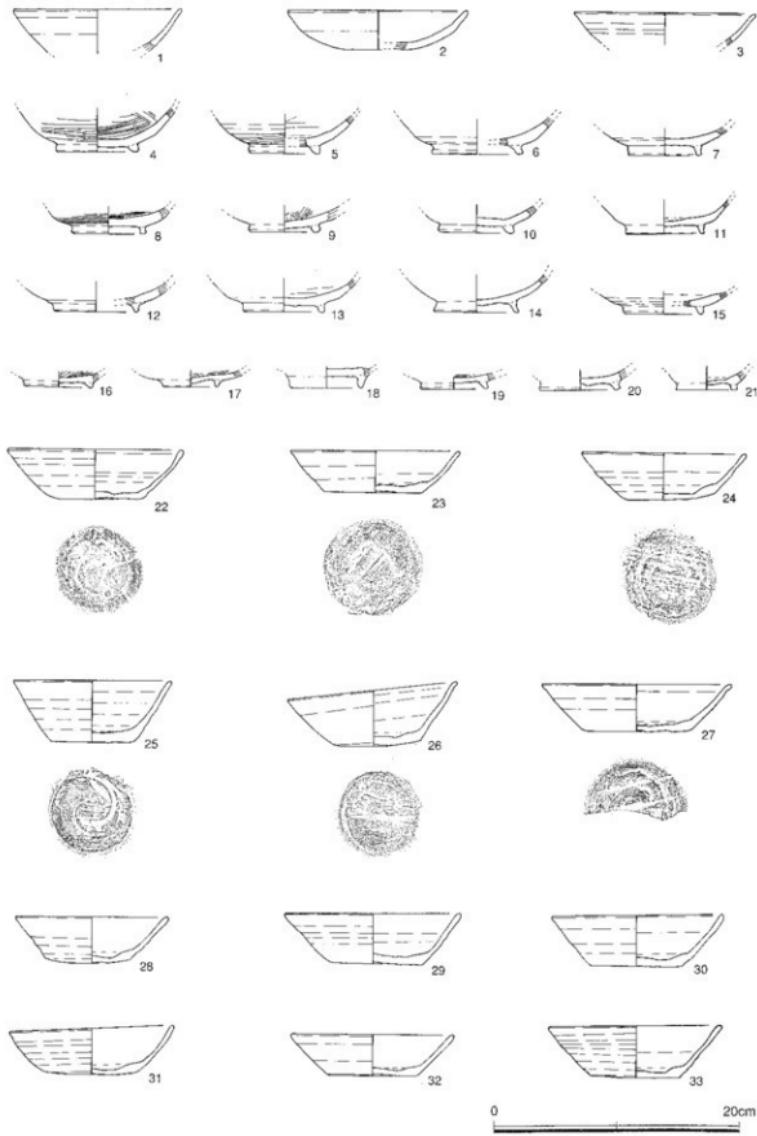
片岩の板石が小口を揃えて並べられていた。検出時では1段のみの残存であり、上部構造は不明である。礫下土層は黄褐色砂質上で、焼土や炭化物の薄い層がみられることから、人為的な盛土整地がされたものと思われる。盛土上面には5cm前後の円礫が敷かれ、その上に片岩の板石が小口を揃えて組まれる。内部に明確な土坑あるいは石組などの構造物（遺構）はなく、何らかの建築物の基礎とも考えられるが、性格は明らかではない。凝灰岩の小片（五輪塔の一部か？）もみられた。土器外面にスラグが付着しているものもみられた。

出土遺物（第194～216図）

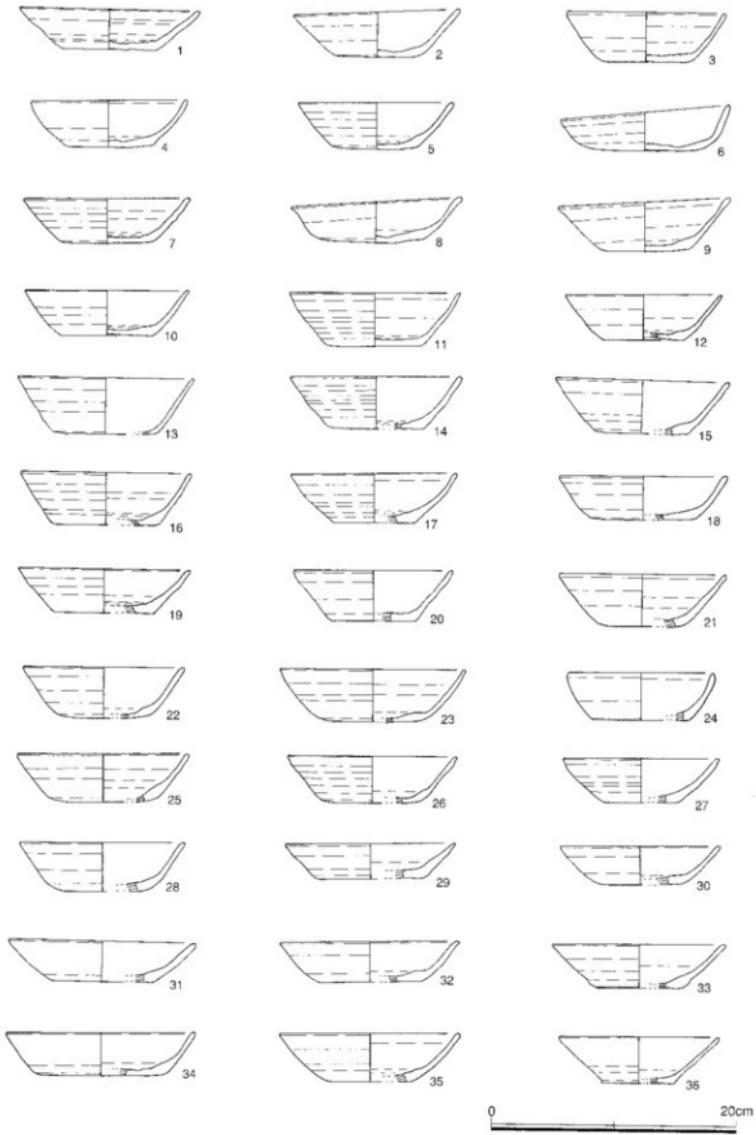
土師質土器の杯・皿類が多数出土しているが、特に小皿がまとまって出土している。円礫（玉砂利）の直下、盛土整地層上面からは、土師質土器の小皿類が並べたような状態で出土した。完形品が多く、



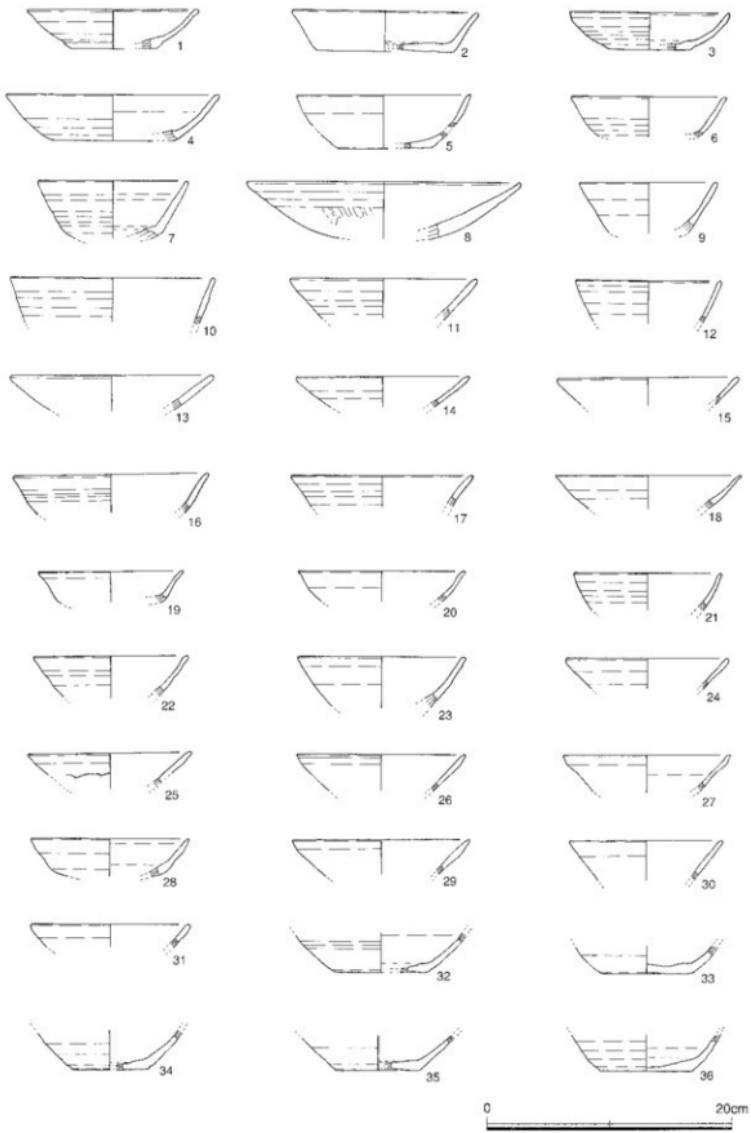
第179図 SX2028出土遺物 1



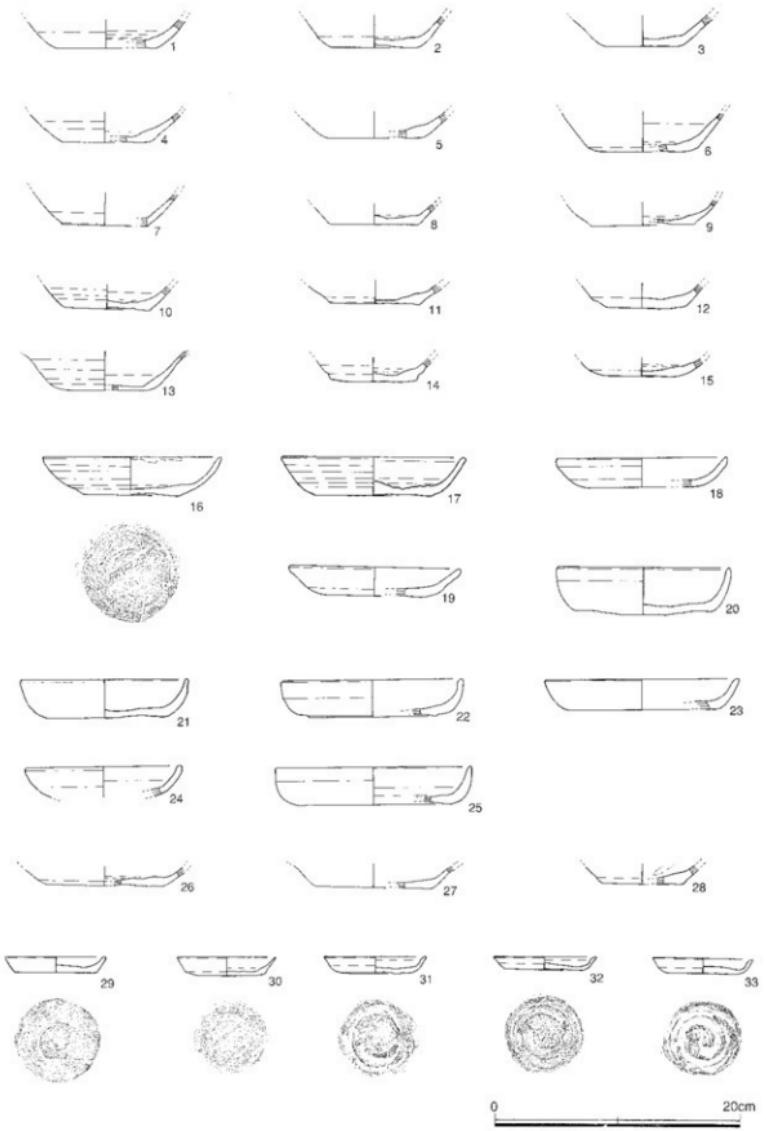
第180図 SX2028出土遺物 2



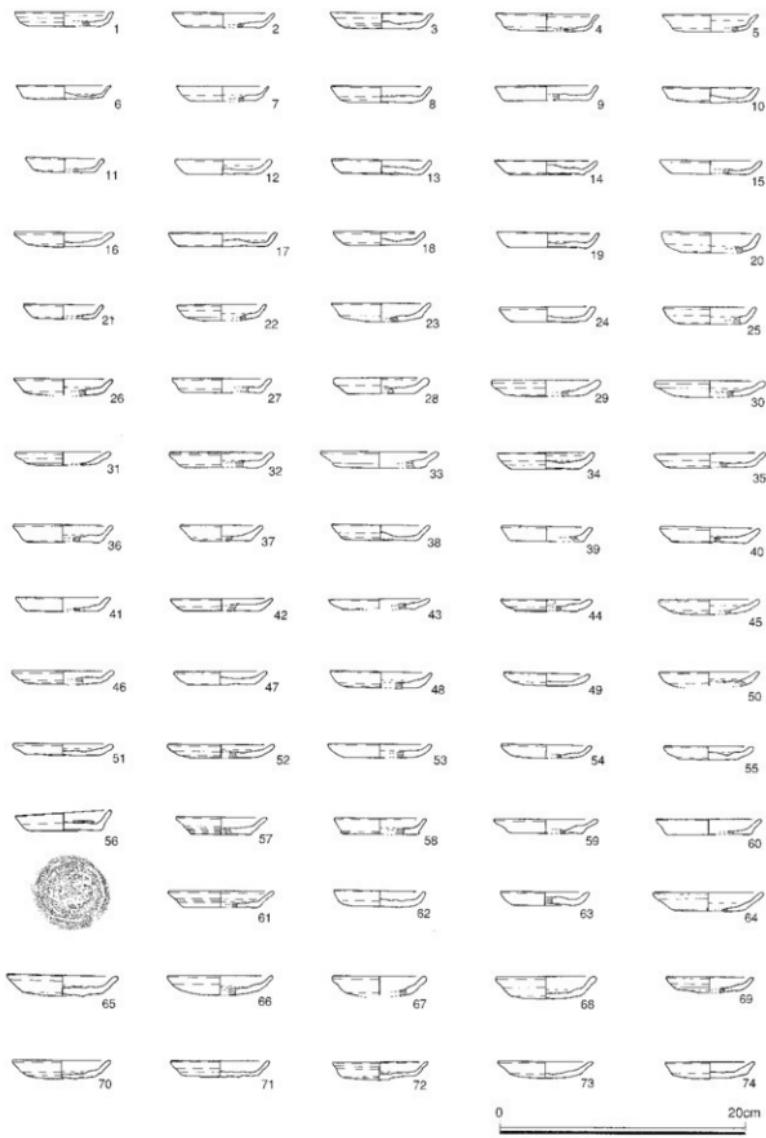
第181図 SX2028出土遺物3



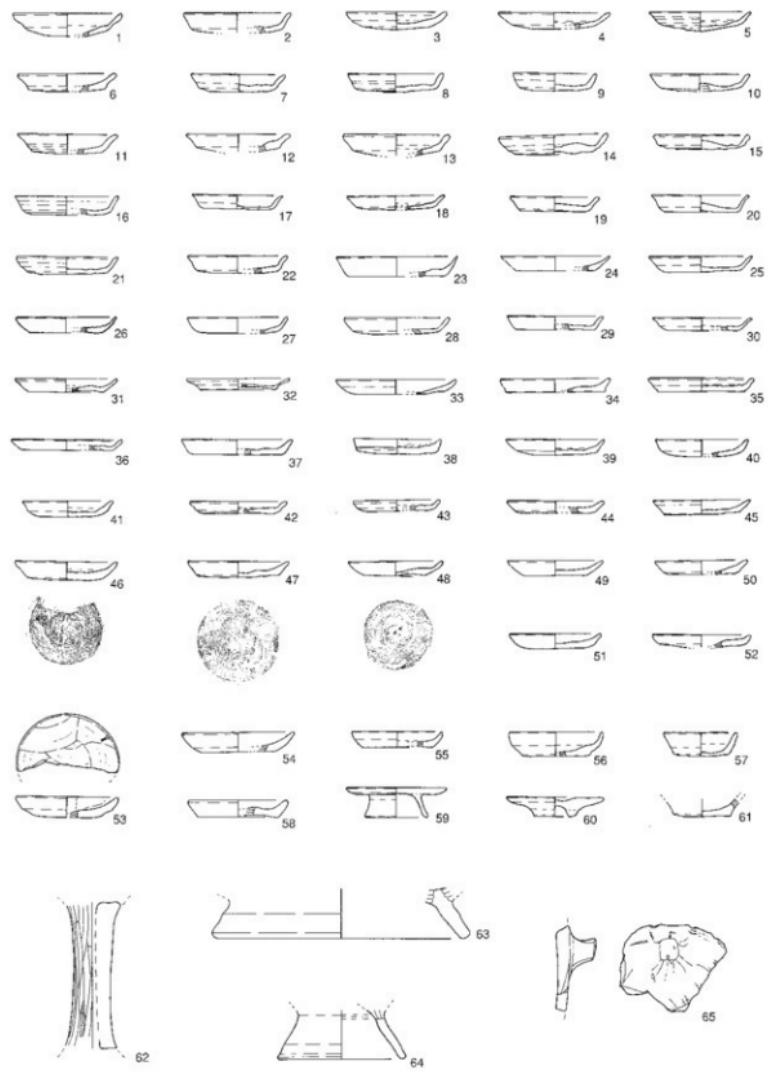
第182図 SX2028出土遺物 4



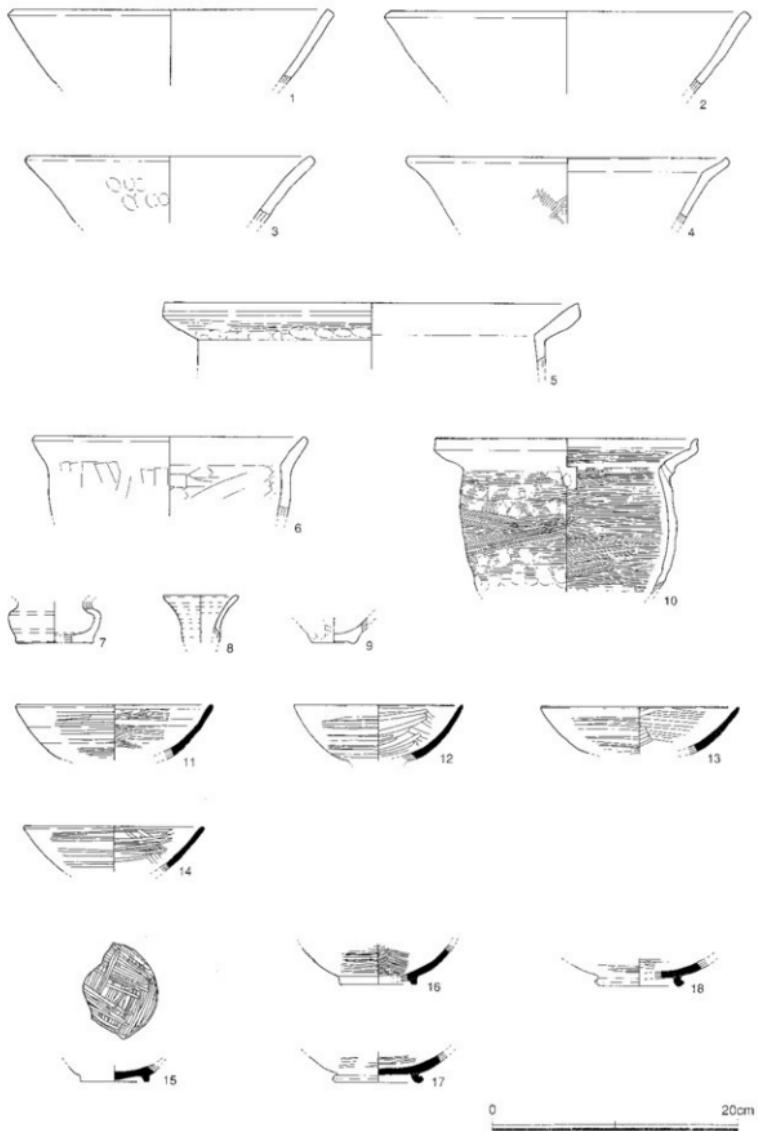
第183図 SX2028出土遺物 5



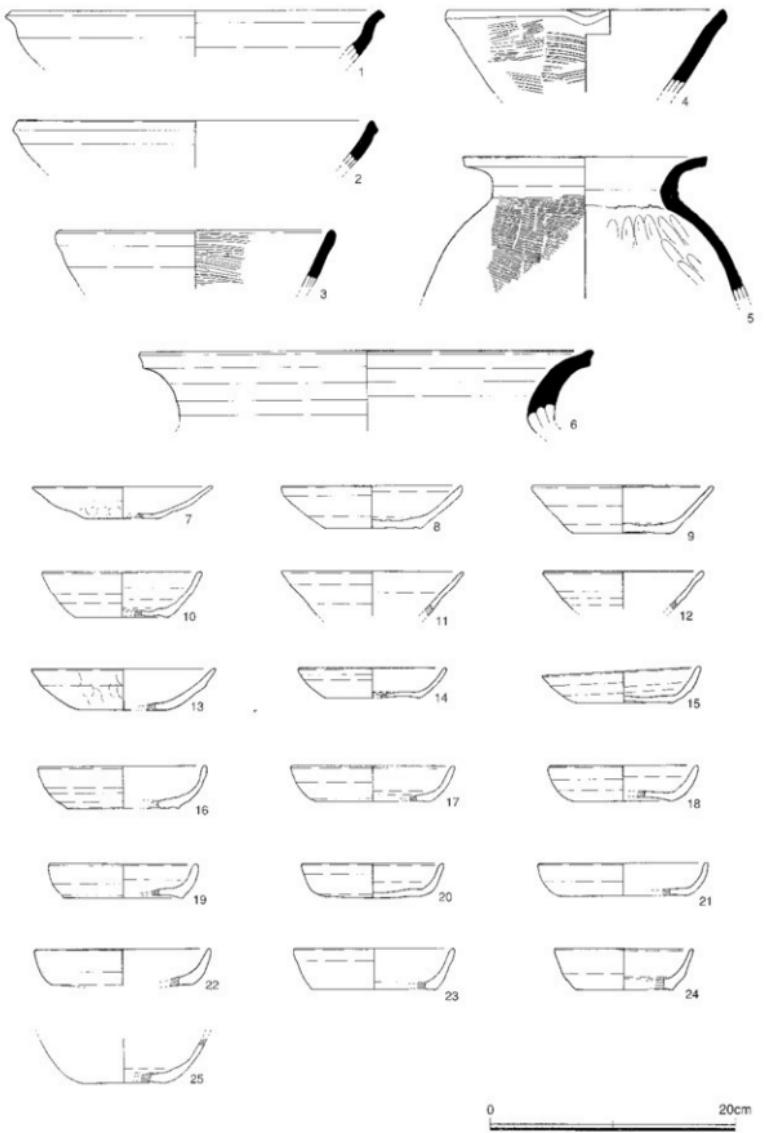
第184図 SX2028出土遺物 6



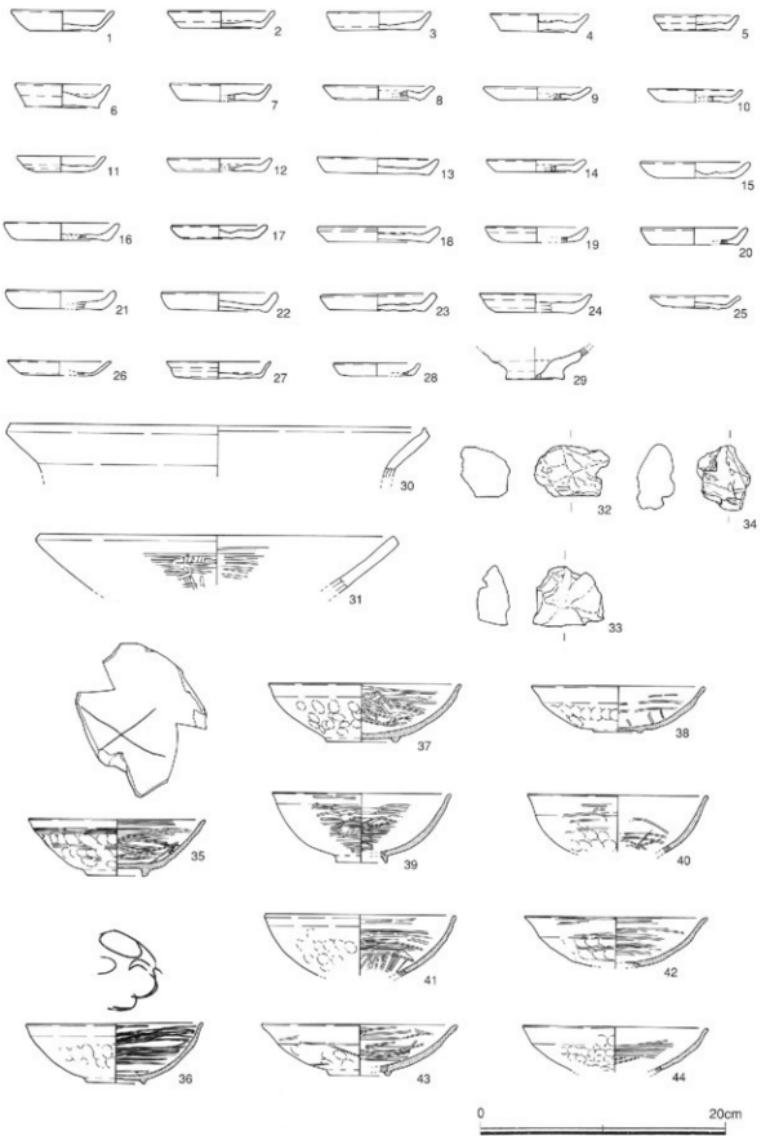
第185図 SX2028出土遺物7



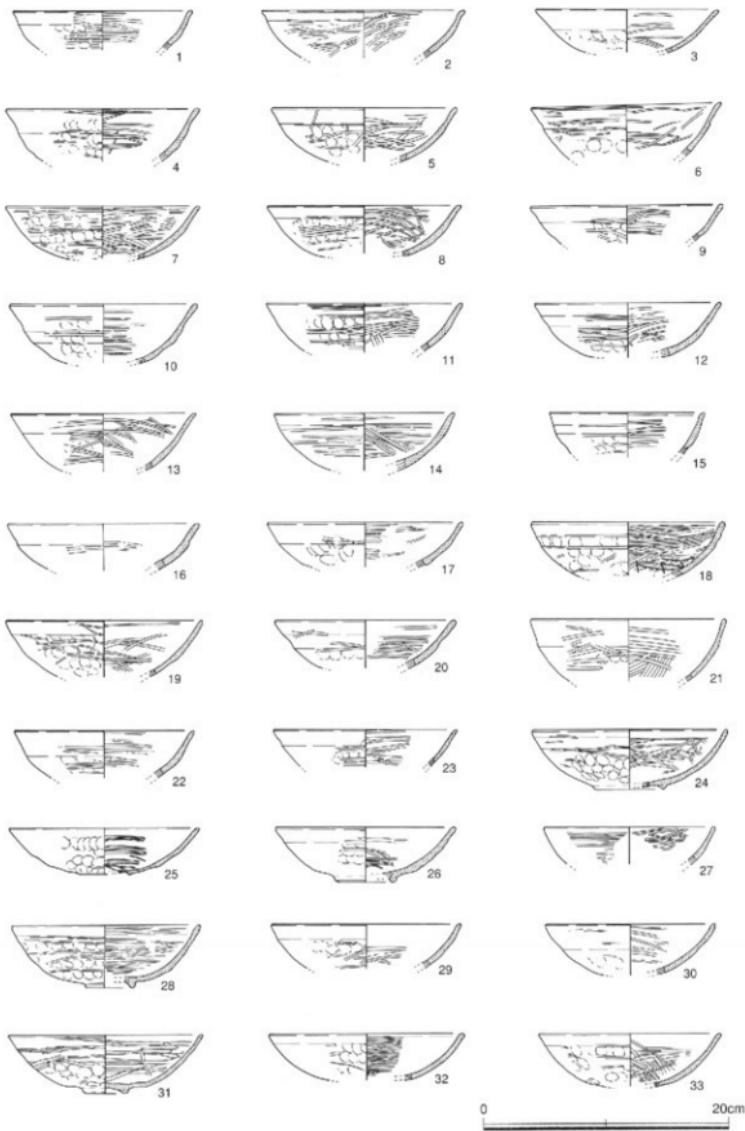
第186図 SX2028出土遺物 8



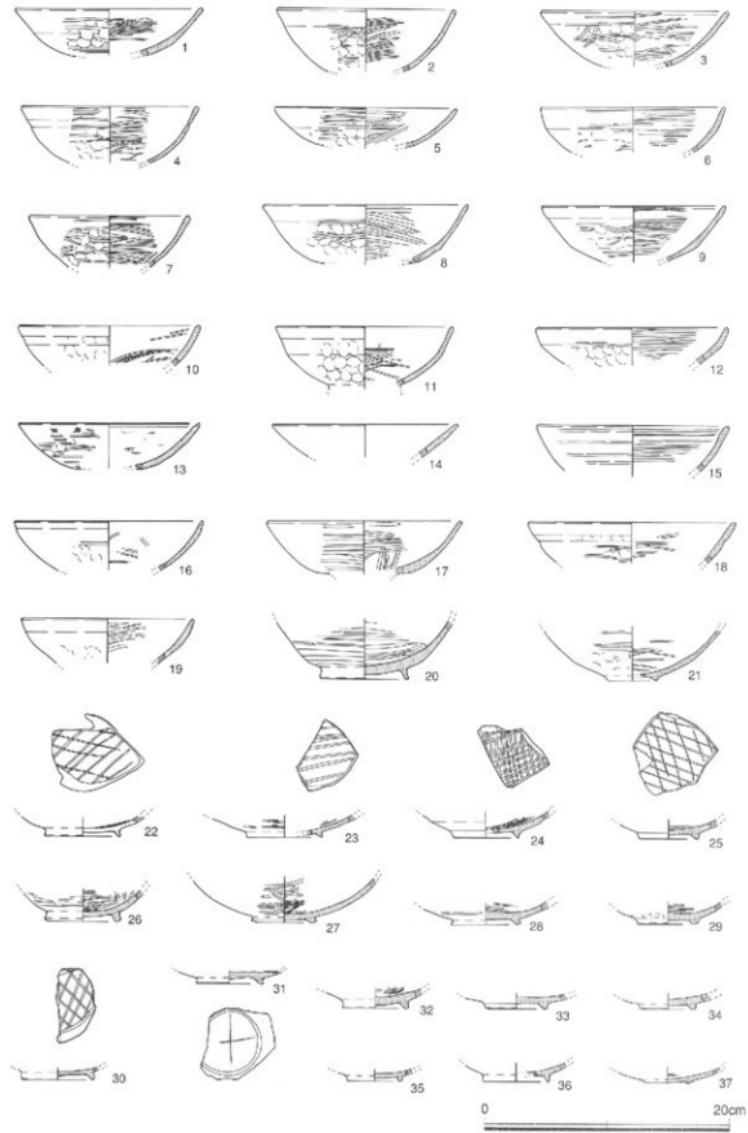
第187図 SX2028出土遺物 9



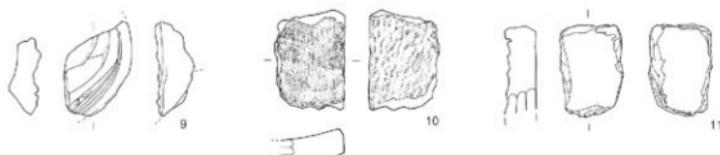
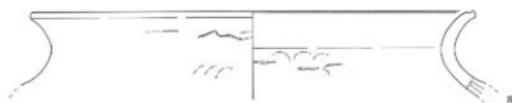
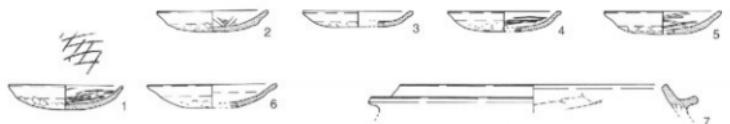
第188図 SX2028出土遺物10



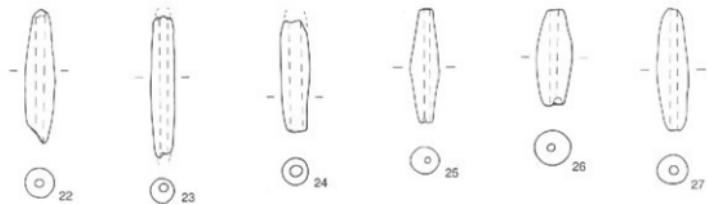
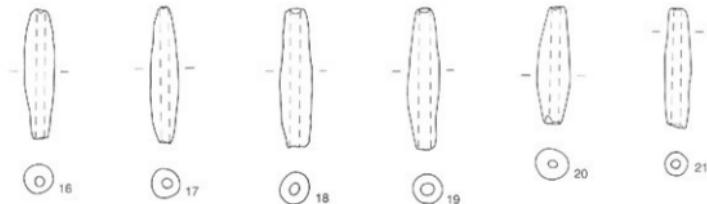
第189図 SX2028出土遺物11



第190図 SX2028出土遺物12

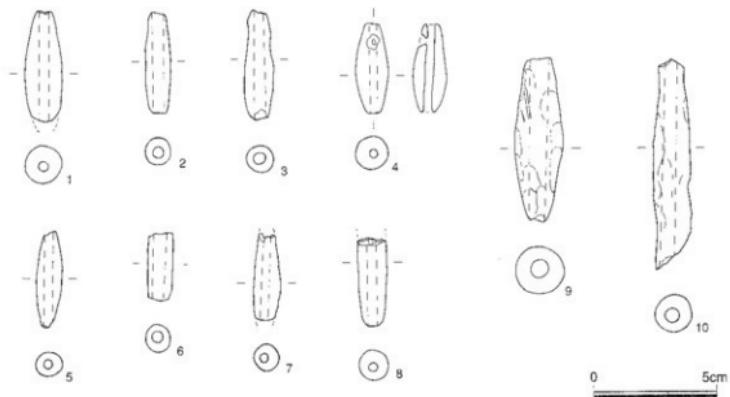


0 20cm



0 5cm

第191図 SX2028出土遺物13



第192図 SX2028出土遺物14

ほほ法量が擴う。やや内弯する体部をもち、底部の切り離し技法は回転糸切りである。瓦器碗はそのほとんどが和泉型の搬入品である。時期的には概ね尾上分類の和泉型瓦器碗Ⅲ・1～2期に収まるものと思われる。

SX2032（石敷造構）（第217図）

L～P-27～31、上面に円礫が敷き詰められて構築されている浅い溝状造構である。造構のプランは不明瞭である。肩部には石列などの護岸あるいは境を示すような構造物はみられなかった。上面には部分的に石列らしき片岩の板石が小口を揃えて並べられていた。検出時では1段のみの残存であり、上部構造は不明である。礫下土層は黄褐色砂質土で、焼土や炭化物の薄い層がみられることから、人為的な盛土整地がされたものと思われる。盛土上面には5cm前後の円礫が敷かれ、その上に片岩の板石が小口を揃えて組まれるが、整然とは並ばない。

SX2032はSX2030と同様な方形状の石組の一部とも考えられるが、詳細は不明である。また内部には明確な土坑あるいは石組などの構造物（造構）はなかった。円礫（玉砂利）の直下、盛土整地層上面からは、土師質土器の杯・皿類が出土している。SX2032はSX2030と同様、何らかの祭祀のための造構あるいは何らかの建築物の基礎とも考えられるが、その性格は明らかではない。出土遺物等から時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第217～236図）

土師質土器の杯・皿類が出土している。円礫（玉砂利）層に混入するような状態で出土している。完形品もみられるが、多くは破損している。直下、盛土整地層上面からは、状態で出土した。完形品が多



L=3.50m
A

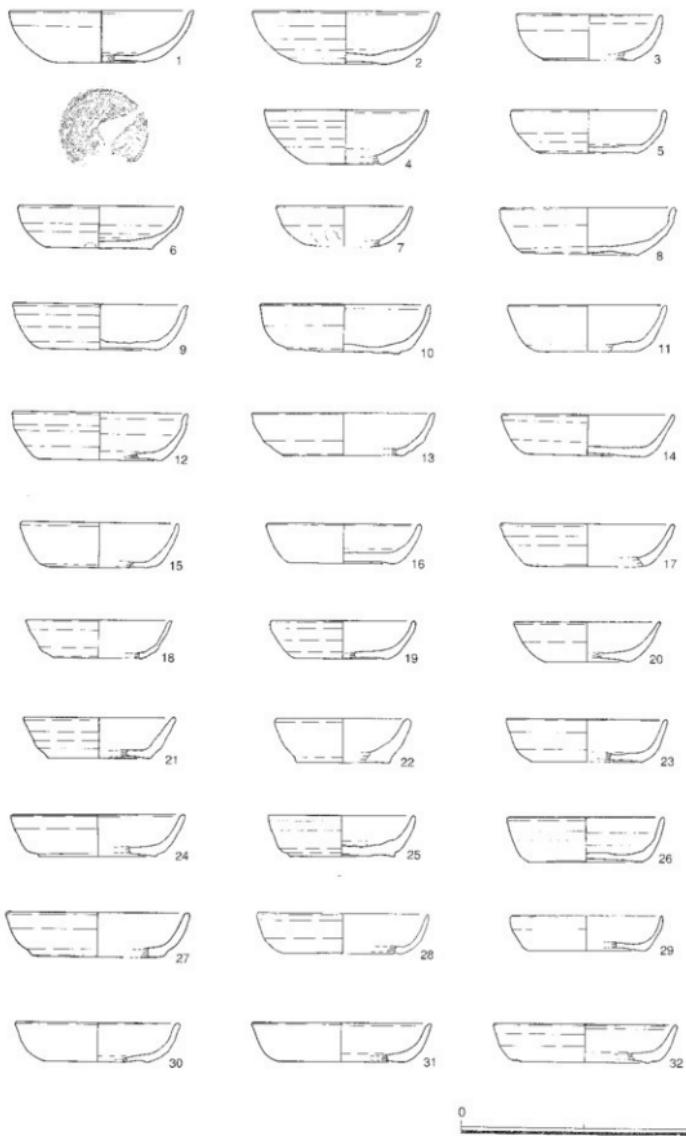
L=3.50m
B



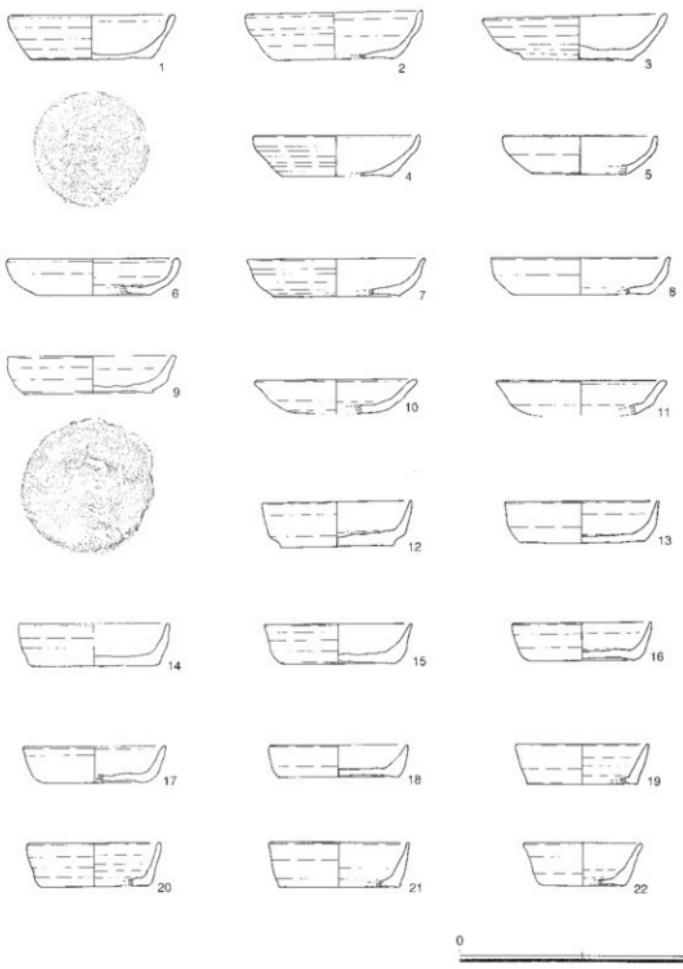
- 1 暗灰黄色2.5Y4/3砂質土
 1' 暗灰黄色2.5Y4/3砂質土
 (上面および上層10cm程度の範囲に $\phi=5\text{cm}$ 程度の円礫が散在する。部分的に30cm角の片岩板石が組まれる。
 土器多く含む。(上面)炭化物含む。)
 2 黒褐色2.5Y3/2砂壤土
 ($\phi=5\sim30\text{mm}$ 程度の砂礫层、自然堆積、河川堆積層、地山)



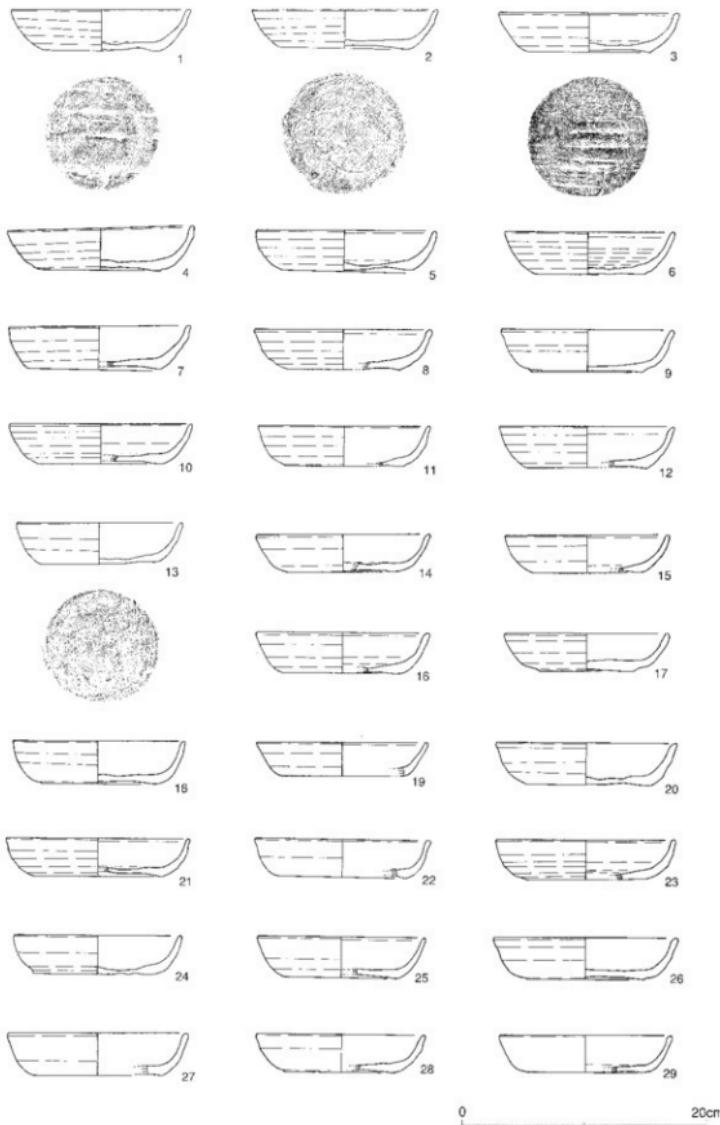
第193図 SX2030平・断面図



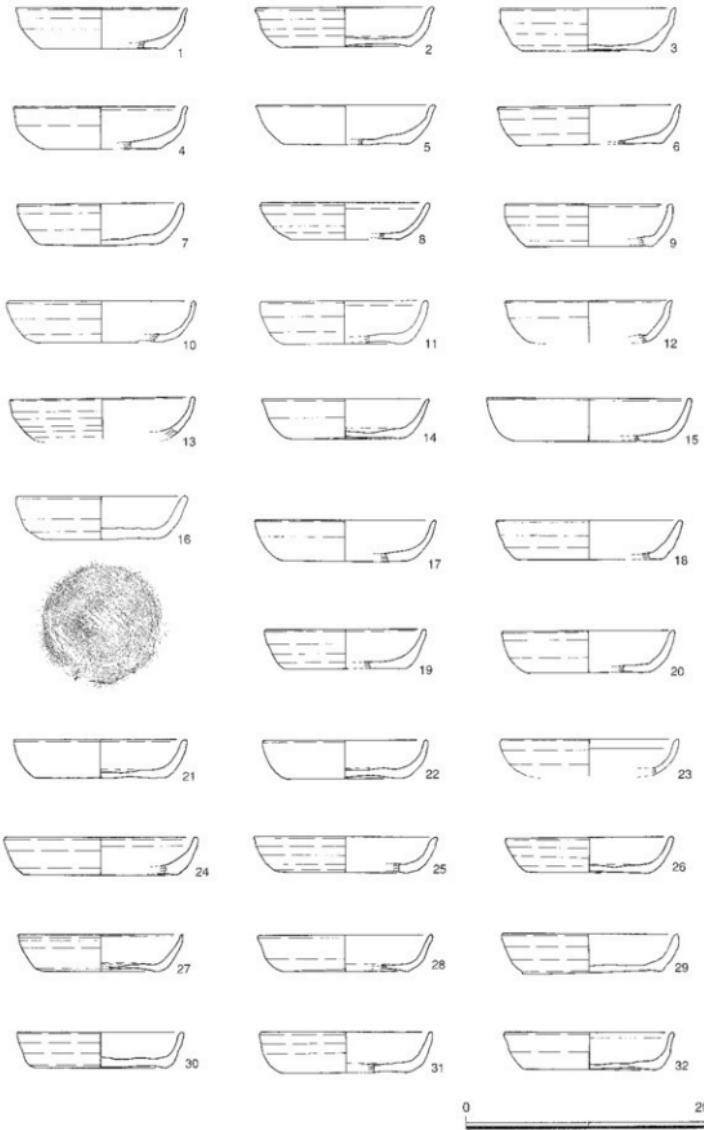
第194図 SX2030出土遺物1



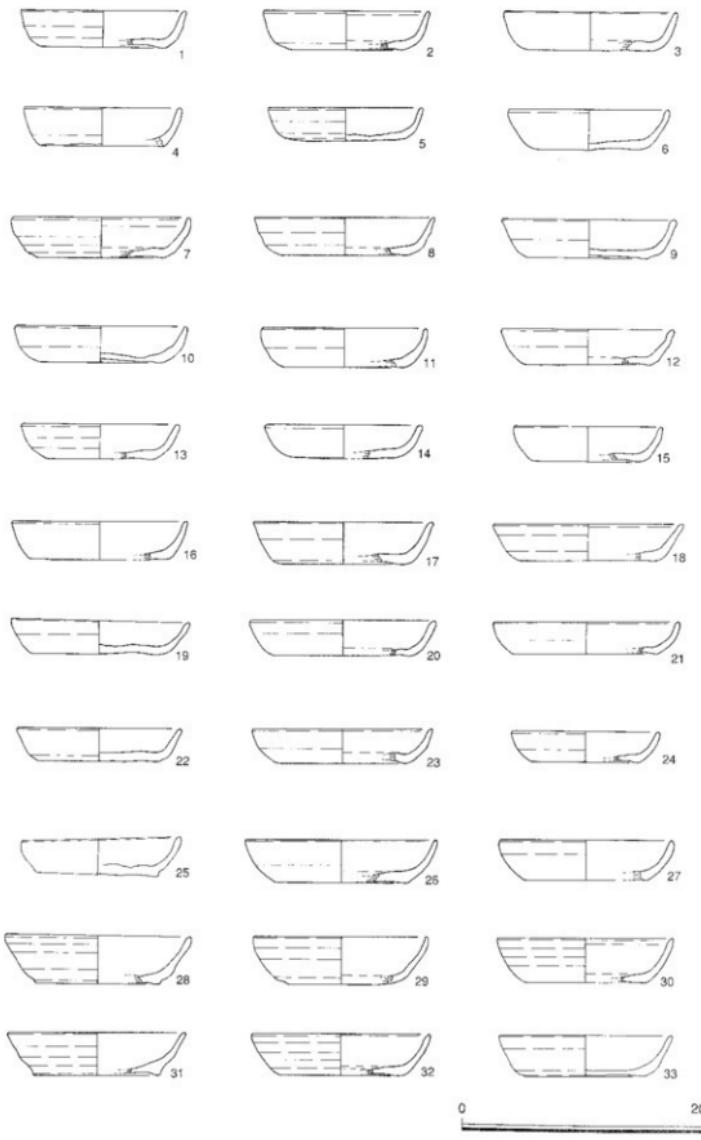
第195図 SX2030出土遺物 2



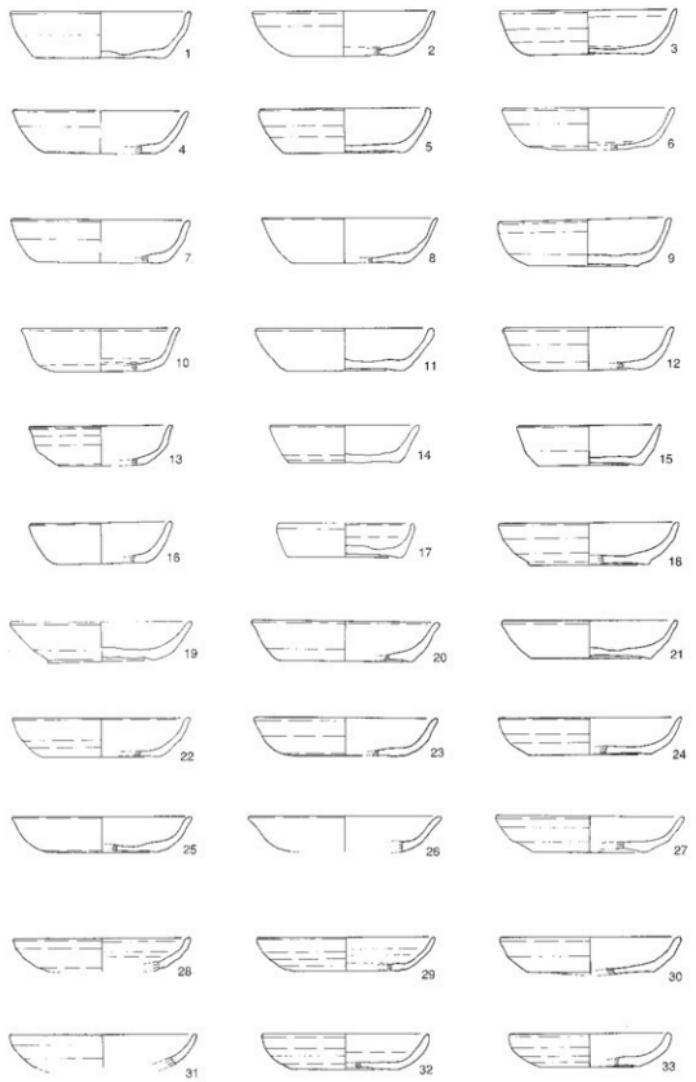
第196図 SX2030出土遺物3



第197図 SX2030出土遺物4

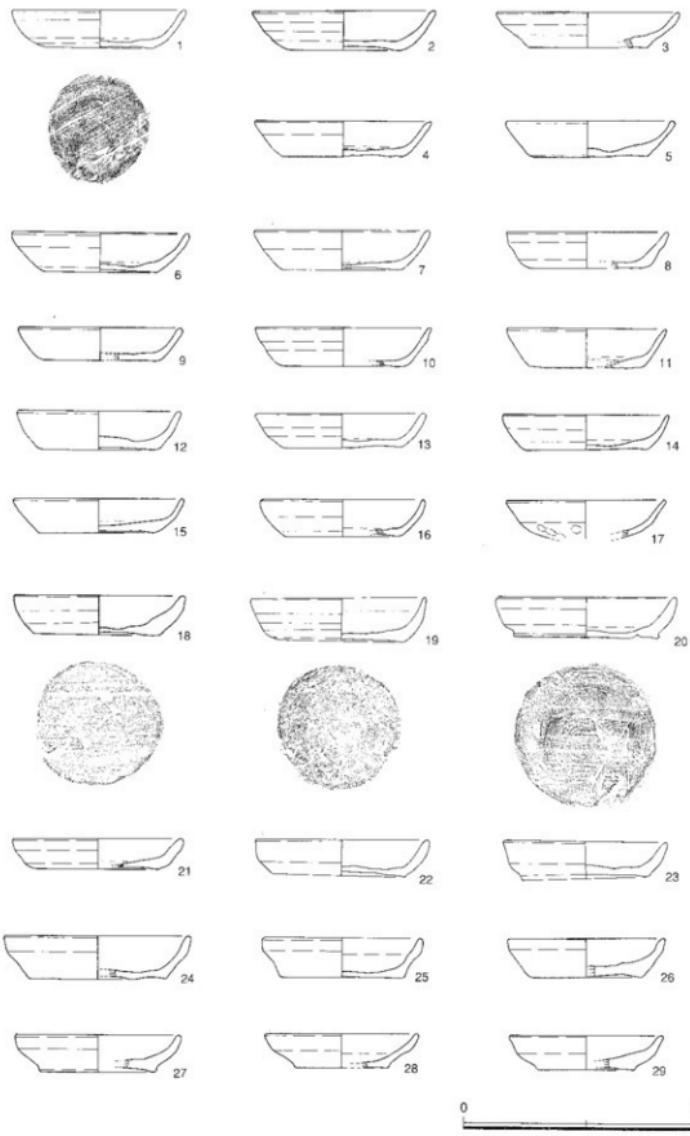


第198図 SX2030出土遺物 5

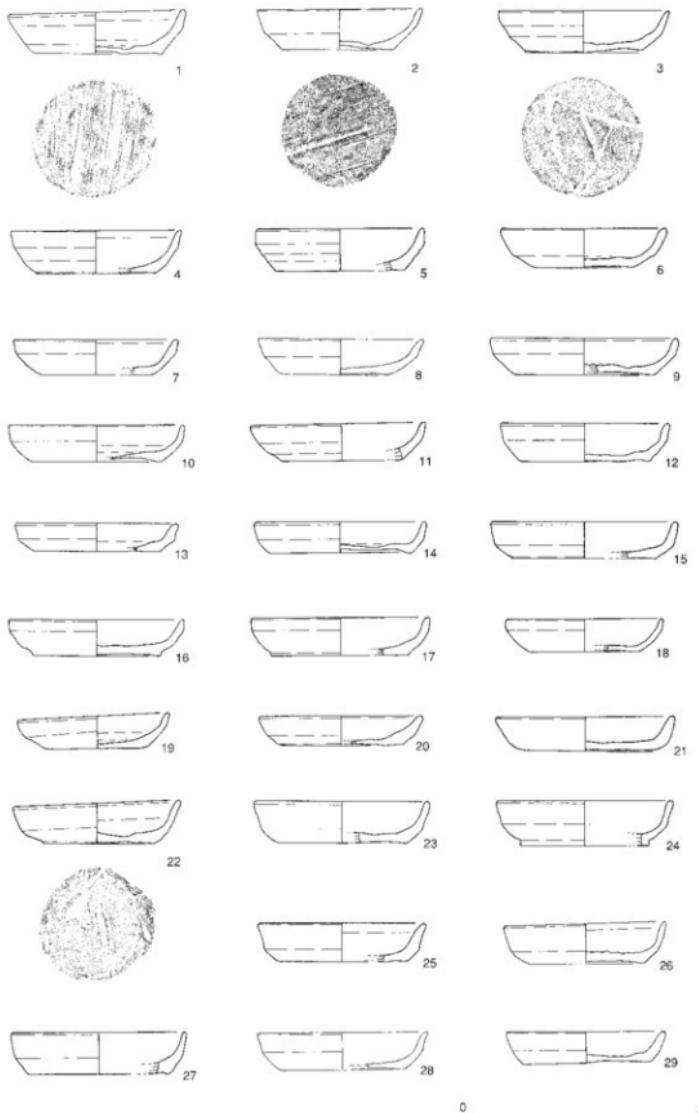


0 20cm

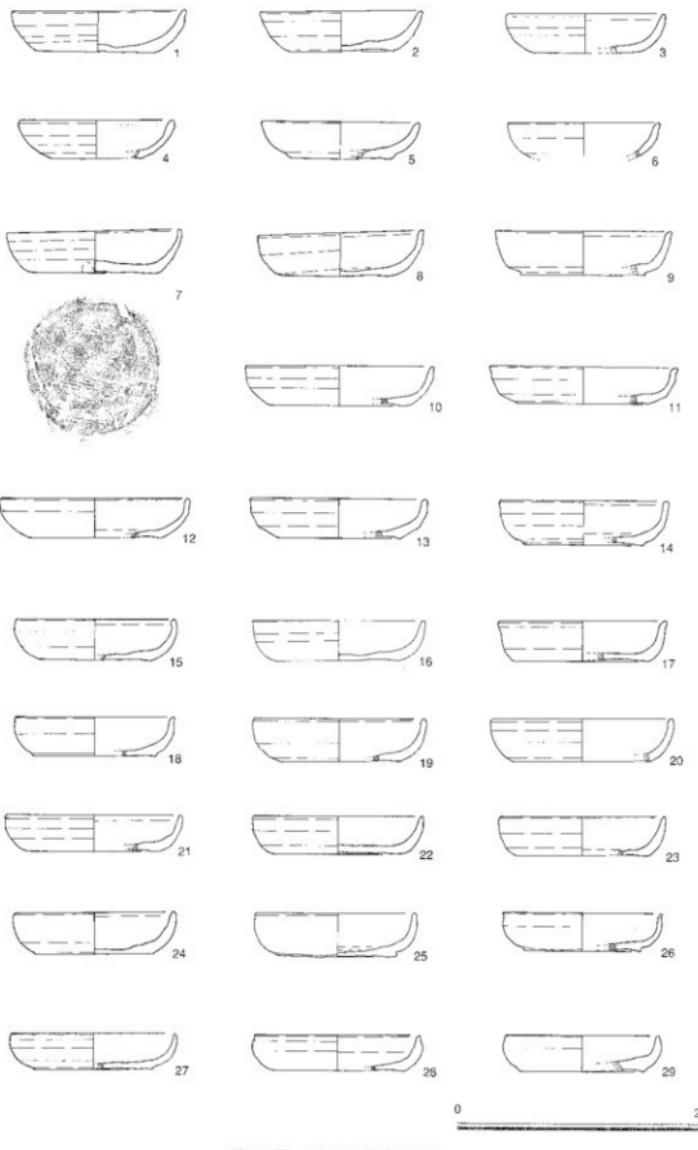
第199図 SX2030出土遺物 6



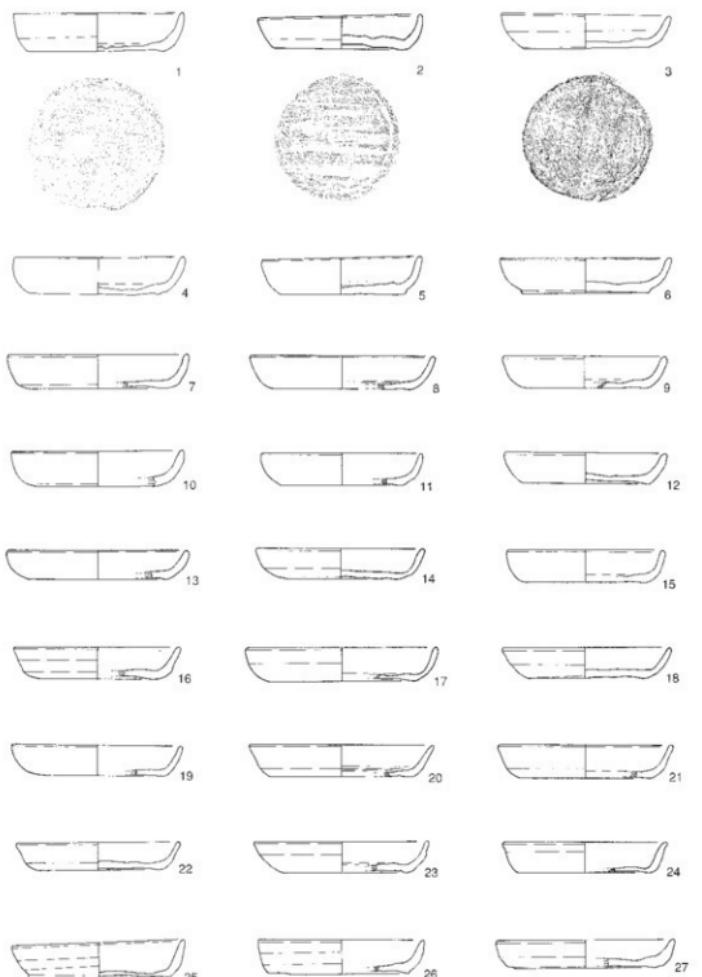
第200図 SX2030出土遺物7



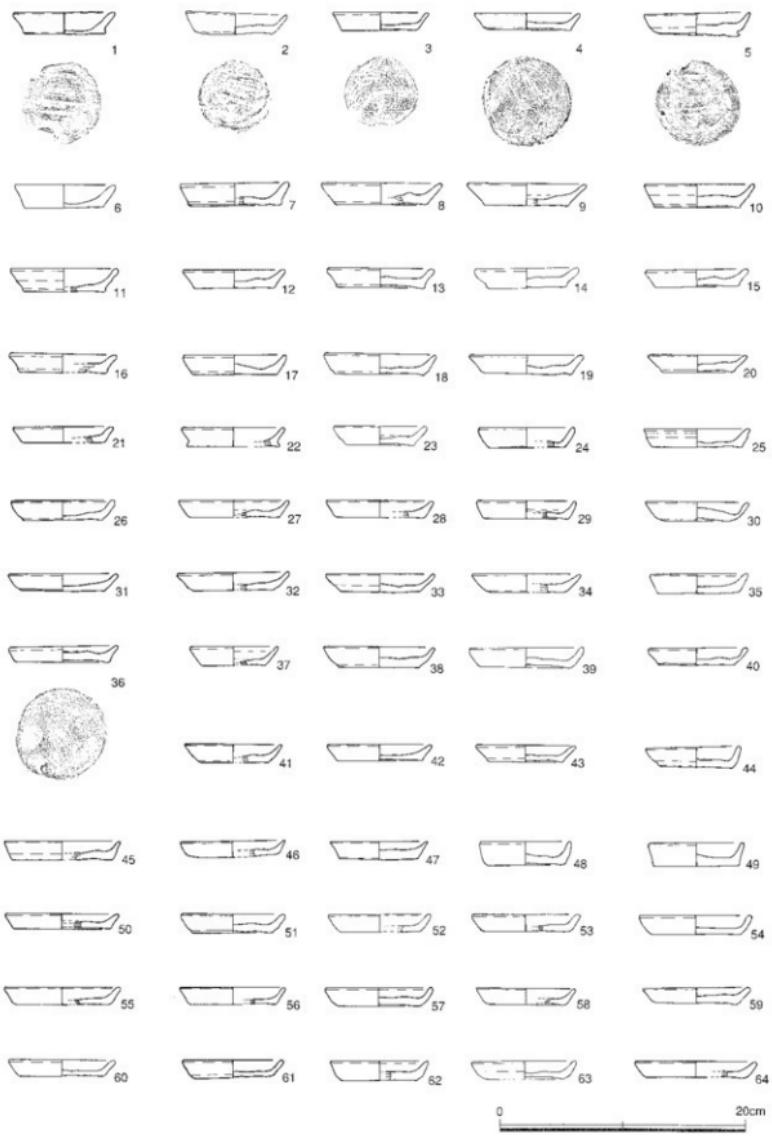
第201図 SX2030出土遺物 8



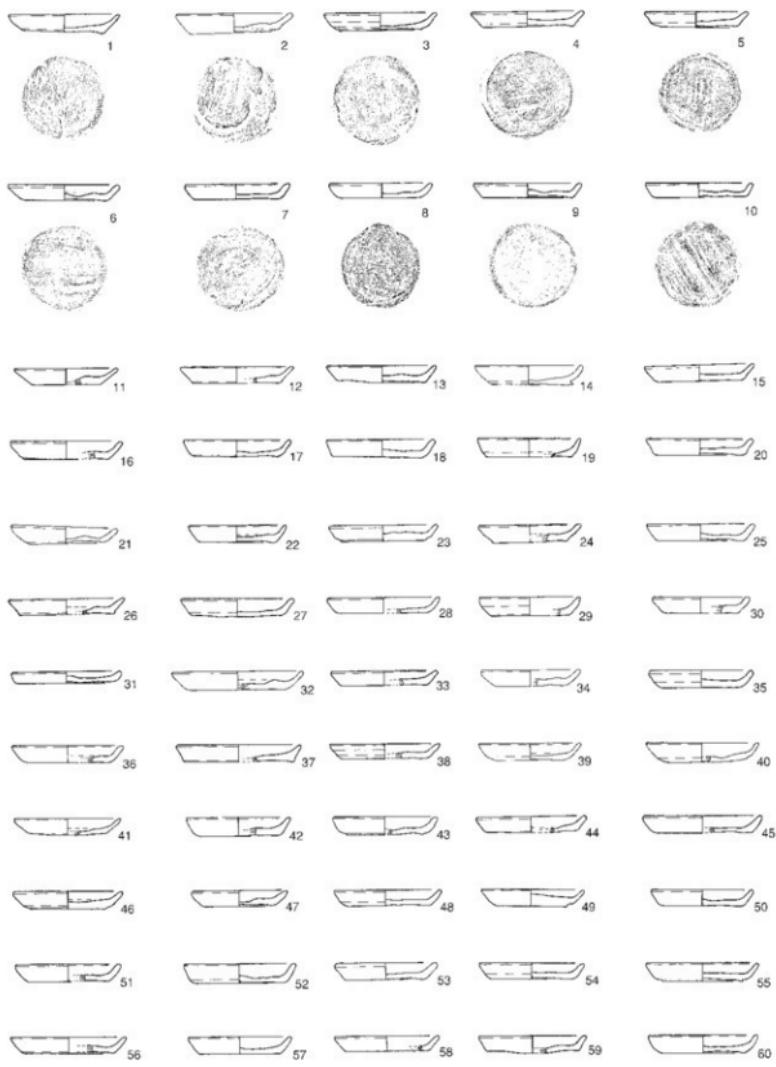
第202図 SX2030出土遺物 9



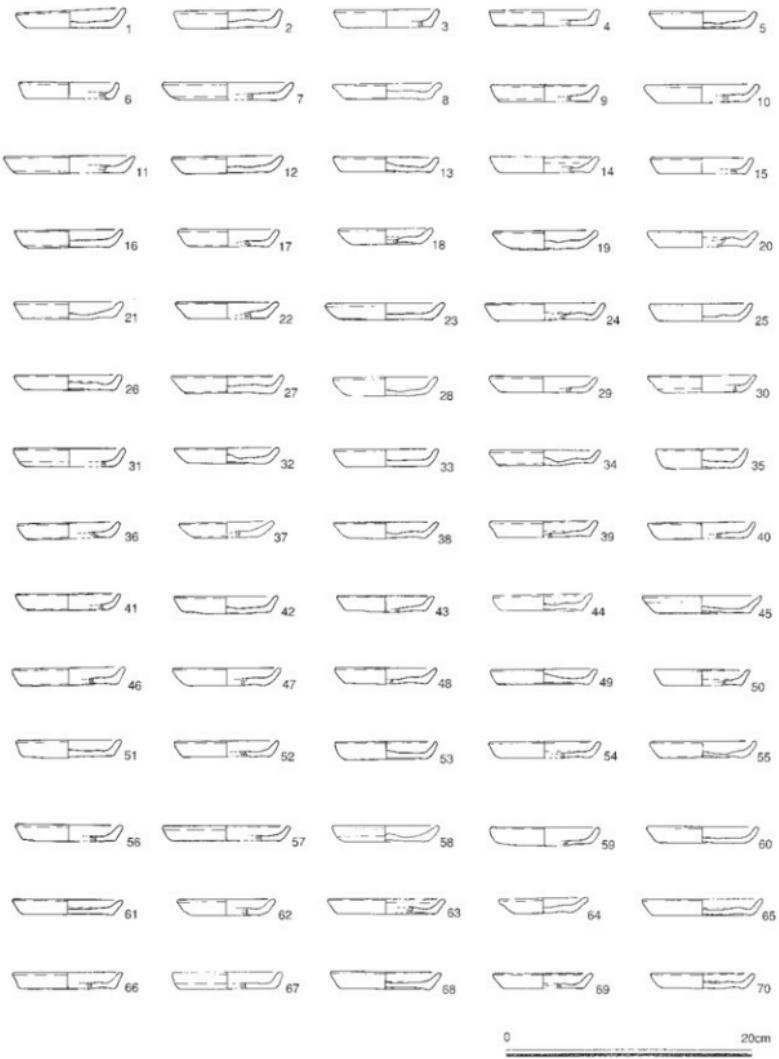
第203図 SX2030出土遺物10



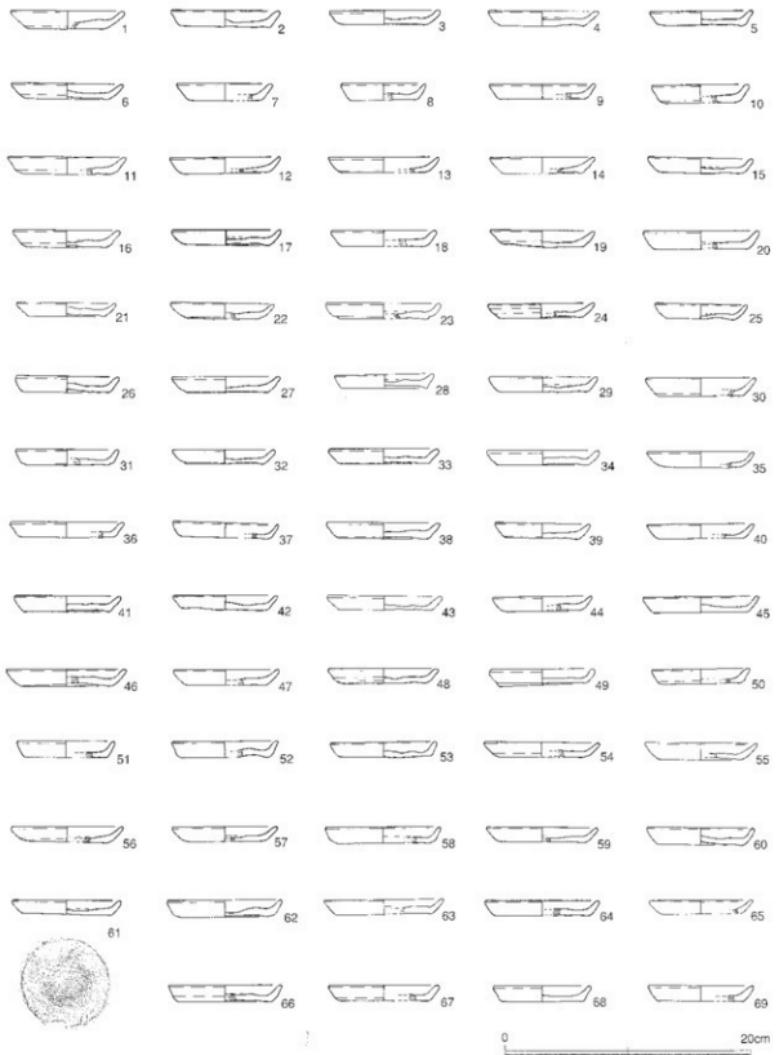
第204図 SX2030出土遺物11



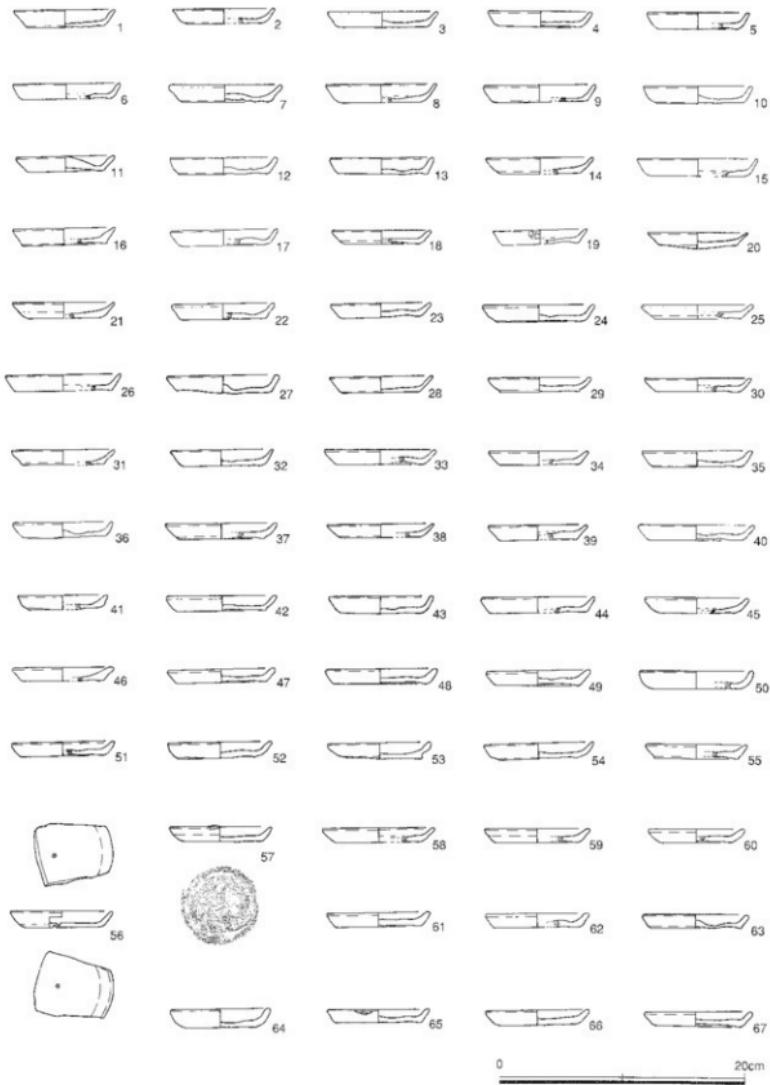
第205図 SX2030出土遺物12



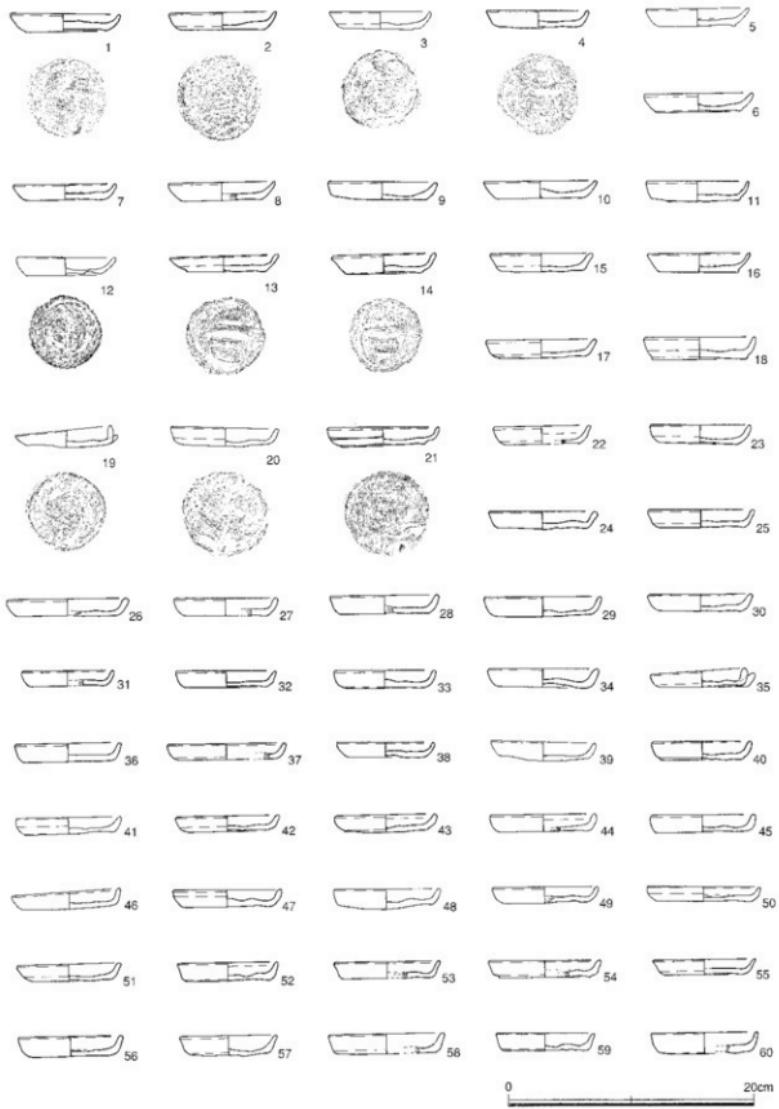
第206図 SX2030出土遺物13



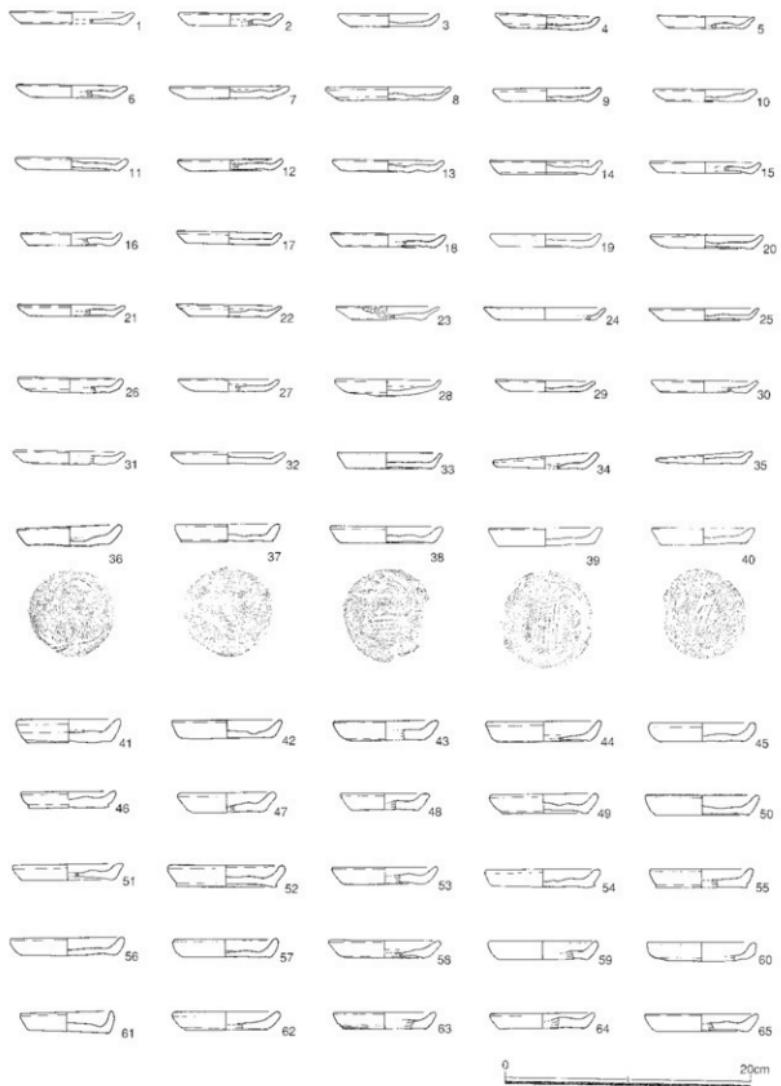
第207図 SX2030出土遺物14



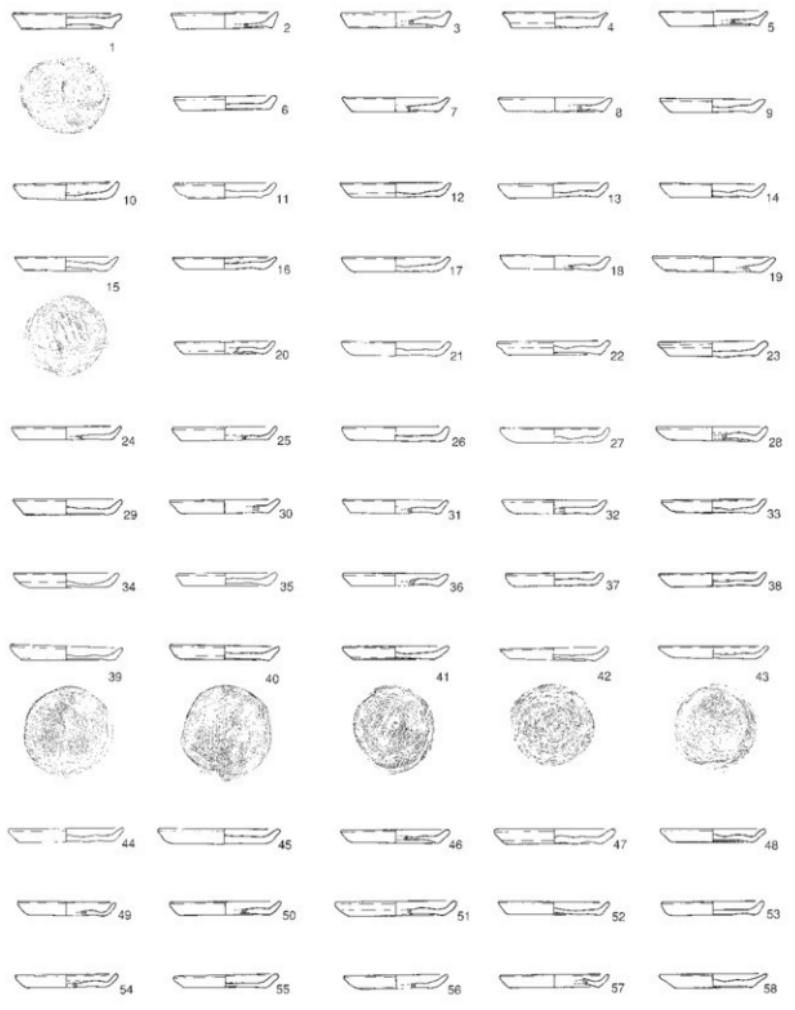
第208図 SX2030出土遺物15



第209図 SX2030出土遺物16

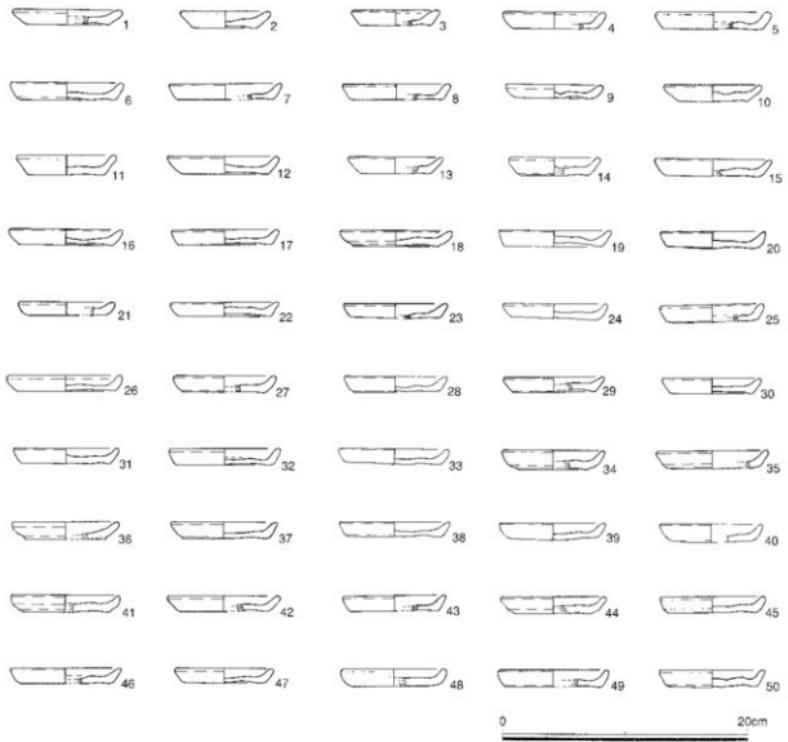


第210図 SX2030出土遺物17

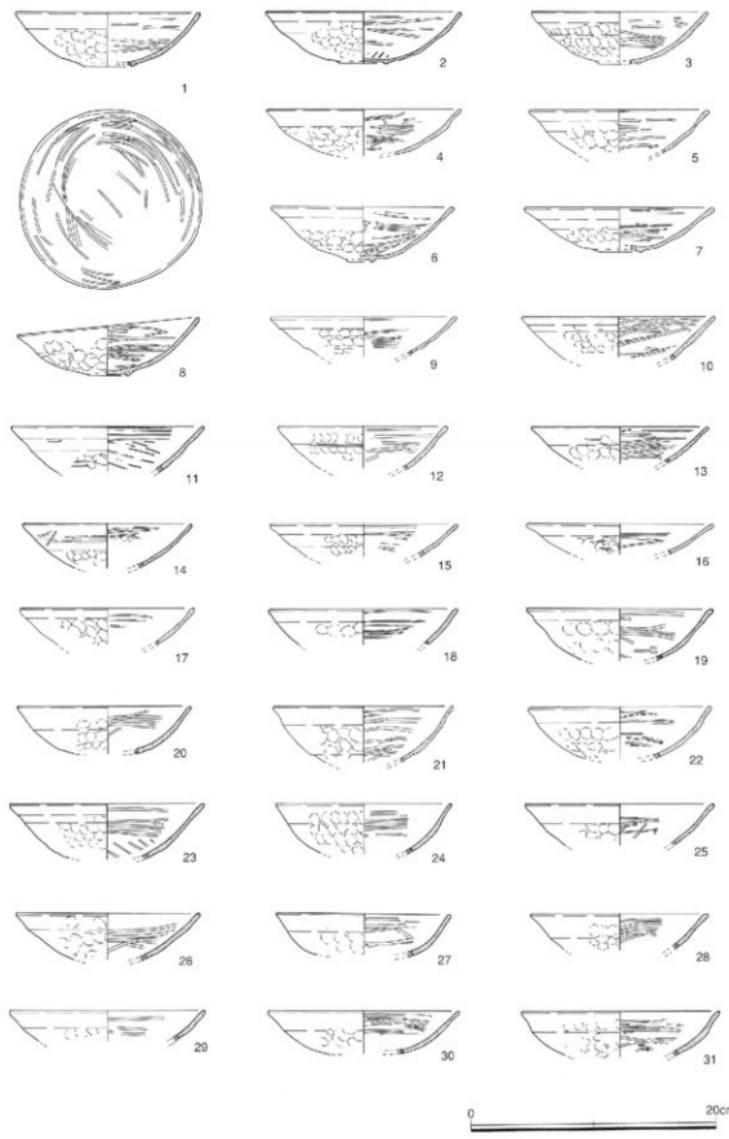


0 20cm

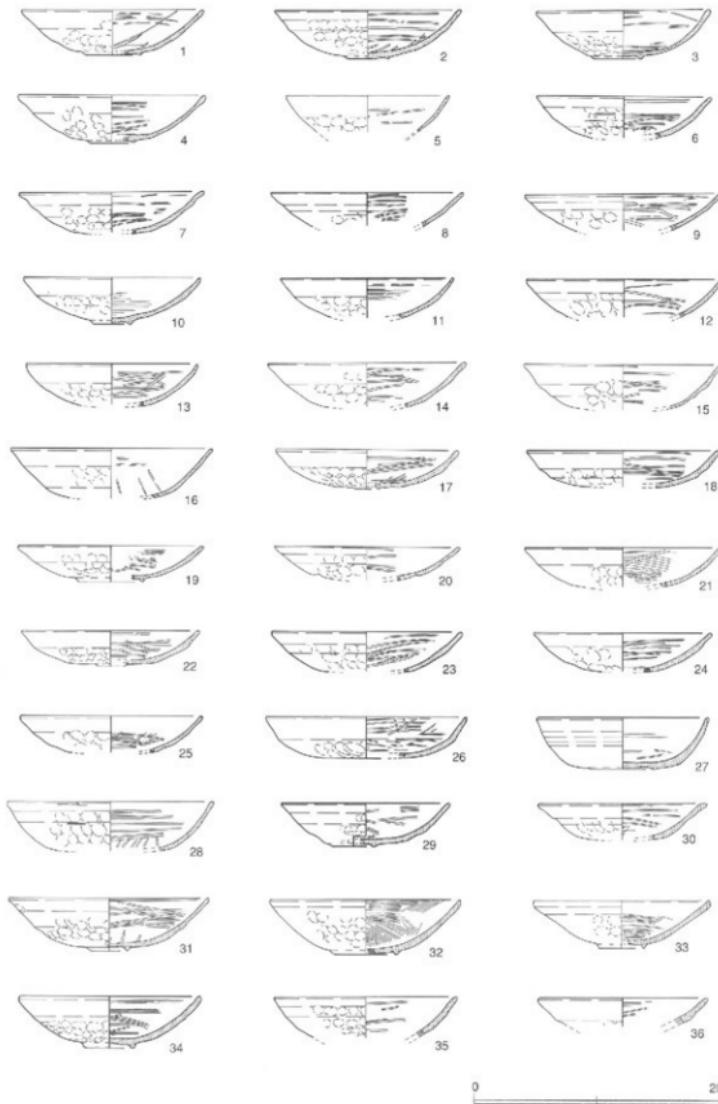
第211図 SX2030出土遺物18



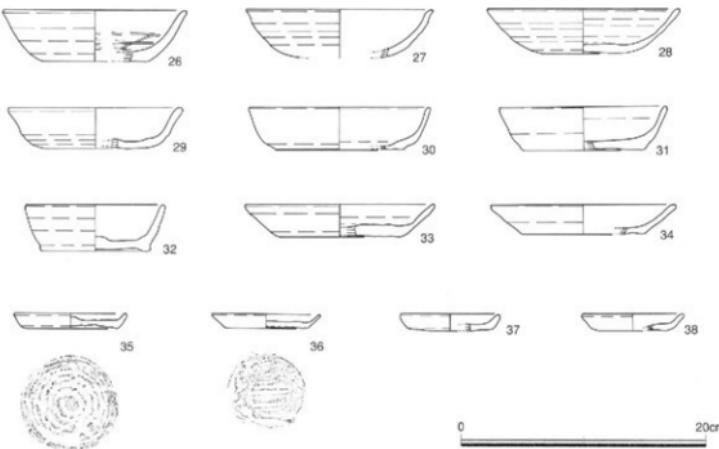
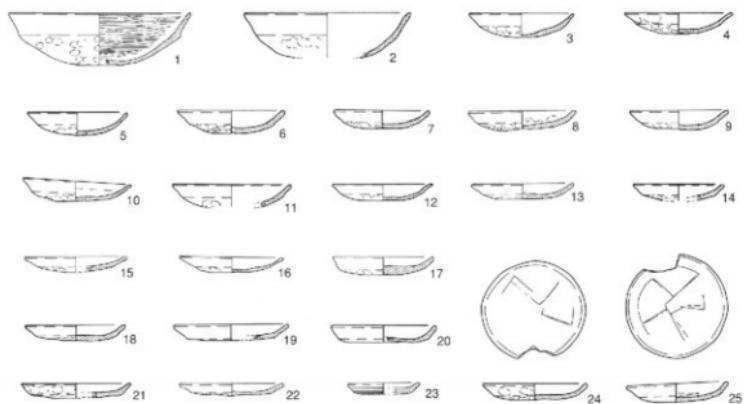
第212図 SX2030出土遺物19



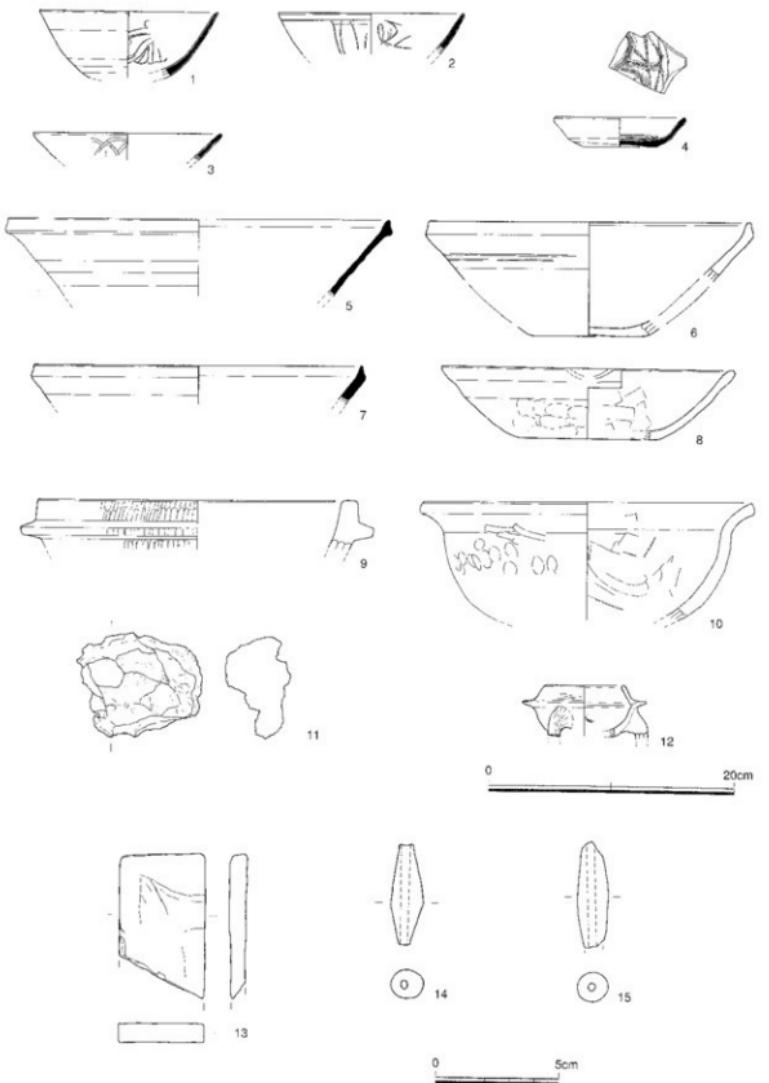
第213図 SX2030出土遺物20



第214図 SX2030出土遺物21



第215図 SX2030出土遺物22



第216図 SX2030出土遺物23

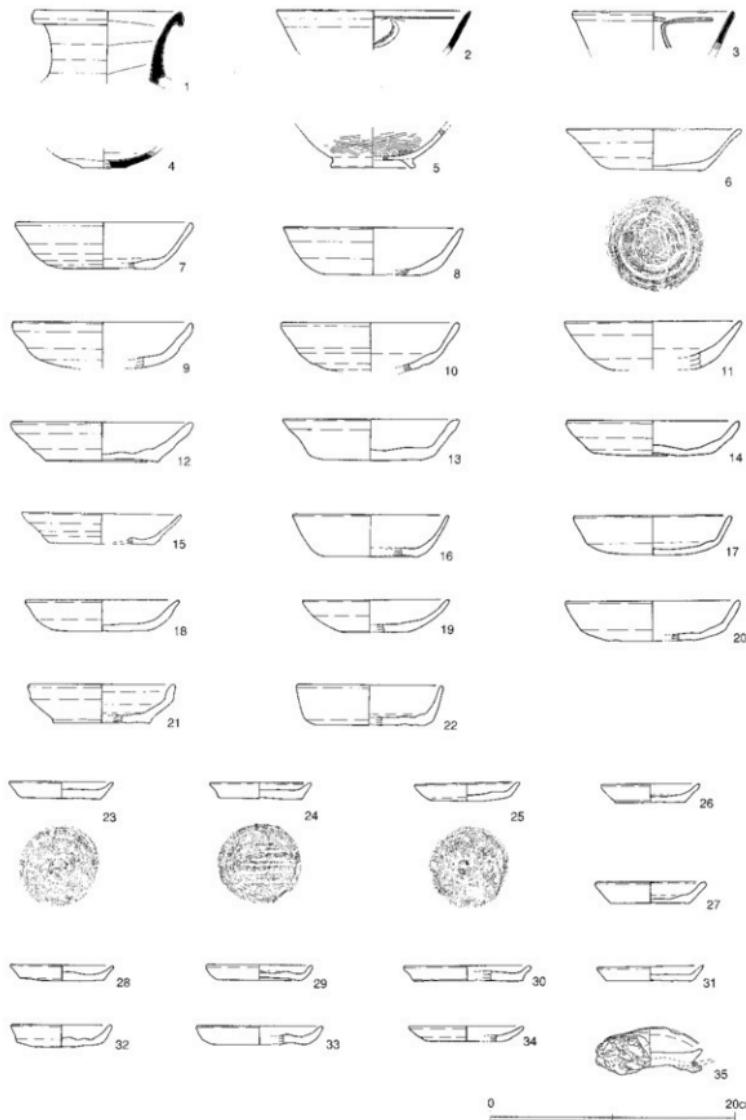


1 黒褐色2.5Y3/2砂質土 (炭化物・土器片を多く含む。上面及び上層10cmの範囲にφ30~50mm程度の円錐形の巣状構造がある。)
2 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土 (炭化物若干含む。3割よりやや砂性強い。)
3 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土 (炭化物・土器片含む。やや砂性強い。)
4 反オリーブ色7.5Y4/2砂質土 (粘性強い、φ10~30mmの円錐を含む。)
5 淡オリーブ色7.5Y4/2砂質土 (粘性強い、φ10~20mmの円錐を含む。)
6 緑オリーブ褐色2.5Y3/3砂質土 (土器片を多く含む。炭化物をわずかに含む。φ10~20mmの円錐を上面に多く含むG。)

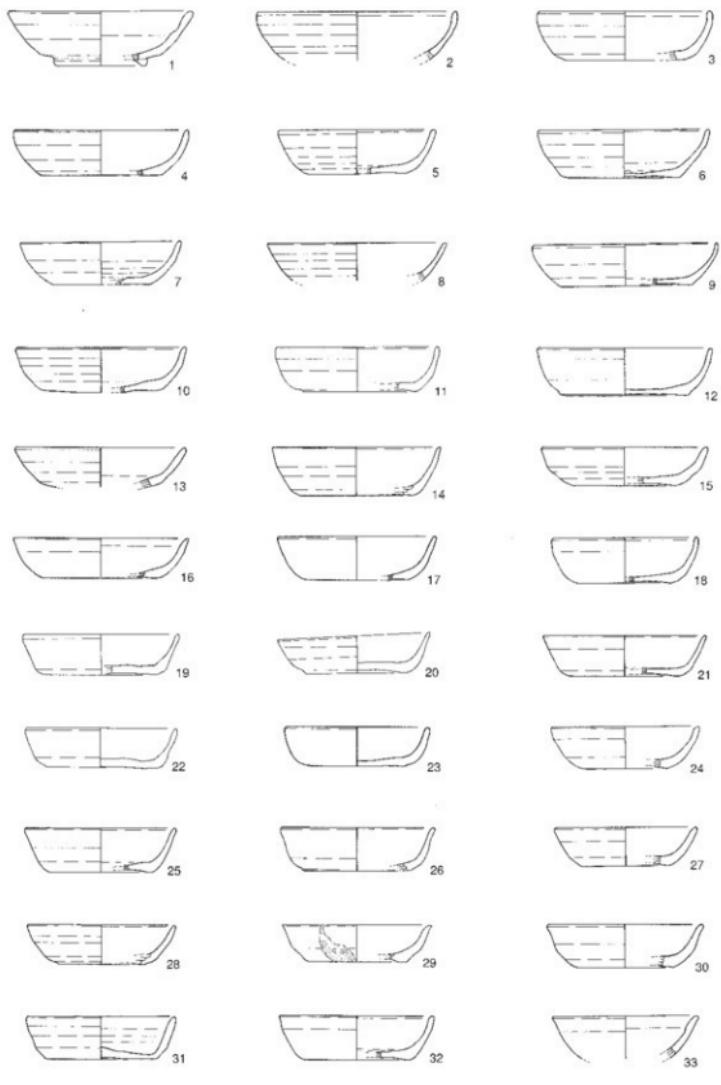
7 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土 (土器片を多く含む。特に中層から上面にかけてが多い。炭化物をわずかに含む。φ20~50mmの円錐を含む。特に14m~18mにかけた14.5~30mmの円錐を多く含む。)
8 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土 (土器片・炭化物を含まない。)
9 黒褐色2.5Y3/2~3砂質土 (炭化物を多く含む部分とそうで炭化物がなる部分がある。少しより他より弱い。粘性弱い。)
10 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土 (土器片をわずかに含む。粘性弱い。)
11 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土 (上面と下面に炭化物を含む。土器片をわずかに含むG。)
12 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土

13 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土 (下面に土器片を含む。炭化物をわずかに含む。)
14 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土 (土器片・炭化物を含まない。)
15 黒褐色2.5Y3/2砂質土・粘質土 (土器片・炭化物を多く含む。φ2~5mmの円錐を含む。)
16 オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土 (土器片・炭化物をわずかに含む。)
17 オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土 (土器片をわずかに含む。)
18 黒色2.5Y2/1砂質土 (炭化物堆積層)

第217図 SX2032平・断面図

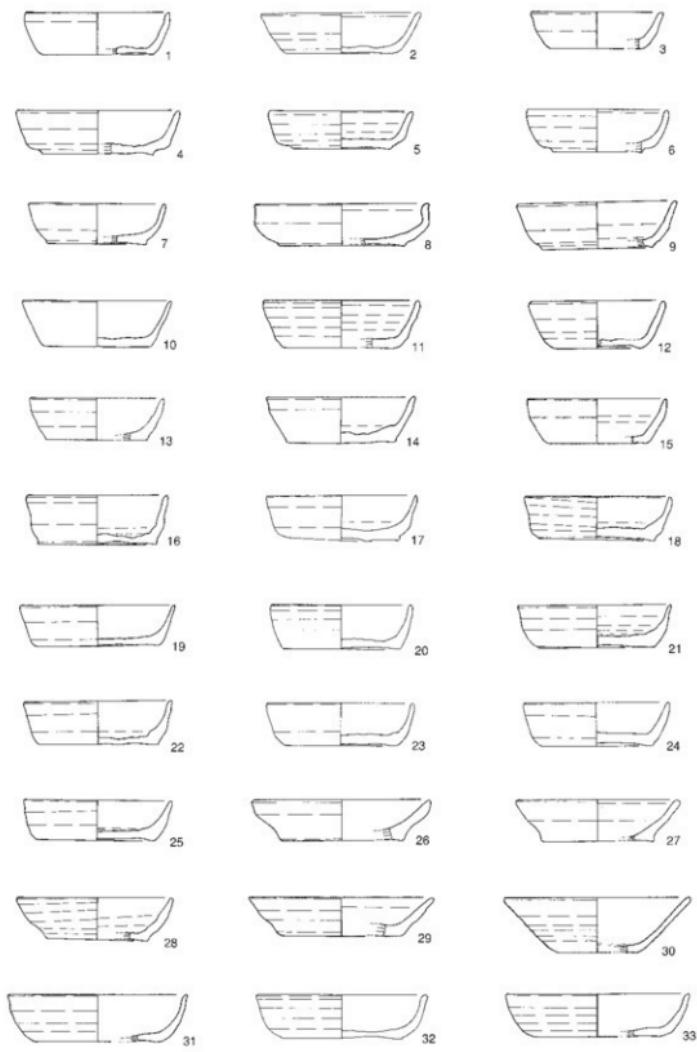


第218図 SX2032出土遺物1



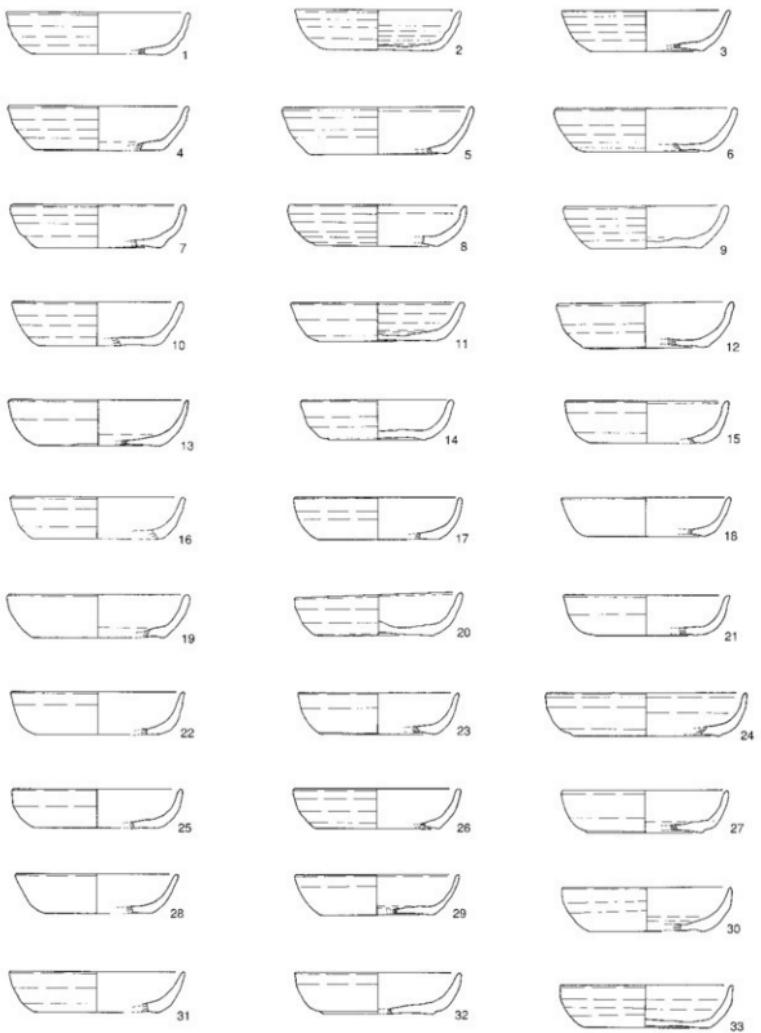
0 20cm

第219図 SX2032出土遺物 2



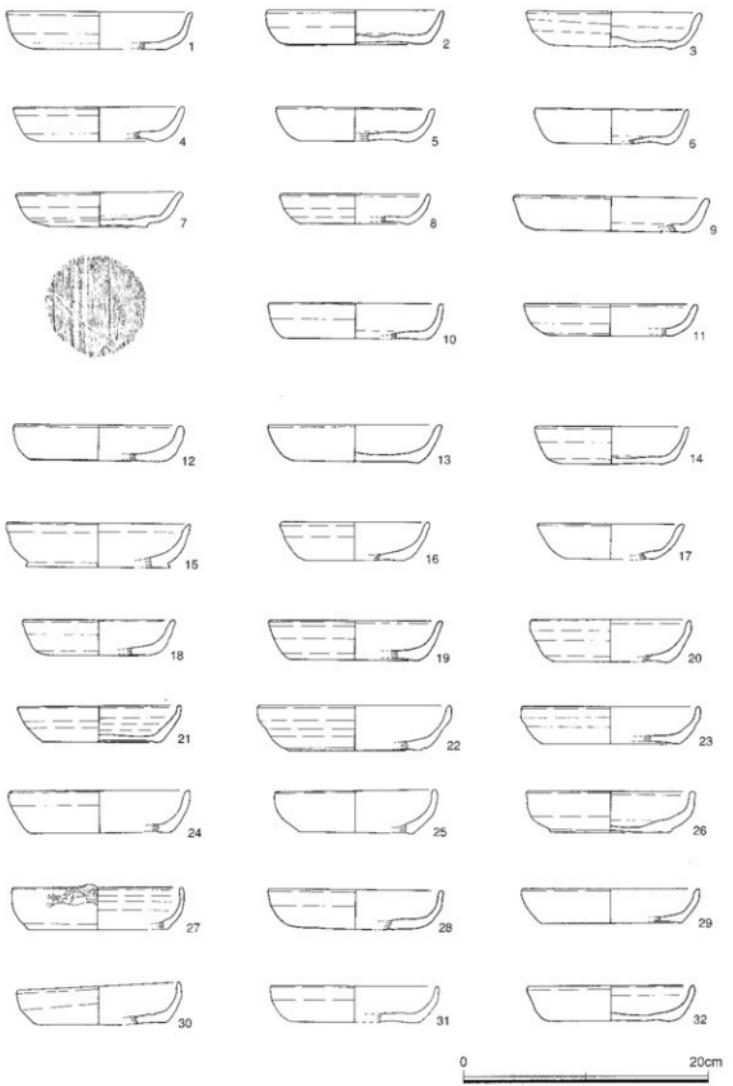
0 20cm

第220図 SX2032出土遺物3

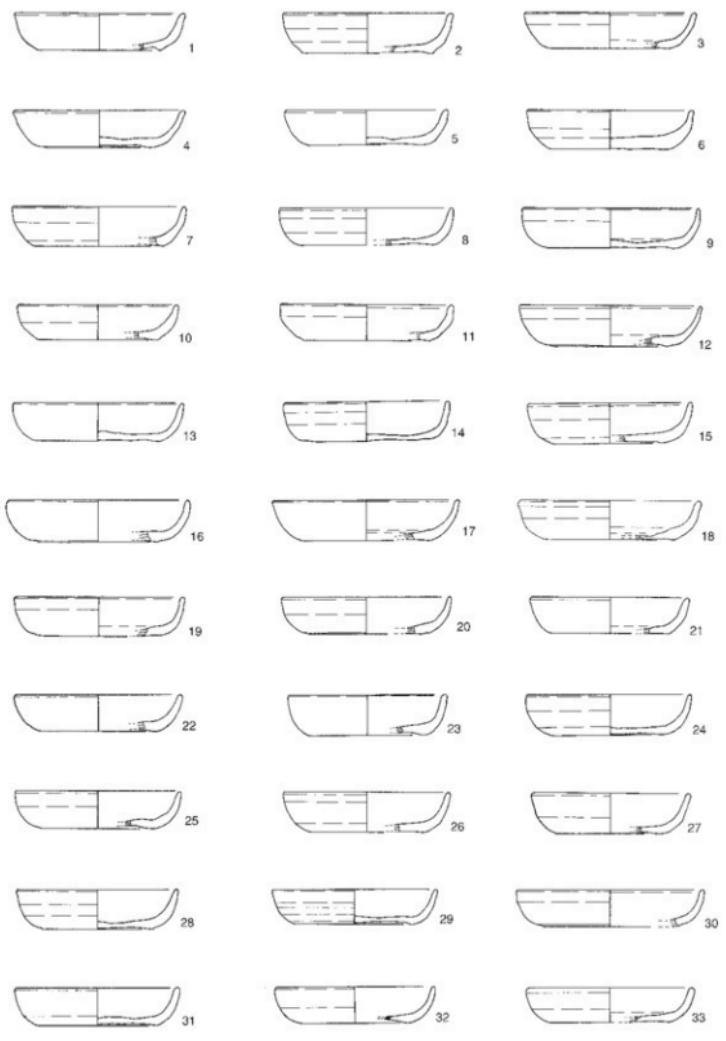


0 20cm

第221図 SX2032出土遺物 4

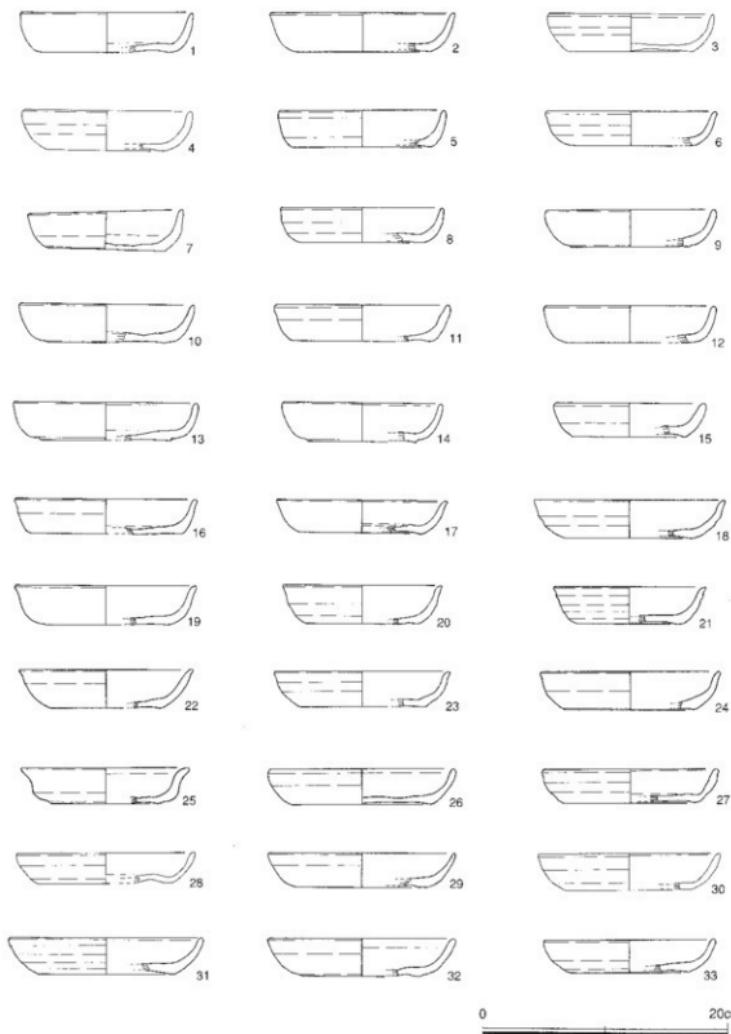


第222図 SX2032出土遺物 5

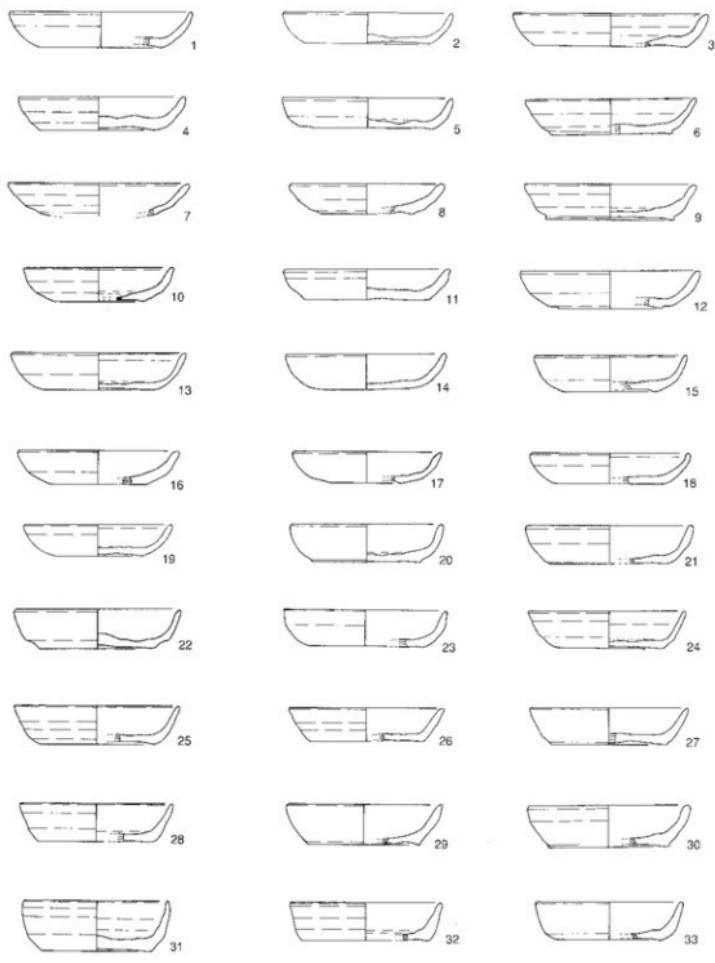


0 20cm

第223図 SX2032出土遺物 6

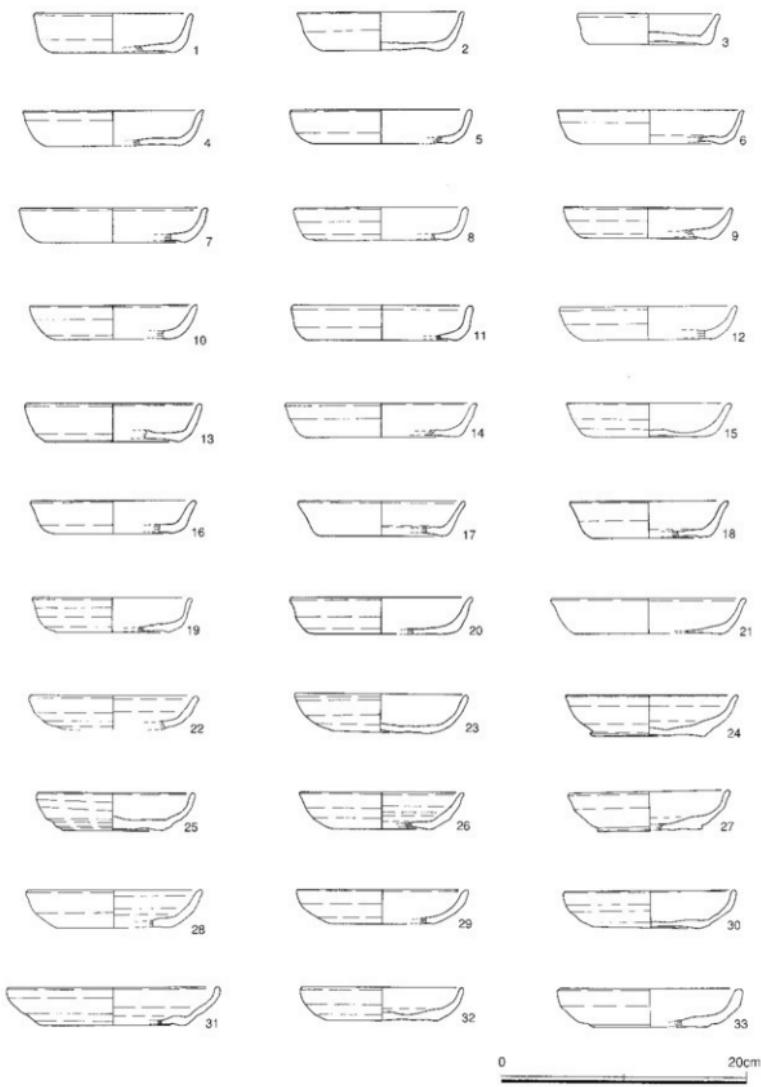


第224図 SX2032出土遺物 7

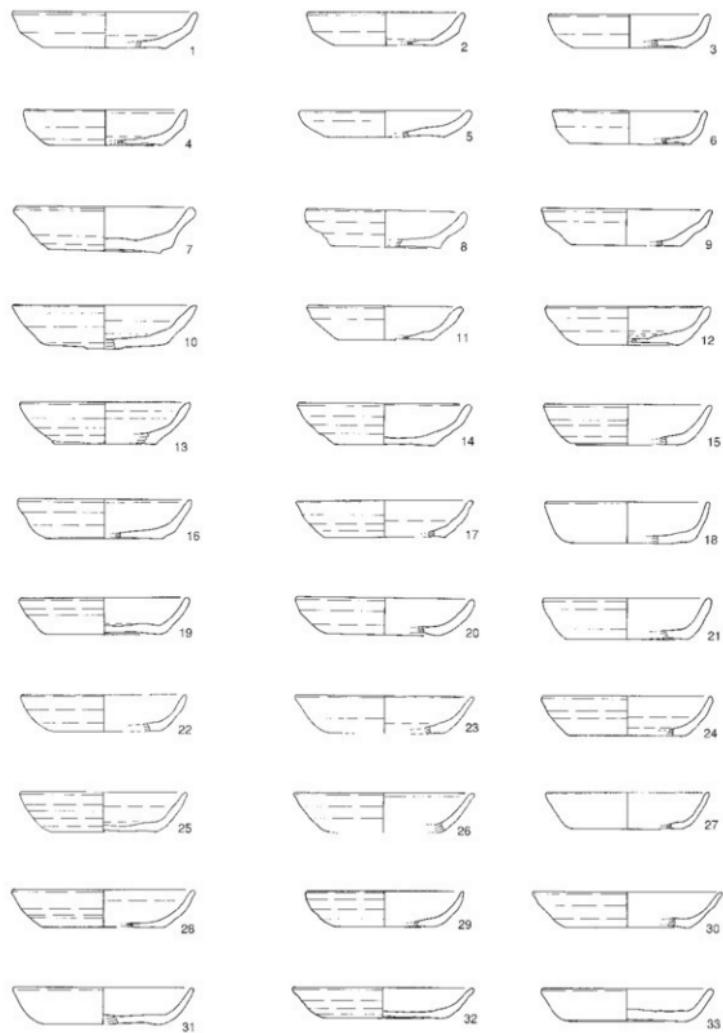


0 20cm

第225図 SX2032出土遺物 8

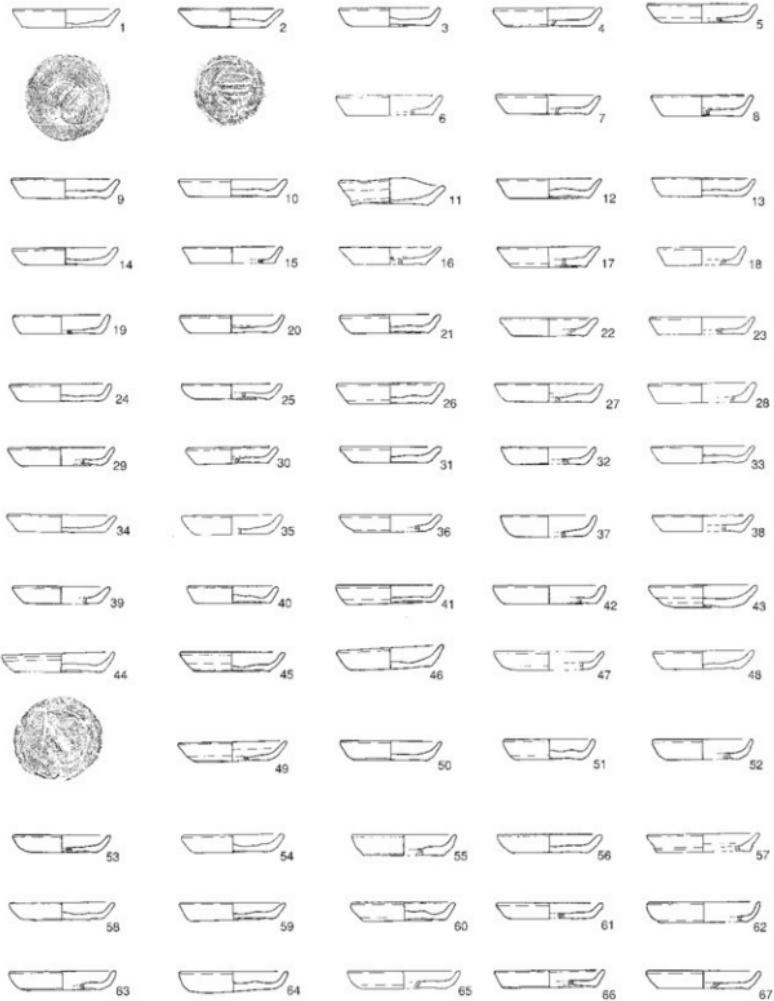


第226図 SX2032出土遺物 9

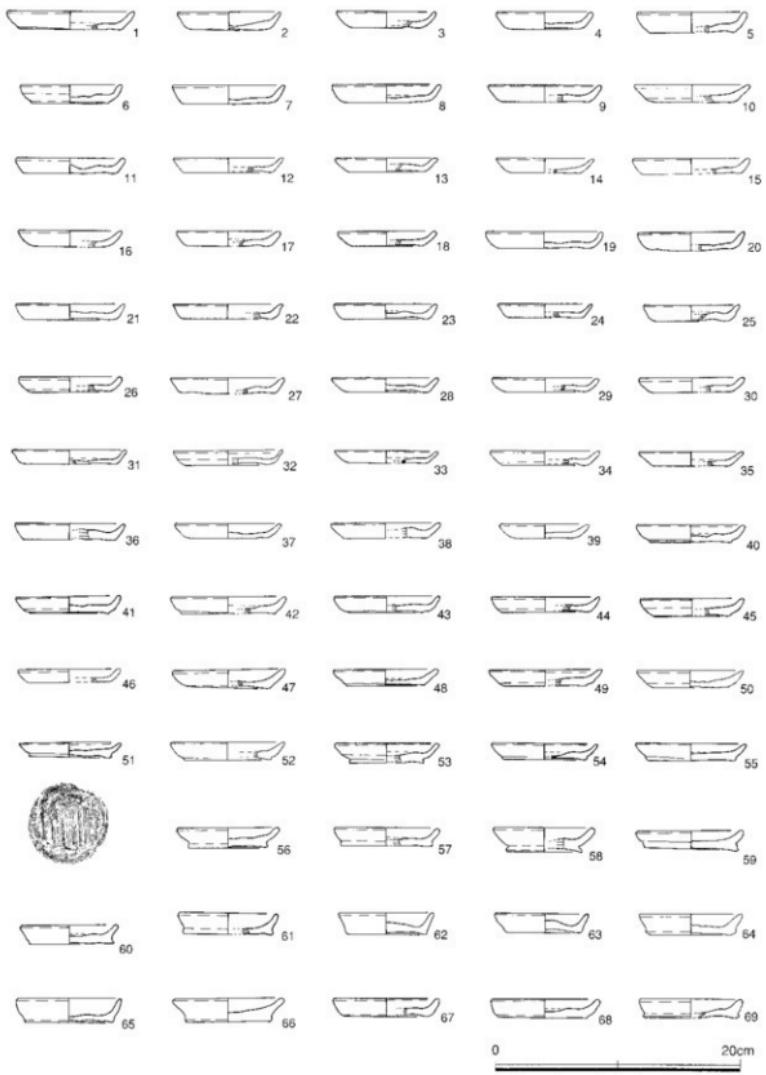


0 20cm

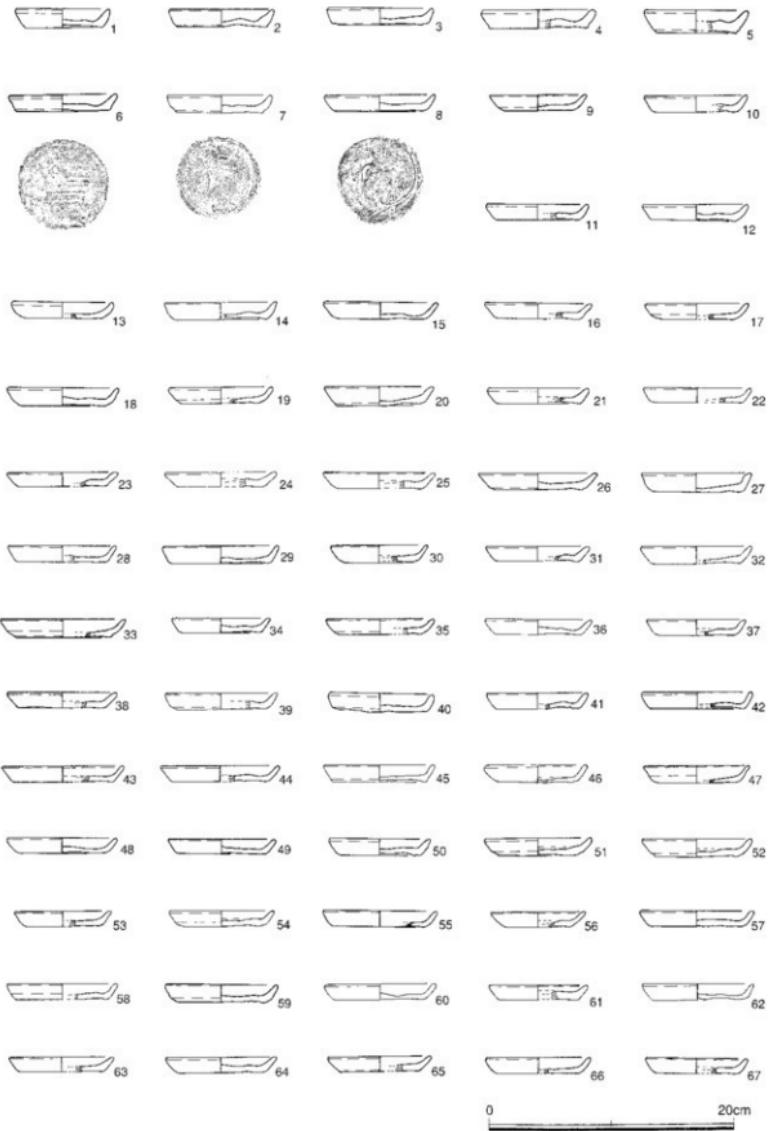
第227図 SX2032出土遺物10



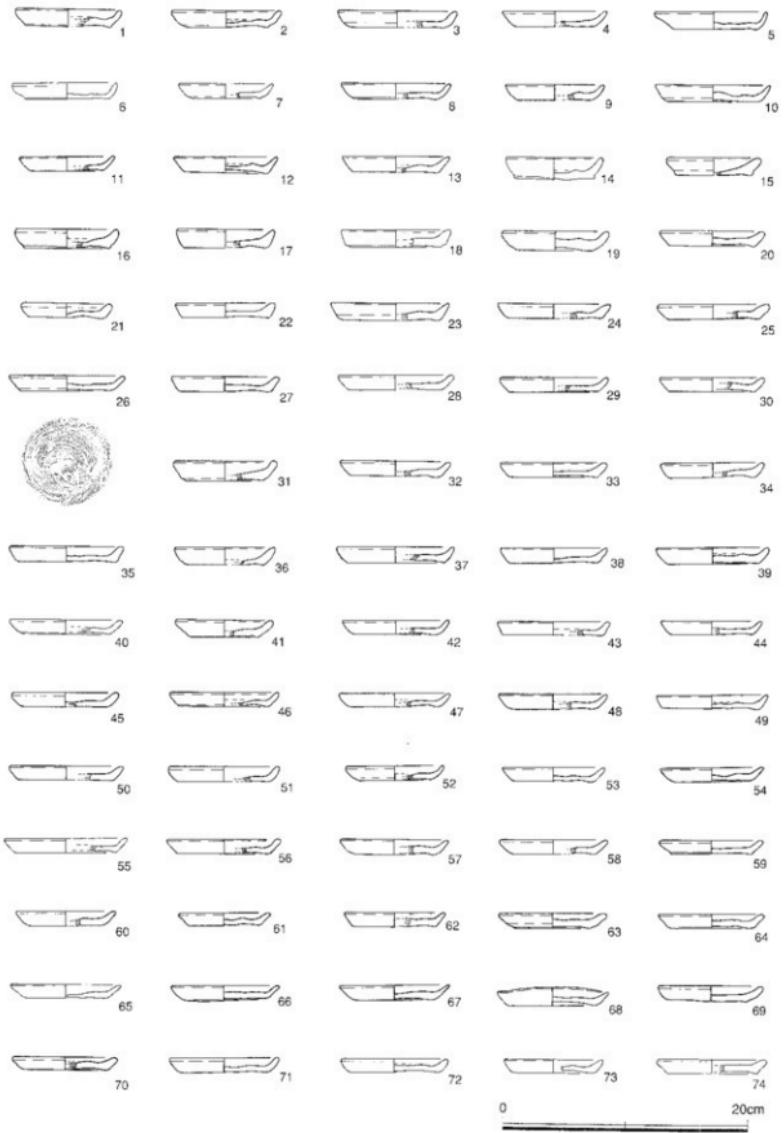
第228図 SX2032出土遺物11



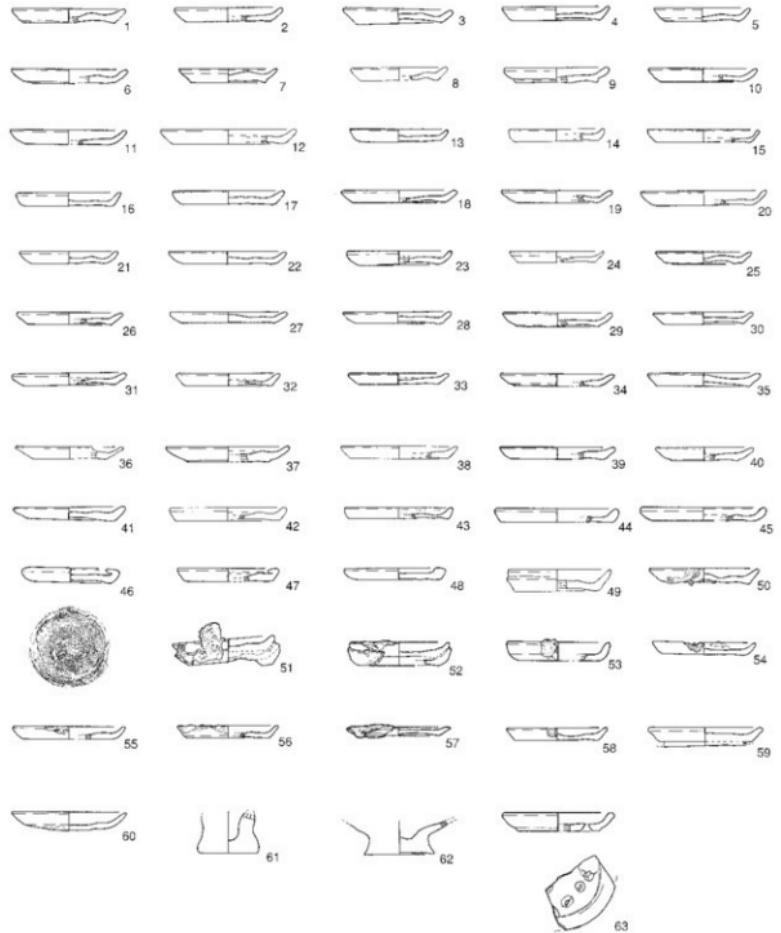
第229図 SX2032出土遺物12



第230図 SX2032出土遺物13

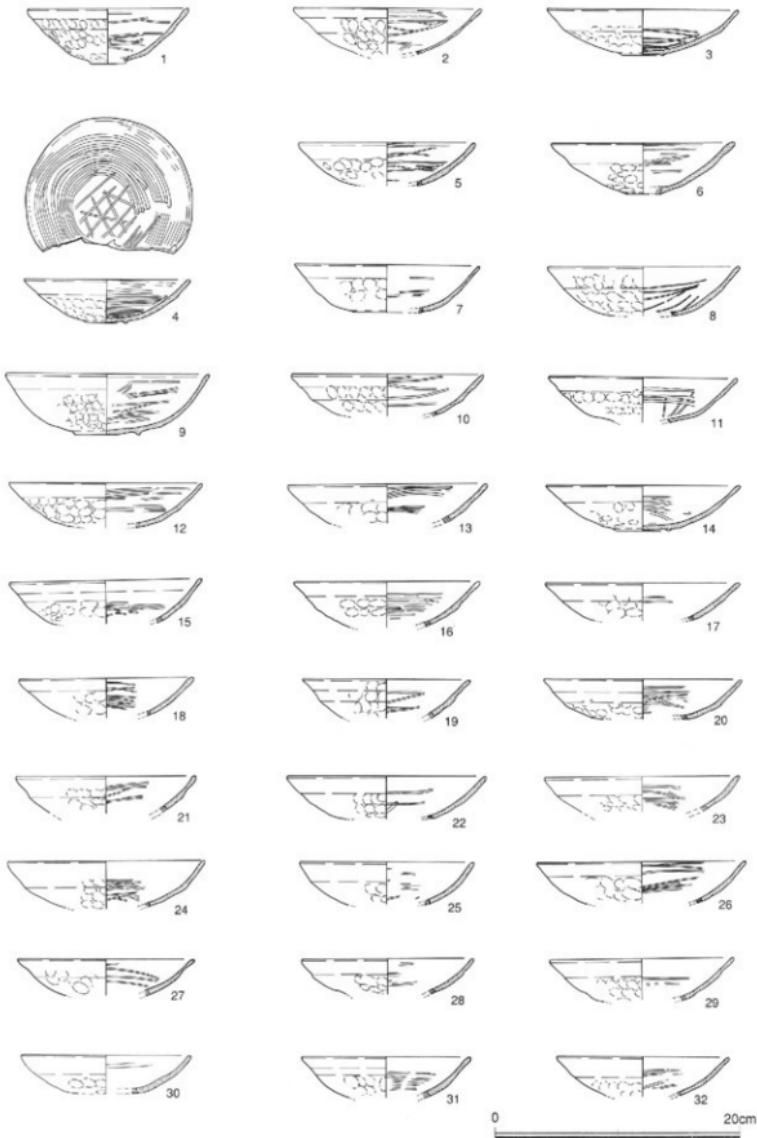


第231図 SX2032出土遺物14

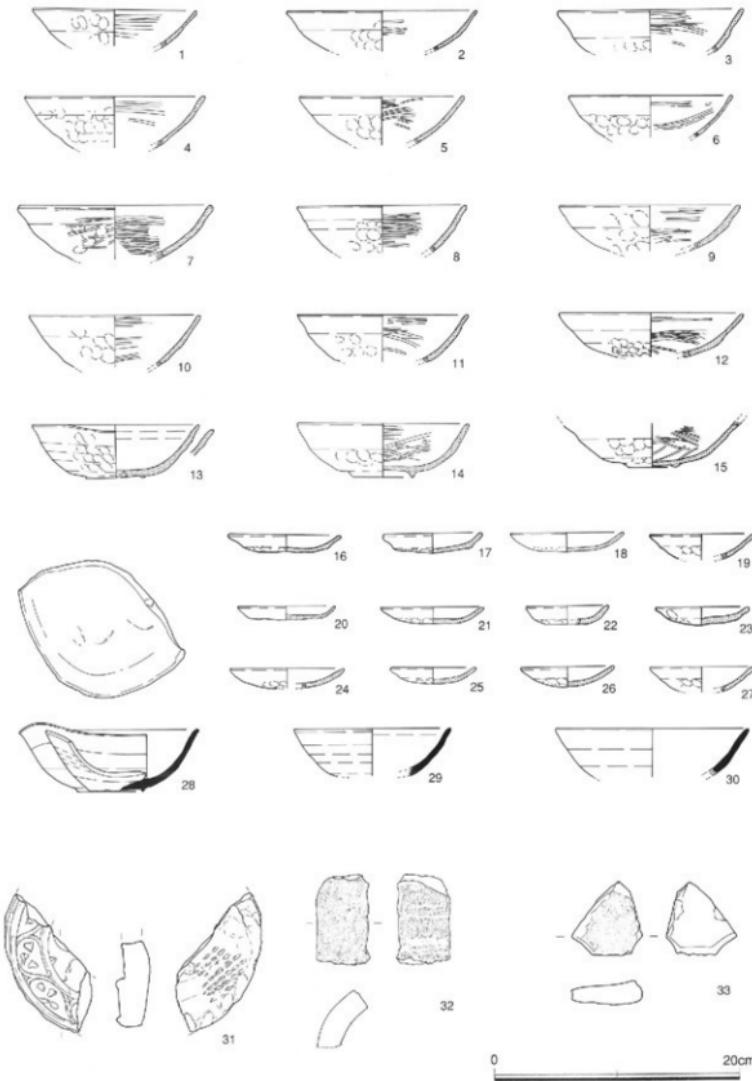


0 20cm

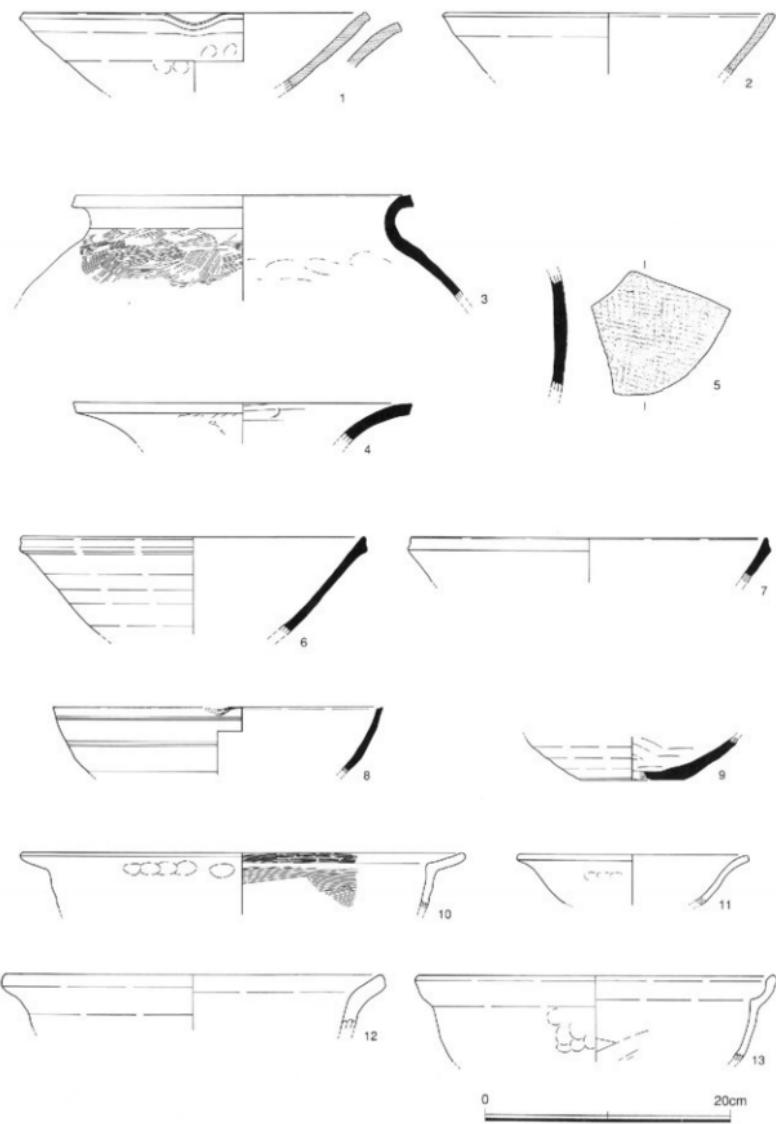
第232図 SX2032出土遺物15



第233図 SX2032出土遺物16

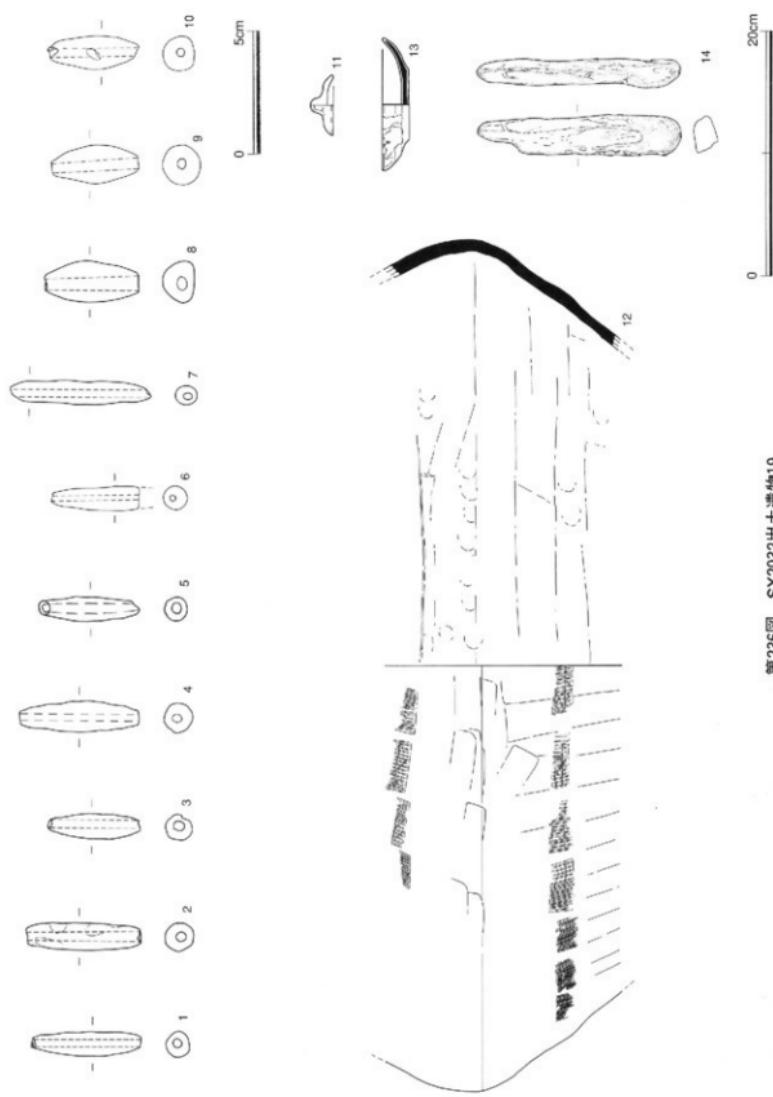


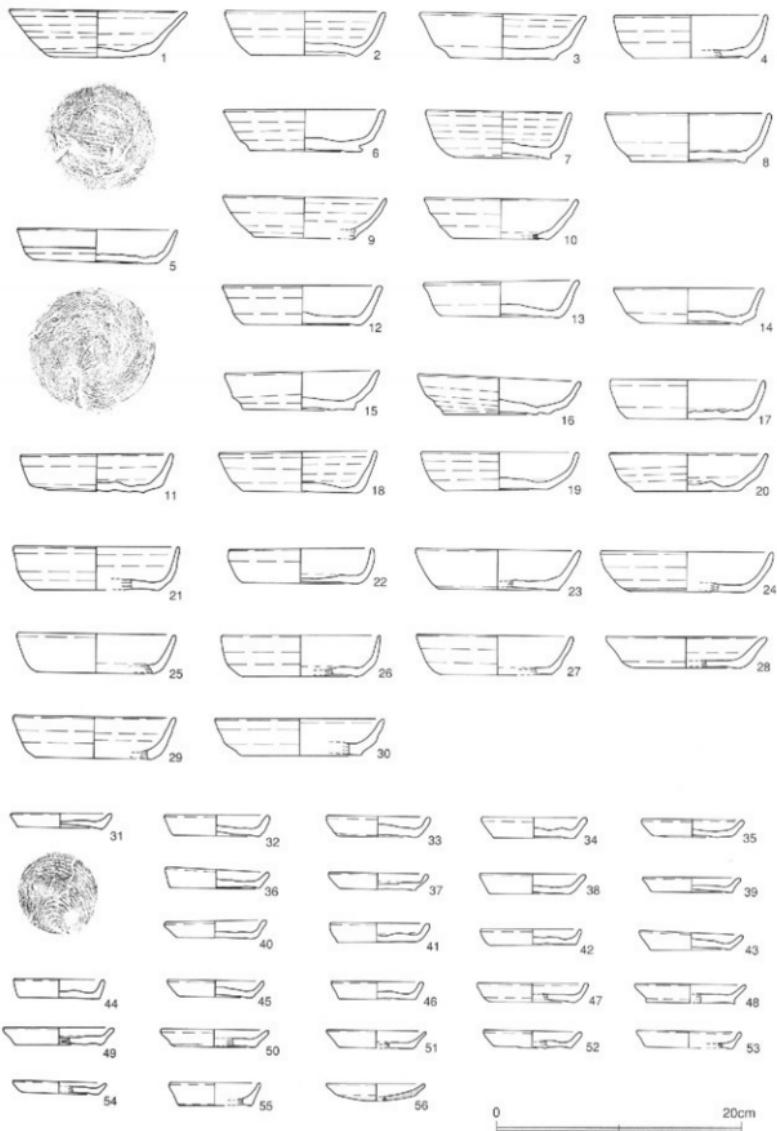
第234図 SX2032出土遺物17



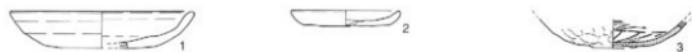
第235図 SX2032出土遺物18

第236図 SX2032出土遺物19

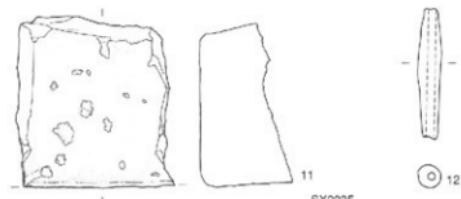
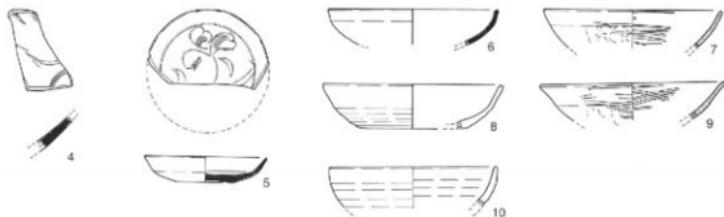




第237図 SX2033出土遺物

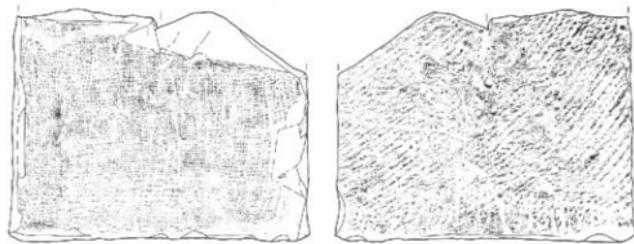


SX2034



SX2035

0 10cm



SX2036

0 20cm

第238図 SX 出土遺物 (2034・2035・2036)

く、ほぼ法量が揃う。やや内彎する体部をもち、底部の切り離し技法は回転糸切りである。瓦器椀はそのほとんどが和泉型の搬入品である。時期的には概ね尾上分類の和泉型瓦器椀Ⅲ・1～2期に収まるものと思われる。また窯等の壁体と思われる焼粘土塊や土器外面にスラグが付着しているものもみられた。

SX2033

O-31・32、不定形の浅い溝状を呈する遺構である。遺構のプランは不明瞭である。遺構内からは、土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第237図）

土師質土器の杯・皿類が出土している。完形品もみられるが、多くは破損している。完形品はほぼ法量が揃う。やや内彎する体部をもち、主体となる底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SX2034

O-28、円形状の遺構である。遺構のプランは不明瞭である。遺構内からは、土師器・土師質土器・瓦器などが出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第238図）

土師質土器の杯・皿類が出土している。円碟（玉砂利）層に混入するような状態で出土している。完形品もみられるが、多くは破損している。完形品はほぼ法量が揃う。やや内彎する体部をもち、主体となる底部の切り離し技法は回転糸切りである。

SX2035

O-27、円形状の遺構である。遺構のプランは不明瞭である。遺構内からは青磁・瓦器・土師質土器の杯・皿類が出土している。出土遺物等から、時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第238図）

輸入磁器・土師質土器の杯・皿類が出土している。円碟（玉砂利）層に混入するような状態で出土している。完形品もみられるが、多くは破損している。完形品はほぼ法量が揃う。やや内彎する体部をもち、主体となる底部の切り離し技法は回転糸切りであるが、回転ヘラ切りも混在している。11は片岩の角碟の一部で表面が摩滅している。

SX2036

J-15、不定形の遺構である。遺構のプランは不明瞭である。遺構内からは、土師質土器の杯・皿類が出土しているが、いずれも小片である。出土遺物等から時期的には13世紀後半頃と思われる。

出土遺物（第238図）

輸入磁器・土師質土器の杯・皿類が出土している。円碟（玉砂利）層に混入するような状態で出土している。多くは破損しており、実測可能なものは少ない。13は須恵質の平瓦である。

(3) 第3遺構面（平安時代）

第3遺構面（平安時代前半：8世紀後半～9世紀頃）

第3遺構面は、主に調査区西半でその抜がりが確認され、小穴・溝・土坑など約300基の遺構が検出された。遺構としては、溝・土坑・掘立柱建物跡と思われる柱穴群・豎穴状遺構などがみられるが、密度は粗である。

調査区は南瀬川に沿って東西に約300mと長く、地点により遺構面・遺構・遺物の粗密がみられる。概して調査区西側、寺山に向かって遺構・遺物ともに増大する傾向にある。

遺構内埋土はやや不明瞭で赤褐色を呈するものが基本で、第2遺構面のものとは容易に識別できる。土師器の杯・皿などが出土しているが、出土遺物量は少ない。土師器杯・皿の内底面および外底面にはヘラ記号が線刻されるものもみられる。

出土遺構（第15・16図）

SR（自然流路）

SD2001を踏襲したかたちで確認された旧河道（流路）である。SD2001の下層にあたる。出土遺物は時期的に多岐にわたっているが、主に古墳時代後期～古代の遺物が出土しているが、層位的には安定して出土していない。

SR3001

SD2001を踏襲したかたちで確認された旧河道（流路）である。SD2001の下層にあたる。出土遺物は時期的に多岐にわたっているが、主に古墳時代後期～古代の遺物が出土している。層位的には安定して出土していないため、出土遺物の層位的な序列は難しい。

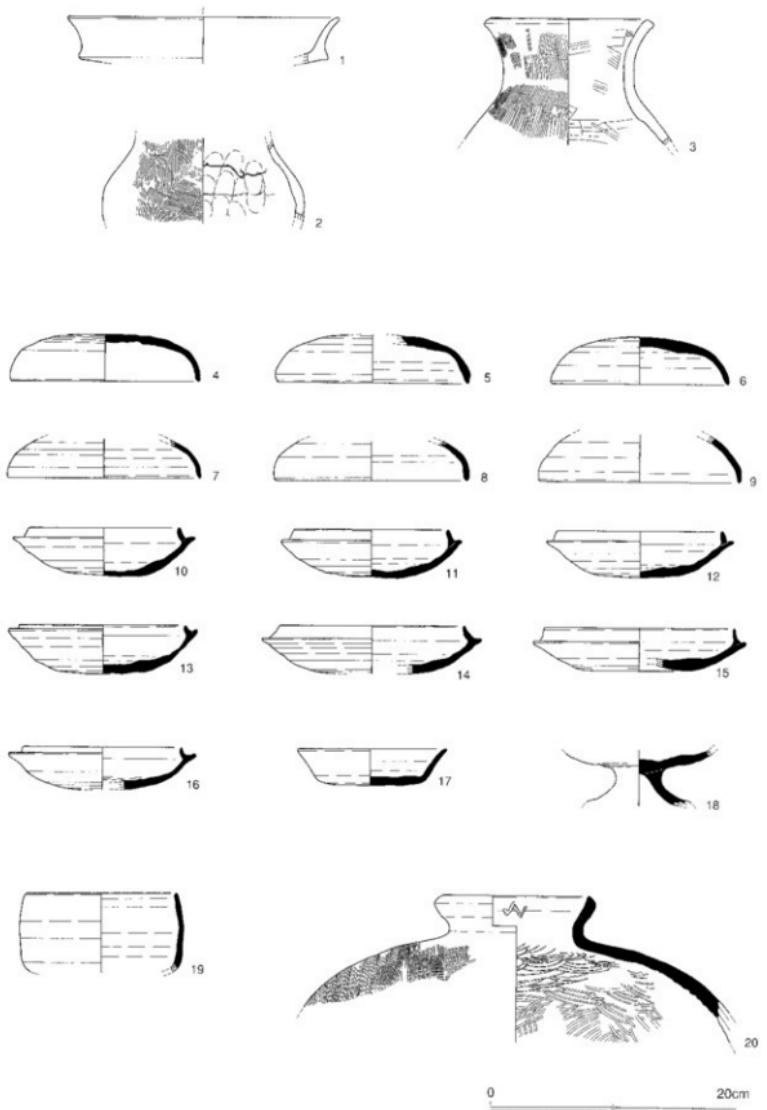
出土遺物（第239～244図）

出土遺物には弥生土器・土師器・須恵器・木製品等があるが完形品は少ない。上記のような分層に従い、年代ごとの分離を目指したが、ごく少量の弥生時代後期の土器・古墳時代前期の土師器・古墳時代後期半の土師器・須恵器は、年代と層序との相関関係がない出土状況である。出土遺物の多くは西肩付近に集中していた。

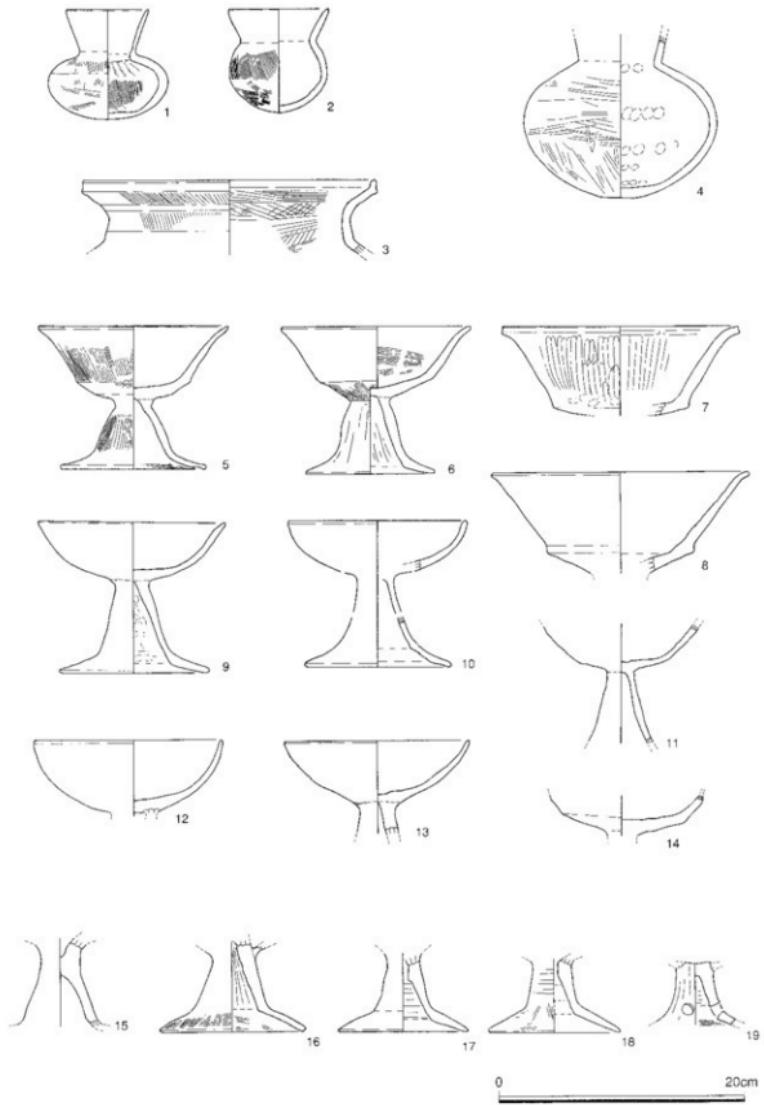
若干の木製品が出土したが、小片で量的には少なく、実測できるものはなかった。遺物の出土は全般的に廃棄された状況であるが、遺物の多い層位は堆積土の砂礫ではなく、シルトあるいは砂質土であり、廃棄位置からの三次的な移動はほとんどなかったと推定される。

SD（溝・溝状遺構）

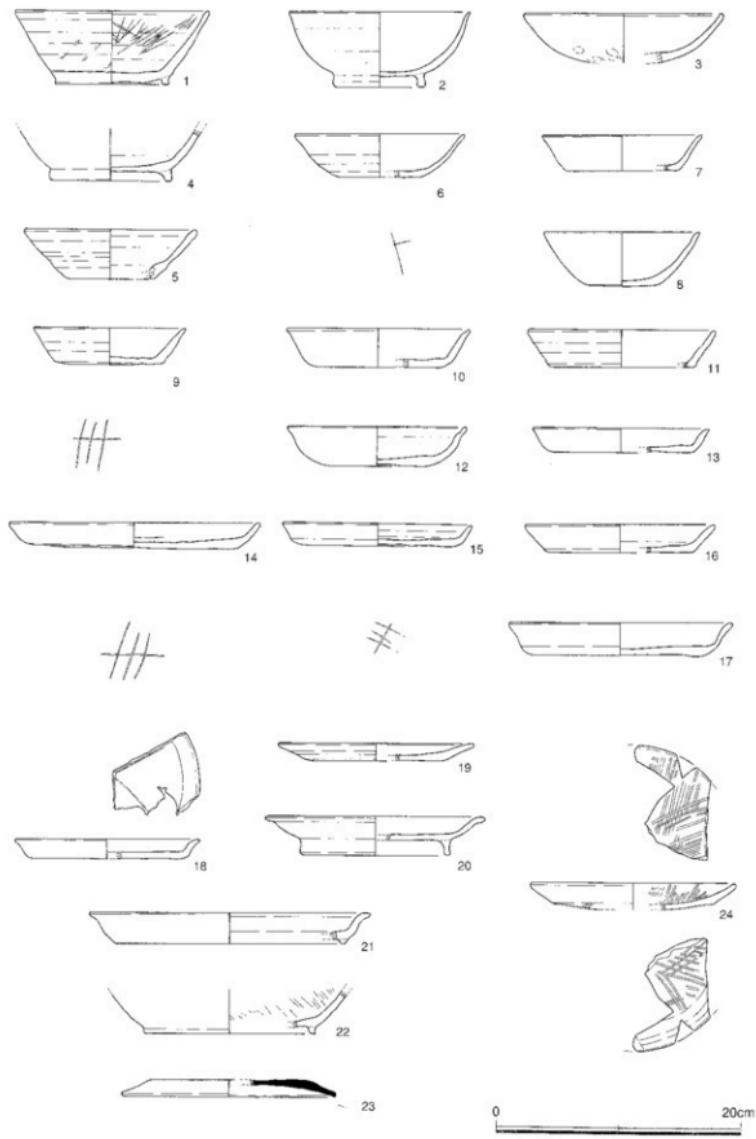
第3遺構面においてSDとしたものは10条ある。区画あるいは利水目的のための構築と思われるが、これらの溝の多くは、不明瞭な平面プランであり、全容の把握できるものは少ない。



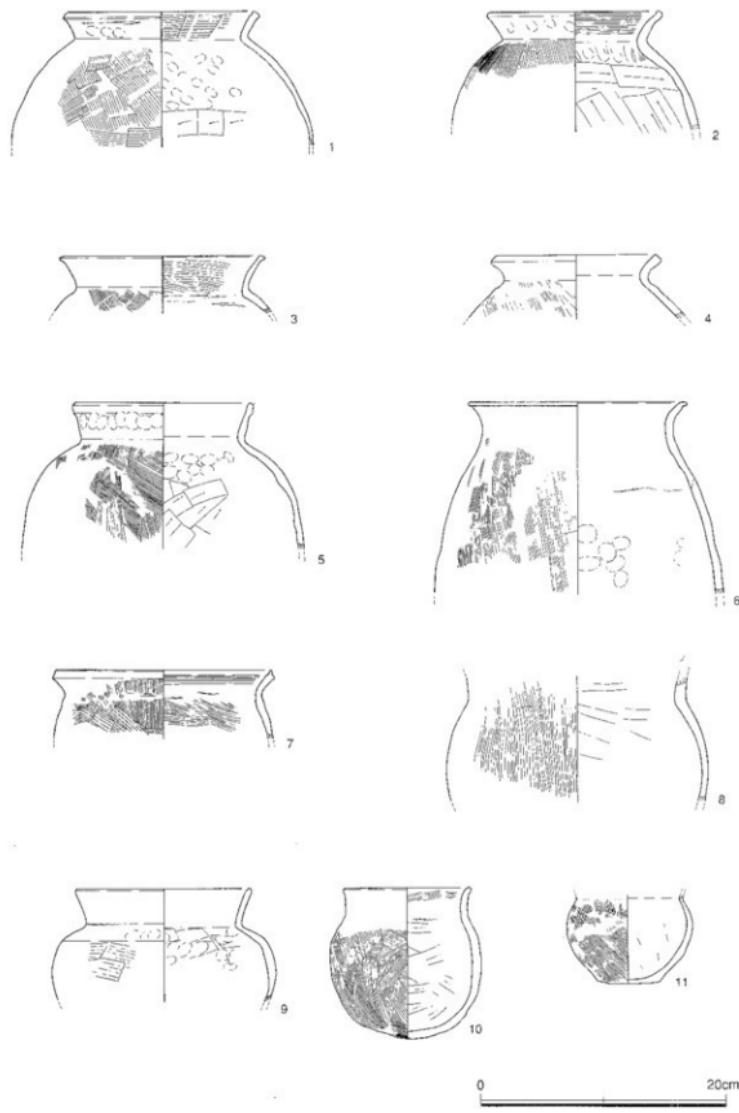
第239図 SR3001出土遺物 1



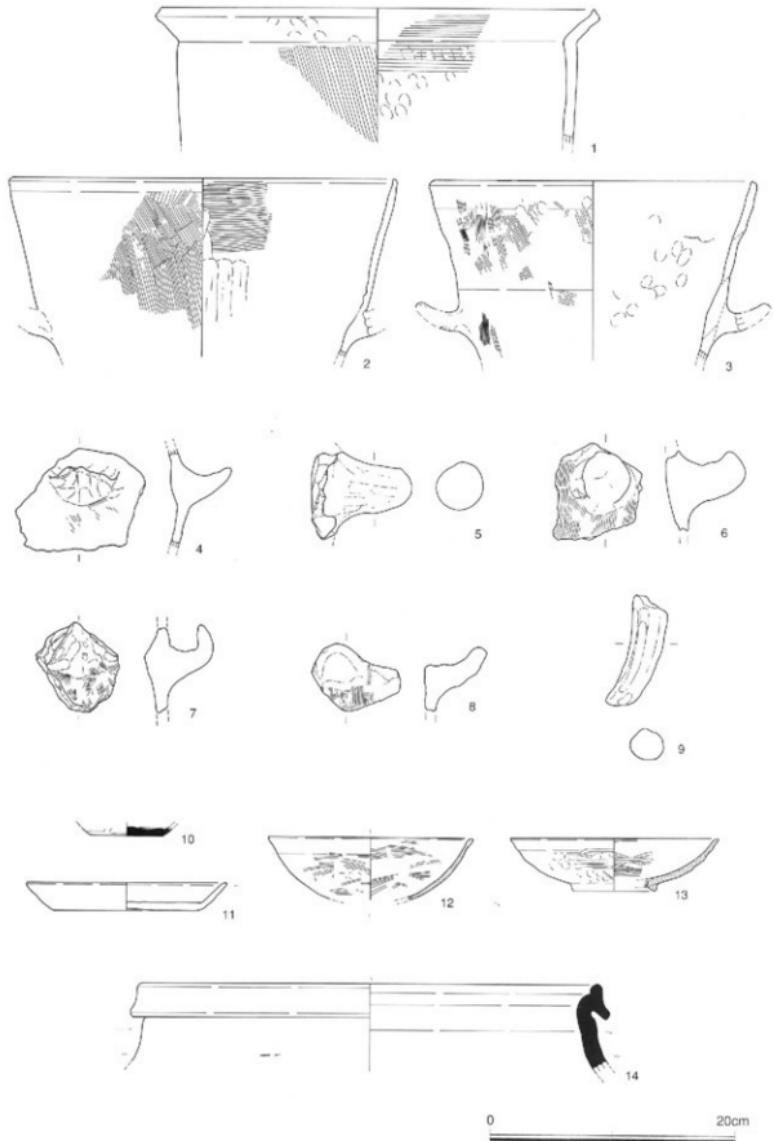
第240図 SR3001出土遺物 2



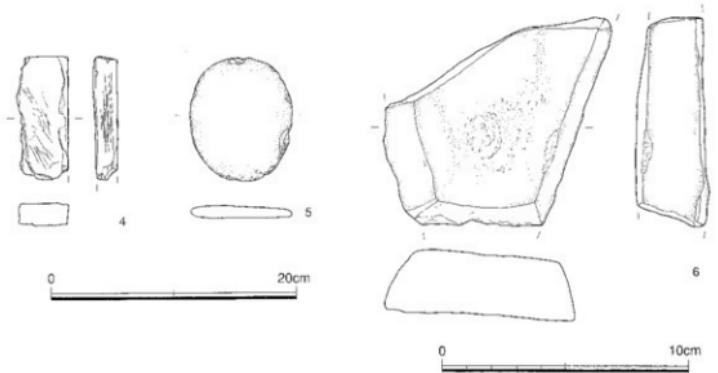
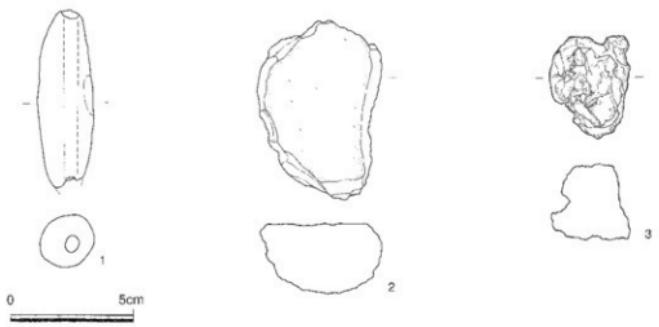
第241図 SR3001出土遺物 3



第242図 SR3001出土遺物 4



第243図 SR3001出土遺物 5



第244図 SR3001出土遺物 6

SD3001

南北に延びる浅い溝状遺構である。北端は SR3001と切り合う。黒色土器・土師器の椀・杯・皿類などが出土しているが、出土遺物量は少ない。出土遺物等から 9世紀頃のものと思われる。

出土遺物（第245図）

土師器が主体として出土している。色調は赤褐色を呈し、焼成はやや軟質である。土師器の杯・皿類の底部切り離し技法は回転ヘラ切りである。

SD3002

SD3001に向かって南北に延びる浅い溝状遺構である。北端は消失する。土師器・黒色土器・須恵器などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

出土遺物（第246図）

土師器・黒色土器・須恵器などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。概ね 9世紀頃のものと思われる。

SD3005

第2遺構面の残穴と思われる東西に延びる浅い溝状遺構である。土師質土器・土師器などが出土しているが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

出土遺物（第246図）

土師質土器・土師器などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。概ね 9世紀頃のものと思われる。

土坑（SK）

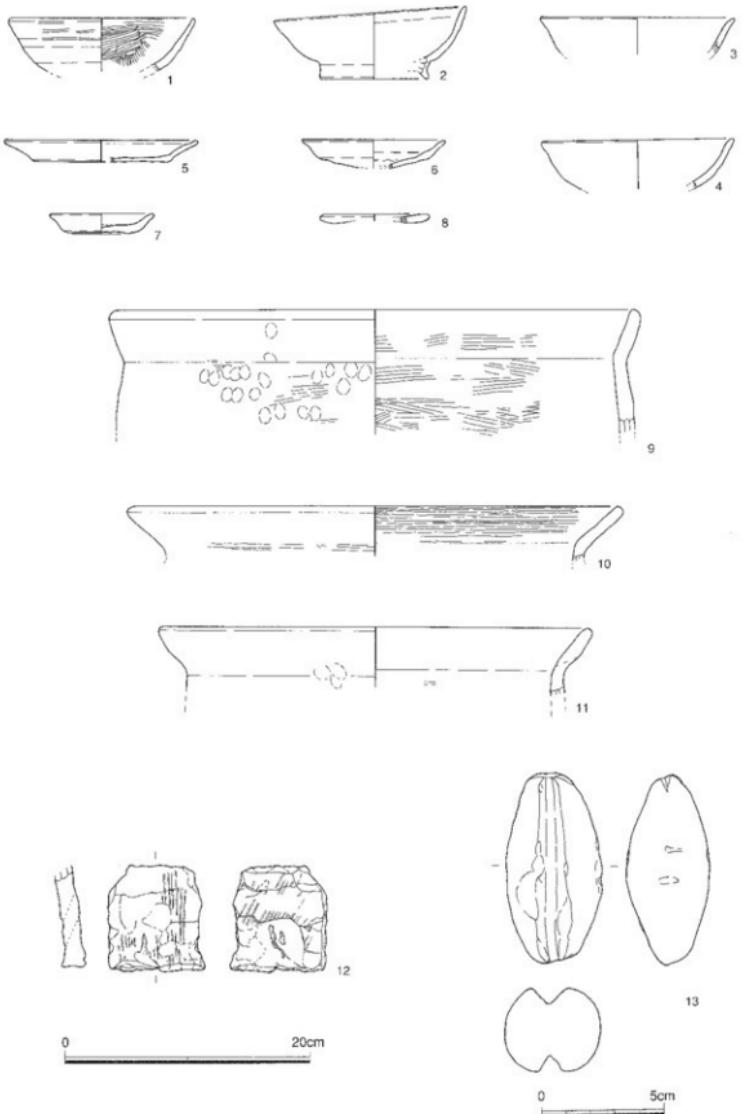
平面形は円形状または四角形状を呈するが、不定形なものも多くみられる。特に SD に開まれた調査区西側、寺山の麓付近では土坑が密集してみられた。墓とは断定できないが、諸状況から墓の可能性がある。極小片のため詳細は不明であるが、人骨と思われる骨片が出土しているものもあり、土塚墓群であると考えられる。

SK3002

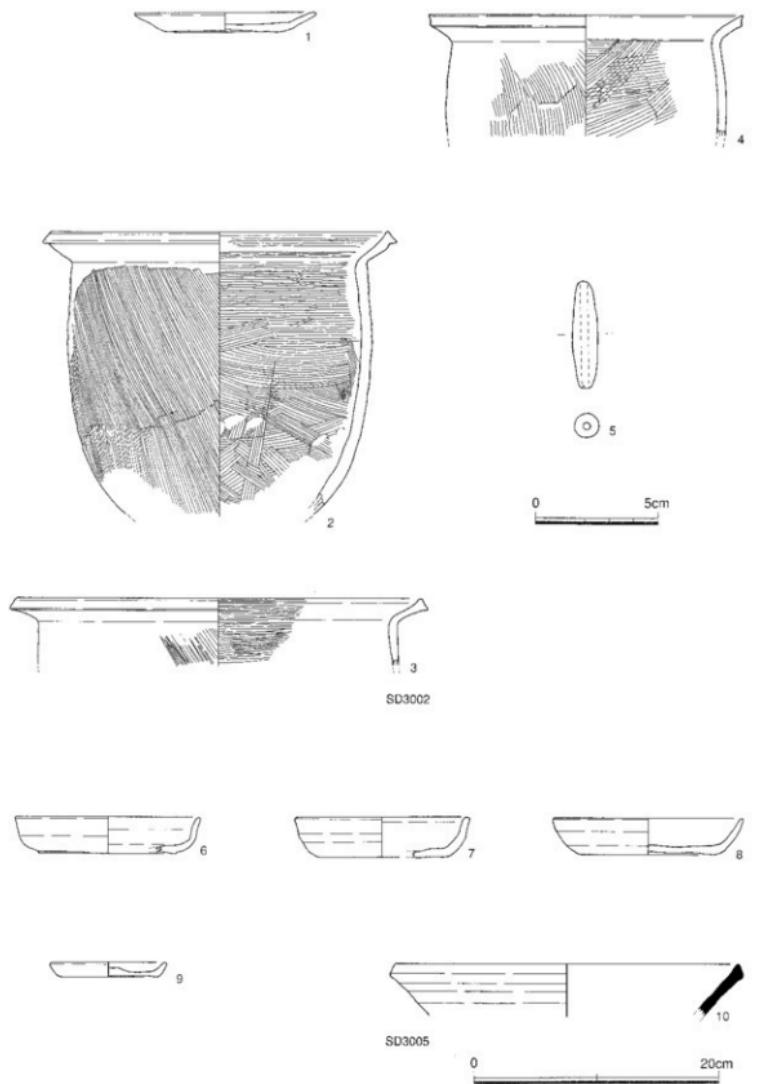
E-13~15、台形状の土坑。断面形状は D 字状を呈する。出土遺物から 9世紀頃のものと考えられる。

出土遺物（第247図）

土師器・黒色土器・須恵器などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。1は土師器の壺である。



第245図 SD3001出土遺物



第246図 SD 出土遺物 (3002・3005)

SK3003

D・E-16、楕円形状の土坑。断面形状は四角形状を呈する。出土遺物から9世紀頃のものと考えられる。

出土遺物（第247図）

土師器・黒色土器・須恵器などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SK3008

E・F-17・18、円形状の土坑。出土遺物から9世紀頃のものと考えられる。

出土遺物（第247図）

土師器・黒色土器・須恵器などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。6は土師器の瓶である。

SK3013

G・H-16、細長い楕円形状の土坑。断面形状は逆台形状を呈する。出土遺物から9世紀頃のものと考えられる。

出土遺物（第247図）

土師器・黒色土器・須恵器などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。5は土師器の皿である。

SK3018

H-22・23、細長い楕円形状の土坑。断面形状は逆台形状を呈する。出土遺物から9世紀頃のものと考えられる。

出土遺物（第247図）

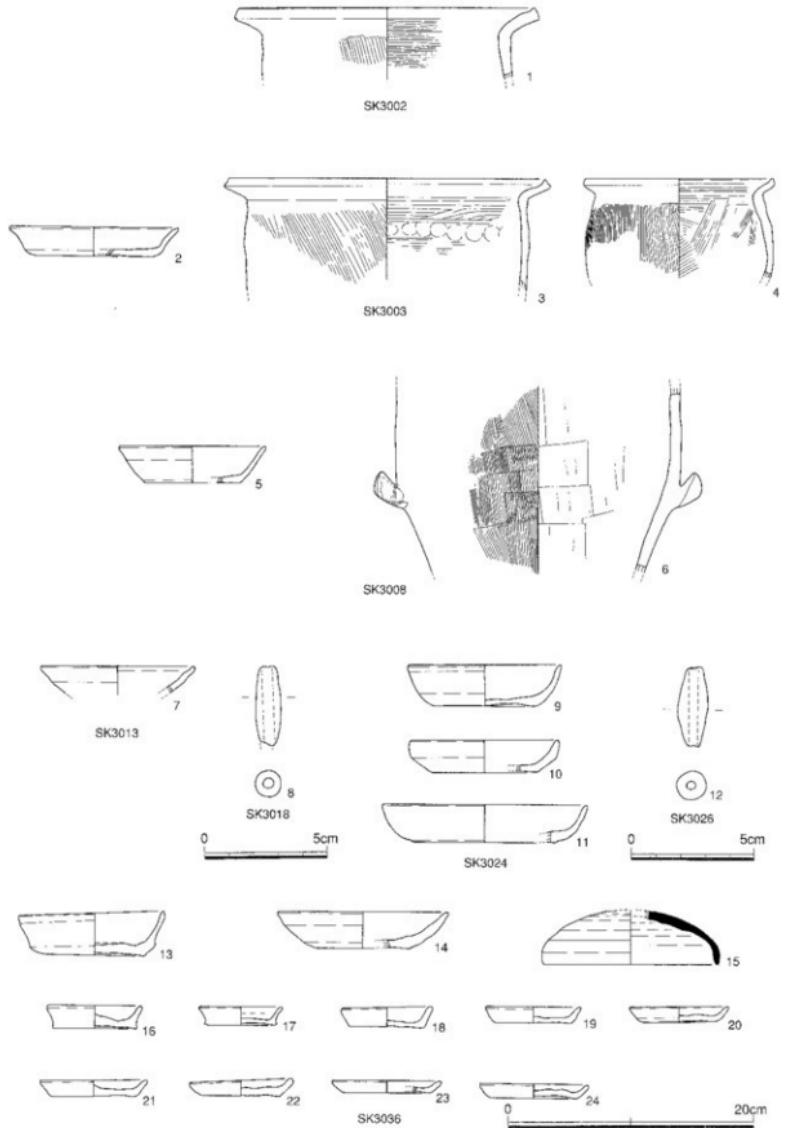
土師器・黒色土器・須恵器などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK3024

M・N-28・29、円形状の土坑。断面形状は逆台形状を呈する。出土遺物から13世紀頃のものと考えられる。

出土遺物（第247図）

土師質土器・土師器・黒色土器・須恵器などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。



第247図 SK 出土遺物 (3002・3003・3008・3013・3018・3024・3026・3036)

SK3026

O-31、不定形な土坑。平面プランは不明瞭である。断面形状はD字状を呈する。出土遺物から9世紀頃のものと考えられる。

出土遺物（第247図）

土師器・黒色土器・須恵器などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SK3036

O-P-29・30、不定形な土坑。平面プランは不明瞭である。出土遺物から9世紀頃のものと考えられる。

出土遺物（第247図）

土師器・黒色土器・須恵器などが出土している。いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師器の杯・皿の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

SP（柱穴・小穴）

約370基のSPを確認している。法量等に大小があり、全体的に不安定である。掘立柱建物等の建築物の存在も想定できるが、明確に建築物として捉えうることは困難である。

SP3006

F-13、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から、平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第248図）

出土遺物は土師器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。1は土師器の頬張の壺である。内外面はハケで調整する。

SP3026

D-15、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。また、出土遺物には土師器杯がある。平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第248図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。2は土師器の杯である。底部は丸味を帯び、底部外面にはヘラ記号がみられる。

SP3058

E-18、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から時期的には平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第248図）

出土遺物は土師器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。3は土師器の杯である。体部は直線的に外方に延びる。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP3059

E-18、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小蝶や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第248図）

出土遺物は土師器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。4は土師器の皿である。口縁端部はつまみ上げて丸く収める。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP3098

G-21、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小蝶や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第248図）

出土遺物は土師器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。6は土師器の皿である。体部は直線的に外方に延びる。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP3133

H-23、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小蝶や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第248図）

出土遺物は土師器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。7は土師器の皿である。口縁端部はややつまみ上げて丸く収める。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP3138

H-25、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小蝶や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第248図）

出土遺物は土師器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。6は土師器の皿である。体部は直線的に外方に延び、底部はやや丸味を帯びる。底部切り離しは回転ヘラ切りである。

SP3203

M-29、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、

第2造構面の残穴であると思われる。造構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第248図）

出土遺物は土師器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。9は土師質土器の杯である。

SP3204

M-29、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3造構面で検出されているが、第2造構面の残穴であると思われる。造構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第248図）

出土遺物は土師器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。10は和泉型の瓦器小皿である。

SP3210

M-30、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3造構面で検出されているが、第2造構面の残穴であると思われる。造構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第248図）

出土遺物は土師器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。10は土師質土器の小皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SP3220

P-30、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3造構面で検出されているが、第2造構面の残穴であると思われる。造構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第248図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP3221

P-30、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3造構面で検出されているが、第2造構面の残穴であると思われる。造構内埋土は小礫や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第248図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP3222

P-30、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第248図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の底部の切り離しは回転糸切りである。

SP3253

M-34、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第248図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。21は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SP3259

O-31、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第248図）

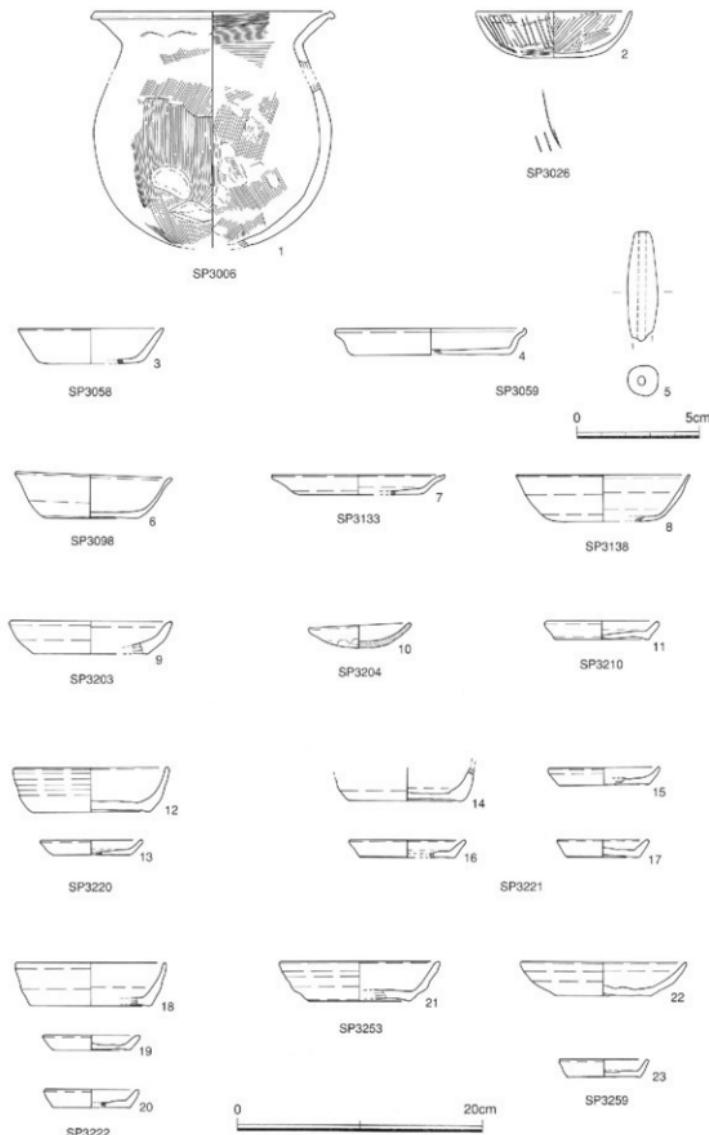
出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。22は土師質土器の杯、23は小皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SP3260

O-31、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。1は土師質上



第248図 SP 出土遺物 (3006・3026・3058・3059・3098・3133・3138・3203・
3204・3210・3220・3221・3222・3253・3259)

器の小皿である。

SP3261

L-33、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP3264

M-31、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。4は土師質土器の杯である。

SP3268

M-31、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。5は白磁の合子である。

SP3271

N-33、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP3282

N-33、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、

第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。7は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。9は鉄滓である。

SP3314

N-28、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。10は土師質土器の杯である。

SP3316

N-28、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。11は土師質土器の小皿である。

SP3325

O-28、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP3329

O-31、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP3330

O-31、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3造構面で検出されているが、第2造構面の残穴であると思われる。造構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。14~16は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。

SP3332

O-28、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3造構面で検出されているが、第2造構面の残穴であると思われる。造構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP3337

O-28、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3造構面で検出されているが、第2造構面の残穴であると思われる。造構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP3342

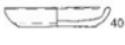
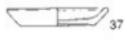
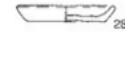
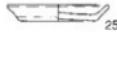
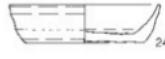
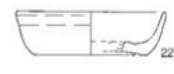
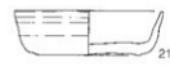
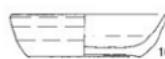
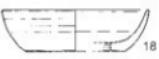
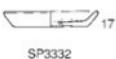
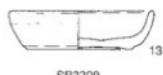
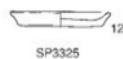
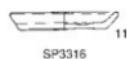
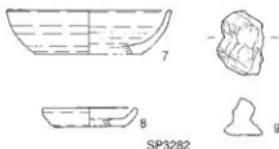
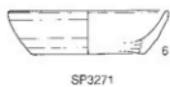
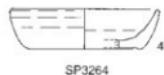
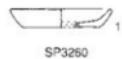
O-30、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3造構面で検出されているが、第2造構面の残穴であると思われる。造構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP3343

O-31、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3造構面で検出されているが、



0 20cm

第249図 SP 出土遺物 (3260・3261・3264・3268・3271・3282・3314・3316・3325・
3329・3332・3337・3330・3342・3343・3348・3352)

第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は青磁・土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。土師質土器の杯は体部が直立気味に上方に延びる。

SP3348

O-30、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP3352

O-30、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第249図）

出土遺物は土師器・土師質土器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP3014

D-15、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第250図）

出土遺物は土師器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP3024

D-15、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第250図）

出土遺物は土師器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。3は土師器の壺である。

SP3280

N-33、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない遺構内埋土は小砾や上師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から平安時代末頃のものと考えられる。

出土遺物（第250図）

出土遺物は上師器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。4は土師器の小皿である。底部外面板ナデ（ヘラミガキ）で調整する。5は須恵質の平皿である。

SP3363

N-33、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や上師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第250図）

出土遺物は土師器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP3369

M-30、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や上師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第250図）

出土遺物は土師器の杯・皿などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SP3372

O-30、円形状の小穴。構築物としての並びとして捉えられない。第3遺構面で検出されているが、第2遺構面の残穴であると思われる。遺構内埋土は小砾や土師質土器等の細片が混じる。出土遺物等から鎌倉時代後半頃のものと考えられる。

出土遺物（第250図）

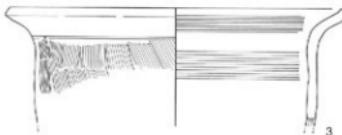
出土遺物は瓦器・土師質土器・土師器などがみられるが、いずれも小片であり、実測可能なものは少ない。

SX（性格不明遺構）

性格不明および用途不明遺構についてSXとして呼称した。SXの中には石組（石敷）した遺構やスラグ等の散見するものがみられるが、平面プラン等はいずれも不明瞭で定型をなさないものが多い。



SP3014



SP3024



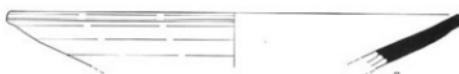
SP3280



5



SP3363



SP3369



SP3372



第250図 SP 出土遺物 (3014・3024・3280・3363・3369・3372)

SX3001（豎穴状遺構）（第251図）

G・H-23・24、不整形な梢円形状の平面プランで、深度は浅く、断面形状は扁平なD字状を呈する。底面からは柱穴はみつかっていない。遺構内からは赤色塗彩された土師器の杯・皿の他、甕などが出上している。甕は焚口部分を中心に約1/4程度残存している。出土土器から9世紀前半頃の年代が与えられる。廃棄土坑と考えられる。

出土遺物（第252~254図）

土師器を主体として多くの土器片が出土している。いずれも破片であり、完形のものはみられない。器種は甕・甌・高杯・楕・杯・皿などが出土している。時期的には9世紀前半頃と考えられる。土師器の杯・皿類の底部切り離しは回転ヘラ切りである。器体内外面に赤色顔料を塗彩しているものや底部の内外面に縦刻のヘラ記号を施しているものもみられる。